

アメリカ文化演習 C

担当者：D. バーガー

開講期：春集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

Oglethorpe University (提携校) (期間：2週間)
ジョージア州アトランタ市にある本学の提携校、オグルソープ大学キャンパス内にある語学機関、Education First (EF) において実践的な英語授業や課外活動をとおして英語を集中して学ぶカリキュラムを編成している。研修中は、オグルソープ大学キャンパス内にある大学寮に滞在し、アメリカのキャンパスと生活に触れる体験をする。英語授業は、日本で事前に受けるプレイスメントテストにもとづき、レベル別に受講する。音声に対する理解力に重点を置いたコースで、日常的な意思疎通が明確にできるようになることを目指す。午後や週末には、EFが主催する学内外の課外活動も企画される。

2. 学びの意義と目標

この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおしてアメリカの歴史や文化を学び、多文化交流を体験、英語力の向上を目指すことを目的としている。

準備学習(予習)

研修参加決定後、事前準備会2回を開催する。海外研修に出発する前に、研修国について予備知識と心がまえをもって出発できるよう事前準備講座4回が開講される。日程・内容については、研修参加決定後、指示する。

準備学習(復習)

研修終了後、レポート提出、帰国報告会を実施する。

授業計画

1. 第1回 準備会
2. 第1回 事前準備講座
3. 第2回 事前準備講座
4. 第3回 事前準備講座
5. 第4回 事前準備講座
6. 第2回 準備会
7. 現地研修
8. 帰国報告会

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出発前準備講座・帰国報告会の出席:25%
(2)レポートとアンケートの提出:25% (3)現地研修校での成績:50%
研修終了後秋学期の単位として認定

イタリア語 (初級A)

担当者：高津 美和

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

この授業では、イタリア語の初級文法を学び、簡単な日常会話と作文の練習を行います。教科書に加えてCDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、文法・会話・聴解・読解の能力をバランスよく習得することを目指します。

2.学びの意義と目標

日本に住んでいても、料理、美術、映画、サッカーなど、イタリアの様々な文化に触れる機会が多くあります。「イタリア語」を学ぶことで、魅力的なイタリアの文化をさらに身近に感じることができるでしょう。

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通す。

準備学習(復習)

授業で学んだ新出単語や表現を暗記する。教科書付属のCDを聴いて発音練習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. イントロダクション
3. 第1課：名詞と形容詞(1)
4. 第1課：名詞と形容詞(2)
5. 第1課：名詞と形容詞(3)
6. 第1課：名詞と形容詞(4)
7. 第2課：essereとavere(1)
8. 第2課：essereとavere(2)
9. 第2課：essereとavere(3)
10. 第2課：essereとavere(4)
11. 第3課：are動詞(1)
12. 第3課：are動詞(2)
13. 第3課：are動詞(3)
14. 第3課：are動詞(4)
15. まとめ(第1～3課)
16. 試験とその解説
17. 第4課：ere動詞(1)
18. 第4課：ere動詞(2)
19. 第4課：ire動詞(1)
20. 第4課：ire動詞(2)
21. 第5課：piacere(1)
22. 第5課：piacere(2)
23. 第5課：piacere(3)
24. 第5課：piacere(4)
25. 第6課：不規則動詞(1)
26. 第6課：不規則動詞(2)
27. 第6課：再帰動詞(1)
28. 第6課：再帰動詞(2)
29. まとめ(第4～6課)
30. 試験とその解説

教科書

遠藤礼子 『Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら』(白水社)

評価方法

(1)出席、授業態度、提出物:50% (2)試験:50%

イタリア語 (初級B)

担当者：高津 美和

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「イタリア語」に引き続き、イタリア語の初級文法を学び、会話・作文・読解の練習を行います。CDやDVDなどの視聴覚教材を活用することによって、聴解力の強化も目指します。

2.学びの意義と目標

「イタリア語」の履修によって、イタリア語の初級文法の習得が完了します。授業の後半には映画やアニメーションなども教材として取り上げる予定ですが、授業が進むにつれ、その内容をよく理解できるようになるでしょう。

準備学習(予習)

事前に配布したプリントに目を通す。

準備学習(復習)

授業で学んだ新出単語や表現を暗記する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 復習：名詞と形容詞
3. 復習：規則動詞 (are動詞、ere動詞、ire動詞)
4. 復習：不規則動詞
5. 補助動詞 (1)
6. 補助動詞 (2)
7. 補助動詞 (3)
8. 補助動詞 (4)
9. 補助動詞 (5)
10. 近過去 (1)
11. 近過去 (2)
12. 近過去 (3)
13. 近過去 (4)
14. 近過去 (5)
15. まとめ
16. 試験とその解説
17. 半過去 (1)
18. 半過去 (2)
19. 半過去 (3)
20. 半過去 (4)
21. 未来 (1)
22. 未来 (2)
23. 未来 (3)
24. 未来 (4)
25. 命令法 (1)
26. 命令法 (2)
27. 命令法 (3)
28. 命令法 (4)
29. まとめ
30. 試験とその解説

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席、授業態度、提出物:50% (2)試験:50%

イングリッシュ・バイブルB

担当者：E . D . オズバーン

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1. Content - This course is a survey of the second major section of the Bible, the New Testament, in English. As a continuation of English Bible-A, the course further develops the theme of the centrality of Jesus Christ in human redemptive history and emphasizes the importance of His teachings for practical living.

2. Role in the Curriculum - The course is an elective within the general curriculum at Seigakuin University and is open to 2nd-, 3rd-, and 4th-year students in all departments.

2.学びの意義と目標

Learning Objectives - The primary objectives are to familiarize students with the major themes of the New Testament, particularly the Gospel message, and to enable students to discover biblical passages that will help them in life.

準備学習(予習)

Students are expected to complete the reading assignments from the Bible (New Testament) and be prepared to discuss the contents in each class.

準備学習(復習)

Following each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points. Printed handouts provided in class should also be reviewed.

授業計画

1. Course Introduction: Why study the Bible?
2. Bible Overview I
3. Bible Overview II
4. The Gospels I: Focus on the Central Message
5. The Gospels II: Focus on the Central Message
6. The Gospels III: The Sermon on the Mount
7. The Gospels IV: The Sermon on the Mount, cont..
8. MIDTERM EXAM
9. History: Key Themes in the Acts of the Apostles
10. The Epistles I: Focus on a Key Doctrine-Salvations, cont.
11. The Epistles II: Focus on Practical Living
12. The Epistles III: Focus on Practical Living, cont.
13. The Epistles IV: Focus on Practical Living, cont.
14. Revelation: Focus on the Future
15. FINAL EXAM

教科書

Various Authors 『NIV Thinline Bible』 (Zondervan)

評価方法

(1)attendance:20% (2)reading assignments :20% (3)University Worship Service reports:20% (4)exams :40%

オーストラリア文化演習

担当者：D. バーガー

開講期：春集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

Deakin University (認定校) (期間：5週間)
ビクトリア州メルボルンを中心に5つのキャンパスを擁するディーキン大学の附属機関Deakin University English Language Institute (DUELI) において実践的な英語授業や課外活動をおして英語を集中して学ぶカリキュラムを編成している。研修中は、現地家庭にホームステイをし、オーストラリアの生活に触れる体験をする。英語授業は、日本で事前に受けるプレイスメントテストにもとづき、レベル別に受講する。会話、多文化間コミュニケーションスキル、発音、語彙を実践的に学ぶ。週末には、DUELIが主催するオプションの課外活動も企画される。

2. 学びの意義と目標

この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をおして多文化交流を体験し、英語力の向上を目指すことを目的としている。

準備学習(予習)

研修参加決定後、事前準備会2回を開催する。海外研修に出発する前に、研修国について予備知識と心がまえをもって出発できるよう事前準備講座4回が開講される。日程・内容については、研修参加決定後、指示する。

準備学習(復習)

研修終了後、レポート提出、帰国報告会を実施する。

授業計画

1. 第1回 準備会
2. 第1回 事前準備講座
3. 第2回 事前準備講座
4. 第3回 事前準備講座
5. 第4回 事前準備講座
6. 第2回 準備会
7. 現地研修
8. 帰国報告会

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出発前準備講座・帰国報告会の出席:25%
(2)レポートとアンケートの提出:25% (3)現地研修校での成績:50%
研修終了後春学期の単位として認定

書き方表現応用講座

担当者：高桑 佳與子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

漫然と文を書いていると、文章は上手くなりません。随想文、手紙文、レポート、エントリーシート・・・、楽しい文、真面目な文・・・この講座ではいろいろな文章に対応できる力をつけます。自分が書きたいことは何かという基本を押さえ、言葉・文体の重要性や論の運び方等工夫を凝らして、力のある文章が書けるようにしていきます。なるべく多くの回数書き、添削して返却します。

年度によって、後半の授業内容は変化させています。レポートの書き方実践として、アンケート用紙を作成しデータを集計した年度。パンフレット作製をした年度もあります。昨年は、新聞の切り抜き資料を分類整理しまとめる。また、情報誌の記事を想定、各人が学内を取材し文章スタイルを考えて書く。という作業を行いました。

2.学びの意義と目標

文章表現力は、どの分野でも求められる重要なものです。今、皆さんが持っている「書く力」をレベル・アップしていくこと、読み手の印象に残る文章を書けるようになることがこの講座の目標です。社会へ出てからも役立つ文章力、そしてきちんとした“良い形”で相手に伝わる文章を作成する力を身につけましょう。

準備学習(予習)

あらかじめ課題が分かっている場合は、しっかり準備をして臨むと良いものが書けます。

準備学習(復習)

添削して返却された提出物を書き直すと、さらにより良い文章になります。書き直したものは再提出してみましょう。

授業計画

1. 授業概説 授業アンケート
2. 視点の考察
3. 視点の考察
4. 表現・文体の工夫
5. 表現・文体の工夫
6. 表現・文体の工夫
7. 論理構成の工夫
8. 論理構成の工夫
9. 論理構成の工夫
10. 時事問題に取り組む
11. 時事問題に取り組む
12. 資料収集
13. 取材して書く(1) 企画
14. 取材して書く(2) 執筆
15. 取材して書く(3) 発表

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)課題提出物:100%:授業時に提出したものの評価集計

書き方表現応用講座

担当者：船山 久美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

自分の考えが読み手に効果的に伝わるように書く訓練をする。前半は書評や志望動機書を書く予定である。後半は外部から得た情報に基づいた論理的な文章を書くことを中心とする。授業では与えられたテーマの作文を書き、読み手にどのように受け取られたかを話し合う。他者からのアドバイスを受けて作文を書き直し、自分で書いた文章を点検できるような活動をする。

2.学びの意義と目標

「基礎教育入門書き方」で文章表現の基礎を学んだ学生が、更に豊かな文章表現力を身に付けて、円滑な大学生活を送れるようになることがこの講義の目標である
具体的目標は 他者に伝わるような文章が書けるようになること、文献を適切に利用して学術的な文章を書けるようになることである。

準備学習(予習)

ワークシートを事前に配布し、次の授業で使用する。

準備学習(復習)

授業で検討した内容をもとに課題を提出する。

授業計画

1. 授業の進め方についての説明
2. 作文課題1を書く
3. 前回の作文の解説、文章トレーニング1
4. 文章表現に関する講義、次回の準備
5. 作文課題2を書く
6. 前回の作文の解説、文章トレーニング2
7. 文章表現に関する講義、次回の準備
8. 作文課題3を書く
9. 前回の作文の解説、文章トレーニング3
10. 文章表現に関する講義、次回の準備
11. 作文課題4を書く
12. 前回の作文の解説、文章トレーニング4
13. 文章表現に関する講義、次回の準備
14. 作文課題5を書く
15. 前回の作文の解説、まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)提出物・課題:70% (2)平常点:30%

カナダ文化演習

担当者：D. バーガー

開講期：秋集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

University of Victoria (認定校) (期間：3週間)
ブリティッシュ・コロンビア州の州都であるビクトリア市に広大なキャンパスを擁するビクトリア大学の附置機関University of Victoria English Language Centreの協力によってカナダ文化をテーマにしたカリキュラムを編成している。研修中は、大学寮に滞在し、他国から来た寮内の学生たちと交流を深める。英語授業は、日本で事前に受けるプレイズメントテストにもとづき、レベル別に受講する。平日の午前中は、スピーキングとリスニングを重視した実践的な授業を受講する。午後や夕方、週末にはカルチャーアシスタントによる文化体験アクティビティーに参加する。

2.学びの意義と目標

この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験し、英語でカナダ文化について学ぶ。

準備学習(予習)

研修参加決定後、事前準備会2回を開催する。海外研修に出発する前に、研修国について予備知識と心がまえをもって出発できるよう事前準備講座4回が開講される。日程・内容については、研修参加決定後、指示する。

準備学習(復習)

研修終了後、レポート提出、帰国報告会を実施する。

授業計画

1. 第1回 準備会
2. 第1回 事前準備講座
3. 第2回 事前準備講座
4. 第3回 事前準備講座
5. 第4回 事前準備講座
6. 第2回 準備会
7. 現地研修
8. 帰国報告会

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出発前準備講座・帰国報告会の出席:25%
(2)レポートとアンケートの提出:25% (3)現地研修校での成績:50%
研修終了後秋学期の単位として認定

神と人間 A

担当者：野島 邦夫

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

オリエンテーションの後、まず人間の価値について、日本では世界では、かつてまた今、いったい何が問題になっているか、幾つか具体的なテーマを取り上げて考えます。

そこから、人間について根本的に考えようとするならヒューマニズム（人間中心主義）では不十分であることを示します。そして、キリスト教（聖書の神）の立場からこの問いを考えます。

具体的には、聖書の幾つかの箇所（春学期は主に旧約から）を取り上げて、神を知る人間と、神を知らない人間や神を無視する人間の姿を見ていきます。更に具体的な聖書箇所やテーマについては「授業計画」を見てください。

2.学びの意義と目標

人間は、また「私」は、なぜ大切なのでしょう？人間とは、また「私」とは、いったい何でしょうか？これを考え、またこれ考えるための知識を伝えるのがこの講義です。今はヒューマニズム（人間中心主義）の時代で、人がかつてなかったほど大切にされているように見えます。しかしそのほころびも見えています。この問いに根本的に答えるには人間を超えた視点がどうしても必要です。つまり、神を無視しては人間の問題は行きづまります。

現代の私たちは、人間の価値について、古くからある問題だけではなく、かつてなかった様々な難しい諸問題に取り囲まれています。学生の皆様も、卒業後社会に出て、福祉や教育の現場に出て、人間の価値の問題に直面するでしょう。それらと取り組むためにキリスト教は大きな力となります。

この講義では、具体的な問題から出発して、聖書から「神と人間」の問題を考え、そこからもう一度、キリスト教の視点から、これらの問題に立ち向かって考える「道しるべ」を示します。

「神と人間」は聖書を貫く中心的な問題です。様々な観点から、歴史の中の出来事として、この問題が答えられています。それらは必ずしも私たちにわかりやすく書かれてはいませんので、それをわかりやすくまとめることもこの講義の目的です。全体として聖書の概説にもなっています。

準備学習(予習)

毎回、指示されている聖書箇所を必ず読んできてください。それによって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。

準備学習(復習)

毎回、講義レジュメを渡します。それを講義後読み返してください。講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、月に一度程度「小作文」の時間を取ります（30分）。

授業計画

- 1.はじめに：いま、人間の何が問われているか？
- 2.さまざまな人間観、とくに日本古来の人間観と現代に特徴的な人間観
- 3.人間はどの程度大切か？～人間中心主義の人間観を超えて～（旧約創世記第2章）
- 4.聖書（旧約+新約）とは何か？（聖書の概観）
- 5.神々が神か～聖書の神観～（旧約申命記第6章）
- 6.創造されたもの～世界と人間～（旧約創世記第1章）
- 7.「神のかたち」としての人間（旧約創世記第1章）
- 8.人間は共に生きる～愛～（旧約レビ記第19章）
- 9.神の基準に照らした人間～十戒～（旧約出エジプト記第20章）
- 10.ダビデ～聖人か罪人か～（旧約サムエル記下第11、12章）
- 11.アダムとエバ～罪に堕ちた人間～（旧約創世記第2、3章）
- 12.苦しみの中から叫ぶ人間（旧約詩編第22編）
- 13.人間を苦しみから救う神（旧約イザヤ書第53章）
- 14.アブラハム～神を知らされた人～（旧約創世記第12章）
- 15.まとめ

教科書

- 1 『聖書 口語訳』（旧約+新約）』（日本聖書協会）

評価方法

(1)出席:20% (2)課題:20% (3)試験:60%

欠席が三分の一以上の人と課題未提出の人は、試験を受けることができません。

神と人間 B

担当者：野島 邦夫

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

オリエンテーションの後、まず人間の価値について、日本では世界では、かつてまた今、いったい何が問題になっているか、幾つか具体的なテーマを取り上げて考えます。

そこから、人間について根本的に考えようとするならヒューマンイズム（人間中心主義）では不十分であることを示します。そして、キリスト教（聖書の神）の立場からこの問いを考えます。

具体的には、聖書の幾つかの箇所（秋学期は主に新約から）を取り上げて、神を知る人間と、神を知らない人間や神を無視する人間の姿を見ていきます。更に具体的な聖書箇所やテーマについては「授業計画」を見てください。

2.学びの意義と目標

人間は、また「私」は、なぜ大切なのでしょうか？人間とは、また「私」とは、いったい何でしょうか？これを考え、またこれ考えるための知識を伝えるのがこの講義です。今はヒューマンイズム（人間中心主義）の時代で、人がかつてなかったほど大切にされているように見えます。しかしそのほころびも見えています。この問いに根本的に答えるには人間を超えた視点がどうしても必要です。つまり、神を無視しては人間の問題は行きづまります。

現代の私たちは、人間の価値について、古くからある問題だけではなく、かつてなかった様々な難しい諸問題に取り囲まれています。学生の皆様も、卒業後社会に出て、福祉や教育の現場に出て、人間の価値の問題に直面するでしょう。それらと取り組むためにキリスト教は大きな力となります。

この講義では、具体的な問題から出発して、聖書から「神と人間」の問題を考え、そこからもう一度、キリスト教の視点から、これらの問題に立ち向かって考える「道しるべ」を示します。

「神と人間」は聖書を貫く中心的な問題です。様々な観点から、歴史の中の出来事として、この問題が答えられています。それらは必ずしも私たちにわかりやすく書かれてはいませんので、それをわかりやすくまとめることもこの講義の目的です。全体として聖書の概説にもなっています。

準備学習(予習)

毎回、指示されている聖書箇所を必ず読んできてください。それによって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。

準備学習(復習)

毎回、講義レジュメを渡します。それを講義後読み返してください。講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、月に一度程度「小作文」の時間を取ります（30分）。

授業計画

- 1.はじめに：今、人間の何が問われているか？
- 2.聖書（旧約＋新約）とは何か？（聖書の概観）
- 3.神から離れて生きる（新約 ルカによる福音書第15章）
- 4.創造者の神と被造物の人間（旧約 創世記第1章）
- 5.罪を裁く神（旧約 出エジプト記第20章）
- 6.イエス・キリストの生きさまと私たち（新約 ルカによる福音書第19章）
- 7.イエス・キリストの愛（新約 ルカによる福音書第10章）
- 8.イエスとは誰か？（新約 マタイによる福音書第16章）
- 9.イエス・キリストの十字架の死の力（新約 マタイによる福音書第27章）
- 10.イエス・キリストの復活の力（新約 マタイによる福音書第28章）
- 11.イエス・キリストの誕生と生涯（新約 マタイによる福音書第1章＋ルカによる福音書第2章）
- 12.イエス・キリストの弟子たち（1）パウロ（新約 使徒行伝第9章）
- 13.イエス・キリストの弟子たち（2）十二弟子（新約 マタイによる福音書第26、27章）
- 14.人の救いと人の生きる目的（新約 コリントの信徒への手紙一第6章）
- 15.まとめ

教科書

- 1 『聖書 口語訳』（旧約＋新約）』（日本聖書協会）

評価方法

- (1)出席:20% (2)課題:20% (3)試験:60%
欠席が三分の一以上の人と課題未提出の人は、試験を受けることができません。

韓国語 (初級A)

担当者：溝口 カブスン, 奇 ジョンミン, 金 三順

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。
文法については「助詞」に重点を置く。
また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。
講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

2.学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。

- 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発言能力」
- 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」
- 3 韓国文化理解の初歩的知識

準備学習(予習)

第一部は復習のみ。

第二部では、本文の翻訳、単語帳作成を指示する。

準備学習(復習)

毎回、学習内容から課題を指示する。
プリントを配布する場合もある。

授業計画

1. 第1部 ハングル、「アリラン」の歌
2. 第1課 講義開始にあたって
3. 第2課 ハングルの覚えよう(母音)
4. 第2課 ハングルの覚えよう(子音)
5. 第2課 ハングルの覚えよう(練習)
6. 第3課 ハングルのまとめ(激音濃音)
7. 第3課 ハングルのまとめ(練習)
8. 第3課 ハングルのまとめ(日本語のハングル表記)
9. 第4課 パッチムと基本単語I(解説)
10. 第4課 パッチムと基本単語I(練習)
11. 第4課 パッチムと基本単語I(確認)
12. 第5課 発音の変化と基本単語II(解説)
13. 第5課 発音の変化と基本単語II(練習)
14. 第5課 発音の変化と基本単語II(確認)
15. 第1部の総復習
16. 第2部 自己紹介、「オッパセンガク」の歌
17. 第6課 私は中村です。(例文解説)
18. 第6課 私は中村です。(文法解説)
19. 第6課 私は中村です。(練習)
20. 第6課 私は中村です。(演習)
21. 第7課 故郷はどこですか。(例文解説)
22. 第7課 故郷はどこですか。(文法解説)
23. 第7課 故郷はどこですか。(練習)
24. 第7課 故郷はどこですか。(演習)
25. 第8課 お昼の約束がありますか。(例文解説)
26. 第8課 お昼の約束がありますか。(文法解説)
27. 第8課 お昼の約束がありますか。(練習)
28. 第8課 お昼の約束がありますか。(演習)
29. 第2部の復習
30. 韓国の文化に触れるI

教科書

溝口甲順 『アルギシウン韓国語』(白帝社)

評価方法

(1)定期試験:50% (2)小テスト・提出物:30% (3)授業態度:20%

韓国語 (初級B)

担当者：奇 ジョンミン, 溝口 カブスン

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

正確な発音に基づく反復指導をする。特に語彙を増やすことに重点を置く。

文法については「語尾変化」に力を入れ、韓国文化の紹介も行う。授業は講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。

2.学びの意義と目標

以下の能力を養成し、知識を深める。

- 1 韓国語で簡単な会話をする能力
- 2 初歩的な文章を読むための「文法知識」
- 3 韓国文化理解のための基礎知識

準備学習(予習)

本文の翻訳、単語帳作成を指示する。
韓国語の日記作成。

準備学習(復習)

毎回、学習内容から課題を指示する。
プリントを配布する場合もある。

授業計画

1. 韓国語Iの復習(文字と発音)
2. 韓国語Iの復習(発音の変化)
3. 韓国語Iの復習(文法事項)
4. 第9課 女友達といっしょに行きます。(例文解説)
5. 第9課 女友達といっしょに行きます。(文法解説)
6. 第9課 女友達といっしょに行きます。(練習)
7. 第9課 女友達といっしょに行きます。(演習)
8. 第10課 日曜日には何をなさいますか。(例文解説)
9. 第10課 日曜日には何をなさいますか。(文法解説)
10. 第10課 日曜日には何をなさいますか。(練習)
11. 第10課 日曜日には何をなさいますか。(演習)
12. 第3部 韓国旅行、「モダダブル」の歌
13. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。(例文解説)
14. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。(文法解説1)
15. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。(文法解説2)
16. 第11課 タクシーに乗るところはどこですか。(練習)
17. 第12課 いくらですか。(例文解説)
18. 第12課 いくらですか。(文法解説1)
19. 第12課 いくらですか。(文法解説2)
20. 第12課 いくらですか。(練習)
21. 第13課 私はキムチチゲにします。(例文解説)
22. 第13課 私はキムチチゲにします。(文法解説1)
23. 第13課 私はキムチチゲにします。(文法解説2)
24. 第13課 私はキムチチゲにします。(練習)
25. 第14課 ここがオンドル部屋です。(例文解説)
26. 第14課 ここがオンドル部屋です。(文法解説1)
27. 第14課 ここがオンドル部屋です。(文法解説2)
28. 第14課 ここがオンドル部屋です。(練習)
29. 第3部の総復習
30. 韓国の文化に触れるII

教科書

溝口甲順 『アルギシウン韓国語』(白帝社)

評価方法

(1)定期試験:50% (2)小テスト・提出物:30% (3)授業態度:20%

基礎教育入門(書き方)

担当者：新井 尚子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この講義では、学生の皆さんに学術的な文章を書くための基礎知識を身につけてもらいます。文章を書く実践を通して、「書く」ことの基本ルールと文章表現の技術を指導します。原則として、毎回「書く」作業を行い、提出してもらいます。それを講義担当者が添削し、アドバイスを加えて返却します。

また、社会人に求められる漢字の学習も継続的に行います。

2.学びの意義と目標

大学での学びには様々な能力が必要とされますが、中でも「書く」能力は非常に重要です。400字詰原稿用紙5枚から10枚程度の文章が容易に書ける能力を目標とします。

また、講義で学ぶ技術と能力は、社会人となっても役立つレベルを目指します。

準備学習(予習)

前授業時に行う指示に従い、課題を作成してもらいます。そのための資料収集も必要です。

漢字小テストのための学習も行って下さい。

準備学習(復習)

教員が添削した後に返却される課題の訂正箇所を確認し、課題を書き直すことが求められます。

授業計画

1. ガイダンス
2. 正しい文章を書くために(1)・・・文章の種類
3. 正しい文章を書くために(2)・・・表現のルール
4. ノートの取り方
5. 説明文を書く
6. 要約する(1)・・・文章を読む
7. 要約する(2)・・・講演を聞く
8. 情報の調べ方
9. 図書館の利用法
10. 論説文を書く(1)
11. 論説文を書く(2)
12. レポートの書き方
13. レポートを書く(1)
14. レポートを書く(2)
15. レポートを書く(3)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)課題:40% (3)授業態度:20%

基礎教育入門(書き方)

担当者：上嶋 康道

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。大学では多くの文章を書くこととなります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。ここで学んだことを利用して、秋学期の予備演習ではさらに総合的なコミュニケーション力を身につける事を目指します。

カリキュラム上の位置づけ：あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。

2.学びの意義と目標

(1) 友人など気心の知れた友人など身近な人だけでなく、他者に向けて事実を分かりやすく述べる力

(2) 同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力を付けることを目標とします。

準備学習(予習)

文章を具体的に書くためには知識が必要です。まずは新聞の文章に慣れ親しむことから始めましょう。気になった記事について、感想ではなく、事実のまとめを授業のたびに提出してもらいます。詳しくは初回授業で指示します。

準備学習(復習)

返却された文章を書きなおしてみることが効果的です。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 既存の文章から学ぶ 1
3. 既存の文章から学ぶ 2
4. 既存の文章から学ぶ 3
5. 事実の記述 1
6. 事実の記述 2
7. 事実の記述 3
8. 事実の記述 4 映像素材
9. 自己の主張を述べる 1
10. 自己の主張を述べる 2
11. 自己の主張を述べる 3
12. 総合演習 1
13. 総合演習 2
14. レポートの書き方
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)平常点:60% (2)宿題と出席点:20% (3)レポート:20%

基礎教育入門(書き方)

担当者：太田 ミユキ

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

2.学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

授業計画

- 1.自己紹介の仕方・ノートのとり方
- 2.敬語の基礎
- 3.確実な連絡メモ
- 4.メールの書き方
- 5.手紙の書き方
- 6.説明のコツ
- 7.大学生の調べ方 1
- 8.大学生の調べ方 2
- 9.アンケートのとり方
- 10.資料の読み取り
- 11.プレゼンテーション
- 12.レポートの書き方 1
- 13.レポートの書き方 2
- 14.レポートの書き方 3
- 15.試験とまとめ

教科書

橋本 修, 福嶋 健伸, 安部 朋世 『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』(三省堂)
日本語検定委員会 『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』(東京書籍)

評価方法

(1)出席:25% (2)参加態度:25% (3)提出物:25% (4)試験:25%
出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、A Hレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。

基礎教育入門(書き方)

担当者：黒崎 佐仁子

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

2.学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

授業計画

- 1.自己紹介の仕方・ノートのとり方
- 2.敬語の基礎
- 3.確実な連絡メモ
- 4.メールの書き方
- 5.手紙の書き方
- 6.説明のコツ
- 7.大学生の調べ方 1
- 8.大学生の調べ方 2
- 9.アンケートのとり方
- 10.資料の読み取り
- 11.プレゼンテーション
- 12.レポートの書き方 1
- 13.レポートの書き方 2
- 14.レポートの書き方 3
- 15.試験とまとめ

教科書

橋本 修, 福嶋 健伸, 安部 朋世 『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』(三省堂)
日本語検定委員会 『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』(東京書籍)

評価方法

(1)出席:25% (2)参加態度:25% (3)提出物:25% (4)試験:25%
出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、A Hレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。

基礎教育入門(書き方)

担当者：作田 奈苗

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この授業では、大学生活、および卒業後社会で必要となる基礎的な言語技術のうち、論理的に書いて伝える力を実践的に養う。日本語の書きことばを基本から見直し、語、文、段落の役割や構造を把握し、意識的に使いこなせるように訓練をする。

2.学びの意義と目標

- ・話し言葉と書き言葉の違いを認識すること。
- ・言語を使って人に情報を伝えることについて意識的に取り組むようになること。
- ・論理を組み立てる力を身につけること。

準備学習(予習)

前の回の授業を復習しておくこと。

準備学習(復習)

課題を完成させること。

授業計画

- 1.書式、文体
- 2.表記、語彙
- 3.主語と述語 ねじれ文
- 4.接続、呼応、予測
- 5.具体と抽象
- 6.事実と意見
- 7.文の役割
- 8.段落の役割
- 9.要約
- 10.引用
- 11.立場のある文章
- 12.文章の構成(1) 背景説明～問題提起
- 13.文章の構成(2) 論証と結論
- 14.意見文作成
- 15.推敲と仕上げ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業課題(14回):60% (2)期末課題:20% (3)出席率:20%
合計60点以上を単位取得の条件とする。

基礎教育入門(書き方)

担当者：副田 恵

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

2.学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

授業計画

- 1.自己紹介の仕方・ノートのとり方
- 2.敬語の基礎
- 3.確実な連絡メモ
- 4.メールの書き方
- 5.手紙の書き方
- 6.説明のコツ
- 7.大学生の調べ方 1
- 8.大学生の調べ方 2
- 9.アンケートのとり方
- 10.資料の読み取り
- 11.プレゼンテーション
- 12.レポートの書き方 1
- 13.レポートの書き方 2
- 14.レポートの書き方 3
- 15.試験とまとめ

教科書

橋本 修, 福嶋 健伸, 安部 朋世 『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』(三省堂)
日本語検定委員会 『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』(東京書籍)

評価方法

(1)出席:25% (2)参加態度:25% (3)提出物:25% (4)試験:25%
出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、A Hレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。

基礎教育入門(書き方)

担当者：中島 佐和子

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

2.学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

授業計画

- 1.自己紹介の仕方・ノートのとり方
- 2.敬語の基礎
- 3.確実な連絡メモ
- 4.メールの書き方
- 5.手紙の書き方
- 6.説明のコツ
- 7.大学生の調べ方 1
- 8.大学生の調べ方 2
- 9.アンケートのとり方
- 10.資料の読み取り
- 11.プレゼンテーション
- 12.レポートの書き方 1
- 13.レポートの書き方 2
- 14.レポートの書き方 3
- 15.試験とまとめ

教科書

橋本 修, 福嶋 健伸, 安部 朋世 『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』(三省堂)
日本語検定委員会 『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』(東京書籍)

評価方法

(1)出席:25% (2)参加態度:25% (3)提出物:25% (4)試験:25%
出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、A Hレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。

基礎教育入門(話し方)

担当者：秋山 隆, 幸田 儒朗, 風見 雅章, 半谷 進彦, 岡部 晃彦

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回

単位数：1単位

講義概要

1. 内容

この講義は1年生を対象に「相手に的確に伝わる話し方」を学ぶものです。昨年、文化庁が行った「国語に関する世論調査」によりますと、「最近、日本人の話す力についてどう思うか」という質問に対し、「非常に低下している」「やや低下している」と答えた割合が全体の70%に達しています。また、経団連が行った調査によれば「新入社員の選考で最も重視した点」という問いに対し、「コミュニケーション能力」と答えた割合が80.2%でした。こうしたデータは、私たちに、今、社会は明らかに、「話す力」「聞く力」のさらなる向上を求めていることがわかります。日本人はいわゆる、お喋りは得意でも公の場面で筋持ち立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、今、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出ししていくことが重要になっています。つまり、「自分の考えを的確に伝える」「相手の発言を聞く」そして、「自分の意見と相手の意見との違いを明確にし、問題解決のため両者で展望を模索する」能力です。この講義ではこうした「パブリックスピーキング能力」、つまり“一定の時間内に、一定の内容を、筋道たてて話せる力”を身につけることを目的としています。これはゼミでの発表や就職時の面接、さらに社会人になった時など必ず役に立つものです。講師はNHKアナウンサーです。放送で培ったノウハウを駆使し、「発音・発声」の基本から、「話の組み立て方」まで実践トレーニングをとおして学びます。

2. 学びの意義と目標

卒業後、社会に出た時に一番求められるものは「コミュニケーション能力」です。この講義では、その基礎力を身につけることができます。具体的には会議の場で自分の意見を的確に話す力、上司に報告する力、人の話をしっかり聞き、理解する力などです。これらの能力を在学中に獲得すれば、鬼に金棒です。また、結婚披露宴や同窓会などでのスピーチにも活用できます。

準備学習(予習)

・毎回、講義の最後に翌週の授業内容の概要を伝え、実践トレーニングは話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日まで準備をしっかり行ってください。

準備学習(復習)

・毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、理解度によっては同じ内容を繰り返すともあります。

授業計画

1. 「話しことば」の基本 ～パブリックスピーキングとは～魅力的に分かりやすく話そう～
2. 「あなたの話し方を点検する」～自己紹介～
3. 「音声表現の基本」～発声・発音・音調をチェック～
4. 分かりやすく話す(1)～話す順序を工夫しよう～
5. 分かりやすく話す(2)～情報の整理と組み立て～
6. 実践！分かりやすい説明～わかりやすい構成とは～
7. 実践！スピーチ(1) 説得力～思いを述べる～
8. 実践！スピーチ(2) 事実と意見の仕分け～意見・考えを述べる
9. 社会人のことばづかい～点検・若者ことば～
10. 敬語の基本 ～敬語の5分類 「尊敬語」「謙譲語」「謙譲語」「丁寧語」「美化語」
11. 実践！敬語のコツ～敬語を使いこなす～
12. 「きく」の基本 ～3つのきく～聞く力と話す力～
13. 実践！スピーチ～効果測定に備える～
14. 効果測定(期末テスト)～いきいきと分かりやすく話そう～
15. 講座のまとめ～個人の課題と努力目標～

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)スキルの理解度:30% (2)実践での評価:60% (3)取り組みの積極性:10%

・話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価する。

基礎教育入門(留学生用書き方)

担当者：北村 淳子

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。

2.学びの意義と目標

相手に正確に意図が伝わるかどうかを十分注意しないまま発信される文章は、時には思わぬ誤解を招くことになる。相手に正確に文意を汲み取ってもらえるよう、常に意識を行き届かせながら表現することは、自分の思考のありようを論理的に整理することに繋がるであろう。

準備学習(予習)

テキストの解説部分を読む。また、副教材に指定された日本語検定3級の練習問題集を自習しておくこと。(自習の成果は最終回の試験で確認する)

準備学習(復習)

授業中に取り組んだ問題で、間違ったところや、わからなかったところを、もう一度、やり直す。宿題となった課題にきちんと取り組む。

授業計画

- 1.自己紹介の仕方・ノートのとり方
- 2.敬語の基礎
- 3.確実な連絡メモ
- 4.メールの書き方
- 5.手紙の書き方
- 6.説明のコツ
- 7.大学生の調べ方 1
- 8.大学生の調べ方 2
- 9.アンケートのとり方
- 10.資料の読み取り
- 11.プレゼンテーション
- 12.レポートの書き方 1
- 13.レポートの書き方 2
- 14.レポートの書き方 3
- 15.試験とまとめ

教科書

橋本 修, 福嶋 健伸, 安部 朋世 『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』(三省堂)
日本語検定委員会 『日本語検定公式練習問題集3級 改訂版』(東京書籍)

評価方法

(1)出席:25% (2)参加態度:25% (3)提出物:25% (4)試験:25%
出席・授業中に与えられた課題の取り組み姿勢・提出物・学期末の試験により、評価する。ただし、A Hレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。

基礎教育入門(留学生用書き方)

担当者：中島 佐和子

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

内容

自己紹介、敬語の使い方、手紙の作成などから始め、エッセイやレポート、意見文などを書くことで、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。なるべく多くの文章を書くようにしたい。適宜ドリルなどを併用する。

2.学びの意義と目標

授業理解と日本文化への理解を深めたい。レポートや論文の書き方の基礎を身に付け、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育てることを目標とする。

準備学習(予習)

テーマに沿って材料を収集する。

準備学習(復習)

出された課題をする。
添削された文章を清書して提出する。

授業計画

1. ガイダンス / 自己紹介
2. ふるさとを紹介する
3. 手紙を書く (1) 敬語の基礎
4. 手紙を書く (2) 形式を学んで書く
5. メールの書き方
6. 天声人語を読む (1) 書写・難読語・要旨・テーマ
7. 天声人語を読む (2) 表記・構造・故事来歴・風習
8. エッセイを書く (1) テーマの設定・材料の収集
9. エッセイを書く (2) 構成を考えて書く
10. レポートの書き方 (1) テーマの設定・材料の収集
11. レポートの書き方 (2) 用語・構成・書式・体裁
12. 意見文を書く (1) テーマの設定・材料の収集
13. 意見文を書く (2) 構成を考えて書く
14. 自己アピール文を書く
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業態度:30% (2)提出物:70%

担当者：酒井 俊行

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

就活を意識した場合に、まず押さえておかなければならないのは就活の仕組みを知ることです。昨今の就活においては、無手勝流でチャレンジすることは極めて非効率と言えます。孫子の兵法に言うとおり、百戦を危うくしないためには、敵を知り、己を知らなければなりません。

「己を知ること」は自己分析ということですが、ここで「敵を知ること」が『業界・企業分析』の作業ということになります。就職を希望する企業が必ずしも敵ということではありません。しかし相手を知らないでチャレンジすることは無謀ですし、何よりも先方企業に失礼です。

本講義では必要最小限の範囲で、皆さんが就活に際してチャレンジする業界・企業に関する研究の方法を学ぶこととします。

2.学びの意義と目標

就活を意識した場合に、準備しなければならないことがいくつかあります。中でもエントリーシートを書いたり、面接に臨んだりするための準備は周到にしなければなりません。エントリーシートというのは読んで名のごとし。志望先にアプローチするためのツールです。これの書き方によって先に進めるか否かが大きく左右されます。

エントリーシートで重要なのは、自己PRと志望の動機がきっちり書けていることです。この授業では志望動機を過不足なく書けるようになるために不可欠な「業界・企業研究」について勉強します。

これまでの先輩がたの例を挙げると、遺憾ながら面接を含めて志望動機を相手先によく伝えることが出来なかったケースが多かったと言えます。志望動機をうまく伝えることが出来ないのは、それが全てではありませんが、業界・企業研究が不十分であるからと言っても過言ではありません。そのために、この授業が必要とされるのです。

「転ばぬ先の杖」ということがあります。またものごとにはすべからず「傾向と対策」があります。就活本番での成功を掴み取るために、是非一緒に勉強して行きましょう。

準備学習(予習)

格別の準備は必要ありませんが、受講する学生は、並行して、マナー、言葉遣い、一般常識等のシェーブアップについても心掛けるようにして下さい。

準備学習(復習)

実践が大事です。その都度指示する課題が復習になりますので、作業指示は絶対を守りるようにして下さい。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 就活の仕組みを知る
3. 業界・企業研究とエントリーシート・面接
4. 業界研究の必要性
5. さまざまな業界を知る(1)
6. さまざまな業界を知る(2)
7. 企業研究の必要性
8. 企業研究の方法(1)
9. 企業研究の方法(2)
10. 企業研究の方法(3)
11. 働く場としての中堅・中小企業
12. 業界・企業研究実習(1)
13. 業界・企業研究実習(2)
14. 業界・企業研究実習(3)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)レポート:60%:3回程度のレポート提出を求めます。
- (2)授業への貢献:40%:出席状況等授業への参加状況を評価。

担当者：藤井 重隆

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

自分はどんな仕事をしたいのか、自分に向いている仕事はあるのだろうか、沢山の情報や選択肢の中から自分の納得いく仕事に出会って就職したいものである。この課題に取り組む手法として「履歴書」や「エントリーシート」を書いてみることで自分自身を理解し、求人票や求人情報に触れてみることで企業やその理念、職種や雇用条件などを理解する。そして志望動機を明確にしていくプロセスを体験する。業界や企業は時代の流れに応じて浮沈を繰り返していく。グループワークを行いながら業界や企業への理解を深め、合わせて就職の仕組みも学んでいく。

2.学びの意義と目標

就職活動の前に自分のキャリアデザインをどう考えるかを自分に問う機会とする。また将来、転勤や転職や再就職などの事態に遭遇しても新たな職場で自分のキャリア伸ばしていく考え方を持つことの大切さを理解する。

準備学習(予習)

講義のポイントは講義中に理解できるよう心掛けること。不明点は質問して講義中に理解しておくこと。

準備学習(復習)

講義内容は復習によって理解を定着させておくこと。

授業計画

1. 「業界研究」の目的、方法とゴール
2. 履歴書、エントリーシートを知る
3. 自分はどんな人間か、何をしたい人間かを考える
4. グループワーク 理想的な履歴書
5. 求人票、求人情報を知る
6. それぞれの業界はどのような人材を求めているかを考える
7. グループワーク 志望先の絞り込み
8. 志望動機について考える
9. グループワーク 志望先の会社内容について納得する
10. 模擬企画プロジェクト
11. 「業界研究」：企業の成長と衰退
12. グループワーク 志望する業界の検討と評価
13. 実業家(先輩)による講演
14. 「業界研究」のまとめ、「就業力育成」とキャリアデザイン
15. 提出レポートへのコメントと講師からのフィードバック

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:50% (2)レポート:40% (3)受講態度:10%
 社会人並の自己管理を求める。15回で完結する内容を組んでいるため全講座出席のこと。遅刻3回で1回欠席扱いとする。

キリスト教音楽史 A

担当者：渡辺 善忠

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

(1)キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学びます。
(2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。
「キリスト教音楽史 A」では、キリスト教音楽のルーツであるユダヤ教音楽から宗教改革時代までの教会音楽について、聖書解釈と作品の時代背景から論じつつ作品に耳を傾けます。聖書と音楽史との関わりをふまえて音楽を理解することを目的とします。なお、「キリスト教音楽史 B」では宗教改革以降の作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。

参考文献

- ・聖書（旧新約聖書両方を用います）
 - ・「キリスト教音楽の歴史」（金澤正剛著／日本キリスト教団出版局 2001年）
 - ・「よくわかるキリスト教の音楽」（長谷川朝雄他著／キリスト新聞社2000年）
 - ・「ユダヤ音楽の旅」（水野信男著／ミルトス 2000年）
- その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。

2.学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、教会音楽がどのように発展したかを、歴史的な視点で学びたいと思います。

準備学習(予習)

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯をたどったり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。

準備学習(復習)

授業で毎回配布するレジメ（内容の要約）をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

授業計画

1. 第1回 ガイダンス
2. 第2回 旧約聖書が書かれた時代の音楽(1)
3. 第3回 旧約聖書が書かれた時代の音楽(2)
4. 第4回 グレゴリオ聖歌(1)
5. 第5回 グレゴリオ聖歌(2)
6. 第6回 ミサ曲の成立と発展(1)
7. 第7回 ミサ曲の成立と発展(2)
8. 第8回 オラトリオの成立と発展(1)
9. 第9回 オラトリオの成立と発展(2)
10. 第10回 レクイエムの成立と発展
11. 第11回 宗教改革直前の教会音楽(1)
12. 第12回 宗教改革直前の教会音楽(2)
13. 第13回 宗教改革時代の教会音楽
14. 第14回 前期のまとめ(総論)
15. 第15回 前期のまとめ(試験)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:40% (2)出席:30% (3)レポートなど:30%

キリスト教音楽史 B

担当者：渡辺 善忠

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

(1)キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学びます。
(2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。
「キリスト教と音楽史B」（後期）では、宗教改革から現代までのキリスト教合唱作品を中心に、教会の歴史・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。

参考文献

- ・聖書（旧新約聖書両方を用います）
 - ・「キリスト教音楽の歴史」（金澤正剛著／日本キリスト教団出版局2001年）
 - ・「よくわかるキリスト教の音楽」（長谷川朝雄他著／キリスト新聞社2000年）
 - ・「大作曲家の信仰と生涯」（P.カヴァノー著・吉田幸弘訳／教文館2000年）
- その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。

2.学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、教会音楽がどのように発展したかを、歴史的な視点で学びたいと思います。

準備学習(予習)

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯をたどったり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。

準備学習(復習)

授業で毎回配布するレジメ（内容の要約）をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 J.S.バッハ(1)
- 第3回 J.S.バッハ(2)
- 第4回 G.F.ヘンデル
- 第5回 M.ハイドンとJ.ハイドン
- 第6回 A.モーツァルト
- 第7回 L.V.ベートーヴェン
- 第8回 F.シューベルト
- 第9回 F.メンデルスゾーン
- 第10回 J.ブラームス
- 第11回 後期ロマン派のキリスト教音楽(1)
- 第12回 後期ロマン派のキリスト教音楽(2)
- 第13回 現代のキリスト教音楽
- 後期のまとめ（総論）
- 後期のまとめ（試験）

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:40% (2)出席:30% (3)レポートなど:30%

キリスト教概論 A

担当者：E．D．オズバーン

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容:この講義では、聖学院大学の教育理念の根底に位置するキリスト教の基礎を紹介します。まず最初に個人個人の人生における宗教の重要性を確認し、同時に日本の歴史と文化における主要な宗教と哲学の役割を概観します。次にこの講義では、それぞれの学生が持つ信念や信条に焦点をあて、それぞれが何を信じ、そして何故それを信じるのかについて考え、表現することにチャレンジしてもらいます。さらに、創造主・聖書・罪・救済などの例を挙げながらキリスト教のユニークさを強調しつつ、その教理を概観していきます。

2.カリキュラム上の位置づけ: 聖学院大学基礎科目群の必修科目

2.学びの意義と目標

第一の目的は、一般の宗教と又、キリスト教の概観を、特に日本の環境において重点をおきながら受講者に提供することです。

準備学習(予習)

Students are expected to complete reading assignments in the Holy Bible (Old Testament) and the Love God and Serve His People textbook in order to be familiar with key concepts and terminology that will be discussed in the lectures.

準備学習(復習)

Following each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points.

授業計画

1. 宗教とは何か？そしてなぜ宗教が必要なのか？I: 世界観
2. 宗教とは何か？そしてなぜ宗教が必要なのか？II: 世界観の比較
3. 日本の歴史と文化における宗教I:神道、仏教、儒教の役割
4. 日本の歴史と文化における宗教II:禅と武士道の役割
5. 現代日本文化における宗教:「日本教」
6. 自己認識と宗教:あなたは一体何者で、何を本当に信じ、そして何故それを信じるのか？
7. キリスト教とは何か？そして世界の他の宗教とは何が違うのか？
8. 三位一体のキリスト教の創造神
9. 聖書の目的と意味I: 聖書は神の御言葉
10. 聖書の目的と意味II: 聖書の権威
11. 漢字に隠された聖書のメッセージ
12. 罪とは何か?:キリスト教における人間とそのジレンマ
13. 救済とは何か?:さまざまな宗教における答え
14. 救済とは何か?:II:キリスト教の福音(ゴスペル)メッセージにおける答え
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

- (1)出席と授業参加:20%
- (2)読書レポート:20%
- (3)教会出席レポート及び全学礼拝レポート:30%
- (4)テスト:30%

キリスト教概論 A

担当者：石田 学

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

この講座は、キリスト教についての基本的な知識を紹介し、現代を生きる上での知恵と価値基準を見出す手がかりを提供します。まずプロテスタント・キリスト教主義の大学で学ぶ意義からはじめ、キリスト教の礼拝、行事などをとりあげます。

また、文学、芸術、音楽、思想など文化のあらゆる面で大きな影響を与えてきた聖書の内容を紹介します。キリスト教主義の大学で学ぶ特権を生かして、キリスト教に触れる機会を持っていただき、キリスト教についての基礎知識を知る機会としていただきたいと思います。

2. 学びの意義と目標

今日、日本人のキリスト教人口比率は1%未満にすぎません。しかし、キリスト教が日本の文化と社会に与えて来た影響は、歴史的に見ても大きいのです。政治、経済、思想、社会の仕組みなどはもちろん、文学や音楽、芸術の分野でもキリスト教抜きには、近代日本を正しく理解することはできません。日本という枠を超えて、世界に目を向けるとき、キリスト教抜きには、世界の歴史と現況を理解することはできないといっても過言ではありません。いろいろな意味において、キリスト教は人類の価値観、文化形成に影響を与え、人類の思想的発展を促してきました。特に西欧社会においては、キリスト教は古代から現代に至るまで、文化と歴史形成において中心的な役割を果たしてきました。

ところが、現実には日本でキリスト教はほとんど正しく理解されていません。クリスマスやキリスト教式結婚式は広く受け入れられていますが、キリスト教の教え、倫理観、世界理解などについては残念ながら正しい知識を持つ人はわずかです。講座の終了時にはキリスト教の基本的知識と、聖書の内容についての基礎知識を持つことができます。

準備学習(予習)

- 1) 教科書の指定箇所を予め読んで来て下さい。
- 2) 聖書を必ず持参して下さい。

準備学習(復習)

- 1) 授業の資料を授業後に渡しますので(渡す方法は授業時に説明)、改めて目を通して下さい。

授業計画

1. 序論(1):講座の紹介と講義要領の説明。なぜキリスト教を学ぶのか。
2. 序論(2):キリスト教主義大学で学ぶ意義。本学の精神と課題レポートの説明。
3. キリスト教礼拝とは:聖書・賛美歌の解説と使い方、キリスト教礼拝の説明。
4. キリスト教とは何か(1):キリスト教の伝統と歴史入門。
5. キリスト教とは何か(2):教会の儀式と暦、習慣を知ろう。
6. 旧約聖書(1):旧約聖書と新約聖書、どう違うか。古代オリエント世界の紹介。
7. 旧約聖書(2):天地創造と、アブラハム、イサク、ヤコブの物語。
8. 旧約聖書(3):ヨセフ物語前編。売られたヨセフ。
9. 旧約聖書(4):ヨセフ物語後編。神の摂理とは何か。
10. 旧約聖書(5):出エジプトの物語、前編。神の人モーセ。
11. 旧約聖書(6):出エジプトの物語、後編。「エクソダス」。
12. 旧約聖書(7):「十戒」を学ぶ。
13. 旧約聖書(8):「約束の地」カナン定住とダビデ王の物語。
14. 旧約聖書(9):ソロモンと王国の物語。
15. 旧約聖書(10):その後のイスラエルの歴史と預言者たち。学期末試験

教科書

日本聖書協会『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

- (1)学期末試験:50%:ノート・配布資料持ち込み可での記述式試験。
- (2)レポート:10%:必須課題(3)授業内レポート:40%:毎回の授業時提出。毎回、パワーポイントを用いたプレゼンテーションをおこない、それに対する応答レポートを記入してもらいます。

キリスト教概論 A

担当者：菊地 順

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。

春学期は、初めに現代世界における宗教の意義について考察し、また日本とキリスト教との関係について概観します。その後、旧約聖書に基づいて、キリスト教の背景をなすユダヤ教（イスラエル宗教）の世界について、特にその世界観・人間観、その歴史、及びキリスト教との関連について学びます。

2.学びの意義と目標

キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけではなく、現代世界の一つの重要な精神文化を担っている宗教ですので、この授業をとおして、大学での学びの基礎を身に付けると同時に、世界や歴史を見る目を養うことを目指します。

準備学習(予習)

この授業は基本的にテキストに添って行かないので、予習としては各授業の項目に従って予めテキストの下読みをしてください。

準備学習(復習)

復習としてはノートと聖書の内容の確認を中心に行ってください。また自分の関心のあるところを調べ、知識を深めてください。

授業計画

1. 現代世界と宗教 宗教とは何か
2. 日本とキリスト教 身近にあるキリスト教
3. 礼拝への招き
4. 聖学院の歴史と背景
5. 聖書と啓示
6. 旧約聖書の世界 人間とは何か(1)
7. 旧約聖書の世界 人間とは何か(2)
8. 旧約聖書の世界 イスラエルの歴史と信仰(1)
9. 旧約聖書の世界 イスラエルの歴史と信仰(2)
10. 旧約聖書の世界 イスラエルの歴史と信仰(3)
11. 旧約聖書の世界 十戒と律法(1)
12. 旧約聖書の世界 十戒と律法(2)
13. 旧約聖書の世界 預言者たちの活動(1)
14. 旧約聖書の世界 預言者たちの活動(2)
15. 旧約聖書の世界 預言者とメシア思想

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）

評価方法

- (1)試験:60%:最後の授業時に1回行う
 - (2)出席:20%:3分の2以上出席すること
 - (3)課題:20%:教会出席レポートと全学礼拝レポート
- 以上の3点を総合して成績を出します。ただし、欠席が3分の1以上の人、あるいは課題の未提出者は、試験を受けることができませんので、

キリスト教概論 A

担当者：久保島 理恵

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教信仰は、イエスを救い主として信じ告白することである。そこで授業では、イエス・キリストについての証言である新約聖書を通して、キリスト教の基本的内容への理解を深める。具体的には、「ルカによる福音書」を読みながら、イエス・キリストの教え、働き、そして十字架の死と復活という救済の出来事について学んでいく。

2.学びの意義と目標

「神を仰ぎ、人に仕う」という本学のスクール・モットーは、キリスト教信仰に貫かれている。従って本講義は、まず自分の学びの場の土台を知るという意味をもっている。

多くの学生にとって、キリスト教は初めて触れる世界であろう。しかし、本学のバックボーンであるプロテスタント・キリスト教は、近代世界の成立に深く関わっており、その理解は大学で学ぶ者にとって文化・学問の基盤として不可欠である。この講義を通して得るキリスト教の理解が、それぞれの専門分野の知識の下支えとなり生かされることを期待している。

またそれと同時に、この学びが自分自身について、また自分の生き方について考える良い機会になることを望んでいる。

準備学習(予習)

授業で取り上げる聖書箇所を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業で取り上げた聖書箇所と教科書の当該箇所を読み返すこと。また授業で配布したプリントを再読し、要点を整理して理解を深めること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 礼拝とは(1)
3. 礼拝とは(2)
4. イエスのたとえ話
5. イエスと出会った人々
6. 神の国
7. 神を愛し、人を愛する
8. 的外れの生き方 ~罪とは~
9. 罪からの救済
10. キリストの十字架
11. キリストの復活
12. 聖霊
13. 終末とは
14. パウロ
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書（新共同訳）』（日本聖書協会）
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）
聖学院大学・女子聖学院短期大学宗教センタ 『聖学院の精神と歴史 神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院ゼネラル・サービス）

評価方法

- (1)平常点:25% (2)授業レポート:25% (3)礼拝レポート:25%
(4)期末レポート:25%

キリスト教概論 A

担当者：左近 豊

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容

キリスト教の基本的な内容を、聖書に即して学ぶ。特に春学期は旧約聖書が語るダイナミックな世界観、人間観、救済観、共同体観などに触れ、聖書からの挑戦を受けて、現代社会を創造的に捉える視点を養う。

2.カリキュラム上の位置づけ

基礎科目に属する必修科目。キリスト教について初めて学ぶ人を対象とする。

2.学びの意義と目標

聖書の世界観、人間観、救済観、共同体観、終末観について記述することができる。

聖書、キリスト教的視点から現代社会を創造的に捉え、論じることができる。

準備学習(予習)

授業で配布するシラバス記載の課題箇所を事前に読んでから授業に出席してください。

準備学習(復習)

大きな単元が終わるごとに小クイズを実施しますので、復習をしておいてください。

授業計画

- 1.序
- 2.証言としての聖書
- 3.キリスト教とは何か その発展の歴史
- 4.聖書の世界観 崩壊期の思想としての天地創造(1)
- 5.聖書の世界観 崩壊期の思想としての天地創造(2)
- 6.聖書の人間観(1) 人間の尊厳 (創世記第1章)
- 7.聖書の人間観(2) 人間の限界 (創世記第2章以下)
- 8.聖書の罪理解 創世記、預言書の語る「罪」
- 9.聖書の苦しみ理解 哀歌、詩編、ヨブ記の語る「苦難」
- 10.聖書の救済理解(1) 出エジプトにみる「救い」
- 11.聖書の救済理解(2) イザヤ書、エレミヤ書にみる「救い」
- 12.聖書の共同体観(1)「十戒」、律法にみる垂直次元と水平次元
- 13.聖書の共同体観(2)神を愛すること、人に仕えること
- 14.聖書の終末観(1)預言者にみる終末
- 15.聖書の終末観(2)黙示にみる終末

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

- (1)授業参加:30%:授業への参加度(予習)
- (2)小クイズ:10%
- (3)礼拝出席レポート:20%
- (4)学期末試験:40%

キリスト教概論 A

担当者：佐野 正子

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教の基礎知識と、キリスト教の中心であるイエス・キリストの生涯と教えについて学び、そこから私たちに示されている生き方について、共に考えていく。

2.学びの意義と目標

キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解するとともに、自分の生き方を見つめ、現代社会をとらえる目を養うことを目標とする。

準備学習(予習)

提示される教科書と聖書の箇所をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業で取り上げた聖書の箇所を繰り返し読み、内容の理解を深めること。

授業計画

- 1.キリスト教とはなにか、なぜキリスト教を学ぶのか
- 2.キリスト教の教会、礼拝について
- 3.聖書について(1)
- 4.聖書について(2)
- 5.ユダヤ教とキリスト教、メシア待望とキリストの誕生
- 6.イエス・キリストの生涯
- 7.イエス・キリストの教え(1)
- 8.イエス・キリストの教え(2)
- 9.イエス・キリストの教え(3)
- 10.イエス・キリストのはたらき(1)
- 11.イエス・キリストのはたらき(2)
- 12.イエス・キリストのはたらき(3)
- 13.イエス・キリストの十字架による死と復活
- 14.イエス・キリストの弟子たちと教会の誕生
- 15.まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

(1)出席レポート:60% (2)礼拝レポート:20% (3)期末レポート:20%

キリスト教概論 A

担当者：田中 かおる

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

この授業は、聖学院大学の建学の精神であるキリスト教への理解を深めることを目的とする。

2.学びの意義と目標

キリスト教は、現在の私達の日常生活、また明治以降の日本の幼児教育界にもいろいろな形で影響を与えてきた。そういうことを点検しながら、キリスト教に親しみ、聖書のメッセージに直接触れて、理解を深めていきたい。

聖書は旧約聖書を取り上げ、そこに示されている人間観とそれに対する神の関わりという視点から学び、今日の社会の問題との接点を共に考えていく。

準備学習(予習)

聖書の該当箇所を読んでおく。

準備学習(復習)

講義内容を確認する。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.キリスト教とは何か(1)
- 3.キリスト教とは何か(2)...聖学院の歴史
- 4.キリスト教とは何か(3)...聖書とその舞台
- 5.旧約聖書(1)...天地創造(創世記1章)
- 6.旧約聖書(2)...アダムとエバ(創世記1~3章)
- 7.旧約聖書(3)...カインとアベル(創世記4:1~15)
- 8.旧約聖書(4)...箱舟物語(創世記6~8章)
- 9.旧約聖書(5)...アブラハムとイサク(創世記12章他)
- 10.旧約聖書(6)...ヤコブ(創世記25:19~他)
- 11.旧約聖書(7)...ヨセフとその兄弟たち(創世記37章他)
- 12.旧約聖書(8)...モーセ(1)(出エジプト1章他)
- 13.旧約聖書(9)...モーセ(2)(出エジプト14章他)
- 14.旧約聖書(10)...十戒(出エジプト20:1~17)
- 15.まとめ

教科書

日本聖書協会 『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

(1)毎回の小レポート:20% (2)礼拝レポート:30% (3)試験:50%

キリスト教概論 A

担当者：野島 邦夫

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教の主な教えと聖書の概説がこの講義の内容ですが、それらを全く知らないという方々でもわかるよう説明します。

まず、「宗教」は皆様のような若い人たちにも必要かどうか、必要であるならどのように必要なのか、を考えます。そして本論として、春学期はキリスト教の主な教えを順番に学んでいきます。(秋学期は聖書の主な内容を学びます。)具体的なテーマや聖書箇所については「授業計画」を見てください。

2.学びの意義と目標

キリスト教はこの大学の精神的土台です。この大学で初めてキリスト教に触れる方が多いでしょう。「キリスト教国」ではない日本で、若い時キリスト教を知ることは一生の掛け替えのない財産となるにちがいありません。

キリスト教は二千年来この世界を導いてきた精神的支柱の一つです。キリスト教を知らなくては、世界の歴史も現代社会の動きもよく理解できません。音楽を始め芸術の分野でも大きな影響を与えました。

しかし、それ以上に重要なことは、キリスト教は皆様方一人ひとりの人生の指針となり拠りどころとなるに違いないということです。キリスト教信仰は単に天国に行けることを約束するだけではなく、葬儀の時にだけ必要なのではなく、生きて悩んでいるその人の支えになるものです。

この講義は、キリスト教とその教典(聖書)をなるべくわかりやすく解説して、受講者の皆様にキリスト教を正しく知っていただくことを目指します。

準備学習(予習)

この講義は基本的に教科書(特に「神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版」)に従っておこないますので、毎回、指示される箇所を読んでください。その準備によって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。

準備学習(復習)

講義中はなるべく詳しくノートを取ってください。
講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、月に一度程度「小作文」の時間を取ります(30分)。

授業計画

- 1.はじめに：宗教は誰にとって必要か？
- 2.諸宗教とキリスト教
- 3.日本の中のキリスト教
- 4.聖学院大学の「背骨」としてのキリスト教
- 5.キリスト教と聖書
- 6.キリスト教の神
- 7.世界の始まり(創造)
- 8.人間は神に創られたもの
- 9.罪とは？
- 10.救い主イエス・キリスト
- 11.キリストの十字架の死と復活
- 12.神であり人でもあるキリスト
- 13.三位一体の神
- 14.神の救いの歴史(創造から終末まで)
- 15.まとめ

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)
聖学院大学・女子聖学院短期大学宗教センタ 『聖学院の精神と歴史 神を仰ぎ、人に仕う』(聖学院ゼナル・サービス)

評価方法

(1)出席:20% (2)課題:20% (3)試験:60%
欠席が三分の一以上の人と課題未提出の人は、試験を受けることができません。

キリスト教概論 A

担当者：藤原 淳賀

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は、キリスト教に初めて触れる学生諸君が、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解できるようにすることを目的としている。春学期は、聖書について、神について、人生について、キリスト教およびプロテスタンティズムについて概観し、旧約聖書に記された重要な出来事を概観する。

2.学びの意義と目標

キリスト教の基礎的な内容と旧約聖書について理解することを目標とする。

準備学習(予習)

予め定められている読書課題から毎週の授業でクイズ(小テスト)を行うのでその準備をしてくること。

準備学習(復習)

授業が行われた日の内にノートを見直し、クラスメートと内容確認をして欲しい。

授業計画

1. イントロダクション
2. キリスト教との出会い
3. 聖書について
4. プロテスタンティズムと聖学院
5. 神について
6. 創造・墮落・救済
7. ノアの箱船
8. バベルの塔
9. アブラハム契約
10. 出エジプト1
11. 出エジプト2
12. 十戒
13. ダビデとメシアへの期待
14. 捕囚
15. イスラエルの再建

教科書

日本聖書協会 『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

(1)クイズ:60% (2)試験:40%

キリスト教概論 A

担当者：柳田 洋夫

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教は、民主主義や資本主義を柱とするこの近代世界を成立させた原動力であるとともに、私たちに生きる勇気と指針を与えるものでもある。春学期は、初学者にも理解できるキリスト教入門を心がけつつ、キリスト教信仰の概略と旧約聖書について学ぶ。

2.学びの意義と目標

聖書に親しみ、キリスト教についての基礎知識を習得するとともに、キリスト教によって培われる新しい生き方とは何かについて考察し、それぞれの実践に生かす。

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

授業計画

- 1.キリストと聖書
- 2.祈りと礼拝 「主の祈り」を中心に
- 3.三位一体の神・神の国・教会(1)
- 4.三位一体の神・神の国・教会(2)
- 5.プロテスタントとは何か
- 6.神の創造と人間の墮罪
- 7.神の救済と人間の自己栄化
- 8.族長たちの活躍(1)
- 9.族長たちの活躍(2)
- 10.族長たちの活躍(3)
- 11.出エジプトと「十戒」(1)
- 12.出エジプトと「十戒」(2)
- 13.イスラエル王国の盛衰と預言者たち
- 14.「ヨブ記」と「詩篇」の世界
- 15.まとめと試験

教科書

日本聖書協会 『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)
宗教センター 『聖学院の精神と歴史』(聖学院ゼネラル・サービス)
日本基督教団賛美歌委員会 『賛美歌・賛美歌第二編』(日本基督教団出版局)

評価方法

(1)出席・参加度:40%(2)試験:40%(3)礼拝レポート:20%
試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

キリスト教概論 A

担当者：山ノ下 恭二

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義ではキリスト教の基礎であるキリスト教の神、聖書について詳しく解説し、旧約聖書の内容を詳しく解説していく。

キリスト教に触れるのは初めての学生も多いと考えているので、キリスト教の中心的メッセージを明確にしつつ、特に旧約聖書の中心的な用語についても詳しく解説していく。

2.学びの意義と目標

キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的な内容を理解すると共に、自分の生き方を聖書から考えることを目標とする。

準備学習(予習)

『聖書』『神を仰ぎ、人に仕う』は、毎回、必ず持参すること。

『神を仰ぎ、人に仕う』を予め、読んでくること。

準備学習(復習)

講義で触れた聖書、教科書、をよく読むこと

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. キリスト教活動、礼拝について
3. キリスト教の基礎知識
4. キリスト教との出会い
5. 聖書について
6. 創造について(1)
7. 創造について(2)
8. 墮落と滅びについて
9. 族長物語
10. 出エジプト
11. 契約と律法
12. 預言書(1)
13. 預言書(2)
14. 知恵文学(1)
15. 知恵文学(2)

教科書

日本聖書協会 『聖書(新共同訳)』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

(1)授業出席・態度:40% (2)レポート提出:30% (3)試験:30%

キリスト教概論 A

担当者：吉岡 光人

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教とはどんな宗教なのかということを知るによって、世界の歴史や現代社会など目に見える世界を理解すること、そして人間存在とは何か、自分とは何か、人を愛するとは何かなど人間が生きてゆく上での基本的な課題に対しても理解を深めることを学ぶ。

2.学びの意義と目標

旧約聖書を中心に、聖書の宗教観・人間観を学ぶ。

授業計画

1. 宗教と現代社会
2. 日本の社会とキリスト教（1）
3. 日本の社会とキリスト教（2）
4. ユダヤ教とキリスト教
5. 旧約聖書の世界（1）天地創造
6. 旧約聖書の世界（2）墮罪
7. 旧約聖書の世界（3）アブラハム・イサク・ヤコブ物語
8. 旧約聖書の世界（4）ヨセフ物語
9. 旧約聖書の世界（5）モーセと出エジプト
10. 旧約聖書の世界（6）十戒
11. 旧約聖書の世界（7）ダビデ王とソロモン王
12. 旧約聖書の世界（8）国家滅亡とバビロン捕囚
13. 旧約聖書の世界（9）預言者（1）
14. 旧約聖書の世界（10）預言者（2）
15. 期末試験

準備学習(予習)

教科書・聖書に関しては、次の授業で扱う部分を予告するので、読んでくること

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳（それ以外のものでも可）』（日本聖書協会）
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）

準備学習(復習)

授業で扱ったテキスト箇所および配布された教材をよく読んで、次回の授業に備えること

評価方法

(1)出席:30% (2)礼拝レポート:20% (3)試験:50%

キリスト教概論 B

担当者：E. D. オズバーン

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

1. 内容: この講義は、キリスト教概論 A で最後に学んだ福音(ゴスペル)メッセージの概要を基にして構成していきます。学期の前半はイエス・キリスト:その生涯、死、そして復活;新約聖書に書かれたその主な教え;その神性と神の存在をあらわすために行った数々の奇跡に焦点を当てます。また、聖書のいくつかの内容を概略した後に、キリスト教の根本的な教理を要約していきます。学期の後半においては、アメリカにおける民主主義の発展を例として使い、キリスト教が世界の歴史に与えた影響について考えていきます。

2. カリキュラム上の位置づけ: 聖学院大学基礎科目群の必修科目

2. 学びの意義と目標

講義の主要な目的は受講者がイエス・キリストの教えに親しむことであり、また、世界の歴史上の影響に注目し、学ぶことです。尚、受講者の個々の人生における福音メッセージの関連を見つめることにあります。

準備学習(予習)

Students are expected to complete reading assignments in the Holy Bible (New Testament) and the Love God and Serve His People textbook in order to be familiar with key concepts and terminology that will be discussed in the lectures.

準備学習(復習)

Following each lecture, students should revise the notes taken in class and review them, committing to memory the key points.

授業計画

1. イエス・キリストの生涯
2. イエス・キリストの死と復活:それらが意味する事
3. イエス・キリストの教えI:山上の説教
4. イエス・キリストの教えII:山上の説教(続き)
5. イエス・キリストの教えIII:主なたとえ話(例:善きサマリア人;種を蒔く人)
6. イエス・キリストの奇跡(例:ラザロを復活させる;嵐を鎮める;悪霊を追い出す)
7. 新約聖書の主な教え(例:黄金律;最も重要な掟)
8. キリスト教が世界史に与えたインパクト(例:アメリカ合衆国)
9. キリスト教が西洋に与えたインパクト:芸術・文学・音楽I
10. キリスト教が西洋に与えたインパクト:芸術・文学・音楽II
11. 日本におけるキリスト教:過去
12. 日本におけるキリスト教:現在
13. キリスト教を信仰する理由I:信仰、希望、そして愛の力
14. キリスト教を信仰する理由II:人生を変える力
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

- (1)出席と授業参加:20%
- (2)読書レポート:20%
- (3)教会出席レポート及び全学礼拝レポート:30%
- (4)テスト:30%

キリスト教概論 B

担当者：石田 学

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

この講座では、前半に新約聖書とは何かを学びます。イエス・キリストの教えと働き、その生涯と死、復活の意味、そして教会の誕生までを概観します。

後半では、キリスト教思想に基づく人間観、歴史観などについて、なるべく具体的な話を交えながら、紹介します。

基本的にパワーポイントを用いたプレゼンテーションをおこない、学生には毎授業に確認レポートを提出してもらいます。講義に集中してもらうため、資料配付は授業後におこないます。後半ではビデオや映像による資料も用いるようにします。

2.学びの意義と目標

現代世界は、いろいろな問題が複雑に絡み合い、善悪を単純に判断することのできない世の中です。そのような中で善く生きるために役立つ価値観を共に考えてゆきます。よりよい社会を築くため、どのような生き方をすべきかを考える手がかりを持っていただきたいと思います。

準備学習(予習)

教科書の指定箇所を読んできて下さい。
前半は聖書必携です。

準備学習(復習)

授業後の配布資料に目を通して下さい。

授業計画

- 1.はじめに:講座の概要説明、イエスとその時代を知ろう。ヘレニズムとローマ帝国
- 2.イエス・キリストの生涯(1):クリスマスの出来事。
- 3.イエス・キリストの生涯(2):教えと働き、「よいサマリヤ人」のたとえ。
- 4.イエス・キリストの生涯(3):愛と憐れみ、「王の裁き」「放蕩息子」のたとえ。
- 5.イエス・キリストの生涯(4):十字架と復活(前編)。
- 6.イエス・キリストの生涯(5):十字架と復活(後編)。
- 7.イエス・キリストの生涯(6):ビデオ鑑賞。
- 8.パウロの働き:「異邦人」への教会の拡がり。
- 9.人間とはなにか:キリスト教的人間観に触れる。
- 10.罪とはなにか:キリスト教的罪理解を学ぶ。
- 11.「いのち」について考えてみよう:生命倫理と科学技術
- 12.キリスト教は結婚をどのように考えるか。
- 13.イエスからキリスト教へ:キリスト教の教えと歴史概略。
- 14.真の霊性を求めて:キリスト教のスピリチュアリティ。
- 15.まとめ:人間の未来と教会の役割。

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

- (1)学期末試験:50%:ノート・配布資料持ち込み可の記述試験。
- (2)課題レポート:10%
- (3)授業内レポート:40%:授業内容への応答レポート。
毎回の資料は、授業後に配布します。配布方法は初回に説明します。

キリスト教概論 B

担当者：菊地 順

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。

秋学期は、春学期の学びを踏まえ、主にキリスト教の中心をなすイエス・キリストの生涯と教えについて、新約聖書を用いて学びます。また授業では、できるだけ映像なども取り入れて、親しみやすい内容にしたいと思います。

2.学びの意義と目標

キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけではなく、現代世界の一つの重要な精神文化を担っている宗教ですので、この授業をとおして、大学での学びの基礎を身に付けると同時に、世界や歴史を見る目を養うことを目指します。

準備学習(予習)

この授業は基本的にテキストに添って行ないますので、予習としては各授業の項目に従って予めテキストの下読みをしてください。

準備学習(復習)

復習としてはノートと聖書の内容の確認を中心に行ってください。また授業をとおして関心を持ったところを調べ、自分の知識を深めてください。

授業計画

1. イエス・キリストに関する資料 4つの福音書
2. イエス・キリストの時代背景
3. イエス・キリストの生涯(1) 誕生
4. イエス・キリストの生涯(2) 公生涯への備え
5. イエス・キリストの生涯(3) 宣教の開始
6. イエス・キリストの生涯(4) 弟子たちの召命
7. イエス・キリストの生涯(5) 山上での説教(1)
8. イエス・キリストの生涯(6) 山上での説教(2)
9. イエス・キリストの生涯(7) 山上での説教(3)
10. イエス・キリストの生涯(8) 弟子たちの派遣
11. イエス・キリストの生涯(9) 警え話
12. イエス・キリストの生涯(10) 奇跡
13. イエス・キリストの生涯(11) ユダヤ教の指導者たちとの対立
14. イエス・キリストの生涯(12) 十字架への道
15. イエス・キリストの生涯(13) 十字架の死と復活

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

- (1)試験:60%:最後の授業で1回行う
- (2)出席:20%:3分の2以上出席すること (3)課題:20%:教会出席と礼拝出席

以上の3点を総合的に判断して成績を出します。ただし、欠席が3分の1以上の人、あるいは課題の未提出者は試験を受けることができません

キリスト教概論 B

担当者：久保島 理恵

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

本講義では主に旧約聖書を取り上げる。天地創造、アダムとエバなど、よく知られているエピソードや人物を取り上げながら、わたしたちが人生の中で直面する諸問題、現代社会の課題と関連づけて考えていく。また新約聖書とのつながりも明らかにしたい。

2. 学びの意義と目標

旧約聖書には、キリスト以前の約2000年間の神とイスラエルとの関係が記されているが、それは単なる遠い昔の歴史物語ではない。そこには、人間の本質、世界の存在意義、苦難の意味など、今わたしたちが直面している課題が示されている。

イスラエルの民は、過去の出来事から現在をとらえ、そして未来への指針を読み取ってきた。わたしたちも旧約聖書の学びを通してキリスト教への理解を深めるとともに、この現代社会をとらえる目を養う機会としたい。

準備学習(予習)

授業で取り上げる聖書箇所を事前に読んでおくこと。

準備学習(復習)

授業で取り上げた聖書箇所と教科書の当該箇所を読み返すこと。また授業で配布したプリントを再読し、要点を整理して理解を深めること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 天地創造
3. 人間の創造
4. アダムとエバ
5. カインとアベル
6. ノアの箱舟
7. バベルの塔
8. アブラハム
9. ヨセフ
10. 出エジプト
11. 十戒
12. クリスマスの本当の意味
13. ダビデ
14. メシア待望 イエス・キリストへ
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

- (1)平常点:25% (2)授業レポート:25% (3)礼拝レポート:25%
(4)期末レポート:25%

キリスト教概論 B

担当者：左近 豊

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容

キリスト教の基本的な内容を新約聖書、キリスト教の歴史を通して学ぶ。秋学期は、「イエス・キリストとは誰か？」との問いを巡って新約聖書、キリスト教史の中でなされてきた様々な証言に耳を傾ける。そしてこれらのキリスト証言が日本にもたらした影響について学ぶ。

2.カリキュラム上の位置づけ

基礎科目に属する必修科目。キリスト教について初めて学ぶ人を対象とする。

2.学びの意義と目標

イエス・キリストについて新約聖書、キリスト教の歴史においてどのような理解がなされてきたかを述べる

キリスト教と日本の出会い、その影響について論じることができる

準備学習(予習)

学期冒頭で配布するシラバスに記載された課題箇所を事前に読んで授業に臨んでください。

準備学習(復習)

不定期に小クイズを実施しますので、重要な事項、人物について復習をしておいてください。

授業計画

1. 序
2. イエス・キリストとは？
3. マルコによる福音書のキリスト証言
4. マタイによる福音書のキリスト証言
5. ルカによる福音書のキリスト証言
6. ヨハネによる福音書のキリスト証言
7. 教会の歴史 パウロ
8. 教会の歴史 アウグスティヌス
9. 教会の歴史 フランチェスコ
10. 教会の歴史 宗教改革（ルター、カルヴァン）
11. 日本とキリスト教の出会い（16世紀）
12. 日本とキリスト教の出会い（19世紀）
13. 日本におけるプロテスタント・キリスト教の展開
14. 聖学院とキリスト教
15. 現代世界とキリスト教

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』（日本聖書協会）
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）

評価方法

- (1)授業参加:30%:授業への参加度（予習）(2)小クイズ:10%
- (3)礼拝出席レポート:20% (4)学期末試験:40%

キリスト教概論 B

担当者：佐野 正子

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教の理解を深めるために、学期の前半では、旧約聖書に基づいて、その世界観、人間観、イスラエルの民の歴史を学び、学期の後半では、キリスト教の歴史と文化について学ぶ。

2.学びの意義と目標

キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解するとともに、自分の生き方を見つめ、現代社会をとらえる目を養うことを目標とする。

準備学習(予習)

予習としては、提示される教科書と聖書の箇所をあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(復習)

復習としては、授業で取り上げた内容について、レポートにまとめること。

授業計画

1. 聖書の世界観:天地創造
2. 聖書の人間観(1):人間の尊厳
3. 聖書の人間観(2):人間の墮罪
4. イスラエルの歴史と信仰(1)
5. イスラエルの歴史と信仰(2)
6. イスラエルの歴史と信仰(3)
7. キリスト教の歴史(1) 古代・中世
8. キリスト教の歴史(2) 宗教改革
9. キリスト教の歴史(3) 近現代
10. 聖学院の歴史
11. キリスト教文化(1)
12. キリスト教文化(2)
13. キリスト教美術
14. キリスト教音楽
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

(1)出席レポート:60% (2)礼拝レポート:20% (3)期末レポート:20%

キリスト教概論 B

担当者：田中 かおる

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

春学期の授業内容を前提に、新約聖書におけるイエス・キリストのメッセージを学ぶ。

2.学びの意義と目標

今学期は、聖書が人間をどう見ているか、というところに、キリスト教教育の鍵があることを共に確認していきたい。また、神の導きに従った人々の生涯に触れ、キリスト者として歩んだ人々の生き方を学ぶ。

準備学習(予習)

聖書箇所を予告するので、読んでおくこと。

準備学習(復習)

講義内容を確認する。
講義終了後、小レポートにより振り返る。
ノートによって内容を振り返る。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.新約聖書(1)・・・イエス誕生の背景
- 3.新約聖書(2)・・・イエス・キリストの生涯
- 4.新約聖書(3)・・・イエス・キリストの教え
- 5.新約聖書(4)・・・イエス・キリストの教え(譬話)
- 6.新約聖書(5)・・・イエス・キリストの業
- 7.新約聖書(6)・・・十字架と復活
- 8.新約聖書(7)・・・クリスマス
- 9.新約聖書(8)・・・教会の誕生
- 10.新約聖書(9)・・・教会の発展
- 11.神の導きに従った人々(1)アシジのフランチェスコ
- 12.神の導きに従った人々(2)マザー・テレサ
- 13.神の導きに従った人々(3)星野富弘
- 14.絵本「大切なきみ」から
- 15.まとめ

教科書

日本聖書協会 『小型聖書-新共同訳』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

(1)毎回の小レポート:20% (2)礼拝レポート:30% (3)試験:50%

キリスト教概論 B

担当者：野島 邦夫

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

キリスト教の主な教えと聖書の概説がこの講義の内容ですが、それらを全く知らないという方々でもわかるよう説明します。まず、「宗教」は皆様のような若い人たちにも必要かどうか、必要であるならどのように必要なのか、を考えます。そして本論として、秋学期は聖書の主な内容を学びます。（春学期はキリスト教の主な教えを学びます。）具体的なテーマや聖書箇所については「授業計画」を見てください。

2. 学びの意義と目標

キリスト教はこの大学の精神的土台です。この大学で初めてキリスト教に触れる方が多いでしょう。「キリスト教国」ではない日本で、若い時キリスト教を知ることが一生の掛け替えのない財産となるにちがいありません。キリスト教は二千年来この世界を導いてきた精神的支柱の一つです。キリスト教を知らなくては、世界の歴史も現代社会の動きもよく理解できません。音楽を始め芸術の分野でも大きな影響を与えました。しかし、それ以上に重要なことは、キリスト教は皆様方一人ひとりの人生の指針となり拠りどころとなるに違いないということです。キリスト教信仰は単に天国に行けることを約束するだけでなく、葬儀の時にだけ必要なでもなく、生きて悩んでいるその人の支えになるものです。この講義は、キリスト教とその教典（聖書）をなるべくわかりやすく解説して、受講者の皆様にキリスト教を正しく知っていただくことを目指します。

準備学習(予習)

この講義は基本的に教科書（秋学期は特に「聖書」）に従っておこないますので、毎回、指示される箇所を読んでください。その準備によって、授業の楽しさと受ける益が一にも百にもなります。

準備学習(復習)

講義中はなるべく詳しくノートを取ってください。講義の復習と日本語力の向上を兼ねて、月に一度程度「小作文」の時間を取ります（30分）。

授業計画

1. はじめに：聖書を開いてみよう
2. 聖書はどんなふうになっているのか
3. 「神」を知ることがすべての始まり
4. 旧約聖書とは？
5. 「神」が世界を創られた
6. アダムとエバの墮罪
7. イスラエルに託された救いの約束
8. 新約聖書とは？
9. 救い主イエス・キリスト
10. キリストの十字架の死と復活
11. 教会の始まり
12. 使徒パウロと彼の手紙
13. そのほかの新約文書
14. その後の教会の歴史
15. まとめ

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』（日本聖書協会）
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』（聖学院大学出版会）
聖学院大学・女子聖学院短期大学宗教センタ 『聖学院の精神と歴史 神を仰ぎ、人に仕う』（聖学院ゼナラル・サービス）

評価方法

(1)出席:20% (2)課題:20% (3)試験:60%
欠席が三分の一以上の人と課題未提出の人は、試験を受けることができません。

キリスト教概論 B

担当者：藤原 淳賀

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は、キリスト教に初めて触れる人が、キリスト教の基本的しかし本質的内容を理解できるようにすることを目的としている。

秋学期には、新約聖書を中心に、イエス・キリストについて、人について、救いについての理解を深める。またキリスト教史とプロテスタンティズムについて概観する。

2.学びの意義と目標

キリスト教の基礎的な内容と新約聖書について理解することを目標とする。

準備学習(予習)

予め定められている読書課題から毎週の授業でクイズ(小テスト)を行うのでその準備をしてください。

準備学習(復習)

授業が行われた日の内にノートを見直し、クラスメートと内容確認をして欲しい。

授業計画

1. イントロダクション
2. イエスの実在性・ローマ帝国とキリスト教
3. イエスの生涯・イエスに出会った人たち
4. イエスの教え:山上の垂訓・たとえ話
5. イエスの十字架と復活1
6. イエスの十字架と復活2
7. 命のパン・命の水としてのイエス
8. 受肉(クリスマス)の出来事)1
9. 受肉(クリスマス)の出来事)2
10. ペンテコステ
11. 初代教会と異邦人伝道・古代教会・キリスト教と社会
12. 中世の教会
13. 宗教改革
14. 近現代の教会
15. 日本のキリスト教

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

(1)クイズ:60% (2)試験:40%

キリスト教概論 B

担当者：柳田 洋夫

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教は、民主主義や資本主義を柱とするこの近代世界を成立させた原動力であるとともに、私たちに生きる勇気と指針を与えるものでもある。秋学期は、初学者にも理解できるキリスト教入門を心がけつつ、新約聖書と教会の歴史について学ぶ。

2.学びの意義と目標

聖書に親しみ、キリスト教についての基礎知識を習得するとともに、キリスト教によって培われる新しい生き方とは何かについて考察し、それぞれの実践に生かす。

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. イエス・キリストの生涯(1)
2. イエス・キリストの生涯(2)
3. イエス・キリストの教え(1)
4. イエス・キリストの教え(2)
5. イエス・キリストの働き
6. 十字架・復活・昇天(1)
7. 十字架・復活・昇天(2)
8. 十字架・復活・昇天(3)
9. 教会の誕生と使徒たちの活躍
10. 古代教会
11. 中世教会
12. 宗教改革とピューリタニズム
13. 日本のキリスト教
14. 現代における教会とその希望
15. まとめと試験

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

(1)出席・参加度:40% (2)試験:40% (3)礼拝レポート:20%
試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

キリスト教概論 B

担当者：山ノ下 恭二

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教の基礎である新約聖書の内容に詳しく解説する。イエスの生涯、十字架と復活、教会の成立、ヨーロッパ世界への伝道を解説する。新約聖書の鍵となる言葉、上ノ国、償い、信仰、義、愛、などの用語について解説する。

2.学びの意義と目標

新約聖書の内容を学生が把握し、イエスが伝えた神の国について、従事者の死と復活について、パウロの伝道と手紙のついて詳しく知ることを目標とする。

準備学習(予習)

授業で予告されている『神を仰ぎ、人に仕う』を予め、読んでおくこと。

準備学習(復習)

講義で触れた聖書・教科書をよく読むこと

授業計画

1. 授業のオリエンテーション
2. 新約聖書の概要、基礎知識
3. イエスの生涯
4. イエスの時代
5. 神の国の福音
6. イエスの活動
7. 神の国のたとえ話(1)
8. 神の国のたとえ話(2)
9. 神の国のたとえ話(3)
10. メシア(キリスト)の十字架の死と復活
11. 教会の誕生
12. 使徒たちの宣教
13. パウロの伝道活動
14. パウロの手紙(1)
15. パウロの手紙(2)

教科書

日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター 『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

評価方法

(1)授業出席・態度:40% (2)レポート提出:30% (3)試験:30%

キリスト教概論 B

担当者：吉岡 光人

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教とはどんな宗教なのかということを知るによって、世界の歴史や現代社会など目に見える世界を理解すること、そして人間存在とは何か、自分とは何か、人を愛するとは何かなど人間が生きてゆく上での基本的な課題に対しても理解を深めることを学ぶ。

2.学びの意義と目標

新約聖書を中心に、聖書の宗教観・人間観を学ぶ。

授業計画

1. イエス・キリストの誕生とその時代
2. 福音書（1）イエスの宣教活動
3. 福音書（2）イエスの奇跡
4. 福音書（3）イエスのたとえ話
5. 福音書（4）イエスの終末預言
6. 福音書（5）イエスの受難と復活（1）
7. 福音書（6）イエスの受難と復活（2）
8. 使徒言行録
9. 書簡（1）
10. 書簡（2）
11. 黙示録
12. 教会の歴史（1）初代～中世
13. 教会の歴史（2）宗教改革以後
14. 教会の歴史（3）現代
15. 期末試験

準備学習(予習)

教科書・聖書に関しては、次の授業で扱う部分を予告するので、読んでくること

教科書

日本聖書協会『小型聖書-新共同訳(それ以外のものでも可)』(日本聖書協会)
聖学院大学宗教センター『神を仰ぎ、人に仕う キリスト教概論 21世紀版』(聖学院大学出版会)

準備学習(復習)

授業で扱ったテキスト箇所および配布された教材をよく読んで、次回の授業に備えること

評価方法

(1)出席:30% (2)礼拝レポート:20% (3)試験:50%

キリスト教カウンセリング論

担当者：藤掛 明

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

現代のキリスト教界にあっては、心理カウンセリングは好意的に迎えられ一方で、信仰とは無関係に一般理論や技術体系が適用されることが多い。本講義では、そうした現状をふまえながら、聖書の示す人間観や世界観に照らし、またキリスト教界の歴史の変遷に照らし、キリスト教信仰と心理カウンセリングの営みがどのように関係し、カウンセリングを用い得るのかについて理解していく。

2.学びの意義と目標

キリスト教の教理や人間理解を、カウンセリングという新しい観点から眺め直し、その理解を深めることができる。

準備学習(予習)

授業計画や、授業内で行なう次回予告を参考に、インターネット等で情報を集めたり、関連資料を読むなどしておくこと。

準備学習(復習)

配布資料を再読するとともに、授業中紹介する関連書籍や文学作品、また関連聖書箇所などを読むようにすること。

授業計画

- 1.キリスト教カウンセリングの誕生の歴史
- 2.臨床の知としてのカウンセリング(個別性という人間理解)
- 3.同(相互作用性という人間理解)
- 4.同(多義性という人間理解)
- 5.自分の弱さの受容とカウンセリング(ストレス反応から)
- 6.同(積極思考の落とし穴)
- 7.同(カウンセリング事例)
- 8.同(対応編)
- 9.きょうだい関係とカウンセリング
- 10.人生の発達段階と信仰
- 11.SOSサインとカウンセリング
- 12.現代社会の病理と信仰(境界性人格障害)
- 13.同(自己愛性人格障害)
- 14.同(依存症)
- 15.まとめと試験

教科書

藤掛 明 『ありのままの自分を生きる 背伸びと息切れの心性を超えて』(一麦出版社)

評価方法

(1)試験:50%:第15回目授業の中で試験を実施。(2)毎授業でのミニレポート:50%:第5回目～14回目授業において、授業終盤で実施。

キリスト教思想史 A

担当者：村瀬 天出夫

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義では、キリスト教思想の表現である、ヨーロッパ文化、特に教会建築、美術、音楽、さらに自然観や神秘的な思想を学びます。キリスト教の歴史を概観しつつ、現在にも残るキリスト教建築（ロマネスク、ゴシック）、美術（中世、ルネサンス、バロック、東方教会）、音楽（ルネサンス、バロック、クラシック、ロマン派）を通じて、キリスト教の考え方・世界観を学習します。授業の後半では、キリスト教の自然観と神秘的な側面を学びます。

2.学びの意義と目標

キリスト教思想を文化として理解することは、キリスト教の世界観を歴史的に把握するだけでなく、現在の欧米世界を理解するためにも重要なものです。それは同時に、現在私たちが住む日本におけるキリスト教文化の影響を理解することにも通じます。

準備学習(予習)

特別な準備は必要ありません。必要なのは、ヨーロッパの建築、美術、音楽、科学、神秘思想といったキリスト教文化への興味、知的好奇心です。

準備学習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

授業計画

1. イントロダクション
2. キリスト教の歴史 概観(1)
3. キリスト教の歴史 概観(2)
4. キリスト教の歴史 概観(3)
5. キリスト教建築(1)
6. キリスト教建築(2)
7. キリスト教美術(1)
8. キリスト教美術(2)
9. キリスト教音楽(1)
10. キリスト教美術(2)
11. キリスト教と自然科学(1)
12. キリスト教と自然科学(2)
13. キリスト教と神秘思想(1)
14. キリスト教と神秘思想(2)
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)中間テスト:40% (2)期末テスト:40% (3)出席:20%

キリスト教思想史 B

担当者：村瀬 天出夫

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義では、キリスト教の重要な教理を歴史的に捉えることで、キリスト教思想の多様性を理解することを目指します。神とは誰か、人間とはどのような存在で、どのように生きるべきかといった問題にかんする、キリスト教の考え方(教理)について、それらがどのような歴史的・社会的な背景で生まれ、発展、変化していったのかを学習します。同時に、それらの教理が、カトリック教会やプロテスタント教会の諸宗派でどのように異なるのか、その歴史的な背景も学びます。

2.学びの意義と目標

キリスト教の思想は、2000年間の間に変化・発展しただけでなく、分裂もしてきました。分裂を経たこの多様性を歴史的に理解することは、現在のキリスト教を理解する助けになります。また、思想の分裂を越えて、さまざまな宗派・宗教の間で対話を進めようとする努力も、現代のキリスト教の重要な問題です。これら分裂と対話の歴史は、さまざまな宗教的な対立が見られる現代社会を理解する助けになります。

準備学習(予習)

特別な準備は必要ありません。必要なのは、キリスト教の考え方への興味、それらの歴史的背景と、現代的な意味への好奇心です。

準備学習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

授業計画

1. イントロダクション
2. キリスト教の世界観・歴史観(1)
3. キリスト教の世界観・歴史観(2)
4. 神：創造主・善と悪の根拠
5. 三位一体論：神と子と聖霊
6. キリスト：人と神・十字架の救い主
7. 救済：罪・贖い・神の国
8. 人間：神との関係・地上の生の意味
9. 教会：地上の「集会」
10. サクラメント：秘跡・通過儀礼
11. 奇跡：神の業と魔術
12. 他宗派・他宗教との関係：エキュメニズム・宗教対話
13. 終末論：救済史とその成就
14. まとめ
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)中間テスト:40% (2)期末テスト:40% (3)出席:20%

キリスト教信仰と文化

担当者：藤原 淳賀

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義のタイトルは「キリスト教と文化」でない。「キリスト教」は既に文化の中にあり、「キリスト教と文化」という問題は、「相対」対「相対」の事柄となる。本講義のタイトルは「キリストと文化」でもない。これは絶対的存在であるキリストと相対的文化との関わりを示すことになる。「キリスト教信仰」という言葉により、私は、既に文化の中にあるキリスト教の本質を表そうとしている。それは絶対的の神の啓示により、相対的文化の中で生まれた絶対と相対の「境界線」にある。本講義ではその「キリスト教信仰」と相対的「文化」との関係を、特に文化を変革していくという観点から教会論を中心に考察していく。

2.学びの意義と目標

本講義では、学生諸君がキリスト教信仰と文化との関係を理解し、今日の日本文化を形成している要因を批判的に検討する能力を養うことを目標とする。

授業の中で毎回、授業レポートを提出してもらう。初めの時期は講義内容のまとめを書いてもらうが、次第に講義に対する君たち自身の考えを記してもらう。提示されたテーゼに同意するのか、あるいは反対するのか、自分がどのように考える根拠は何かを記すことになる。それにより、論理的思考及び批判的思考を養う。

準備学習(予習)

毎回ではないが、読書課題が出されるときによく準備してくること。

準備学習(復習)

授業が行われた日の内にノートを見直し、クラスメートと内容確認をして欲しい。

授業計画

1. イントロダクション
2. 文化について:ディスカッション
3. キリスト教信仰と文化:歴史的概観
4. H・リチャード・ニーバー「キリストと文化」1
5. H・リチャード・ニーバー「キリストと文化」2
6. H・リチャード・ニーバー「キリストと文化」3
7. P・ティリッヒ「文化の神学」1
8. P・ティリッヒ「文化の神学」2
9. ジョン・H・ヨーダの文化の神学
10. S・ハワーワスの文化の神学
11. R・ニーバーの社会倫理
12. G・スタッセンの正義の平和作り
13. キリスト教の戦争理解
14. 平和を創り出すということ
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業レポート:50% (2)試験:50%

キリスト教とアジア文化 A

担当者：高 萬松

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

一年を通してアジアのキリスト教について学ぶが、本学はアジア大陸におけるキリスト教文化を中心に学ぶ。歴史的状況を踏まえた上で、キリスト教がアジア諸国にどのような影響を与えたかについて、またキリスト教文化の現状を理解する。

2.学びの意義と目標

アジア諸国の民族、社会、文化、そして教会の特徴を知るとともに、キリスト教の理解を深める。

準備学習(予習)

予習 : 事前に指示される参考文献を読むこと。
持参物 : 聖書を必ず持参すること。
その他 : 出席を重視する。

準備学習(復習)

復習 : 授業で指示される課題を提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. キリスト教文化の概観(1)
3. キリスト教文化の概観(2)
4. 中国におけるキリスト教文化(1)
5. 中国におけるキリスト教文化(2)
6. 台湾におけるキリスト教文化
7. 韓国におけるキリスト教文化(1)
8. 韓国におけるキリスト教文化(2)
9. 中間試験
10. 日本におけるキリスト教文化(1)
11. 日本におけるキリスト教文化(2)
12. 日・韓キリスト教文化の比較
13. 東南アジアにおけるキリスト教文化(1)
14. 東南アジアにおけるキリスト教文化(2)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席・授業態度:20% (2)礼拝レポート:10%:チャペルでの全学礼拝
(3)読書レポート:10%:別途指示する (4)中間試験:20% (5)期末試験:40%

キリスト教とアジア文化 B

担当者：高 萬松

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

一年を通してアジアのキリスト教について学ぶが、本学期は韓国におけるキリスト教文化を中心に学ぶ。歴史的状況を踏まえた上で、キリスト教が韓国にどのような影響を与えたかについて、またキリスト教文化の現状を理解する。

2.学びの意義と目標

韓国の国家、民族、社会、文化、そして教会の特徴を知るとともに、キリスト教の理解を深める。

準備学習(予習)

予習 : 事前に指示される参考文献を読むこと。
持参物 : 聖書を必ず持参すること。
その他 : 出席を重視する。

準備学習(復習)

復習 : 授業で指示される課題を提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 宗教文化の概観
3. 韓国文化の概観
4. キリスト教の受容と文化の変遷(1)
5. キリスト教の受容と文化の変遷(2)
6. 1945年以前のキリスト教文化
7. 1945年以後のキリスト教文化
8. 中間試験
9. 教会とキリスト教文化(1)
10. 教会とキリスト教文化(2)
11. 教会とキリスト教文化(3)
12. 日・韓教会文化の比較
13. 家族とキリスト教文化(1)
14. 家族とキリスト教文化(2)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席・授業態度:20% (2)礼拝レポート:10%:チャペルでの全学礼拝
(3)読書レポート:10%:別途指示する (4)中間試験:20% (5)期末試験:40%

キリスト教とアメリカ思想 A

担当者：高橋 義文

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教とさまざまな思想との交流関係をとくに20世紀アメリカに集中して考察する。その際、20世紀の代表的神学者・知識人ラインホルド・ニーバーの思想を媒介にし、20世紀アメリカのキリスト教、デモクラシー、人種問題、国際政治をめぐるさまざまな思想について検討する。本講義では、1930年までを扱う。

2.学びの意義と目標

(1)20世紀アメリカの諸思想を概観する。(2)ラインホルド・ニーバーの思想の概要を把握する。(3)ニーバーの視点と交差するアメリカ思想の特質・問題・意義をとらえる。(4)アメリカとは何かをニーバーの視点から考察する。(5)現代日本におけるその意味を考える。

準備学習(予習)

次回の小レポートのために前回の講義の要点をまとめておく。

準備学習(復習)

毎回の講義およびプリントの内容を確認する。

授業計画

- 1.序論 なぜニーバーか
- 2.プラグマティズム、リベラリズム、リアリズムについて
- 3.ニーバーの生涯とその影響の概要(1)
- 4.ニーバーの生涯とその影響の概要(2)
- 5.ニーバーと第一次世界大戦と平和主義の問題(1)
- 6.ニーバーと第一次世界大戦と平和主義の問題(2)
- 7.ニーバーとウィリアム・ジェイムズとプラグマティズム(1)
- 8.ニーバーとウィリアム・ジェイムズとプラグマティズム(2)
- 9.ニーバーとウィリアム・ジェイムズとプラグマティズム(3)
- 10.ニーバーと社会福音運動とリベラリズム(1)
- 11.ニーバーと社会福音運動とリベラリズム(2)
- 12.ニーバーと社会福音運動とリベラリズム(3)
- 13.ニーバーとジョン・デューイとリベラリズム(1)
- 14.ニーバーとジョン・デューイとリベラリズム(2)
- 15.補足 まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

キリスト教とアメリカ思想 B

担当者：高橋 義文

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教とさまざまな思想との交流関係をとくに20世紀アメリカに集中して考察する。その際、20世紀の代表的神学者・知識人ラインホルド・ニーバーの思想を媒介にし、20世紀アメリカのキリスト教、デモクラシー、人種問題、国際政治をめぐるさまざまな思想について検討する。本講義では、1930年代以降を扱う。

2.学びの意義と目標

(1)20世紀アメリカの諸思想を概観する。(2)ラインホルド・ニーバーの思想の概要を把握する。(3)ニーバーの視点と交差するアメリカ思想の特質・問題・意義をとらえる。(4)アメリカとは何かをニーバーの視点から考察する。(5)現代日本におけるその意味を考える。

準備学習(予習)

前回の講義の要点を小レポートにまとめる準備

準備学習(復習)

講義の内容、プリントの内容を確認する。

授業計画

- 1.序論 なぜニーバーか
- 2.プラグマティズム、リベラリズム、リアリズムについて
- 3.ニーバーとマルクス主義(1)
- 4.ニーバーとマルクス主義(2)
- 5.ニーバーのキリスト教思想の特質(1)
- 6.ニーバーのキリスト教思想の特質(2)
- 7.ニーバーのキリスト教思想の特質(3)
- 8.ニーバーと第二次世界大戦
- 9.ニーバーとニューディール
- 10.ニーバーとデモクラシー
- 11.ニーバーと冷戦
- 12.ニーバーとヴェトナム戦争
- 13.ニーバーと人種問題・公民権運動
- 14.アメリカ史のアイロニー
- 15.補足とまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

キリスト教とアメリカ文化 A

担当者：森田 美千代

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

今後数年間にわたって、キリスト教がアメリカ文化に与えた影響を、時代順にみていく予定である。今年度の春学期は、19世紀のアメリカにおいて、キリスト教と文化（生活）との相互関係のドラマがどのように展開されていったかを、ハリエット・ピーチャー・ストウの『アンクル・トムの小屋』を通して学ぶことにする。

2.学びの意義と目標

アメリカにおけるキリスト教と文化の最初の頃（19世紀頃まで）をしっかりと学んでおくことは、その後のアメリカ-20世紀と21世紀-を理解するうえで大きな助けになる。

準備学習(予習)

配布されたプリントを読んで、授業に出席する。

準備学習(復習)

授業のポイントを書き留めておく。

授業計画

- 1.はじめに
- 2.概説(1)
- 3.概説(2)
- 4.『アンクル・トムの小屋』を読む 第1章を読む
- 5.第2章を読む
- 6.第3章を読む
- 7.第4章を読む
- 8.第5章を読む
- 9.第6章を読む
- 10.第7章を読む
- 11.第8章を読む
- 12.第9章を読む
- 13.第10章を読む
- 14.第11章を読む
- 15.おわりに

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)礼拝レポート:15% (3)期末レポート:55%

キリスト教とアメリカ文化 B

担当者：森田 美千代

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

今後数年間にわたって、キリスト教がアメリカ文化に与えた影響を、時代順にみていく予定である。今年度の秋学期は、19世紀のアメリカにおいて、キリスト教と文化（生活）との相互関係のドラマがどのように展開されていったかを、ハリエット・ピーチャー・ストウの『アンクル・トムの小屋』を通して学ぶことにする。

2.学びの意義と目標

アメリカにおけるキリスト教と文化の最初の頃（19世紀頃まで）をしっかりと学んでおくことは、その後のアメリカー20世紀と21世紀のアメリカを理解するうえで大きな助けになる。

準備学習(予習)

配布されたプリントを読んで、授業に出席する。

準備学習(復習)

授業のポイントを書き留めておく。

授業計画

- 1.はじめに
- 2.概説(1)
- 3.概説(2)
- 4.『アンクル・トムの小屋』第11章までの要約
- 5.『アンクル・トムの小屋』を読む 第12章を読む
- 6.第13章を読む
- 7.第14章を読む
- 8.第15章を読む
- 9.第16章を読む
- 10.第17章を読む
- 11.第18章を読む
- 12.第19章を読む
- 13.第20章を読む
- 14.第21章を読む
- 15.おわりに

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)礼拝レポート:15% (3)期末レポート:55%

キリスト教と音楽A

担当者：渡辺 善忠

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

(1)聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学びます。

(2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。

「キリスト教と音楽A」（前期）では、旧約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。なお、「キリスト教と音楽B」（後期）では新約聖書による作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。

参考文献

- ・ 聖書（旧新約聖書両方を用います）
 - ・ 「聖書と音楽」（大野恵正著／新教出版社 2000年）
 - ・ 「よくわかるキリスト教の音楽」（長谷川朝雄他著／キリスト新聞社 2000年）
 - ・ 「大作曲家の信仰と生涯」（P.カヴァノー著・吉田幸弘訳／教文館 2000年）
 - ・ 「教会音楽史と讃美歌学」（横坂康彦著／日本キリスト教団出版局 1993年）
- その他の参考文献について必要に応じてその都度お知らせします。

2.学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、現代に至るまで親しまれている音楽の背景にどのような歴史があるかなどを、古今の名曲に親しみながら学びたいと思います。

準備学習(予習)

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯をたどったり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。

準備学習(復習)

授業で毎回配布するレジメ（内容の要約）をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 J.S.バッハ「ロ短調ミサ曲」(1)
- 第3回 J.S.バッハ「ロ短調ミサ曲」(2)
- 第4回 J.ハイドン/A.コープランド「天地創造」(1)
- 第5回 J.ハイドン/A.コープランド「天地創造」(2)
- 第6回 B.ブリテン「ノアの洪水」
- 第7回 G.F.ヘンデル「エジプトのイスラエル人」
- 第8回 F.メンデルスゾーン「エリヤ」(1)
- 第9回 F.メンデルスゾーン「エリヤ」(2)
- 第10回 T.タリス「エレミヤの哀歌」
- 第11回 詩編による作品(1)
- 第12回 詩編による作品(2)
- 第13回 詩編による作品(3)
- 第14回 旧約聖書と音楽(前期のまとめ)
- 第15回 旧約聖書と音楽(試験)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:40% (2)出席:30% (3)レポートなど:30%

キリスト教と音楽B

担当者：渡辺 善忠

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

(1)聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学びます。

(2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰について理解を深めます。「キリスト教と音楽B」(後期)では、新約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。

参考文献

- ・聖書(旧新約聖書両方を用います)
 - ・「聖書と音楽」(大野恵正著/新教出版社 2000年)
 - ・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社 2000年)
 - ・「大作作曲家の信仰と生涯」(P.カヴァノー著・吉田幸弘訳/教文館 2000年)
 - ・「教会音楽史と讃美歌学」(横坂康彦著/日本キリスト教団出版局 1993年)
- その他の参考文献について必要に応じてその都度お知らせします。

2.学びの意義と目標

キリスト教を中心として発展した文化の中で、音楽は大変重要な意味を持っています。聖書の内容を伝えるために音楽がどのように用いられてきたか、現代に至るまで親しまれている音楽の背景にどのような歴史があるかなどを、古今の名曲に親しみながら学びたいと思います。

準備学習(予習)

図書館に備えてある音楽辞典で作曲家の生涯をたどったり、CDを試聴してから授業を受けることが望ましいです。

準備学習(復習)

授業で毎回配布するレジメ(内容の要約)をもとに、作曲家の伝記などで授業内容の理解を深めることが大切です。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 G.F.ヘンデル「メサイア」(1)
- 第3回 G.F.ヘンデル「メサイア」(2)
- 第4回 C.フランク「至福」
- 第5回 J.S.バッハ「マタイ受難曲」(1)
- 第6回 J.S.バッハ「マタイ受難曲」(2)
- 第7回 H.シュッツ「ヨハネ受難曲」
- 第8回 F.メンデルスゾーン「聖パウロ」(1)
- 第9回 F.メンデルスゾーン「聖パウロ」(2)
- 第10回 新約聖書とクリスマスの讃美歌
- 第11回 F.シュミット「七つの封印の書」
- 第12回 聖書と讃美歌の関わりについて(1)
- 第13回 聖書と讃美歌の関わりについて(2)
- 第14回 新約聖書と音楽(後期のまとめ)
- 第15回 新約聖書と音楽(試験)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:40% (2)出席:30% (3)レポートなど:30%

キリスト教と国際社会 A

担当者：姜 尚中

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

国際社会における平和の構築はいかにして可能か。こうした問題を、異なる宗教間の共存の問題としてとらえながら、国際平和を模索するキリスト教思想のなかにいかなる手がかりを見出すことができるかを探る。

2.学びの意義と目標

本講義は、キリスト教関連科目（選択必修）の一つである。キリスト教思想における国際平和についての理解を深める。

準備学習(予習)

予め、下記の指定図書を事前に読んで授業に臨むこと。

準備学習(復習)

理解を深めるために授業内で紹介するテキストを読むこと。

授業計画

1. 導入: 1 学期間の授業計画や講義の進め方について
2. 国際社会における平和とは (1)
3. 国際社会における平和とは (2)
4. 異なる宗教の間の「共存」をめぐる (1)
5. 異なる宗教の間の「共存」をめぐる (2)
6. グロティウスの平和思想 (1)
7. グロティウスの平和思想 (2)
8. カントの平和思想 (1)
9. カントの平和思想 (2)
10. モーゲンソー、ニーバーの平和思想 (1)
11. モーゲンソー、ニーバーの平和思想 (2)
12. 9 . 1 1 後の世界 (1)
13. 9 . 1 1 後の世界 (2)
14. 9 . 1 1 後の世界 (3)
15. 総括:平和をつくりだすということ

教科書

カント/宇都宮 芳明訳 『 永久平和のために 』 (岩波文庫・岩波書店)

評価方法

(1)平常点(出席と授業へのコミットメント):50% (2)学期末レポート:50%

キリスト教と国際社会 B

担当者：早藤 昌浩

開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

現代の国際社会を規定するさまざまな規範についてキリスト教の視点から分析し、その倫理的・社会的意義について考察する。このため、キリスト教の救済史について学ぶとともに、特に政治経済的側面における国際社会の多様な動きを概観し、キリスト教救済史の視点がどのように国際社会の形成に関与してきたかを学ぶ。

2.学びの意義と目標

キリスト教における救済史の概要について学び、人間の「管理責任」という視点から、現代国際社会の倫理的支柱についての理解を深める。

準備学習(予習)

聖書に親しむこと
毎日の新聞を読んでおくこと

準備学習(復習)

配布されたプリントの復習
聖書の該当箇所(授業で指定)の熟読

授業計画

1. 国際社会の諸課題
2. キリスト教の救済史(1)
3. キリスト教の救済史(2)
4. キリスト教の救済史(3)
5. キリスト教の救済史(4)
6. 国際機関概観
7. 非差別主義概観
8. 市場経済の課題
9. 国際貿易の合理性
10. 「隣人への施し」とは
11. 環境と経済
12. 現代のバベルの塔も崩壊するのか
13. ではどのような国際社会形成が求められているのか
14. 演習(1)
15. 演習(2)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)キリスト教救済史の理解:25% (2)現代国際社会の理解:25%
(3)「倫理と実践」の理解:25% (4)授業への参加状況:25%

キリスト教と心のケア

担当者：村上 純子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義では、「心のケア」とは何か、それとキリスト教はどう関係し、どう取り扱っていくべきなのかを見ていきます。社会的にも「カウンセリング」「心のケア」の重要性が取り上げられることが多いですが、その中には間違った情報や歪曲された考え方も多いのが現状です。この授業はカウンセラーになることを目的としたものではなく、心のケアに関して正しい基礎知識を持つことを目標としています。また、キリスト教的視点から「心のケア」をどう考え、実践していけばいいのかを検証していきます。

2.学びの意義と目標

この授業を通して、「心のケア」の基礎知識を得ること、またキリスト教の人間観を理解すること、そして各自が自分に対する理解、また他者に対する理解を深めることを目標としています。

準備学習(予習)

教科書の指定された箇所を読んでくること

準備学習(復習)

配布されたプリントをよく読み、書かれている内容を説明できるようにすること

授業計画

1. 「心のケア」の必要性
2. カウンセラーの役割と治療 聴くことの意味
3. カウンセリングのプロセス1 (初回面接)
4. カウンセリングのプロセス2 (中断と終結)
5. カウンセリングの実際
6. カウンセリング理論1 (クライアント中心療法)
7. カウンセリング理論2 (精神分析療法)
8. カウンセリング理論3 (認知行動療法)
9. カウンセリング理論4 (家族療法)
10. 心のケアのいろいろ1 (児童期の心のケア)
11. 心のケアのいろいろ2 (思春期の心のケア)
12. 心のケアのいろいろ3 (グリーフケア)
13. ケアをする人の自己理解
14. 自己理解と他者理解
15. 信仰と心のケア

教科書

國分 康孝 『カウンセリングの原理』(誠信書房)
國分 康孝 『カウンセリングの理論』(誠信書房)

評価方法

(1)出席・授業態度:35% (2)ミニレポート:15% (3)学期末試験:50%

キリスト教と古典

担当者：原 一子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「人間は考える葦である」という有名な言葉を残したパスカル(1623～1662)の名著『パンセ』を講読する。パスカルの生涯や思想、当時の宗教事情などを学んだ上、毎回、受講者の心に深く触れる節について発表してもらいながら、意見を述べ合う。パスカルのキリスト教理解、神と人間、人生に関する思索のあとを辿り、その思想を深く理解すると共に、自分たち自身の生き方や社会のあり方についても友人たちと議論しながら思索を深める。

2.学びの意義と目標

キリスト教の古典をじっくりと精読し、共に考えることによって、キリスト教との関連において人間性の根源を探り、理解することを目標とする。パスカルの、神と向き合う真摯な態度や懊悩の足跡を辿ることは、一生の心の糧にもなる。

準備学習(予習)

毎回、心に触れた部分について発表してもらうので、テキストを前もって読み、調べ、深く考え、文章にして授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業中の議論で、刺激を受けたこと、気になったことなどを文章化し、考えを深める。

授業計画

1. 授業の進め方
2. ブレーズ・パスカルの生涯
3. ブレーズ・パスカルの科学思想
4. ブレーズ・パスカルの宗教思想
5. 17世紀ヨーロッパ宗教事情
6. 『パンセ』講読 1
7. 『パンセ』講読 2
8. 『パンセ』講読 3
9. 『パンセ』講読 4
10. 『パンセ』講読 5
11. 『パンセ』講読 6
12. 『パンセ』講読 7
13. 『パンセ』講読 8
14. 『パンセ』講読 9
15. まとめ

教科書

パスカル, 前田 陽一, 由木 康 『パンセ (中公文庫)』 (中央公論新社)

評価方法

(1)出席:30% (2)発表・議論:40% (3)レポート:30%

キリスト教と自然科学 A

担当者：村瀬 天出夫

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

16世紀の医師パラケルススとその支持者たちによる、初期近代ドイツ語圏の学問改革運動「パラケルスス主義運動」を考察する。講義形式で行う。対象となる時代は、ルターに始まる宗教改革期から、三十年戦争（1618-48）勃発の時期まで。いわゆる「科学革命期」、またルター以後の「宗派形成の時代」として特徴づけられる当時の歴史を概観しつつ、パラケルススとパラケルスス主義者たちの、医学およびキリスト教信仰の刷新プログラムを紹介する。これを理解するために本講義では、大学学問（中世スコラ学）との対決、経験主義と自然哲学、医化学などのキーワード、またパラケルスス主義の歴史観と時代意識（救済史と終末論）、初期近代自然科学のキリスト教的基礎づけ、宗派対立と「信仰の危機」といった観点、さらに錬金術・魔術・カバラ・神哲学・ヘルメス主義といった当時の知的潮流を解説する。

2.学びの意義と目標

現在私たちが知っている自然科学の原型は、ヨーロッパの中世・初期近代の時代に、キリスト教世界で生まれた自然理解の方法です。その意味で科学はきわめて特殊な、キリスト教文化の一つとして理解できます。授業では、キリスト教の考え方、信仰、歴史観が、近代科学の発展を押し進めたことを学びます。パラケルスス主義という16・17世紀の学問運動を知ることによって、歴史上キリスト教（信仰）と科学（知識）が、互いに協力的な関係にあったことを学習します。

準備学習(予習)

教科書の欄に載せた文献のコピーを授業で配布します。授業内容を理解するためのテキストです。試験でも内容にかかわる設問が出ますので、読んでください。

準備学習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票のコメント欄で確認するか、授業後に質問に来てください。

授業計画

1. イントロダクション
2. I. 歴史的概観：中世末期から初期近代へ (1) 教会史
3. (2) 自然科学史
4. (3) 医学史
5. II. パラケルススとパラケルスス主義の思想 (1) 歴史観
6. (2) 医学刷新のプログラム
7. (3) ヘルメス主義と古代学問
8. (4) 経験主義
9. (5) 医師の倫理
10. (6) 信仰と学問の一致
11. (7) パラケルスス像
12. (8) 学問の進歩
13. III. 現代のパラケルスス像
14. まとめ
15. 期末試験

教科書

村上 陽一郎 『科学史の逆遠近法 ルネサンスの再評価 (講談社学術文庫)』 (講談社)
A.G.ディーバス、伊東 俊太郎 『ルネサンスの自然観 理性主義と神秘主義の相克 (ライブラリ科学史 (7))』 (サイエンス社)

評価方法

(1)中間テスト:40% (2)期末テスト:40% (3)出席:20%

キリスト教と自然科学 B

担当者：村瀬 天出夫

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教と自然科学はしばしば対立するものと考えられています。キリスト教信仰の「誤り」を否定し、教会の権威に「勝利」することによって、自然科学は成立したと言われます。また、16・17世紀の「科学者」ガリレオ・ガリレイは、「それでも地球は回っている」と言って、地動説を認めないキリスト教会と対立したと考えられています。このようなキリスト教と科学の対立という見方は、ガリレオより数世紀後の19世紀後半に生まれたものです。このことを自然科学の歴史を振り返ることによって学びます。特に近代科学が生まれたとされる「科学革命」の時代、キリスト教の信仰と、自然にかんする学問（自然科学）は調和的な関係にあったこと、ガリレオら当時の自然哲学者（自然科学者）は、信仰と学問の一致を追求していたことを学びます。授業の後半では、現代の自然科学（医学）の考え方と、キリスト教の信仰の関係を学びます。

2.学びの意義と目標

現在私たちが知っている自然科学の原型は、ヨーロッパの中世・初期近代の時代に、キリスト教世界で生まれた自然理解の方法です。その意味で科学はきわめて特殊な、キリスト教文化の一つとして理解できます。授業では、キリスト教の考え方、信仰、歴史観が、近代科学の発展を押し進めたことを学びます。近代科学の歴史を振り返ることによって、キリスト教（信仰）と科学（知識）が、互いに協力的な関係にあったことを学習します。

準備学習(予習)

教科書の欄に載せた村上陽一郎『新しい科学論』（講談社ブルーバックス）は、授業内容を理解するためのテキストですので、少しずつよいので読んでください。他の文献はコピーを配布します。試験でもこれらの文献の内容にかかわる設問が出ます。

準備学習(復習)

授業前に毎回、前回のノートを見直してきてください。分からない点があったら、出席票または授業後に質問に来てください。

授業計画

1. イントロダクション
2. キリスト教と科学：対立構造はいつ生まれたか？
3. 古代・中世の自然観：キリスト教と古代ギリシャ哲学の融合（1）
4. 古代・中世の自然観：キリスト教と古代ギリシャ哲学の融合（2）
5. 近代の自然観：「科学革命」論
6. コペルニクス：太陽中心の宇宙
7. ケプラー：世界の調和
8. ガリレオ：学問と教会と権力
9. ニュートン：自然哲学と聖書研究
10. パラケルスス：錬金術と信仰
11. 現代の科学と宗教の接点：ダーウィニズムとキリスト教教会の反応（1）
12. 現代の科学と宗教の接点：ダーウィニズムとキリスト教教会の反応（2）
13. 現代の科学と宗教の接点：医療倫理とキリスト教信仰（1）
14. 現代の科学と宗教の接点：医療倫理とキリスト教信仰（2）
15. 期末試験

教科書

村上陽一郎『新しい科学論 「事実」は理論をたおせるか(ブルーバックス)』（講談社）
村上陽一郎『科学史の逆遠近法 ルネサンスの再評価(講談社学術文庫)』（講談社）
標宣男『科学史の中のキリスト教 自然の法からカオス理論まで』（教文館）

評価方法

(1)中間テスト:40% (2)期末テスト:40% (3)出席:20%

キリスト教と社会科学

担当者：松原 望

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

楽しく愉快的な人生だったら宗教(ただし信仰)は要らないしかえって邪魔でうるさいと考える人は我が国では多いと思います。それはとにかくも、実際には人生はそういうものではありません。一つには、人間は残念ながら完全ではありませんから、そういう人間たちが作っている社会はいろいろと問題をかかえてしまい、それが逆に一人一人の人生に跳ね返ってきます。このことは今の現在の時代に限ったことではなく、ずっと大昔からそうです。聖書には何と書いてありますか。イエス・キリストはどう言っていますか。一つでもいいから知りましょう、学びましょう。映画を見ながら。

授業ですから自由で強制というのはありません。

2.学びの意義と目標

映画により聖書の世界をリアルに体験し、現代にイエス・キリストのメッセージを受け止める。たった一回の人生ですが、人生に永く残るでしょう。また、聖書の知識が役に立つこともあります。

準備学習(予習)

前回授業のまとめ、作文提出をお願いしています。

準備学習(復習)

ときおり、聖書や賛美歌の語句の筆写などをお願いしています。

授業計画

1. 授業の内容説明
2. キリスト教における考え方と社会
3. 聖書を読む(映画鑑賞)
4. 旧約聖書の世界
5. 映画鑑賞(十戒)
6. 続き
7. イエス・キリストの時代
8. 聖書を読む
9. 映画鑑賞(ナザレのイエス)
10. 続き
11. 続き
12. 続き
13. キリスト教の歴史と社会
14. 人権思想と民主主義
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:35%:まず出席が重要です。
 - (2)短い作文:35%:映画に何を感じ、考えましたか。
 - (3)試験:30%:総括です。
- 前年の評価 S:20%、A:60%、B:10%でした。

キリスト教とデモクラシー

担当者：姜 尚中

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

3.11後の混迷を深める現代社会において、心に深く傷を負った人々から「宗教は死んでからのこと」と排除される空気さえ漂う中、そもそも「宗教」とは、あるいはキリスト教とは何であるのだろうか？ こうした問いを導入としながら、宗教と公共性との関係について掘り下げて考察する。

2.学びの意義と目標

本講義は、キリスト教関連科目（選択必修）の一つである。講義では、トクヴィルの著作『アメリカン・デモクラシー』の内容を中心に、現代社会におけるデモクラシーおよび公共性の諸問題と宗教との関わりについて理解を深め、議論を試みる。

準備学習(予習)

予め、下記の指定図書を事前に読んで授業に臨むことを求める。

準備学習(復習)

授業内で指示するテキストを読み、自らの意見をまとめてみることを勧める。

授業計画

1. 導入: 1学期間の授業計画や講義の進め方について
2. そもそも宗教とは？そして、なぜキリスト教なのか？ (1)
3. そもそも宗教とは？そして、なぜキリスト教なのか？ (2)
4. そもそもデモクラシーとは何か？ (1)
5. そもそもデモクラシーとは何か？ (2)
6. トクヴィル『アメリカン・デモクラシー』を読む (1)
7. トクヴィル『アメリカン・デモクラシー』を読む (2)
8. トクヴィル『アメリカン・デモクラシー』を読む (3)
9. トクヴィル『アメリカン・デモクラシー』を読む (4)
10. トクヴィル『アメリカン・デモクラシー』を読む (5)
11. アメリカのデモクラシーの光と陰 (1)
12. アメリカのデモクラシーの光と陰 (2)
13. アメリカのデモクラシーの光と陰 (3)
14. 日本における戦後民主主義とは何だったのか？
15. 総括:キリスト教とデモクラシーのこれからを考える

教科書

富永茂樹 『トクヴィル—現代へのまなざし』(岩波新書・岩波書店)

評価方法

(1)平常点(出席と授業へのコミットメント):50% (2)学期末レポート:50%

キリスト教と日本思想

担当者：濱田 辰雄

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

明治維新は、日本と日本史にとって特筆すべき大変革の出来事であった。それは古代以来の中国、韓国という同じアジアに属する国々とは違った世界、すなわち西洋世界とふれて新しい国づくりにはいった出来事であった。実際、国の体制は大きく変わった。しかしそこへ至る道筋は紆余曲折の歩みであった。幕末には、尊皇派、倒幕派、攘夷派、開国派などが入り乱れての争いがくり広げられた。そういう中で独特の見識をもって開国・尊皇の方針をつらぬき、それによってついに処刑されたのが吉田松陰である。彼の思想を学びつつ、近代西洋の根本思想の一つとみなされているキリスト教思想とを対比して、近代日本のあり方を考察していきたい。

2.学びの意義と目標

キリスト教を学び、日本思想を学ぶことにより、自己の生い育った日本とそれ以外の他国とその価値観を知ることになる。自己を相対化しつつ、普遍的な価値観や思想を学ぶ基礎を築く。

準備学習(予習)

本講義の予習は、教科書を繰り返し読むこと。

準備学習(復習)

復習は講義内容のノートを読み返し、当日の講義の意図がどこにあったかを考える。

授業計画

1. オリエンテーション、幕末という時代
2. 吉田松陰についての説明
3. プロローグ 至純な魂のほとばしり
4. プロローグ 日本を変える人材を生みたい
5. 第1章 『講孟劉記』 梁恵王 章句篇 聖賢におもねるな、賢者は民と共に楽しむ
6. 第1章 『講孟劉記』 梁恵王 章句篇 萩を天下の人材の都にしよう、信賞必罰は公論で行なえ
7. 第2章 『講孟劉記』 公孫丑 章句篇 浩然の気を養おう、和魂洋芸の精神を持とう、民衆にも王者と覇者がいる。
8. 第2章 『講孟劉記』 公孫丑 章句篇 人を疑ってだますより、信じてだまされる、上杉鷲山に学べ、一度決めたら守りぬく
9. 第3章 『講孟劉記』 滕文公・離婁 章句篇 士は国の三宝に養われているのだ簡単に師となり弟となるな志士は死士なり
10. 第3章 『講孟劉記』 滕文公・離婁 章句篇 おまえの敵はおまえだ、人を動かすのは「至誠」の二字だ、
11. 第4章 書簡篇 富士山に何を求めるか、国富の基本は農業です
12. 第5章 辞世篇 僕は死して志を残す、別れの言葉
13. 第5章 辞世篇 誠の心かよふらん文みぬ先に君を思ひて、子の主体性を重んじてください
14. 草莽崛起篇 一滴の水にも凄い力があることを知れ、人間は常に自分を高く評価し謙虚に生きよ
15. まとめ、試験

教科書

童門冬二 『魂の変革者 吉田松陰の言葉(人物文庫)』(学陽書房)

評価方法

(1)試験:80% (2)レポート:10% (3)出席:10%
毎回の出席が大前提となる。欠席は減点の対象となる。

キリスト教と日本社会 A

担当者：柳田 洋夫

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1年次でのキリスト教概論の内容をふまえ、キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について具体的な事項に即して学ぶ。

2.学びの意義と目標

キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について理解を深めるとともに、この学びを手がかりとして広く宗教と社会との関連についても自ら考えることを目指す。

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. 聖学院の祖・ガルストたち
2. 田中正造と谷中村
3. 福沢諭吉
4. 児童福祉の父・石井十次(1)
5. 児童福祉の父・石井十次(2)
6. 山室軍平と救世軍
7. 賀川豊彦(1)
8. 賀川豊彦(2)
9. 「ケセン語聖書」と東日本大震災
10. 奥田知志
11. 藤藪庸一
12. 澤田美喜とエリザベス・サンダース・ホーム
13. クロムウエルとピューリタン(1)
14. クロムウエルとピューリタン(2)
15. まとめと試験

教科書

プリントを配布する

【参考文献】大木英夫『ピューリタン』（聖学院大学出版会）

評価方法

(1)出席・参加度:40% (2)試験:40% (3)礼拝レポート:20%
試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

キリスト教と日本宗教

担当者：濱田 辰雄

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

日本宗教とは何か、という問いに一言で答えることは難しいが、それでもあえて答えるとすると、「『神道』を中心としながら『仏教』と習合した民俗宗教」と言える。そしてその内容も形式もキリスト教とは大きく異なる。本講義では両者の違いを意識しつつ、まず教科書に沿って「日本宗教」のあり方を学ぶ。その上でキリスト教と対比しつつ、日本人の宗教のあるべき姿について共に考察を深めていきたい。

2.学びの意義と目標

キリスト教を学び、日本宗教を学ぶことにより、自己の生い育った日本と、それ以外の他国とその価値観を知ることになる。自己を相対化しつつ、普遍的な価値観や思想を学ぶ基礎を築く。

準備学習(予習)

本講義の予習は、教科書を繰り返し読む事。

準備学習(復習)

復習は講義内容のノートを読み返し、当日の講義の意図がどこにあったかを考える。

授業計画

- 1.オリエンテーション 神道、仏教、そして日本宗教全般についての説明
- 2.序章「神道」の近代
- 3.序章「神道」の近代
- 4.第一章 神と仏 日本の神、神と仏との出会い
- 5.第一章 神と仏 神仏習合の発生、本地垂迹説の形成
- 6.第二章 中世神道の展開 中世神道説の濫觴、中世神道説の形成と展開
- 7.第二章 中世神道の展開 鎌倉仏教と中世神道、神観念の中世的変容
- 8.第三章 新しき神々 人神信仰と御霊信仰、人神信仰の展開
- 9.第三章 新しき神々 渡来神と習合神、女神信仰の展開
- 10.第四章 国土観と神話 国土観の変遷
- 11.第四章 国土観と神話 中世神話と中世日本紀、中世神話の諸相
- 12.第五章 近世神道へ 吉田神道、天道思想とキリスト教
- 13.終章 「神道」の成立
- 14.キリスト教と日本宗教 キリスト教から見た日本宗教、日本宗教から見たキリスト教
- 15.キリスト教と日本宗教 日本宗教の国家観とキリスト教の国家観、試験

教科書

伊藤 聡 『神道とは何か - 神と仏の日本史 (中公新書)』 (中央公論新社)

評価方法

(1)試験:80% (2)レポート:10% (3)出席:10%
毎回の出席が大前提となる。欠席は減点の対象となる。

キリスト教と美術A

担当者：喜田 敬

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

民族と宗教と美術の関係を通し、美術の何たるかを考える。
イタリア、トルコ等で収集した資料を加え、聖書の世界を旅する。
本講義は、キリスト教関連科目のひとつであり、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く修得することを目指す。

2.学びの意義と目標

旧・新約聖書の記された時代の文化、文明を学び、聖書理解の幅を広げること目標とする。

準備学習(予習)

指定した教科書の箇所を熟読する。

準備学習(復習)

配布したプリントを再読し、ノートとともにファイルする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. フランコ・カンタブリア美術
3. メソポタミア美術
4. エジプト美術
5. エジプト美術
6. 中間試験
7. クレタ美術とミュケナイ美術
8. ギリシア美術
9. ギリシア美術
10. エトルリア美術
11. ローマ美術
12. ローマ美術
13. 初期キリスト教美術
14. ビザンティン美術
15. まとめ

教科書

高階秀爾 『西洋美術史』(美術出版社)
『聖書』(日本聖書協会)

評価方法

(1)出席・試験:80% (2)レポート:20%

キリスト教と美術B

担当者：喜田 敬

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「キリスト教と美術A」に引き続き、欧州中世から北方ルネサンスまでのキリスト教造形芸術の図像と歴史を学ぶ。
今回は2012年に独、仏、西で収集した資料を講義に加える。
本講義は、キリスト教関連科目のひとつであり、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く習得することを目指す。

2.学びの意義と目標

中世からルネサンス期に至るキリスト教美術の世界に広く親しみ、その魅力に触れることを目標としている。

準備学習(予習)

指定する教科書の箇所を必ず読むこと。

準備学習(復習)

配布されたプリントを再読し、その日制作したノートとともにファイルすること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 初期中世美術
3. ロマネスク美術
4. ゴシック美術
5. ゴシック美術
6. 中間試験
7. イタリア初期ルネサンス美術
8. イタリア初期ルネサンス美術
9. 15世紀の北方美術
10. 15世紀の北方美術
11. イタリア盛期ルネサンス美術
12. イタリア初期ルネサンス美術
13. 北方ルネサンス美術
14. 北方ルネサンス美術
15. まとめ

教科書

高階秀爾 『西洋美術史』 (美術出版社)

評価方法

(1)出席・試験:80% (2)レポート:20%

キリスト教と福祉活動の実際 A - キリスト教と相談支援 -

担当者：吉岡 光人

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教は「神を愛すること」と「隣人を自分のように愛すること」を最も大切にしている。自分を大切にすることを知るためには、自分自身を知ることが必要である。その上で隣人を大切にすることができる。この授業ではこの理解の上に立って、他者を援助するための基本的な知識を学ぶ。

2.学びの意義と目標

聖書の人間観とパーソナリティ発達理論の両面から、自己及び他者を理解し、適切な関わり方を考える。

準備学習(予習)

毎回の授業で必要なことは指示する。

準備学習(復習)

配布された教材を再読し、次回の授業に備えること。

授業計画

1. 聖書から見た人間理解(1)
2. 聖書から見た人間理解(2)
3. 自己理解(1)
4. 自己理解(2)
5. 他者理解(1)
6. 他者理解(2)
7. 発達段階における理解(1) 乳児期
8. 発達段階における理解(2) 幼児期
9. 発達段階における理解(3) 思春期
10. 発達段階における理解(4) 青年前期
11. 発達段階における理解(5) 青年後期
12. 発達段階における理解(6) 壮年期
13. 発達段階における理解(7) 成人後期
14. 発達段階における理解(8) 高齢期
15. 期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席:30%:遅刻・早退も評価の対象とする
- (2)礼拝レポート:20%
- (3)期末試験:50%

キリスト教と福祉活動の実際 B - キリスト教と相談支援 -

担当者：吉岡 光人

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

- 1.キリスト教の他者援助の歴史を学ぶ
- 2.「他者のこころを聞く」ための基本的方法を学ぶ
- 3.病気や障がいを負っている人たちを理解するための基本的知識を学ぶ。

2.学びの意義と目標

キリスト教会が継承してきた「他者援助」の中で、「聞く」という援助の方法の大切さを知り、それを社会生活の中で活かせるように基本的な方法を身に着ける。

準備学習(予習)

必要なことは授業中に指示する。

準備学習(復習)

配布された教材を再読し、次回の授業に備えること

授業計画

- 1.キリスト教的他者援助の歴史(1)
- 2.キリスト教的他者援助の歴史(2)
- 3.キリスト教的他者援助の歴史(3)
- 4.傾聴による援助の実際(1)
- 5.傾聴による援助の実際(2)
- 6.傾聴による援助の実際(3)
- 7.傾聴による援助の実際(4)
- 8.傾聴による援助の実際(5)
- 9.傾聴による援助の実際(6)
- 10.入院患者に対する理解
- 11.身体障がい者に対する理解
- 12.精神障がい者に対する理解
- 13.神経症・依存症への理解
- 14.パーソナリティ障がいへの理解
- 15.期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)礼拝レポート:20% (3)試験:50%

キリスト教と文学 A

担当者：黒木 章

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

〔内容〕遠藤周作の作品を読む。日本の代表的なキリスト教作家遠藤周作の作品にはどんな魅力があり、どんな問題があるかを検証する。

2. 学びの意義と目標

入学後に学んだキリスト教概論などの基礎的な認識や知識を踏まえて各論的に展開する選択必修の応用科目の一つである。ここでの主体的な取り組みと問題発掘から次の年次に置かれているキリスト教の専門科目と卒業研究等につながることを意図した本学の根幹科目である。遠藤周作の作品が日本だけでなく世界中で注目され、さまざまの物議を生んだのはなぜか。日本人キリスト教徒から西洋へ向けての問題提起として時宜を得ていたことと近代日本人の生き方（思考法や態度）と現代世界の宗教的問題を誠実に探求するものであったからと考えられる。ここでは遠藤の小説作りの技法を検証しながらグローバルな社会に生きる我々の課題を考えてみる。

準備学習(予習)

・ほぼ毎回各時間のポイントや問題点を記した印刷物を配布し、受講生はそれに書込みなどをして自分の講義ノートを作り予復習に利用してもらおう。 ・対話を心掛けるので参考文献などを紹介する。積極的な参加を期待する。

準備学習(復習)

前回の講義ノートを手掛かりに問題点の確認・疑問点などを次のフィードバックペーパーで提出するとか質疑応答に生かすこと。

授業計画

1. 導入。なぜ遠藤周作の作品を読むか。
2. 『海と毒薬』読解
3. 同 上
4. 同 上
5. 同 上
6. 『沈黙』読解
7. 同 上
8. 同 上
9. 同 上
10. 同 上
11. 『深い河』読解
12. 同 上
13. 同 上
14. 同 上
15. 同 上

教科書

遠藤周作 『海と毒薬』(新潮文庫)
遠藤周作 『沈黙』(新潮文庫)
遠藤周作 『深い河』(講談社文庫)

評価方法

- (1)授業参加態度:20%:フィードバックペーパーと質疑応答
- (2)小レポート:40%:2回(各20%)
- (3)学期末レポート:40%:定期試験に替えるもの

キリスト教と文学B

担当者：黒木 章

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

〔内容〕日本近現代を代表する作家夏目漱石の『心』、戦後文学の代表作家大岡昇平の『野火』、ノーベル賞作家大江健三郎の『個人的な体験』をキリスト教の観点から問題にしてみる。

2.学びの意義と目標

入学後に学んだキリスト教についての基礎的な認識や知識を踏まえて各論的に展開するキリスト教関連科目の一つである。ここでの主体的な取り組みが次の段階に組まれているキリスト教に関する専門科目や卒業研究につながることを期待されている本学の根幹科目である。

約100年前に書かれた『心』は、発表以来日本の半数以上の人々が読み続けてきたのはなぜか。ここで提示された問題が近現代日本人の基本的な問題であり、それは未だに克服されない課題であり続けたからであろう。敗戦で国家や社会が壊滅した状況で生き方の問題を根本的に探求する人間は発狂せざるをえないのか。現代日本を代表する作家大江健三郎がノーベル文学賞を受賞したのはなぜか。これらの問題をキリスト教の観点から問題にすることで意外な発見がある。丁寧な読解によって日本と世界の人々が取り組むべき問題を考える。

準備学習(予習)

・作品はそれを扱う1回目の授業が始まるまでに購入・読了して自分なりの問題点をもって参加すること。またほぼ毎回提出してもらうのフィードバックペーパーをもとに対話を心掛けるので、積極的参加を望む。

準備学習(復習)

・ほぼ毎回各授業時のポイントや問題点を記した印刷物を配布するので、それに書き込みをして自分の講義ノートを作成し復習に役立ててもらうとともに次の授業時における質疑応答・対話のもとになるフィードバックペーパーに使ってもらう。

授業計画

- 1.導入。夏目漱石とキリスト教および『心』を読む意義
- 2.『心』読解
- 3.同 上
- 4.同 上
- 5.同 上
- 6.大岡昇平とキリスト教および『野火』を読む意義『野火』読解
- 7.『野火』読解
- 8.同 上
- 9.同 上
- 10.同 同
- 11.大江健三郎とキリスト教および『個人的な体験』を読む意義
- 12.『個人的な体験』読解
- 13.同 上
- 14.同 上
- 15.同 上

教科書

夏目漱石 『心』(新潮文庫)
大岡昇平 『野火』(新潮文庫)
大江健三郎 『個人的な体験』(新潮文庫)

評価方法

- (1)授業参加態度:20%:フィードバックペーパーと質疑応答
- (2)小レポート:40%:2回(各20%)
- (3)学期末レポート:40%:定期試験に替えるもの

キリスト教と法

担当者：加藤 恵司

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教は、聖書を正典としています。もし、聖書以外の文献に権威を置くならば異端、異宗教と言わざるをえません。それに基づいて、前半では聖書の中に表わされた法、法生活、法環境について講義します。19世紀にゾームという学者は「教会法は教会の本質とは矛盾する」という名言を残しました。(第11講目に講義)彼の主張は、聖書は愛の教えのゆえに法律にはなじまないという主張です。ところが、聖書の生活の中には多くの法的な考え方が多く見られます。「法」は正義が価値ですが、愛と正義は、ベクトル的には同じ方向に向いています。ですから、前半では、愛と正義に立脚して聖書の理解を深めます。

後半はキリスト教法思想史です。キリスト教会は、多くの歴史の変遷を経てきましたが、特に教会の制度に焦点を当てて考えます。カトリック、プロテスタントの相違、宗教改革によって広がった教派について考えます。教派は、歴史的事情と教会法的な制度と深く関係しているからです。そして、私達の生活の中にもキリスト教、聖書的な発想が多くあることに気がついて欲しいと思います。

このような理解は、西欧文化を理解するために役に立つばかりでなく、自分の生き方を再発見できるはずです。

2.学びの意義と目標

聖書と教会の歴史を追究します。毎回、ノートをとって、それを提出します。ノートをとることの大切さを知ってください。

準備学習(予習)

ノート中心なので欠席をしないこと。あらかじめ、指示されたテキストを読んでください。提出されたノートは、次週に返却をしますので注意箇所をよく読んで同じ誤りをしないようにしてください。

準備学習(復習)

返されたノートを再読してください。

授業計画

1. はじめに/契約と信仰
2. モーセの律法
3. 旧約時代の法生活
4. 預言者の法思想
5. イエス・キリストの法的環境
6. イエス・キリストの裁判
7. パウロの法思想
8. 原始教会と教会法の成立
9. 教父の活躍と教会会議
10. 教会法と魔女裁判、異端審問
11. 宗教改革と改革者の法思想
12. アメリカのキリスト教と法
13. プロテスタント教会法
14. 日本におけるキリスト教と法
15. おわりに

教科書

加藤 恵司 『法・思想・歴史 Legal History』(ジーオー企画出版)
日本聖書協会 『小型聖書 - 新共同訳』(日本聖書協会)

評価方法

(1)ノート:80% (2)出席:20%

キリスト教と物語

担当者：藤原 淳賀

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義で扱う「物語」は、架空の作り話を意味しない。本講義において用いられる「物語」という言葉は、「事実に基づき解釈された歴史」を意味する。私たちが歴史を一貫したものとして解釈しようとするとき、物語的にならざるを得ない。また私たちが自分について語ろうとするとき、それは物語となる。

そのような意味において私たちは物語的存在である。

旧新約聖書においても、物語形式が多く用いられている。私たちが実存的に神について考え、語ろうとするとき、私たちは物語的に考え、物語的に語ろうとすることになる。

キリスト教的に考えるということは、私たちの個々の物語を、あるいは(家族、日本といった)私たちの共同体の物語を、壮大なる神の救いの物語、神の民の物語の中で理解するということの意味する。

2.学びの意義と目標

本講義では、学生諸君が(1)自らの物語をもっていることを理解させ、表現できるようにすること、(2)キリスト教と物語との関係を理解し表現できるようにすること、そして(3)自らの物語を、聖学院大学において壮大なる神の物語と重ね合わせることができるようになることを目標としている。

準備学習(予習)

毎回ではないが、授業のための課題が出されるときに予めその準備をしてこよう。

準備学習(復習)

授業が行われた日の内にノートを見直し、クラスメートと内容確認をして欲しい。

授業計画

1. イントロダクション
2. 2種類の物語神学
3. 20世紀初頭の神学的状況1
4. 20世紀初頭の神学的状況2
5. H・リチャード・ニーバーと物語神学1
6. H・リチャード・ニーバーと物語神学2
7. 自分史の書き方1
8. 自分史の書き方2
9. 自分史の書き方3
10. スタンレー・ハワーワースと物語神学1
11. スタンレー・ハワーワースと物語神学2
12. 旧約聖書と物語1 アダムの話、アブラハムの話
13. 旧約聖書と物語2 モーセの話、ダビデの話
14. 新約聖書と物語1 ペテロの話、パウロの話
15. 神の民の話、キリスト教の話、聖学院の話、そしてあなたの話

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)レポート:40% (2)試験:60%

キリスト教と歴史形成 A

担当者：石田 学

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1. 講座の目的

キリスト教は二千年の歴史をとおり、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方・どのような意味において、歴史形成に関与してきたかを概観し、そのことを通して、現代のわたしたちが生きる世界を理解する一助にしたいと思います。

本講座は、教会のはじまりから西暦1500年までを区切りとして、十四のポイントに焦点を当てる仕方で、キリスト教がどのように歴史形成と関係してきたかを学びます。できるだけ多くの画像、図版などを用いて理解の助けとし、楽しみながら学べる工夫をしてゆきます。

2.学びの意義と目標

西欧の歴史形成は、キリスト教との関わりを抜きには考えることができません。特に、古代から中世までは、西欧世界はキリスト教世界そのものでした。近代から現代にかけての西欧文化・社会は、古代から中世までの西欧社会を基礎としていますので、この時代の歴史形成を知ることが、現代を知ることに通じます。今の世界を見るための歴史的な視点を持つことを目指します。

準備学習(予習)

毎回、授業時に指示します。

準備学習(復習)

配布資料(配布方法は初回時に説明)に目を通して下さい。

授業計画

1. 歴史とは何か:「歴史形成」ということの意味。
2. ヘレニズム世界とローマ帝国:キリストの生きた世界
3. キリスト教の原点としてのイエス:何を教え、何を成し遂げたのか
4. 国家とキリスト教(1):なぜキリスト教は迫害されたか
5. 国家とキリスト教(2):なぜキリスト教は広まったか
6. 国家とキリスト教(3):古くて新しい国家と宗教の問題
7. 国家とキリスト教(4):「キリスト教世界」の成立と展開
8. 西欧古代世界の終わりキリスト教:混沌の時代に教会の果たした役割
9. 古代から中世ヨーロッパへの道のり:アウグスティヌスの生涯と思想
10. 中世ヨーロッパの社会構造と教会:キリスト教的封建社会
11. 写本の話:聖書はどのようにして伝えられたか
12. 「スコラ学」の発展:西ヨーロッパで栄えた学問の方法
13. 石で建てる:大聖堂に込めた信仰と情熱
14. 十字軍とはなんだったのか:キリスト教世界とイスラム世界の不幸な邂逅
15. 天使と悪魔:中世のイマジネーションと表象。学期末試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)学期末試験:50%:ノート・配布プリント持ち込み可の記述試験
- (2)課題レポート:10%
- (3)授業内レポート:40%:毎回の授業まとめレポート
授業内レポートがありますので、出席は重要です。

キリスト教と歴史形成 B

担当者：石田 学

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

キリスト教は二千年の歴史をとおり、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方・どのような意味において、近代から現代までの歴史形成に関与してきたかを概観します。世界をよりよく理解し、未来を築いてゆく手がかりとなることを願っています。

本講座は、十五世紀から現代までを十五のポイントに焦点を当てる仕方、キリスト教がどのように歴史形成と関係してきたかを学びます。中世に対する対抗文化として生じたルネサンスからはじめ、宗教改革のインパクトを概観しましょう。その上で近代世界の成立から現代までの歴史形成を考えてゆきます。

できるだけ多くの画像、図版などを用いて理解の助けとし、かつ楽しむことができるようにしたいと思います。

2.学びの意義と目標

近代から現代までの歴史形成にキリスト教がどう関与してきたか、その概略を把握できるようにします。日本では欠如しがちな、歴史形成におけるキリスト教の意義と役割を理解することを目指します。

準備学習(予習)

毎回、授業時に次回のための学習を指示します。

準備学習(復習)

配布プリントに目を通して下さい。

授業計画

1. 新たな時代の幕開け:ルネサンスの光と影
2. キリスト教の拡大:大航海時代とキリスト教宣教
3. 中世の黄昏:宗教改革前夜の西ヨーロッパと教会
4. マルティン・ルター(1):「我ここに立つ」
5. マルティン・ルター(2):プロテスタント教会の誕生
6. その後のドイツ宗教改革:動乱の時代の教会
7. スイスの宗教改革:ツヴィングリとカルヴァン
8. イングランドの宗教改革:ヘンリ八世からエリザベスへ
9. ピューリタン革命とその結末:市民革命のさきがけ
10. 新大陸アメリカ:人々は新世界に何を夢見たか
11. 北アメリカの独立とその後の歴史:マニフェスト・デスティニー
12. 三十年戦争と啓蒙主義:近代世界とキリスト教
13. 二つの世界大戦とファシズム:教会はどう対応したか
14. 教会の新たな使命:正義と人権のための闘い
15. キリスト教の今と将来:現代教会が果たした役割と、教会の未来

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)学期末試験:50%:ノート・配布プリント持ち込み可の記述試験
- (2)課題レポート:10%
- (3)授業内レポート:40%:授業のまとめレポート出席は必須です。

健康・体力づくり実習 A(サッカー)

担当者：田村 達也

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。

2.学びの意義と目標

サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。

準備学習(予習)

オリエンテーションの後、すぐに現時点での技能評価のためのゲームを行う可能性がありますので、初日から運動できる服装と体育館シューズを用意してください。

準備学習(復習)

授業で説明した用語を整理し、次回の授業で活かせるようにすること。

授業計画

- 1.オリエンテーション&ゲーム
- 2.個人技能練習(1)(ドリブル)&ゲーム
- 3.個人技能練習(2)(ドリブル)&ゲーム
- 4.個人技能練習(3)(ドリブル&パス)&ゲーム
- 5.個人技能練習(4)(ドリブル&パス)&ゲーム
- 6.集団技能練習(1)(3対1 or 4対1)&ゲーム
- 7.集団技能練習(2)(4対2 or 5対3)&ゲーム
- 8.集団技能練習(3)(4対4)&ゲーム
- 9.集団技能練習(4)(4対4)&ゲーム
- 10.8対8ゲーム(1)
- 11.8対8ゲーム(2)
- 12.11対11リーグ戦(1)
- 13.11対11リーグ戦(2)
- 14.11対11リーグ戦(3)
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60% (2)テスト:30% (3)技能:10%

健康・体力づくり実習 A

担当者：和田 雅史

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

トータルフィットネスと題して、身体を動かす楽しさを知ってもらふ授業である。運動を通して健康生活を維持していくための基礎的体力作りを図る。日々の生活にともなう身体活動から、積極的な意味合いとしての複数の運動実践を通しての体力づくりを目指す。通常使われている大学生用のスポーツテストを実施して、各自の体力状況を比較検討したうえで、どのような体力要素に問題があるのかを自らが把握し、この授業を通して維持向上できるように目標設定をする。そして、そのための運動処方を考えていく。授業ごとに自己の授業との関わり方を自己点検し、毎回自己評価を行う。フィットネスとは何か、体育授業との関わりは何かを検討しながら、なぜ大学体育の必要性があるのかも授業を通して考えていく。

運動の実践では、運動の楽しさを意識しつつ、特定の運動種目にとらわれることなく、複数の異なった運動種目を通して、運動の特性や動きの特性を理解し、自分にとってどのような運動種目に適性があるのか、生涯にわたって継続可能な運動は何であるのかも考えていく。バレーボールやテニス、卓球などのネット型の運動種目とバスケットボールやサッカー、ハンドボールなどのゴール型の運動種目を数種目を受講者の希望により組み合わせながら実践していく。

このように、基本的な動き作りや複数の運動種目の実践を通してどのように自身の体力と運動への意識が変容していくのかを科学的に評価していく。

2.学びの意義と目標

青年期の健康維持を目指し、運動不足の解消や肥満予防などを目標として、楽しい運動実践の基礎的処方を習得することにより、生涯にわたっての運動実践が継続されるようになる。

身体活動を通して、身体活動の楽しさを感じながら、基礎的体力の増強が図られる。健康の維持や基礎的体力の増強が、学生としての日々の学習・研究の遂行を向上させるだけでなく、大学生としての活動範囲を大きく広げていくことができる。また、現在の健康が、現在だけではなく将来を通じる一生涯にわたって影響していくことを理解し、健康で長命な生活を実現していくことにもなる。

体育教育で重要なことは、運動に対するパフォーマンスを高め向上させることよりも、いかに身体の抵抗力を増強し、疾病にかからない基礎的体力を作ることに意義がある。

この授業を通じて、運動の方法を学ぶこと、すなわち身体の動きや基本的な体力作りの処方を学ぶことによって、さらには運動の楽しさを知ることによって運動の継続性が生まれる。大学、さらには社会人となつてから、今後予想される肥満や生活習慣病に対する予防にも繋がり、健康生活の維持・増進に大きな期待が予想される。

準備学習(予習)

事前に予定された運動種目の特性を理解し、基本的なルールを学習しておくこと。

準備学習(復習)

授業を通じて、どのように関わったか、授業の前と後ではどのように自己変容したかを必ず確認する。

授業計画

1. オリエンテーション - フィットネスの意味
2. 動きの基本と動き作り - 歩行や走りの基本
3. スポーツテスト
4. スポーツテスト
5. ストレッチングの方法と実践
6. 基礎的体力作りの実践
7. 運動実践 - ネット型の運動種目
8. 運動実践 - "
9. 運動実践 - "
10. 運動実践 - "
11. 運動実践 - ゴール型の運動種目
12. 運動実践 - "
13. 運動実践 - "
14. 運動実践 - "
15. まとめ - 授業全体を通しての自己評価

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業に臨む態度:40% (2)出席:60%

健康・体力づくり実習 A(テニス)

担当者：太田 涼

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

【テニス】 スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ（生涯スポーツ）は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しむこと、遊べる事が重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢（気持ち）と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力（体力・技術）が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果（健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など）、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。

また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しむ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。

2.学びの意義と目標

生涯に渡ってスポーツを続けることの意義とその実践力を磨く

授業計画

1. オリエンテーションと講義のねらい
2. ラケットとボールに慣れる
3. ミニラリーを楽しむ
4. ストロークの技術（フォアハンド、バックハンド）
5. ストロークの技術（フォアハンド、バックハンド）
6. サービスの技術
7. サービスの技術
8. ラリーの応酬
9. ボレーの技術
10. ボレーの技術
11. 簡易ゲームを楽しむ・ルール理解
12. チーム対抗戦
13. チーム対抗戦
14. チーム対抗戦
15. チーム対抗戦

準備学習(予習)

シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること。 テニスシューズを必ず用意すること。

教科書

授業の中で指示する

準備学習(復習)

テニスの試合のテレビ観戦

評価方法

(1)出席:60% (2)実習点:40%

健康・体力づくり実習 A(ニュースポーツ・トレーニング)

担当者：神田 良太郎

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。

スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。

2.学びの意義と目標

健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。

準備学習(予習)

シューズを用意すること。

準備学習(復習)

無し

授業計画

1. ストレッチ運動
2. 1人で行う体力づくり運動
3. 体力づくり運動(マシーンを使用したトレーニング)
4. ターゲットバードゴルフ(基本練習、ルールの理解)
5. ターゲットバードゴルフ(ゲーム)
6. ストレッチ運動
7. 2人組で行う体力づくり運動
8. ボールを使った運動
9. ソフトバレーボール(基本練習)
10. ソフトバレーボール(ゲーム)
11. ストレッチ運動
12. 筋力トレーニング
13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習)
14. 簡易ホッケー(ゲーム)
15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席点:60%:欠席 - 6点、遅刻・早退 - 2点
- (2)評価点:40%:授業態度、技能面、シューズ等の忘れとにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む

健康・体力づくり実習 A(バスケットボール)

担当者：北澤 太野

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。

授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。

安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。

2.学びの意義と目標

バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況を把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。

準備学習(予習)

これまでのバスケットボール経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

グループで話し合った内容を、自分自身の経験と照らし合わせ、翌週の話し合い活動で自分なりの見解を発表できるように準備を行う。

授業計画

1. ガイダンス (運動は行わない)
2. チーム分け・ルールの説明・試しのゲーム
3. チーム内ゲーム (「守る」とは?)
4. チーム内ゲーム (「攻める」とは?)
5. チーム内ゲーム (作戦の創出と共有)
6. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の捻出)
7. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の考案)
8. チーム内ゲーム (作戦の模索)
9. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の捻出)
10. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の考案)
11. チーム内ゲーム (作戦の模索)
12. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の捻出)
13. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の考案)
14. リーグ戦
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:60% (2)授業態度:40%

学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。

グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。

健康・体力づくり実習 A(バドミントン)

担当者：関 一誠

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

【バドミントン】

<内容>

日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称はイギリスのグロスターシャー州にあるバドミントンハウスに由来している。

近代バドミンントンのシャトルの動きは、スピーディで変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速は大変顕著で、ラリーを続けることがとても容易であり、老若男女、誰でもが簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。羽つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の追体験を实践しながら、技能向上を目指した実習を行う。

スケジュール案は授業計画通りであるが、コート内で行う活動時間を多くするために、内容は人数・技術レベル等で柔軟に対応する。

2.学びの意義と目標

学生として規律ある日常生活をおくること。
スポーツをする上でのマナーを身につけること。

準備学習(予習)

運動着、運動靴を必ず着用（通学時の服装は不可）
健康に留意し、週2日程度は軽い身体活動を行い体力の維持向上に努めること。

準備学習(復習)

毎回学んだ内容を日常生活で実践し継続すること。

授業計画

1. ガイダンス（授業の進め方、心構え、用具、評価等についての説明）
2. 基本技術の解説と導入I
3. 基本技術の解説と導入II
4. 基本技術I
5. 基本技術II
6. 技能実習（サーブとレシーブ）
7. 技能実習（簡易ゲームI）
8. 技能実習（簡易ゲームII）
9. 簡易ゲームと審判法
10. ダブルスゲームの仕方
11. 競技規則I（サーブフォルト）
12. 競技規則II（ラリーフォルト）
13. ゲームの実際I
14. ゲームの実際II
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席点:50%:欠席は4回まで。
- (2)平常点:20%:積極的態、行動を評価する。
- (3)テスト:30%:実技テストを行う。

健康・体力づくり実習 A(バレーボール)

担当者：鈴木 由美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。

2.学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

準備学習(予習)

必ず運動着に着替え・体育館シューズ着用のこと。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考えたりして授業に臨む。

準備学習(復習)

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

授業計画

1. ガイダンス バレーボールとは？
2. 個人的技能練習 ボール操作の基本 3対3のミニゲーム
3. 個人的技能練習 ボール操作の基本 3対3のミニゲーム
4. 個人的技能練習（パス・サーブ） つなぐゲーム（コミュニケーション）
5. 個人的技能練習（パス・サーブ） つなぐゲーム（コミュニケーション）
6. 個人的技能練習（パス・スパイク） チャンスボールをセッターへ
7. 集団的 skill 練習（チャンスボールからの攻撃） チャンスボールをセッターへ
8. 集団的 skill 練習（シートレシーブ） チャンスボールから攻撃へ
9. 集団的 skill 練習（攻撃へのつなぎ） 攻撃にチャレンジ
10. 集団的 skill 練習（速攻への展開） 速攻を含んだゲームへ
11. 集団的 skill 練習（3段攻撃のバリエーション） 2段トスも含め、様々な攻撃にチャレンジ
12. ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ゲーム（リーグ戦）男女混合
15. ゲーム（リーグ戦）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:75% (2)課題への積極的参加度:15% (3)授業記録:10%

健康・体力づくり実習B(サッカー)

担当者：田村 達也

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。

2.学びの意義と目標

サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。

準備学習(予習)

オリエンテーションの後、すぐに現時点での技能評価のためのゲームを行う可能性がありますので、初日から運動できる服装と体育館シューズを用意してください。

準備学習(復習)

授業で説明した用語を整理し、次回の授業で活かせるようにすること。

授業計画

- 1.オリエンテーション&ゲーム
- 2.個人技能練習(1)(ドリブル)&ゲーム
- 3.個人技能練習(2)(ドリブル)&ゲーム
- 4.個人技能練習(3)(ドリブル&パス)&ゲーム
- 5.個人技能練習(4)(ドリブル&パス)&ゲーム
- 6.集団技能練習(1)(3対1 or 4対1)&ゲーム
- 7.集団技能練習(2)(4対2 or 5対3)&ゲーム
- 8.集団技能練習(3)(4対4)&ゲーム
- 9.集団技能練習(4)(4対4)&ゲーム
- 10.8対8ゲーム(1)
- 11.8対8ゲーム(2)
- 12.11対11リーグ戦(1)
- 13.11対11リーグ戦(2)
- 14.11対11リーグ戦(3)
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60% (2)テスト:30% (3)技能:10%

健康・体力づくり実習B

担当者：和田 雅史

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

トータルフィットネスと題して、身体を動かす楽しさを知ってもらふ授業である。運動を通して健康生活を維持していくための基礎的体力作りを図る。日々の生活にともなう身体活動から、積極的な意味合いとしての複数の運動実践を通しての体力づくりを目指す。通常使われている大学生用のスポーツテストを実施して、各自の体力状況を比較検討したうえで、どのような体力要素に問題があるのかを自らが把握し、この授業を通して維持向上できるように目標設定をする。そして、そのための運動処方を考えていく。授業ごとに自己の授業との関わり方を自己点検し、毎回自己評価を行う。フィットネスとは何か、体育授業との関わりは何かを検討しながら、なぜ大学体育の必要性があるのかも授業を通して考えていく。

運動の実践では、運動の楽しさを意識しつつ、特定の運動種目にとらわれることなく、複数の異なった運動種目を通して、運動の特性や動きの特性を理解し、自分にとってどのような運動種目に適性があるのか、生涯にわたって継続可能な運動は何であるのかも考えていく。バレーボールやテニス、卓球などのネット型の運動種目とバスケットボールやサッカー、ハンドボールなどのゴール型の運動種目を数種目を受講者の希望により組み合わせながら実践していく。

このように、基本的な動き作りや複数の運動種目の実践を通してどのように自身の体力と運動への意識が変容していくのかを科学的に評価していく。

2.学びの意義と目標

青年期の健康維持を目指し、運動不足の解消や肥満予防などを目標として、楽しい運動実践の基礎的処方を習得することにより、生涯にわたっての運動実践が継続されるようになる。

身体活動を通して、身体活動の楽しさを感じながら、基礎的体力の増強が図られる。健康の維持や基礎的体力の増強が、学生としての日々の学習・研究の遂行を向上させるだけでなく、大学生としての活動範囲を大きく広げていくことができる。また、現在の健康が、現在だけではなく将来を通じる一生涯にわたって影響していくことを理解し、健康で長命な生活を実現していくことにもなる。

体育教育で重要なことは、運動に対するパフォーマンスを高め向上させることよりも、いかに身体の抵抗力を増強し、疾病にかからない基礎的体力を作ることに意義がある。

この授業を通じて、運動の方法を学ぶこと、すなわち身体の動きや基本的な体力作りの処方を学ぶことによって、さらには運動の楽しさを知ることによって運動の継続性が生まれる。大学、さらには社会人となつてから、今後予想される肥満や生活習慣病に対する予防にも繋がり、健康生活の維持・増進に大きな期待が予想される。

準備学習(予習)

事前に予定された運動種目の特性を理解し、基本的なルールを学習しておくこと。

準備学習(復習)

授業を通じて、どのように関わったか、授業の前と後ではどのように自己変容したかを必ず確認する。

授業計画

1. オリエンテーション - フィットネスの意味
2. 動きの基本と動き作り - 歩行や走りの基本
3. スポーツテスト
4. スポーツテスト
5. ストレッチングの方法と実践
6. 基礎的体力作りの実践
7. 運動実践 - ネット型の運動種目
8. 運動実践 - "
9. 運動実践 - "
10. 運動実践 - "
11. 運動実践 - ゴール型の運動種目
12. 運動実践 - "
13. 運動実践 - "
14. 運動実践 - "
15. まとめ - 授業全体を通しての自己評価

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業に臨む態度:40% (2)出席:60%

健康・体力づくり実習B(テニス)

担当者：太田 涼

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

【テニス】 テニスを受講済の者等が望ましい。 スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ(生涯スポーツ)は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しむこと、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢(気持ち)と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力(体力・技術)が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果(健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など)、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。

また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。

2.学びの意義と目標

生涯に渡ってスポーツを続けることの意義とその実践力を高めること

準備学習(予習)

シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること。 テニスを受講済の者等が望ましい。

準備学習(復習)

テニスの試合観戦(テレビ中継)

授業計画

- 1.オリエンテーションと講義のねらい
- 2.ラケットとボールに慣れる
- 3.ミニラリーを楽しむ
- 4.ストロークの技術(フォアハンド、バックハンド)
- 5.ストロークの技術(フォアハンド、バックハンド)
- 6.サービスの技術
- 7.サービスの技術
- 8.ラリーの応酬
- 9.ボレーの技術
- 10.ボレーの技術
- 11.簡易ゲームを楽しむ・ルール理解
- 12.チーム対抗戦
- 13.チーム対抗戦
- 14.チーム対抗戦
- 15.チーム対抗戦

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60% (2)実習点:40%

健康・体力づくり実習 B (ニュースポーツ・トレーニング)

担当者：神田 良太郎

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等誰でも気軽に出来る運動を行います。

スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。

2.学びの意義と目標

健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになるのです。

準備学習(予習)

シューズを用意すること。

準備学習(復習)

無し

授業計画

1. ストレッチ運動
2. 1人で行う体力づくり運動
3. 体力づくり運動(マシーンを使用したトレーニング)
4. ターゲットバードゴルフ(基本練習、ルールの理解)
5. ターゲットバードゴルフ(ゲーム)
6. ストレッチ運動
7. 2人組で行う体力づくり運動
8. ボールを使った運動
9. ソフトバレーボール(基本練習)
10. ソフトバレーボール(ゲーム)
11. ストレッチ運動
12. 筋力トレーニング
13. 簡易ホッケー(ルール説明、基本練習)
14. 簡易ホッケー(ゲーム)
15. 卓球、フットサル、インディアカ・シャッフルボード、フリスビーなど

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席点:60%:欠席 - 6点、遅刻・早退 - 2点
- (2)評価点:40%:授業態度、技能面、シューズ等の忘れとにかく授業(何人の種目)に対して真面目に取り組む

健康・体力づくり実習B(バスケットボール)

担当者：北澤 太野

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。

授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。

安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。

2.学びの意義と目標

バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況を把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。

準備学習(予習)

これまでのバスケットボール経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

グループで話し合った内容を、自分自身の経験と照らし合わせ、翌週の話し合い活動で自分なりの見解を発表できるように準備を行う。

授業計画

1. ガイダンス（運動は行わない）
2. チーム分け・ルールの説明・試しのゲーム
3. チーム内ゲーム（「守る」とは？）
4. チーム内ゲーム（「攻める」とは？）
5. チーム内ゲーム（作戦の創出と共有）
6. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の捻出）
7. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の考案）
8. チーム内ゲーム（作戦の模索）
9. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の捻出）
10. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の考案）
11. チーム内ゲーム（作戦の模索）
12. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の捻出）
13. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の考案）
14. リーグ戦
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:60% (2)授業態度:40%

学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。

グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。

健康・体力づくり実習B(バドミントン)

担当者：関 一誠

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

【バドミントン】

<内容>

手や足を使って、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称はイギリスのグロスターシャー州にあるバドミントンハウスに由来している。

近代バドミントンのシャトルの動きは、スピーディで変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速は大変顕著で、ラリーを続けることがとても容易であり、老若男女、誰でもが簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。羽つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の追体験を実践しながら、技能向上を目指した実習を行う。

スケジュール案は授業計画通りであるが、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、履修生の人数・技術レベル等によって内容は柔軟に対応して行う。

2.学びの意義と目標

学生として規律ある日常生活をおくること。
スポーツをする上でのマナーを身につけること。

準備学習(予習)

運動着、運動靴を必ず着用（通学時の服装は不可）
健康に留意し、週2回程度の身体活動を行い、体力の維持向上に努めること。

準備学習(復習)

毎回学んだ内容を日常生活で実践し継続すること。

授業計画

1. ガイダンス（授業の進め方、心構え、用具、評価等についての説明）
2. 基本技術の解説と導入I
3. 基本技術の解説と導入II
4. 基本技術I
5. 基本技術II
6. 技能実習（サーブとレシーブ）
7. 技能実習（簡易ゲームI）
8. 技能実習（簡易ゲームII）
9. 簡易ゲームと審判法
10. ダブルスゲームの仕方
11. 競技規則I（サーブフォルト）
12. 競技規則II（ラリーフォルト）
13. ゲームの実際I
14. ゲームの実際II
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席点:50%:欠席は4回まで。
- (2)平常点:20%:積極的態、行動を評価。
- (3)テスト:30%:実技テストを行う。

健康・体力づくり実習B(バレーボール)

担当者：鈴木 由美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。

2.学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上と健康への自己教育力の向上。履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。

準備学習(予習)

必ず、運動着に着替え・体育館シューズ着用のこと。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考えたりして授業に臨む。

準備学習(復習)

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について、整理する。

授業計画

1. ガイダンス バレーボールとは？ ゲーム
2. 個人的技能練習 ボール操作の基本 3対3のミニゲーム
3. 個人的技能練習 ボール操作の基本 3対3のミニゲーム
4. 個人的技能練習（パス・サーブ） つなぐゲーム（コミュニケーション）
5. 個人的技能練習（パス・サーブ） つなぐゲーム（コミュニケーション）
6. 個人的技能練習（パス・スパイク） チャンスボールをセッターへ
7. 集団的 skill 練習（チャンスボールからの攻撃） チャンスボールをセッターへ
8. 集団的 skill 練習（シートレシーブ） チャンスボールから攻撃へ
9. 集団的 skill 練習（攻撃へのつなぎ） 攻撃にチャレンジ
10. 集団的 skill 練習（速攻への展開） 速攻を含んだゲームへ
11. 集団的 skill 練習（3段攻撃のバリエーション） 2段トスも含め、様々な攻撃にチャレンジ
12. ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ゲーム（リーグ戦）男女混合
15. ゲーム（リーグ戦）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:75% (2)課題への積極的参加度・習熟度:15% (3)授業記録:10%

担当者：二神 常爾

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ノートパソコンを用いての実習の授業を通して、データベースのソフト「アクセス」を学び、データベースの基本的な考え方を身につけることを目指す。

データベースは大量のデータを効率的に整理し、大量のデータの中から必要なデータを速く探す（検索）ことを可能にするが、非常に分かりやすい考え方に基いている。授業では、代表的なデータベース・ソフトであるマイクロソフト社のアクセスの基本的な機能について、例題を用いながら1つ1つ学習する。アクセスは大量のデータを高速に処理し、データの管理を効率的に行うことができる。アクセスによりデータの検索やデータ同士の関連付けを行うことができる。また、アクセスとエクセルの連携を通して、互いの利点を生かしたデータ処理ができることを学ぶ。

授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクターを用いてデモを行い、学生は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。質問は随時受け付ける。また、授業内容について理解を深めるために、授業時間内に行う課題を毎回出題する。

2.学びの意義と目標

インターネットが普及し、IT（情報技術）が進み、グローバル化が進展するとともに、我々は大量のデータを入手できるようになった。同時に、大量のデータを効率的に整理したり、大量のデータの中から必要なデータを迅速かつ正確に探し出すことも求められるようになった。

これは社会の様々な状況下で、また様々な組織について当てはまる。例えば、企業の規模が大きくなり、企業の従業員や取引先の数が増大すると、社員や顧客についての大量のデータを管理・維持する技術が必要になる。また、企業が売り上げを伸ばしコストを削減するためには、商品の売れ筋把握や在庫管理などでコンピュータによりデータを管理・処理することが有効である。データベースの技術は、様々な組織のデータの維持、管理、処理などの過程を支える基本技術である。授業では、代表的なデータベース・ソフトであるアクセスの中の様々な機能を学ぶことによって、データ処理の基本技術を学び、データベースの基本的考え方を習得することを目指す。

準備学習(予習)

教員用授業サイトを事前に見て、参考書の該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら手順を復習すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. テーブルの新規作成と主キーの設定
3. テーブルの基本操作
4. 選択クエリと集計クエリ
5. パラメータクエリ・更新クエリ・テーブル作成クエリ
6. 追加クエリと削除クエリ
7. クロス集計クエリとエクスポート・インポート
8. リレーションシップの設定
9. テーブルの結合、演算フィールドの追加
10. フォームの利用
11. レポートの利用(1)
12. レポートの利用(2)
13. マクロの利用
14. テーブルの正規化
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)授業中の課題:35% (3)期末試験:35%

担当者：二神 常爾

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ノートパソコンを用いて、ホームページ作成の言語であるHTML/XHTMLを学ぶ。テキスト文（文章）の中にタグを挿入することによって、画像の挿入、リンク、表の作成などを行う。また、CSS（カスケーディング・スタイル・シート）を合わせて学ぶことにより、文字サイズや文字色、背景色、余白の長さ、行間隔などのレイアウトを自由に設定でき、ホームページの見栄えを向上させることができる。授業での学習により、自らホームページを作成できるようになることを目指す。

ウィンドウズ付属のメモ帳でファイルを編集し、インターネット・エクスプローラーで確認しながら授業を進める。作成したホームページをインターネット上に公開することは行わないが、その手順は説明する。

授業では1回の授業ごとに1つのテーマについて学習する。毎回プリントを配布する。教師はプロジェクターを用いてデモを行い、学生は教師のデモとプリントに従って、ノートパソコンの操作を行う。質問は随時受け付ける。また、授業内容について理解を深めるために、授業時間内に行う課題を毎回出題する。

2.学びの意義と目標

インターネットの普及とともに、コンピュータや携帯電話などの情報機器は、情報を受け取るための手段だけでなく、自ら情報を発信するための手段となった。ホームページは情報発信のツールとしてブログ、ツイッター、SNSに比べると、古くから知られている。

ホームページは、企業や大学などの様々な組織や個人が自らを宣伝するために利用している。授業では、ホームページ作成の技術を学ぶことによって、自己PRの手段の1つとして、自らもホームページを作成できるようになることを目指す。ホームページを作成するためのソフト（ホームページビルダー）も市販されているが、授業ではそれに頼らず、タグとスタイルシートの記述のみでホームページを作成する。

ホームページの作成は、ブログやツイッター、SNSなどより新しい情報発信のツールに進むための第一歩と考えることもできる。

準備学習(予習)

教員用授業サイトを事前に見て、参考書の該当箇所を読んでおくこと

準備学習(復習)

授業前に、授業で使うファイルを自分のUSBメモリにコピーして、帰宅してからプリントを見ながら授業で行った手順を復習すること。

授業計画

1. ガイダンス
2. テキストのレイアウト(1)(タグ、タイトル、段落の設定)
3. テキストのレイアウト(2)(スタイルシート、文字の色、フォント)
4. テキストのレイアウト(3)(文字の斜体、太さ等の指定)
5. 区切り線とリスト、リンクの基本
6. ページの指定位置へのリンクの設定
7. 背景と罫線のデザイン
8. 画像ファイルの基本知識と画像ファイルの挿入の基本
9. 画像ファイルの挿入（文章の回り込み、余白の挿入）
10. 表の作成
11. フォームの作成
12. フレームの作成
13. これまでの知識を生かして課題に取り組む(1)
14. これまでの知識を生かして課題に取り組む(2)
15. ページの公開とまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)授業中の課題:35% (3)期末試験:35%

時事問題演習(L)

担当者：森脇 健介

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定(ニュース検定)の公式テキストと問題集を解きながら身につけていきます。

問題の出題形式には、授業計画にあるように、「社会・環境」などの5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた公式テキストの読解・問題集の回答を行い、解説を付していくことで総合的な理解力を高めていきます。

なお本演習で扱う問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。

2.学びの意義と目標

「時事力」とは、「(社会的な)様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるといことです。したがって、大学での専門講義を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。

同時に、検定試験に合格するという事は、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するという事でもあります。時事に関し、社会人になるにあたり前提となる教養が習得済みであることもまた、この資格を通じて示すことができるわけです。このように、ニュース検定は就職に有利に働きうる資格の一つであることも、注記しておきます。

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、公式テキストをあらかじめ読んでおくと、より理解が深まります。

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につけ、受験直前での負担を減らすことにもつながります。復習に重点を置き、各自で取り組んでください。

授業計画

1. イントロダクション
2. 「社会・環境」に関する時事問題
3. 「社会・環境」に関する時事問題
4. 「社会・環境」に関する時事問題
5. 「暮らし」に関する時事問題
6. 「暮らし」に関する時事問題
7. 「国内政治」に関する時事問題
8. 「国内政治」に関する時事問題
9. 「国内政治」に関する時事問題
10. 「国際問題」に関する時事問題
11. 「国際問題」に関する時事問題
12. 「経済」に関する時事問題
13. 「経済」に関する時事問題
14. 「経済」に関する時事問題
15. まとめと総復習

教科書

日本ニュース時事能力検定(監)『2013年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(2級・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)
日本ニュース時事能力検定(監)『2013年度版 ニュース検定公式問題集(1・2・準2級対応)』(毎日教育総合研究所)

評価方法

(1)「ニュース時事能力検定」準2級の合格:100%:不合格の場合、大学が準備する代替試験を受験する。

時事問題演習

担当者：山本 祥弘

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための「時事力」を、ニュース時事能力検定（ニュース検定）の公式テキストと問題集を解きながら身につけていきます。

問題の出題形式には、授業計画にあるように、「社会・環境」などの5つの類型が存在します。それぞれの分野に応じた公式テキストの読解・問題集の回答を行い、解説を付していくことで総合的な理解力を高めていきます。

なお本演習で扱う問題の水準は、ニュース検定準2級程度、すなわち高校から大学・社会人までの過程をつなぐ、総合的かつ基本的な時事に関する知識を問うものとなっています。

2.学びの意義と目標

「時事力」とは、「（社会的な）様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身に付くことにより備わっていく力」とされています。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけるといことです。したがって、大学での専門講義を理解するために必要とされる基礎的な知識の習得が、最終的に目指されるべき目標となります。

同時に、検定試験に合格するという事は、このような教養が身につけていることを、「資格」取得というかたちで証明するという事でもあります。時事に関し、社会人になるにあたり前提となる教養が習得済みであることもまた、この資格を通じて示すことができるわけです。このように、ニュース検定は就職に有利に働きうる資格の一つであることも、注記しておきます。

準備学習(予習)

日頃から、新聞・テレビニュースなどに触れることを心がけてください。また、公式テキストをあらかじめ読んでおくと、より理解が深まります。

準備学習(復習)

その日に解いた問題は、復習することによって初めて知識として身につけ、受験直前での負担を減らすことにもつながります。復習に重点を置き、各自で取り組んでください。

授業計画

1. イントロダクション
2. 「社会・環境」に関する時事問題
3. 「社会・環境」に関する時事問題
4. 「社会・環境」に関する時事問題
5. 「暮らし」に関する時事問題
6. 「暮らし」に関する時事問題
7. 「国内政治」に関する時事問題
8. 「国内政治」に関する時事問題
9. 「国内政治」に関する時事問題
10. 「国際問題」に関する時事問題
11. 「国際問題」に関する時事問題
12. 「経済」に関する時事問題
13. 「経済」に関する時事問題
14. 「経済」に関する時事問題
15. まとめと総復習

教科書

日本ニュース時事能力検定（監）『2013年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（2級・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）
日本ニュース時事能力検定（監）『2013年度版 ニュース検定公式問題集（1・2・準2級対応）』（毎日教育総合研究所）

評価方法

(1) 「ニュース時事能力検定」準2級の合格:100%:不合格の場合、大学が準備する代替試験を受験する。

社会教育実習

担当者：松橋 義樹

開講期：通年 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

社会教育行政機関・社会教育施設・社会福祉施設などにおいて、専門職員の指導のもとでその管理・運営などについて実習を行う。

2.学びの意義と目標

実習を通して、社会教育主事に求められる資質・能力の基礎を培うことを目的とする。

準備学習(予習)

生涯学習概論A・B及び社会教育計画A・Bの単位を取得済みであることが望ましい。

準備学習(復習)

現場実習期間を終えた後、担当教員の指導のもとで現場実習の内容について十分に振り返ること。

授業計画

- 1.実習の意義と注意事項
- 2.事前指導(1)
- 3.事前指導(2)
- 4.事前指導(3)
- 5.事前指導(4)
- 6.事前指導(5)
- 7.現場実習(1)
- 8.現場実習(2)
- 9.事後指導(1)
- 10.事後指導(2)
- 11.事後指導(3)
- 12.事後指導(4)
- 13.事後指導(5)
- 14.現場実習報告会(1)
- 15.現場実習報告会(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)実習:100%:現場実習、事前・事後指導、現場実習報告会
この科目は、1～2週間程度の現場実習だけでなく、担当教員による事前・事後指導及び現場実習報告会を合わせて「実習」と位置付けている。

生涯スポーツ実習 A(エアロビックダンス)

担当者：鈴木 由美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

「健康」について学習しながら、エアロビックダンス・筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング、バランスボール、パワーヨガなど）・ストレッチングなどのいつでもどこでもできる身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるような複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。

2.学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

準備学習(予習)

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

準備学習(復習)

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について整理する。また、解決策や疑問点について調べてみる。

授業計画

- 1.1. ガイダンスと基本動作 以降、ストレッチングは毎回実施
2. エアロビクス運動とは エアロビクス（フットワークI） 体脂肪測定
3. 健康を支える要素・運動の必要性と効果 エアロビクス（フットワークII）
4. 自分の身体を知る（体脂肪率測定） エアロビクス
5. 自分の身体を知る（適性体重・姿勢測定） エアロビクス
6. 自分に適した運動を知る（運動強度） エアロビクス
7. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度） エアロビクス
8. 筋コンディショニングの必要性と効果 バランスボール
9. ライフスタイルと健康（食生活I） エアロ&バランスボール
10. ライフスタイルと健康（食生活II） エアロ&パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康（休養・休息） エアロ&パワーヨガ
12. ライフスタイルチェック エアロビクス
13. ライフデザイン（ライフスタイルの改善点を考察） エアロビクス
14. リクエストウィーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:75% (2)課題への積極的参加度・習熟度:15%
(3)授業記録ノート:10%

生涯スポーツ実習 A(サッカー)

担当者：田村 達也

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。

2.学びの意義と目標

サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。

準備学習(予習)

オリエンテーションの後、すぐに現時点での技能評価のためのゲームを行う可能性がありますので、初日から運動できる服装と体育館シューズを用意してください。

準備学習(復習)

授業で説明した用語を整理し、次回の授業で活かせるようにすること。

授業計画

- 1.オリエンテーション&ゲーム
- 2.個人技能練習(1)(ドリブル)&ゲーム
- 3.個人技能練習(2)(ドリブル)&ゲーム
- 4.個人技能練習(3)(ドリブル&パス)&ゲーム
- 5.個人技能練習(4)(ドリブル&パス)&ゲーム
- 6.集団技能練習(1)(3対1 or 4対1)&ゲーム
- 7.集団技能練習(2)(4対2 or 5対3)&ゲーム
- 8.集団技能練習(3)(4対4)&ゲーム
- 9.集団技能練習(4)(4対4)&ゲーム
- 10.8対8ゲーム(1)
- 11.8対8ゲーム(2)
- 12.11対11リーグ戦(1)
- 13.11対11リーグ戦(2)
- 14.11対11リーグ戦(3)
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60% (2)テスト:30% (3)技能:10%

生涯スポーツ実習 A(テニス)

担当者：太田 涼

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

【テニス】 中・上級者、テニス受講者が望ましい。 スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ(生涯スポーツ)は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しむこと、遊べる事が重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢(気持ち)と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力(体力・技術)が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果(健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など)、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。

また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。

2.学びの意義と目標

生涯に渡ってスポーツを続けることの意義とその実践力を高めること

準備学習(予習)

シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること。

中上級者、テニス受講者が望ましい。

準備学習(復習)

テニスの試合観戦(テレビ中継)

授業計画

- 1.オリエンテーションと講義のねらい
- 2.ストロークの技術(フォアハンド、バックハンド)
- 3.ストロークの技術(フォアハンド、バックハンド)
- 4.サーブの技術
- 5.ボレーの技術
- 6.ボレーの技術
- 7.前衛の技術・戦術
- 8.ラリーの応酬
- 9.徹底した打ち込み
- 10.徹底した打ち込み
- 11.ミニ大会開催
- 12.ミニ大会開催
- 13.ミニ大会開催
- 14.ミニ大会開催
- 15.ミニ大会開催

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)実習点:60% (2)出席点:40%

生涯スポーツ実習 A(バスケットボール)

担当者：北澤 太野

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。

授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。

安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。

2.学びの意義と目標

バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況を把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。

準備学習(予習)

これまでのバスケットボール経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

グループで話し合った内容を、自分自身の経験と照らし合わせ、翌週の話し合い活動で自分なりの見解を発表できるように準備を行う。

授業計画

1. ガイダンス（運動は行わない）
2. チーム分け・ルールの説明・試しのゲーム
3. チーム内ゲーム（「守る」とは？）
4. チーム内ゲーム（「攻める」とは？）
5. チーム内ゲーム（作戦の創出と共有）
6. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の捻出）
7. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の考案）
8. チーム内ゲーム（作戦の模索）
9. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の捻出）
10. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の考案）
11. チーム内ゲーム（作戦の模索）
12. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の捻出）
13. チーム間ゲーム（相手に応じた作戦の考案）
14. リーグ戦
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:60% (2)授業態度:40%

学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。

グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。

生涯スポーツ実習 A(バドミントン)

担当者：関 一誠

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

【バドミントン】

<内容>

日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称は、イギリスのグロスダークシャー州バドミントンハウスに由来する。競技バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速が大きくラリーを程よく続けることができる。互いのやりとりのおもしろさは、プレイに熱中せずにはいられないだろう。

本授業では、バドミントンの特性を十分に生かしながら技術や知識を個人の教養として身につけてもらうとともに、健康スポーツとして日常の運動習慣の確立、体力の維持・増進、ストレスからの開放等、生涯スポーツとして位置づけることを目的としている。

2.学びの意義と目標

学生として規律ある日常生活をおくること。
スポーツをする上でのマナーを身につけること。

準備学習(予習)

運動着、運動靴を必ず着用（通学時の服装は不可）
健康に留意し、週2日程度の身体活動を行い、体力の維持向上に努めること。

準備学習(復習)

毎回学んだ内容を日常生活で実践し継続すること。

授業計画

1. ガイダンス（歴史・用品・教材、心構え、評価等についての解説）
2. 個人技能実習（グリップ、ラケットイング・フットワーク動作の講義および実習）
3. 個人技能実習（サーブ、簡易ラリー、スマッシュ、簡易ゲーム、班分け、複数のフライトによるコンビネーションプレー）
4. 基本技術I
5. 基本技術II
6. 技能実習（サーブとレシーブ）
7. 技能実習（簡易ゲームI）
8. 技能実習（簡易ゲームII）
9. 簡易ゲームと審判法
10. ダブルスゲームの仕方
11. 競技規則I（サーブフォルト）
12. 競技規則II（ラリーフォルト）
13. ゲームの実際I
14. ゲームの実際II
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席点:50%:欠席は4回まで。
- (2)平常点:20%:積極的態、行動等を評価する。
- (3)テスト:30%:実技テストを行う。

生涯スポーツ実習 A(バレーボール)

担当者：鈴木 由美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。

2.学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

準備学習(予習)

必ず運動着に着替え・体育館シューズ着用のこと。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考えたりして授業に臨む。

準備学習(復習)

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

授業計画

1. ガイダンス バレーボールとは？
2. 個人的技能練習 ボール操作の基本 3対3のミニゲーム
3. 個人的技能練習 ボール操作の基本 3対3のミニゲーム
4. 個人的技能練習（パス・サーブ） つなぐゲーム（コミュニケーション）
5. 個人的技能練習（パス・サーブ） つなぐゲーム（コミュニケーション）
6. 個人的技能練習（パス・スパイク） チャンスボールをセッターへ
7. 集団的 skill 練習（チャンスボールからの攻撃） チャンスボールをセッターへ
8. 集団的 skill 練習（シートレシーブ） チャンスボールから攻撃へ
9. 集団的 skill 練習（攻撃へのつなぎ） 攻撃にチャレンジ
10. 集団的 skill 練習（速攻への展開） 速攻を含んだゲームへ
11. 集団的 skill 練習（3段攻撃のバリエーション） 2段トスも含め、様々な攻撃にチャレンジ
12. ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ゲーム（リーグ戦）男女混合
15. ゲーム（リーグ戦）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:75% (2)課題への積極的参加度:15% (3)授業記録:10%

生涯スポーツ実習 B (エアロビックダンス)

担当者：鈴木 由美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

「健康」について学習しながら、エアロビックダンス・筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング、バランスボール、パワーヨガなど）・ストレッチなどのいつでもどこでもできる身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるような複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。

2.学びの意義と目標

豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力の向上を目標とします。

準備学習(予習)

様々なエクササイズを実践できるよう、体調を整えておくこと。その都度出された課題を必ずやること。

準備学習(復習)

その日の授業記録に記載した反省や課題の内容について整理し、解決策や疑問点について調べておく。

授業計画

- 1.1. ガイダンスと基本動作 以降、ストレッチングは毎回実施
2. エアロビクス運動とは エアロビクス（フットワークI） 体脂肪測定
3. 健康を支える要素・運動の必要性と効果 エアロビクス（フットワークII）
4. 自分の身体を知る（体脂肪率測定） エアロビクス
5. 自分の身体を知る（適性体重・姿勢測定） エアロビクス
6. 自分に適した運動を知る（運動強度） エアロビクス
7. 自分に適した運動を知る（運動の種類・頻度） エアロビクス
8. 筋コンディショニングの必要性と効果 バランスボール
9. ライフスタイルと健康（食生活I） エアロ&バランスボール
10. ライフスタイルと健康（食生活II） エアロ&パワーヨガ
11. ライフスタイルと健康（休養・休息） エアロ&パワーヨガ
12. ライフスタイルチェック エアロビクス
13. ライフデザイン（ライフスタイルの改善点を考察） エアロビクス
14. リクエストウィーク（これまでに実施のリクエストエクササイズ）
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席:75% (2)課題への積極的参加度・習熟度:15%
(3)授業記録ノート:10%

生涯スポーツ実習 B(サッカー)

担当者：田村 達也

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。

2.学びの意義と目標

サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。

準備学習(予習)

オリエンテーションの後、すぐに現時点での技能評価のためのゲームを行う可能性がありますので、初日から運動できる服装と体育館シューズを用意してください。

準備学習(復習)

授業で説明した用語を整理し、次回の授業で活かせるようにすること。

授業計画

- 1.オリエンテーション&ゲーム
- 2.個人技能練習(1)(ドリブル)&ゲーム
- 3.個人技能練習(2)(ドリブル)&ゲーム
- 4.個人技能練習(3)(ドリブル&パス)&ゲーム
- 5.個人技能練習(4)(ドリブル&パス)&ゲーム
- 6.集団技能練習(1)(3対1 or 4対1)&ゲーム
- 7.集団技能練習(2)(4対2 or 5対3)&ゲーム
- 8.集団技能練習(3)(4対4)&ゲーム
- 9.集団技能練習(4)(4対4)&ゲーム
- 10.8対8ゲーム(1)
- 11.8対8ゲーム(2)
- 12.11対11リーグ戦(1)
- 13.11対11リーグ戦(2)
- 14.11対11リーグ戦(3)
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席点:60% (2)テスト:30% (3)技能:10%

生涯スポーツ実習 B (テニス)

担当者：太田 涼

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

【テニス】 中・上級者が望ましい。 スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ（生涯スポーツ）は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢（気持ち）と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力（体力・技術）が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切にし、テニスを通じて、スポーツの効果（健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など）、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。

また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。

2.学びの意義と目標

生涯に渡ってスポーツを続けることの意義とその実践力を高めること

授業計画

1. オリエンテーションと講義のねらい
2. ストロークの技術（フォアハンド、バックハンド）
3. ストロークの技術（フォアハンド、バックハンド）
4. サービスの技術
5. サービスの技術
6. ボレーの技術
7. ボレーの技術
8. 前衛の戦術・技術
9. ラリーの応酬
10. 徹底した打ち込み
11. 徹底した打ち込み
12. ミニ大会開催
13. ミニ大会開催
14. ミニ大会開催
15. ミニ大会開催

準備学習(予習)

シラバスを熟読のこと。オリエンテーションでの説明に留意して授業に臨み、内容が段階的に高まっていくので積極的に参加すること。中上級者が望ましい。

教科書

授業の中で指示する

準備学習(復習)

試合観戦（テレビ中継）

評価方法

(1)実習点:60% (2)出席点:40%

生涯スポーツ実習 B (バスケットボール)

担当者：北澤 太野

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。

授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。

安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。

2.学びの意義と目標

バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況を把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。

準備学習(予習)

これまでのバスケットボール経験を振り返り、まとめておく。

準備学習(復習)

グループで話し合った内容を、自分自身の経験と照らし合わせ、翌週の話し合い活動で自分なりの見解を発表できるように準備を行う。

授業計画

1. ガイダンス (運動は行わない)
2. チーム分け・ルールの説明・試しのゲーム
3. チーム内ゲーム (「守る」とは?)
4. チーム内ゲーム (「攻める」とは?)
5. チーム内ゲーム (作戦の創出と共有)
6. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の捻出)
7. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の考案)
8. チーム内ゲーム (作戦の模索)
9. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の捻出)
10. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の考案)
11. チーム内ゲーム (作戦の模索)
12. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の捻出)
13. チーム間ゲーム (相手に応じた作戦の考案)
14. リーグ戦
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:60% (2)授業態度:40%

学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しない。

グループでの話し合い活動を積極的に行い、その話し合いの内容を学習カードにまとめ、毎授業ごと提出することを義務づける。

生涯スポーツ実習 B (バドミントン)

担当者：関 一誠

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

【バドミントン】

<内容>

日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称は、イギリスのグロスダークシャー州バドミントンハウスに由来する。競技バドミントンのシャトルの動きは、スピードで変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速が大きくラリーを程よく続けることができる。互いのやりとりのおもしろさは、プレイに熱中せずにはいられないだろう。

本授業では、バドミントンの特性を十分に生かしながら技術や知識を個人の教養として身につけてもらうとともに、健康スポーツとして日常の運動習慣の確立、体力の維持・増進、ストレスからの開放等、生涯スポーツとして位置づけることを目的としている。

2.学びの意義と目標

学生として規律ある日常生活をおくること。
スポーツをする上でのマナーを身につけること。

準備学習(予習)

運動着、運動靴を必ず着用（通学時の服装は不可）
健康に留意し、週2日程度は軽い身体活動を行い常に体力の維持向上に努めること。

準備学習(復習)

前回学んだ内容を日常生活で実践し継続すること。

授業計画

1. ガイダンス（歴史・用品・教材、心構え、評価等についての解説）
2. 個人技能実習（グリップ、ラケットイング・フットワーク動作の講義および実習）
3. 個人技能実習（サーブ、簡易ラリー、スマッシュ、簡易ゲーム、班分け、複数のフライトによるコンビネーションプレー）
4. 審判用語（審判用語学習とシングルス簡易ゲーム）
5. 審判法（審判法の学習とダブルス簡易ゲーム）
6. 審判の実習（審判の学習とダブルスゲーム）
7. 審判の実習（審判の学習とダブルスゲーム）
8. 個人技能実習（複数のフライトによるコンビネーションプレー）
9. ダブルスゲーム
10. ルール解説I
11. ルール解説II
12. 各種フライトの応用技術練習
13. ゲームの実際I
14. ゲームの実際II
15. 総括

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席点:50%:欠席は4回まで。
- (2)平常点:20%:積極的態度、行動等を評価する。
- (3)テスト:30%:実技テストを行う。

生涯スポーツ実習 B (バレーボール)

担当者：鈴木 由美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。

2. 学びの意義と目標

生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、ネットの設営、ゲームの運営・管理についても学習する。

準備学習(予習)

必ず運動着に着替え・体育館シューズ着用のこと。前回の授業記録に記載した反省や課題を解決するための方法を調べたり考えたりして授業に臨む。

準備学習(復習)

その日に授業記録に記載した反省点や課題について整理する。

授業計画

1. ガイダンス バレーボールとは？
2. 個人的技能練習 ボール操作の基本 3対3のミニゲーム
3. 個人的技能練習 ボール操作の基本 3対3のミニゲーム
4. 個人的技能練習（パス・サーブ） つなぐゲーム（コミュニケーション）
5. 個人的技能練習（パス・サーブ） つなぐゲーム（コミュニケーション）
6. 個人的技能練習（パス・スパイク） チャンスボールをセッターへ
7. 集団的 skill 練習（チャンスボールからの攻撃） チャンスボールをセッターへ
8. 集団的 skill 練習（シートレシーブ） チャンスボールから攻撃へ
9. 集団的 skill 練習（攻撃へのつなぎ） 攻撃にチャレンジ
10. 集団的 skill 練習（速攻への展開） 速攻を含んだゲームへ
11. 集団的 skill 練習（3段攻撃のバリエーション） 2段トスも含め、様々な攻撃にチャレンジ
12. ゲーム（リーグ戦）男女混合
13. ゲーム（リーグ戦）男女別
14. ゲーム（リーグ戦）男女混合
15. ゲーム（リーグ戦）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:75% (2)課題への積極的参加度:15% (3)授業記録:10%

担当者：鈴木 省吾

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。

2013年度入学の教職課程履修者(コミュニティ政策学科を除く)向けの科目である。基礎科目であり、2013年度入学生は「情報基礎」または「情報リテラシー」のいずれかを履修することが卒業要件である。

2.学びの意義と目標

コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。

この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を習得し、大学生活及び卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱ができるようにする。

準備学習(予習)

授業で出された課題の反復練習。

準備学習(復習)

毎回の講義の学習した内容について、次の講義までに自宅で実際にパソコンを使用して、よく復習しておくこと。

授業計画

1. イントロダクション、ワードの概略
2. ワード文書作成の基本
3. ワードにおける作表
4. ワードオブジェクトの利用
5. ワード高度な編集
6. ワード総合問題
7. エクセルの概略、エクセル入力の基本
8. エクセルでの作表・表計算
9. エクセル関数の利用
10. エクセルデータベース機能の利用
11. ワードとエクセルの連携
12. エクセル総合問題
13. パワーポイントの概略、パワーポイントスライド作成
14. パワーポイントオブジェクト、アニメーション昨日の利用
15. パワーポイント総合問題

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)課題:100%:毎週出る課題を完成度と作成時間によって評価する。出席は評価割合には含まないが、5回の欠席で不合格、遅刻は15分までとし以後は欠席扱い、3回の遅刻で欠席とする。

情報基礎

担当者：竹井 潔

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

昨今の高度情報化社会においては、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものになっている。大学の学びにおいても日常的にパソコンを活用してネットワークにアクセスし、適宜情報を収集してまとめたり、プレゼンテーションソフトを活用して効果的に発表するといった基本的な情報処理能力は、欠かせない技術といえる。そうした技術を、毎回の実習を通じて身につけるとともに、教員として知っておきたいパソコンやインターネット活用のメリットやリスクについても事例研究を通じて具体的に理解し、児童・生徒の安全や権利を守る立場の教員としての資質を高める学習を行う。

当講義は、2011年度入学以降の教職課程履修者(コミュニティ政策学科を除く)向けの科目である。基礎科目であり、2013年度入学生は「情報基礎」または「情報リテラシー」のいずれかを修得することが卒業要件である。

2. 学びの意義と目標

コンピュータやネットワークに関する基本的知識や情報モラル等を理解し、基本的な操作スキルを身につけることは、大学における学習や研究生活においても、また卒業後に教育現場で児童・生徒を適切な指導を行う上でも重要である。

本講義では、教職課程履修者が以下のソフトウェアを学んで毎回2点、計30点の課題をこなし実践的な対応策を体験することで、パソコン操作に対する苦手意識を払拭し、手軽にウェブ上のデータを活用して教育現場でその知識や体験を生かした指導ができるようにすることを目指す。

文書作成ソフト「ワード」「メモ帳」
表計算ソフト「エクセル」
プレゼンテーションソフト「パワーポイント」
画像処理ソフト「ペイント」

準備学習(予習)

講義前には毎回教科書の該当箇所を読んでおき、キーワードに線を引くなどして理解しておいてください。

準備学習(復習)

講義・実習の後は、板書の内容を再読して、実習で行った作業をもう一度再現できるようにしてください。その際に生じた不明点は、次回の講義で質問するなどして積極的に解消してください。

授業計画

1. 【講義】パソコン活用の基礎(1) 【実習】ワープロソフト(1)、表計算ソフト(1)
2. 【講義】WindowsとWord・Excelの基礎 【実習】ワープロソフト(2)、表計算ソフト(2)
3. 【講義】校務文書の基礎とワードアートやクリップアート 【実習】ワープロソフト(3)、表計算ソフト(3)
4. 【講義】SNS概説とその活用 【実習】ワープロソフト(4)
5. 【講義】メールの活用 【実習】ワープロソフト(5)、表計算ソフト(4)
6. 【講義】Powerpointの基礎 【実習】ワープロソフト(6)プレゼンテーションソフト
7. 【講義】インターネットの活用と学校のホームページ 【実習】ワープロソフト(7)、表計算ソフト(5)
8. 【講義】エクセル関数の使い方 【実習】ワープロソフト(8)、表計算ソフト(6)
9. 【講義】教育現場における情報機器の利用 【実習】ワープロソフト(9)、表計算ソフト(7)
10. 【講義】知的財産権と著作権法 【実習】ワープロソフト(10)表計算ソフト(8)
11. 【講義】情報の公開と個人情報の保護方法 【実習】ワープロソフト(11)表計算ソフト(9)
12. 【講義】コンピュータウイルスと不正アクセス 【実習】ワープロソフト(12)、表計算ソフト(10)
13. 【講義】Paintの基礎とスクリーンキャプチャ 【実習】画像処理ソフトによるキャプチャ画像の作成表計算ソフト(11)
14. 【講義】パソコン活用の基礎(2) 【実習】表計算ソフト(12)
15. 【講義】まとめ テストと解説

教科書

山口光一 著 『「教師用パソコン基礎講座」(仮題)』(ラピュータ)

評価方法

(1)出席:20% (2)課題提出:30% (3)ペーパーテスト:50%
成績評価全体に対するコメント
毎回出席し課題作成を行えば、50%はクリアできます。

情報リテラシー(L学科用)

担当者：竹井 潔

開講期：春学期集中/秋学期集中 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

現代の高度情報化社会において情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。

2.学びの意義と目標

コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフトや表計算ソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、社会に出てからも重要である。この授業では、パソコン検定3級以上に合格できる知識・技術を身につけることを目標として、大学生活に必要なレポート作成や正しい情報の取扱いができるようにする。

準備学習(予習)

教科書として指定されている教材を用いて、自宅でも学習を進めること。

準備学習(復習)

教科書として指定されている教材を用いて、自宅でも学習を進めること。

授業計画

1. タイピング
2. コンピュータ知識 (1)
3. コンピュータ知識 (2)
4. ネットワーク (インターネット) (1)
5. ネットワーク (インターネット) (2)
6. 情報セキュリティと情報モラル(1)
7. 情報セキュリティと情報モラル(2)
8. ワープロ(1)
9. ワープロ(2)
10. ワープロ(3)
11. 表計算(1)
12. 表計算(2)
13. 表計算(3)
14. ICTを活用した問題解決
15. まとめ p検定試験

教科書

パソコン検定協会事務局 『p検オフィシャル教材『CS-ONE』』 ((パソコン検定協会事務局))

評価方法

(1)p検定試験:100%p検定3級 S評価

担当者：竹井 潔

開講期：春学期集中/秋学期集中 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

現代の高度情報化社会において情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。

2.学びの意義と目標

コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフトや表計算ソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、社会に出てからも重要である。この授業では、パソコン検定3級以上に合格できる知識・技術を身につけることを目標として、大学生活で必要なレポート作成や正しい情報の取扱いができるようにする。

準備学習(予習)

教科書として指定されている教材を用いて、自宅でも学習を進めること。

準備学習(復習)

教科書として指定されている教材を用いて、自宅でも学習を進めること。

授業計画

1. タイピング
2. コンピュータ知識 (1)
3. コンピュータ知識 (2)
4. ネットワーク(インターネット) (1)
5. ネットワーク(インターネット) (2)
6. 情報モラルと情報セキュリティ (1)
7. 情報モラルと情報セキュリティ (2)
8. ワープロ (1)
9. ワープロ (2)
10. ワープロ (3)
11. 表計算 (1)
12. 表計算 (2)
13. 表計算 (3)
14. ICTを活用した問題解決
15. まとめ p検定試験

教科書

パソコン検定協会事務局 『P検オフィシャル教材 『CS-ONE』 (パソコン検定協会事務局)

評価方法

(1)p検定試験:100%:p検定4級C評価、 p検定3級以上S評価

図表理解(L)

担当者：山本 祥弘

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この授業では、図表や統計資料を適切に読み取るために必要となる基本的な知識を学んでいきます。図表や統計資料は、複数の情報が盛り込まれていると同時に、それらの情報が一目で分かるという大変便利なものです。しかし、この便利なツールを使いこなして、そこから情報を読み取るためには、そのための知識が必要になります。たとえば、図表や統計資料の中で使われている計算の仕方、あるいは「平均値」・「クロス表」・「相関」といった言葉の意味です。この授業では、そうした図表や統計資料で使われている基本的な計算方法や知識を、ゼロから身につけていきます。

2.学びの意義と目標

この授業の目標は、いろいろな図表や統計資料が私たちに語りかけてくる内容を適切に読みとる能力を身につけることです。この能力は、政治学・経済学・社会学・経営学などなど、ありとあらゆる学問分野で共通して役に立つ武器になります。それだけでなく、こうした知識は、日常生活の中でニュースや新聞に出てくる時事問題を客観的に考えるツールにもなります。もちろん、図表や統計資料は、将来仕事でも使用する場面が多々あります（実際、就職試験としてよく使われるSPI試験でも、図表や統計資料の読解は頻繁に出題されています）。図表や統計資料の理解は、このように様々な用途に「つぶしがきく」ものであり、実用的なスキルでもあります。

準備学習(予習)

各自、日頃からSPI「資料読解」の過去問等にチャレンジするなどして、図表や統計資料に関する問題に慣れておくようにしてください。

準備学習(復習)

授業で指示します。

授業計画

- 1.基本的な計算 1
- 2.基本的な計算 2
- 3.基本的な計算 3
- 4.基本的な計算 4
- 5.図表・統計資料の読解（1）
- 6.図表・統計資料の読解（2）
- 7.図表・統計資料の読解（3）
- 8.中間試験および解説
- 9.図表・統計資料の読解（4）
- 10.図表・統計資料の読解（5）
- 11.図表・統計資料の読解（6）
- 12.図表・統計資料の読解（7）
- 13.図表・統計資料の読解（8）
- 14.図表・統計資料の読解（9）
- 15.期末試験および解説

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)中間試験:50% (2)期末試験:50%

図表理解

担当者：森脇 健介

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この授業では、図表や統計資料を適切に読み取るために必要となる基本的な知識を学んでいきます。図表や統計資料は、複数の情報が盛り込まれていると同時に、それらの情報が一目で分かるという大変便利なものです。しかし、この便利なツールを使いこなして、そこから情報を読み取るためには、そのための知識が必要になります。たとえば、図表や統計資料の中で使われている計算の仕方、あるいは「平均値」・「クロス表」・「相関」といった言葉の意味です。この授業では、そうした図表や統計資料で使われている基本的な計算方法や知識を、ゼロから身につけていきます。

2.学びの意義と目標

この授業の目標は、いろいろな図表や統計資料が私たちに語りかけてくる内容を適切に読みとる能力を身につけることです。この能力は、政治学・経済学・社会学・経営学などなど、ありとあらゆる学問分野で共通して役に立つ武器になります。それだけでなく、こうした知識は、日常生活の中でニュースや新聞に出てくる時事問題を客観的に考えるツールにもなります。もちろん、図表や統計資料は、将来仕事でも使用する場面が多々あります（実際、就職試験としてよく使われるSPI試験でも、図表や統計資料の読解は頻繁に出題されています）。図表や統計資料の理解は、このように様々な用途に「つぶしがきく」ものであり、実用的なスキルでもあります。

準備学習(予習)

各自、日頃からSPI「資料読解」の過去問等にチャレンジするなどして、図表や統計資料に関する問題に慣れておくようにしてください。

準備学習(復習)

授業で指示します。

授業計画

1. 基本的な計算 1
2. 基本的な計算 2
3. 基本的な計算 3
4. 基本的な計算 4
5. 図表・統計資料の読解（1）
6. 図表・統計資料の読解（2）
7. 図表・統計資料の読解（3）
8. 中間試験および解説
9. 図表・統計資料の読解（4）
10. 図表・統計資料の読解（5）
11. 図表・統計資料の読解（6）
12. 図表・統計資料の読解（7）
13. 図表・統計資料の読解（8）
14. 図表・統計資料の読解（9）
15. 期末試験および解説

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)中間試験:50% (2)期末試験:50%

スペイン語 (初級A)

担当者：越智 直子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。

2.学びの意義と目標

現在、スペイン語は世界の国々で、4億人以上の人々に話されているといわれています。最近、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通すこと。

準備学習(復習)

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.アルファベット、アクセント
- 3.母音、子音、二重子音
- 4.名詞の性
- 5.名詞の数
- 6.数(0 - 10)、挨拶表現
- 7.定冠詞
- 8.不定冠詞
- 9.主格人称代名詞
- 10.動詞ser
- 11.疑問文
- 12.否定文
- 13.国名、国籍
- 14.復習
- 15.中間試験
- 16.動詞estar
17. Hay
- 18.疑問詞、場所の表現
- 19.形容詞
20. Ser + 形容詞、estar + 形容詞
- 21.時刻の表現、数(11 - 30)
- 22.疑問詞、曜日
- 23.直説法現在-ar動詞
- 24.前置詞
- 25.所有形容詞前置形
- 26.直説法現在-er動詞
- 27.直説法現在-ir動詞
- 28.指示形容詞、色
- 29.復習
- 30.試験とその解説

教科書

エウヘニオ・デル・ブラド 斉藤華子 仲道慎治 『Unas pinceladas del español 「スペイン語でスケッチ」』(第三書房)

評価方法

- (1)出席日数、平常点:25%
- (2)単語テスト、提出物:25%
- (3)中間試験、期末試験:50%

スペイン語 (初級A)

担当者：宮内 ふじ乃

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

(1)内容

この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。

2.学びの意義と目標

現在、スペイン語は世界の国々で、4億以上の人々に話されていると言われています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。

準備学習(予習)

予習:事前に教科書に目を通すこと。

準備学習(復習)

復習:CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.アルファベット、アクセント
- 3.母音、子音、二重母音
- 4.名詞の性
- 5.名詞の数
- 6.数(1-10)、挨拶表現
- 7.定冠詞
- 8.不定冠詞
- 9.主格人称代名詞
- 10.動詞ser
- 11.疑問文
- 12.否定文
- 13.国名、国籍
- 14.復習
- 15.中間試験
- 16.動詞estar
- 17.Hay
- 18.疑問詞、場所の表現
- 19.形容詞
- 20.ser + 形容詞、estar + 形容詞
- 21.時刻の表現、数(11-30)
- 22.疑問詞、曜日
- 23.直説法現在 -ar動詞
- 24.前置詞
- 25.所有形容詞前置形
- 26.直説法現在 er動詞
- 27.直説法現在 ir動詞
- 28.指示形容詞、色
- 29.復習
- 30.期末試験とその解説

教科書

エウヘニオ・デル・ブラド 斉藤華子 仲道慎治 『Unas pinceladas del español 「スペイン語でスケッチ」』(第三書房)

評価方法

- (1)出席日数、平常点:25% (2)単語テスト、提出物:25%
(3)中間試験、期末試験:50%

スペイン語 (初級B)

担当者：越智 直子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「スペイン語」で学んだ基礎をベースに、さらに新しい表現を身に付け、初級文法の取得を目指します。また、映画などに出てくる生き生きとした表現を学び、スペイン語を使って自己表現ができるようになっていきます。また、希望があれば、スペイン語検定の練習問題も授業で取り上げる予定です。

2.学びの意義と目標

様々な表現や初級文法を取得することにより、歌を訳したり、簡単な手紙、メールなどを書くという楽しみができることと思います。

準備学習(予習)

事前に教科書に目を通すこと。

準備学習(復習)

CDを聞き、単語、及び基本文を覚えること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.復習(1)
- 3.復習(2)
- 4.直説法現在－1人称単数不規則動詞
- 5.直接目的格人称代名詞
- 6.天候表現、月、季節
- 7.直説法現在－語幹母音変化動詞
- 8.不定詞表現
- 9.疑問詞
- 10.所有形容詞後置形
- 11.直説法現在－不規則動詞
- 12.不定詞表現
- 13.感嘆文、序数
- 14.間接目的格人称代名詞
- 15.動詞gustar
- 16.まとめ
- 17.中間試験
- 18.再帰動詞(1)
- 19.再帰動詞(2)
- 20.比較級と最上級、形容詞
- 21.直説法現在完了(1)
- 22.直説法現在完了(2)
- 23.不定語と否定語
- 24.直説法点過去(1)
- 25.直説法点過去(2)
- 26.直説法線過去
- 27.点過去と線過去
- 28.直接法未来
- 29.まとめ
- 30.試験とその解説

教科書

エウヘニオ・テル・ブラド 斉藤華子 仲道慎治 『Unas pinceladas del español 「スペイン語でスケッチ」』(第二書房)

評価方法

- (1)出席日数、平常点:25%
- (2)単語テスト、提出物:25%
- (3)中間試験、期末試験:50%

聖書と現代

担当者：左近 豊

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

現代において聖書を読むことの意義を問う。特に旧約聖書を題材に、アウシュヴィッツや広島・長崎後の現代社会において聖書は何を語りかけているのか、また現代は聖書に何を問うているかを考察する。

2.学びの意義と目標

時間的にも空間的にも隔たりのある聖書テキストと現代社会との間にある他者性を理解した上で、相互の間に成り立つ対話の手がかりを探る。

準備学習(予習)

受講者は、シラバス記載の文献について発表し、議論に加わることが求められる。そのため各回毎に指定された課題に、事前に各自で取り組み、授業に備えることが必須となる。

準備学習(復習)

発表した内容を授業での議論を踏まえて整理する。

授業計画

1. 導入・文献紹介
2. ポスト3・11と聖書
3. 現代を捉える視点 日本
4. 現代を捉える視点 世界
5. 聖書を読む視点
6. 歴史的想像力
7. 聖書の内部者の視点
8. 聖書の証しする神
9. 伝承と継承
10. 回心
11. 死からいのちへ
12. 神の子となる力
13. 聖書とその共同体
14. 聖書を見る視点
15. 総括

教科書

W. ブルッゲマン, Walter Brueggemann, 左近 豊 『聖書は語りかける』(日本キリスト教団出版局)

評価方法

- (1)授業参加:60%:発表、議論への参加
- (2)礼拝出席レポート:20%
- (3)学期末レポート:20%

聖書の世界 A

担当者：左近 豊

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容

現代世界に多大な影響を与えているキリスト教、ユダヤ教、イスラム教は「聖書」をベースにした宗教です。「聖書」を初めて学ぶ人たちを対象に、特にこれら3宗教が共有している「(旧約)聖書」を取り上げ、主たる内容を概観し、それぞれの文書にみられる思想的な特徴、歴史的な背景などにも触れながら理解を深めてゆきます。春学期は、旧約聖書の思想的核を形成する「モーセ五書(トーラー)」と呼ばれる部分に焦点をあてます。

2.カリキュラム上の位置づけ

聖書について初めて学ぶ人を対象とした、入門的なコースです。

2.学びの意義と目標

「旧約聖書」の3つの区分と、それらに属する諸文書の内容について概略を記述することができる
旧約聖書の「モーセ五書」の思想的意義について記述できる
旧約聖書を成立させた古代イスラエルとそれを取り巻く古代近東世界について、その歴史的背景について説明できる

準備学習(予習)

指示する文書、プリントを参考に予習をし、とくに指定された聖書箇所については読んでから授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業で扱った部分の背後にある歴史を『聖書時代史 旧約編』の該当箇所を読んで確認しておいてください。

授業計画

1.序

2.天地創造物語(1)世界の確かさ

3. (2)アダムとエバ 破れた愛の物語

4. (3)ノア 悪の問題

5.族長物語 (1)アブラハム、イサク、ヤコブ 神の約束・人の思い

6. (2)ヨセフ 隠された神

7.出エジプト記(1)モーセ 破れ目に立つリーダー

8. (2)ヨシュア 約束の成就

9.旧約の法 (1)十戒 救済と聖化

10. (2)聖約 新しい共同体の形成

11.申命記 存亡の危機・神学の時

12.申命記的歴史 申命記史家の歴史観

13.王制の樹立 (1)サムエル、サウル 神の統治と王の政治

14. (2)ダビデ、ソロモン

15. (3)南北王朝時代

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業参加:30% (2)礼拝出席レポート:20% (3)学期末試験:50%

聖書の世界 B

担当者：左近 豊

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容

「聖書の世界A」に引き続き、「聖書」を初めて学ぶ人たちを対象に、「(旧約)聖書」を取り上げます。秋学期は、旧約聖書の「預言者」と「諸書」と呼ばれる部分に焦点をあてます。これらは古代イスラエルにとどまらず、現代社会にも多大な影響を与えている部分です。このコースでは現実に身を沈めつつ、同時にそこに溺れない預言者の視点、聖書に蓄積された喜びと悲しみ、道理と不条理を語る詩人の言葉を学びます。

2.カリキュラム上の位置づけ

聖書を初めて学ぶ人を対象とした入門的なコースです。

授業計画

- 1.序
- 2.預言とは
- 3.証言としての預言書
- 4.預言者(1) アモスとホセア 正義と愛
5. (2) イザヤとミカ 平和と裁き
6. (3) エレミヤ 新しい旅立ち
7. (4) 第二、第三イザヤ 希望と挫折
- 8.イスラエルと諸国民 (1) ヨナ
9. (2) ルツ、エステル
- 10.黙示文学 ダニエル
- 11.知恵文学(1) 箴言、コヘレト
- 12.知恵文学(2) ヨブ記
- 13.詩編(1) 嘆きの詩編
- 14.詩編(2) 賛美の詩編
- 15.まとめ

2.学びの意義と目標

「旧約聖書」の3つの区分と、それらに属する諸文書の内容について概略を記述することができる
旧約聖書の「預言者」「諸書」の思想的意義について記述できる
旧約聖書を成立させた古代イスラエルとそれを取り巻く古代近東世界について、その歴史的背景について説明できる

準備学習(予習)

指定する文書やプリントを用いて予習をし、とくに聖書の指定箇所については事前に読んで授業に臨んでください。

準備学習(復習)

授業での理解を深めるために指定する文献を通して確認をしておいてください。

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)授業参加:30%:コメントシート活用 (2)礼拝出席レポート:20%
(3)学期末試験:50%

聖書の中の環境問題

担当者：村上 公久

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「聖書」をテキストとする。
最近「環境問題ブーム」に乗って多くの本や講演があり、今では多くの大学で環境問題に関する各種科目を掲げているが、それらは「地球にやさしい」(?)と装いながらも、実は現在の環境問題そのものを引き起こした原因である「人間中心」のヒューマニズムに由来する環境問題意識に基づいたものである。

キリスト教の教典『聖書』は環境問題を考える際の知恵の宝庫である。最近になって、地球環境問題と取り組んでいる科学者たちが環境問題の原因を「ヒトと自然との関係の崩れ」に見始めているが、そのほとんど全てが既に『聖書』の中に記されている。森林科学を中心に地球環境問題の研究をライフ・ワークにしているクリスチャンの自然科学者が「聖書」の中に観た環境問題を取り上げ、21世紀を生きる学生たちと共に考えてみたい。

2.学びの意義と目標

キリスト教関連科目。
聖書の宗教が内包する自然と環境の観方を理解し、自然保護と環境保全について理解を深める。

準備学習(予習)

世界人口の約四分の一を占めるキリスト教徒の人生の「航路図」となってきた『聖書』をよく読んでおくこと。基礎科目「キリスト教概論」を復習しておくこと。

準備学習(復習)

各回の講義内容について、関係する聖書箇所を参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めて講義記録のノートに記録する。

授業計画

1. 創造 The Creation 見えるものと見えないもの
2. 創造 The Creation と世界の成り立ち Order of the world
3. 「創造」と「進化仮説」 誤った対立の構図
「創造論」対「進化論」
4. 失楽園と自然破壊の始まり
5. 自然と環境
6. 二つの大陸プレートの境目にある聖書地方
7. 沙漠(砂漠)
8. 遊牧と農耕
9. 都市の成立
10. 森林破壊と沙漠の拡大
11. ふたつの審判
12. 偉大なエコロジスト 預言者イザヤ
13. 使徒パウロの環境問題意識
14. 目標がある人生
15. 最後の審判 羊と山羊を裁く 山羊の国 日本

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)2回以上の試験と期末試験:60%
欠席回数が講義回数の3分の1を超える者には、単位を認定しない。

体育(講義)

担当者：鈴木 明

開講期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

高等学校までの保健体育の学習を基礎として、生涯を健康に生きるために必要な人間の身体特性について、様々な角度から学習する。

カリキュラム上の位置付け：
保育士資格取得のための必修科目

授業計画

- 1.人間の健康と運動・スポーツ
- 2.心身の発育・発達と運動・スポーツ
- 3.トレーニングの基礎理論
- 4.ライフステージ別に見た運動・スポーツ（児童・青年期）
- 5.ライフステージ別に見た運動・スポーツ（中高年・女性）
- 6.栄養・睡眠・環境と運動・スポーツ
- 7.スポーツ障害と外傷
- 8.救急法

2.学びの意義と目標

健康の柱である運動・休養・栄養や身体の特徴について科学的理論に基づいた幅広い教養を身につけることで、自身の健康だけでなく、まわり（社会）の健康についても、積極的に働きかけるように人になることを期待する。

準備学習(予習)

前週に課題を出すので調べてくる。

教科書

プリントを配布する

準備学習(復習)

課題を適宜指示する。

評価方法

- (1)定期試験:60% (2)ショートテスト:20% (3)授業参加意欲:20%
- (1)講義の最後にどの程度の知識を得たかを評価する
 - (2)毎回授業の最後に確認のショートテストを行う
 - (3)授業への積極性

中国語 (初級 A)

担当者： 閻 子謙

開講期： 春学期/秋学期 必修・選択： 選択科目 授業回数： 週2回 単位数： 2単位

講義概要

1.内容

1.目的

本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。

2.カリキュラム上の位置づけ

初級段階で、入門的な位置づけである。

3.学びの意義と目標

中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。

2.学びの意義と目標

中国語を初めて学ぶ学生を対象にした講義なので、中国語の基礎、特に発音の基礎を固めることに重点を置きます。「発音編」は教科書を使用せず説明を最小限にとどめ、オリジナルの発音表を参照しつつ、発音の基本と表記・ピンインのルールを丁寧に教えます。誰でも無理なく、中国語に興味を持ち、発音表を頼って自力で正確な中国語を音読出来ることを目標にしています。

準備学習(予習)

事前に教科書を読んでおくこと

準備学習(復習)

前回の授業内容をもう一度おさらいすること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 単母音、子音
3. 単母音、子音の確認
4. 複母音
5. 複母音の確認
6. 鼻音
7. 鼻音の確認
8. 発音編の総まとめ
9. 第1課のポイント、本文
10. 第1課トレーニング
11. 第2課のポイント、本文
12. 第2課のトレーニング
13. 第3課のポイント、本文
14. 第3課のトレーニング
15. 第1～3課の復習
16. 第4課のポイント、本文
17. 第4課のトレーニング
18. 第5課のポイント、本文
19. 第5課のトレーニング
20. 第6課のポイント、本文
21. 第6課のトレーニング
22. 第4～6課の復習
23. 第7課のポイント、本文
24. 第7課のトレーニング
25. 第8課のポイント、本文
26. 第8課のトレーニング
27. 第9課のポイント、本文
28. 第9課トレーニング
29. 第7～9課の復習
30. 総復習

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:20% (2)受講態度:40% (3)定期試験:40%

中国語 (初級 A)

担当者：新田 小雨子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は、VT法 (Verbo-Tonal Method)を用い、日本語母語話者の中国語学習者に対する発音指導を行う。使用テキストは基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。

2.学びの意義と目標

本講義では、会話を中心とし、いろいろな場面に応じた表現を理解した上で、応用できるようにロールプレイによる会話練習を行う。中国語の発音、基礎文法を身につけるだけでなく、簡単な自己紹介、日常の挨拶表現ができるようになることも本講義の目標である。

準備学習(予習)

- 1) 各課の単語と文型を事前に目を通すこと。
- 2) 単語の意味と読み方を事前に確認すること。

準備学習(復習)

- 1) 発音記号 (ピンイン) の読む練習を常に行うこと。
- 2) 既習単語の読み書きを練習すること。
- 3) 既習単語を読み流すのではなく、暗記すること。
- 4) 既習文型を理解し、応用できるように準備しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス:中国語について・簡単な挨拶表現など
2. 発音1:声調・単母音・複母音
3. 発音2:声母表・無気音と有気音・そり舌音
4. 発音3:鼻音を伴う母音・eのヴァリエーションなど
5. 発音4:3声の変調・[不]の変調・[一]の変調・軽声など
6. まとめ
7. 第1課「こんにちは」:動詞“是”・名前の言い方・挨拶ことばなど
8. 第1課「こんにちは」:本文・練習・ドリル
9. 第2課「学校」:助詞“的”・疑問詞など
10. 第2課「学校」:本文・練習・ドリル
11. 第3課「新宿」:動詞述語文・副詞“也”・連動文など
12. 第3課「新宿」:本文・練習・ドリル
13. 第4課「カメラを買う」:助動詞の“想”・反復疑問文など
14. 第4課「カメラを買う」:本文・練習・ドリル
15. 中間テスト・テスト解説
16. 第5課「家族を語る」:動詞“有”・比較の言い方など
17. 第5課「家族を語る」:本文・練習・ドリル
18. 第6課「富士山」:経験を表す表現・助動詞の“要”など
19. 第6課「富士山」:本文・練習・ドリル
20. 第7課「喫茶店」:年月日・曜日・時刻の言い方・前置詞など
21. 第7課「喫茶店」:本文・練習・ドリル
22. 第8課「街」:前置詞その2“从”“往”・動詞につく“了”など
23. 第8課「街」:本文・練習・ドリル
24. 第8課「街」:中国語学習のための基礎知識・練習プリント
25. 第9課「京都」:動詞の“在”・“是...的”構文など
26. 第9課「京都」:本文・練習・ドリル
27. 第9課「京都」:練習プリント
28. 総復習
29. 総復習
30. 期末テスト・テスト解説

教科書

相原茂・陳淑梅・飯田敦子『初級テキスト 日中いぶこみ広場』(朝日出版社)

評価方法

- (1)出席率:30%(2)試験:30%:中間、期末
- (3)平常点:40%:受講態度、小テスト、課題など

中国語 (初級 A)

担当者：福田 素子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ピンインという中国語の発音記号とその発音方法を身につけ、さらに基礎語彙・基本のセンテンスを学習する。

2.学びの意義と目標

中国語の基礎を身につけるとともに、日本語や英語と比較しながら中国語とは（また日本語とは）どのような言語であるかを考える視座を身につける。また外国語を学ぶとはどういうことかを考える。

準備学習(予習)

各課の新出単語は事前に目を通しておく。

準備学習(復習)

発音は直された点を忘れず、練習して身につける。学習した単語と構文はそのつど覚えていくこと。

授業計画

1. ガイダンス・中国語とはどのような言語か
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 発音・挨拶
6. 第一課
7. 第一課
8. 第一課・第二課
9. 第二課
10. 第二課
11. 第三課
12. 第三課
13. 第三課
14. 試験前復習
15. 中間試験
16. 試験解説
17. 第四課
18. 第四課
19. 第四課
20. 第五課
21. 第五課
22. 第五課
23. 第六課
24. 第六課
25. 第六課
26. 第七課
27. 第七課
28. 第七課
29. 復習
30. 授業内テスト

教科書

相原茂 / 陳淑梅 / 飯田敦子 『初級テキスト 日中いぶこみ広場』(朝日出版社)

評価方法

(1)期末試験:50% (2)中間試験:25%
(3)小テスト受験:25%:小テスト原則として課の終了ごとに実施。
欠席が十回を越えると、期末試験の受験が出来ない。

中国語 (初級B)

担当者： 閻 子謙

開講期： 春学期/秋学期 必修・選択： 選択科目 授業回数： 週2回 単位数： 2単位

講義概要

1.内容

1.目的

本講義は、日本語を母国語とする学生が「音声言語としての中国語」の基礎を作るのが主な狙いである。

2.カリキュラム上の位置づけ

初級段階で、入門的な位置づけである。

3.学びの意義と目標

中国語の知識としてでなく技能として学ぶ場合に、むやみに先を急ぐことは禁物です。必ず今習っていることが確実に身に付くまで、繰り返し練習し、更に誤りを恐れず積極的に声を出すことが必要です。簡単に理解ができ、簡単に習得し、そして気軽に話せるようにするのが目標です。

2.学びの意義と目標

中国語を初めて学ぶ学生を対象にした講義なので、中国語の基礎、特に発音の基礎を固めることに重点を置きます。「発音編」は教科書を使用せず説明を最小限にとどめ、オリジナルの発音表を参照しつつ、発音の基本と表記・ピンインのルールを丁寧に教えます。誰でも無理なく、中国語に興味を持ち、発音表を頼って自力で正確な中国語を音読出来ることを目標にしています。

準備学習(予習)

事前に教科書を読んでおくこと

準備学習(復習)

前回の授業内容をもう一度おさらいすること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 単母音、子音
3. 単母音、子音の確認
4. 複母音
5. 複母音の確認
6. 鼻音
7. 鼻音の確認
8. 発音編の総まとめ
9. 第7課のポイント、本文
10. 第7課トレーニング
11. 第8課のポイント、本文
12. 第8課のトレーニング
13. 第9課のポイント、本文
14. 第9課のトレーニング
15. 第7～9課の復習
16. 第10課のポイント、本文
17. 第10課のトレーニング
18. 第11課のポイント、本文
19. 第11課のトレーニング
20. 第12課のポイント、本文
21. 第12課のトレーニング
22. 第10～12課の復習
23. 第13課のポイント、本文
24. 第13課のトレーニング
25. 第14課のポイント、本文
26. 第14課のトレーニング
27. 第15課のポイント、本文
28. 第15課トレーニング
29. 第13～15課の復習
30. 総復習

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席状況:20% (2)受講態度:40% (3)定期試験:40%

中国語 (初級B)

担当者：新田 小雨子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義の使用テキストは基礎文法だけではなく、日常生活の中で使われるさまざまな表現も多く織り込まれている。さらに、異文化コミュニケーションに関する知識もたくさん取り上げられている。言語そのものを学ぶだけでなく、中国とはどんな国か、言語を学ぶことを通して、中国の文化、風習なども知ることができる。

2.学びの意義と目標

本講義では、会話を中心とし、いろいろな場面に応じた表現を理解した上で、応用できるようにロールプレイによる会話練習を行う。中国語の発音、基礎文法を身につけるだけでなく、より複雑な自己紹介、日常挨拶表現、旅行などの時に使用される表現を話せることも本講義のねらいである。

準備学習(予習)

- 1) 各課の単語と文型を事前に目を通すこと。
- 2) 単語の意味と読み方を事前に確認すること。

準備学習(復習)

- 1) 既習単語の読み書きを練習すること。
- 2) 既習単語を読み流すのではなく、暗記すること。
- 3) 声調に気を付けながら、各課の会話文を熟読すること。
- 4) 既習文型を理解し、応用できるように準備しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス
2. 発音復習
3. 発音復習
4. 基礎文型の復習
5. 基礎文型の復習
6. 基礎文型の復習
7. 第10課「寿司」:主述述語文・助動詞“能”・結果補語
8. 第10課「寿司」:本文・練習・ドリル
9. 第11課「スキー」:助動詞“会”・様態補語など
10. 第11課「スキー」:本文・練習・ドリル
11. 第12課「動物園」:方向補語・動詞の重ね型など
12. 第12課「動物園」:本文・練習・ドリル
13. 第12課「動物園」:中国語学習のための基礎知識・練習プリント
14. まとめ、中間テスト対策
15. 中間テスト
16. 第13課:「春休み」:疑問詞の不定用法など
17. 第13課:「春休み」:本文・練習・ドリル
18. 第13課:「春休み」:練習プリント
19. 第14課「空港の外」:可能補語・“把”構文など
20. 第14課「空港の外」:本文・練習・ドリル
21. 第14課「空港の外」:練習プリント
22. 第15課「ホテル」:選択疑問文・形容詞の重ね型など
23. 第15課「ホテル」:本文・練習・ドリル
24. 第15課「ホテル」:練習プリント
25. 第16課「部屋の中」:“就要~了”・“被”構文など
26. 第16課「部屋の中」:本文・練習・ドリル
27. 第16課「部屋の中」:練習プリント
28. 総復習
29. 総復習・期末テスト対策
30. 期末テスト・テスト解説

教科書

相原茂・陳淑梅・飯田敦子『初級テキスト 日中いぶこみ広場』(朝日出版社)

評価方法

- (1)出席率:30% (2)試験:30%:中間、期末
- (3)平常点:40%:受講態度、小テスト、宿題など

中国語 (初級B)

担当者：福田 素子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

2012年秋学期の「中国語I(初級A)」(福田)の続きを行う。

2.学びの意義と目標

一通りの中国語文法と語彙を身につけ、中国語でのコミュニケーション能力の基礎とする。中国語の各種検定受験のスタートラインに立てる語学力を身につける。

また、日本語とは何か、言語とは何かという問題意識も持てるようになってほしい。

準備学習(予習)

各課の新出単語は事前に目を通しておく。

準備学習(復習)

発音は直された点を忘れず、練習して身につける。学習した単語と構文はそのつど覚えていくこと。

授業計画

1. ガイダンス・復習
2. 復習
3. 復習
4. 第七課
5. 第七課
6. 第七課
7. 第八課
8. 第八課
9. 第八課
10. 第九課
11. 第九課
12. 第九課
13. 試験準備
14. 試験準備
15. 中間試験
16. 試験解説
17. 第十課
18. 第十課
19. 第十課
20. 第十一課
21. 第十一課
22. 第十一課
23. 第十二課
24. 第十二課
25. 第十二課
26. 第十三課
27. 第十三課
28. 第十三課
29. 復習
30. 授業内試験

教科書

相原茂・陳淑生・飯田敦子 『初級テキスト日中いぶこみ広場』(朝日出版社)

評価方法

(1)期末試験:50% (2)中間試験:25%
(3)小テスト受験:25%:小テスト原則として課の終了ごとに実施。
欠席が十回を越えると、期末試験の受験が出来ない。

ドイツ語 (初級A)

担当者：清水 威能子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ドイツ、オーストリア、スイスなどの公用語であるドイツ語を修得する第一歩として、正確な発音や基礎的な文法事項を学び、その応用として実践的な会話練習を行います。また映画などの映像を用いて、ドイツ語圏の国の文化、歴史、現代の社会事情も紹介します。

2.学びの意義と目標

欧米の文化や社会を深く理解するためには、直接的に知識や情報を得ることができる語学力が必要です。この授業は、そのような語学力の修得という最終目的を視野に入れながら、ドイツ語の発音を正確に身につけ、基礎的な文法を理解した上で、簡単な自己表現ができるようになること(ドイツ語検定試験5級程度の語学力)を目標とします。

また現在のヨーロッパは、各国の独自の文化を尊重しながらも、欧州連合(EU)として協調体制を組んでいます。従ってドイツ語を学び、ドイツ語圏の国の歴史、社会、文化に触れることは、ヨーロッパ全体を理解するための糸口にもなります。

準備学習(予習)

独和辞典で意味を調べながら、練習問題を解いたり、会話文を読んでおく。或いは、付属のCDを理解できるまで繰り返し聴き、リスニングの練習を行う。

準備学習(復習)

重要な構文や会話表現を暗唱する。

授業計画

1. ガイダンス(ドイツ語とドイツ語圏の国について)
2. アルファベットと発音練習(1)
3. 発音練習(2)
4. 発音練習(3)
5. 発音練習(4)
6. 基本的な挨拶表現
7. 1 課 動詞の現在人称変化
8. 1 課 疑問文と疑問詞
9. 1 課 自己紹介と人を紹介する
10. 2 課 語順
11. 2 課 決定疑問文と答え方
12. 2 課 現在形の応用練習
13. 3 課 定冠詞と名詞の格変化
14. 3 課 定冠詞類
15. 3 課 数詞と買い物に関する表現
16. 1～3 課までの復習(1)
17. 1～3 課までの復習(2)
18. 中間テスト、ドイツの町を理解する
19. 4 課 不定冠詞
20. 4 課 不定冠詞類
21. 4 課 否定冠詞を用いた否定文
22. オーストリア、ウィーンの文化と歴史を理解する
23. 5 課 不規則動詞の現在人称変化(1)
24. 5 課 冠詞の応用練習
25. 6 課 不規則動詞の現在人称変化(2)
26. 6 課 人称代名詞
27. 6 課 非人称のes
28. ドイツの現代事情
29. 4～6 課までの復習
30. まとめ

教科書

秋田静男、江口暁子、神谷善弘、河村麻里子、小林繁吉、黒澤優子、森川元之、中野有希子、竹村恭一郎、田村江里子『ドイツ語インフォメーション new』(朝日出版社)

評価方法

- (1)平常点:40%:授業への積極的な姿勢を評価
- (2)中間試験:30%
- (3)期末試験:30%

ドイツ語 (初級A)

担当者：宮崎 泰行

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ドイツ語未習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、文字の説明(名前・読み方)から始め、つづりと音の関係等、丁寧に時間をかけて進んでいきたいと思ひます。言葉の勉強ですので、文字だけではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進めていきたいと思ひます。辞書の使い方(記述の約束事・必要な情報の取り出し方・略語の理解の仕方等)も実際に教室で確認しながら進めます。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解のてがかりが得られるようになることを目標にしたいと思ひます。授業の後半には既習の文法事項を復習しながら、まとまった文を読む練習をしていきます。

2.学びの意義と目標

まず文法の説明を聞いて理解することから始め、外国語の学びに慣れていきましょう。基礎的なことを覚える努力は何をするにも大事なことでと思ひます。

準備学習(予習)

語学の授業ですので授業出席が基本になります。授業内容を聞いて理解する、理解したものを応用する練習をする、必要ならば辞書その他の参考資料にあたる、この繰り返しかえしに慣れていきましょう。

準備学習(復習)

授業中に課題を出すことがありますのでその課題をこなすことが復習につながっていきます。

授業計画

1. アルファベットの紹介 1
2. アルファベットの紹介 2 母音と子音
3. 発音 1 母音 1
4. 発音 2 母音 2
5. 発音 3 子音 1
6. 発音 4 子音 2
7. 発音 5 子音 3 確認・小テスト
8. 実際の文を声に出して読んでみる 数詞の紹介
9. Lektion1-1
10. Lektion1-2
11. Lektion1-3
12. Lektion2-1
13. Lektion2-2
14. Lektion2-3
15. Lektion3-1
16. Lektion3-2
17. Lektion3-3
18. Lektion4-1
19. Lektion4-2
20. Lektion4-3
21. Lektion5-1
22. Lektion5-2
23. Lektion5-3
24. Lektion6-1
25. Lektion6-3
26. 補足1 読本練習1 (教材はプリントで配布します)
27. 補足2 読本練習2 (教材はプリントで配布します)
28. 補足3 読本練習3 (教材はプリントで配布します)
29. 補足4 読本練習4 (教材はプリントで配布します)
30. 補足5 読本練習5 (教材はプリントで配布します)

教科書

秋田 他 『ドイツ語インフォメーションneu2』(朝日出版社)

評価方法

(1)中間試験:50% (2)期末試験:50%

ドイツ語 (初級A)

担当者：小谷 哲夫

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目/選択必修科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

c講義の目標及び概要

1.内容

本講義はドイツ語の学習未経験者を対象としたクラスです。アルファベットの読み方から始め単語・文章への読み、そして文法を一つずつ丁寧に学習していき、ドイツ語の文章読解へと進めていきます。

2.カリキュラム上の位置づけ

基礎教育科目のなかの第二外国語の科目で、欧米文化学科の学生は「フランス語」とともに、選択必修科目です。

2.学びの意義と目標

国際化・情報化の時代の今日、英語以外の外国語を学ぶことは大きな意義があり、欧米の文化をより深く理解する上でも、必須条件であると思います。

本講義では、まず読みの徹底、そして文法と読解へと進みながら、初級ドイツ語を学んでいきます。日常的な表現による易しい文章であれば、自分で辞書を引いて読むことが出来る水準に達することを目標とします。

準備学習(予習)

次の授業に対する予習の内容は毎回指示しますので、必ずやってくることを。

準備学習(復習)

毎回学習した内容の中で、特に重要な部分は必ず指摘しますので、必ず再確認して下さい。

授業計画

1. ガイダンス
2. アルファベット・ドイツ語の単語の発音
3. 前回の続き
4. ビデオ教材の用いた発音練習
5. 同上
6. 同上
7. 第0課 ドイツ語のあいさつ・数詞
8. 第1課 人称代名詞・動詞の現在人称変化等
9. 第1課の練習問題
10. 第2課 名詞の性・語順等
11. 第2課の続き
12. 第2課の練習問題
13. 第3課 定冠詞と名詞の格変化等
14. 第3課の続き
15. 第3課の練習問題
16. 第4課 不定冠詞・所有冠詞等
17. 第4課の続き
18. 第4課の練習問題
19. 第5課 現在人称変化の不規則な動詞(1)等
20. 第5課の続き
21. 第5課の練習問題
22. 第6課 現在人称変化の不規則な動詞(2)等
23. 第6課の続き
24. 第6課の練習問題
25. 第1課から第6課までの文法補足
26. 同上の続き
27. まとめとこれまでの学習内容の理解度の確認
28. 同上の続き
29. 同上の続き
30. 定期試験問題の説明

教科書

秋田 静男 他 『ドイツ語インフォメーション neu2』(朝日出版社)

評価方法

(1)定期試験:60% (2)小テスト:20% (3)出席・授業態度等の平常点:20%

ドイツ語 (初級B)

担当者：清水 威能子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ドイツ語 で学んだ内容を復習しながら、さらに新たな文法事項を学び、その応用として実践的な会話練習を行います。テキストの内容を学び終わった後は、読解力を養うために平易な文章を読みます。また映画などの映像を用いて、ドイツ語圏の国の文化、歴史、現代の社会事情も紹介します。

2.学びの意義と目標

欧米の文化や社会を深く理解するためには、直接的に知識や情報を得ることができる語学力が必要です。この授業は、そのような語学力の修得という最終目的を視野に入れながら、基礎的な会話表現を身につけ、短い文章を読み、書けるようになること(ドイツ語検定試験4級程度の語学力)を目標とします。

また現在のヨーロッパは、各国の独自の文化を尊重しながらも、欧州連合(EU)として協調体制を組んでいます。従ってドイツ語を学び、ドイツ語圏の国の歴史、社会、文化に触れることは、ヨーロッパ全体を理解するための糸口にもなります。

準備学習(予習)

独和辞典で意味を調べながら、練習問題を解いたり、会話文を読んでおく。或いは、付属のCDを理解できるまで繰り返し聴き、リスニングの練習を行う。

準備学習(復習)

重要な構文や会話表現を暗唱する。

授業計画

1. ガイダンスと発音の復習
2. ドイツ語 の復習(1)
3. ドイツ語 の復習(2)
4. ドイツ語 の復習(3)
5. ドイツ語 の復習(4)
6. 7 課 前置詞
7. 7 課 前置詞の応用表現
8. 8 課 助動詞
9. 8 課 助動詞の応用表現
10. 9 課 分離動詞
11. 9 課 命令形、時刻の表現
12. 7～9 課までの復習
13. ドイツの現代事情を映画で学ぶ(1)
14. ドイツの現代事情を映画で学ぶ(2)
15. 中間テスト
16. 10課 形容詞の格変化
17. 10課 形容詞の応用表現
18. 10課 再帰代名詞と再帰動詞
19. 11課 過去人称変化
20. 11課 従属接続詞
21. 11課 手紙を読む
22. 12課 現在完了形
23. 12課 現在完了形の応用表現
24. 12課 手紙を書く
25. 10～12課までの復習(1)
26. 10～12課までの復習(2)
27. 読解練習(1)
28. 読解練習(2)
29. 読解練習(3)
30. まとめ

教科書

秋田静男、江口暁子、神谷善弘、河村麻里子、小林繁吉、黒澤優子、森川元之、中野有希子、竹村恭一郎、田村江里子『ドイツ語インフォメーション new』(朝日出版社)

評価方法

- (1)平常点:40%:授業への積極的な姿勢を評価
- (2)中間試験:30%
- (3)期末試験:30%

ドイツ語 (初級B)

担当者：宮崎 泰行

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

ドイツ語I既習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、ドイツ語Iで学んだ内容を受け、文法事項の学習を続けていきます。言葉の勉強ですので、文字だけではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進めていきたいと思えます。辞書の使い方（記述の約束事・必要な情報の取り出しかた・略語の理解の仕方等）も実際に教室で確認しながら進めることはドイツ語Iと同じですが、さらに使い込みができるよう練習をしましょう。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解さらに磨きをかけましょう。授業の後半で、教科書には掲載されていない受動態、関係代名詞、接続法を説明し、時間がとれば読本練習をして、実際の文を声に出して読む・意味をつかむ訓練をしたいと思えます。授業時間に配布するプリントは原則として一回しか配布しませんので注意してください（公欠・忌引きはこの限りではありません）。

2.学びの意義と目標

ドイツ語 で習ったことについて他の文法事項を積み上げていきます。こつこつと着実に進んでいけばいくつもある山を越えられます。実際の独文を読む訓練も後半になれば出来ると思えます。

準備学習(予習)

語学の授業ですので授業出席が基本になります。聞いて理解する、理解したものを応用する練習をする、必要ならば辞書その他の参考資料にあたる、この繰り返しに慣れていきましょう。

準備学習(復習)

授業中課題を出しますので、それが復習・確認につながっていきます。

授業計画

- 1.発音とつづりの規則の復習
- 2.名詞の変化の復習
- 3.冠詞の変化の復習
- 4.現在人称変化の復習
- 5.Lektion7-1
- 6.Lektion7-2
- 7.Lektion7-3
- 8.Lektion8-1
- 9.Lektion8-2
- 10.Lektion8-3
- 11.復習と確認
- 12.Lektion9-1
- 13.Lektion9-2
- 14.Lektion9-3
- 15.Lektion9-4
- 16.Lektion10-1
- 17.Lektion10-2
- 18.Lektion11-1
- 19.Lektion11-2
- 20.Lektion12-1
- 21.Lektion12-2
- 22.受動態
- 23.関係代名詞
- 24.接続法1
- 25.接続法2
- 26.補足1 読本練習1（教材はプリント配布します）
- 27.補足2 読本練習2（教材はプリント配布します）
- 28.補足3 読本練習3（教材はプリント配布します）
- 29.補足4 読本練習4（教材はプリント配布します）
- 30.補足5 読本練習5（教材はプリント配布します）

教科書

秋田 他 『ドイツ語インフォメーションneu2』（朝日出版社）

評価方法

(1)中間試験:50% (2)期末試験:50%

日本キリスト教史 A

担当者：柳田 洋夫

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

日本のキリスト教の歴史について、特に明治以降のプロテスタントに重点を置きつつ、基礎的な事項を学ぶ。春学期は総体的・通時的な把握をふまえて、代表的キリスト者について学ぶ。

2.学びの意義と目標

日本におけるキリスト教の概について当時の社会・思想状況と併せて理解するとともに、宗教や信仰とは何かについて自ら考え実践に生かすことができるようになることを目指す。

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. ところ変われば宗教も変わる 和辻哲郎の風土論
2. キリスト教の迫害と解禁(1)
3. キリスト教の迫害と解禁(2)
4. キリスト教の迫害と解禁(3)
5. 教会はじめて物語
6. 聖書はじめて物語(1)
7. 聖書はじめて物語(2)
8. 讃美歌・唱歌・近代化(1)
9. 讃美歌・唱歌・近代化(2)
10. 新島襄と新島八重(1)
11. 新島襄と新島八重(2)
12. 植村正久
13. 熊本バンド
14. 山村暮鳥
15. まとめと試験

教科書

プリントを配布する

【参考文献】

鶴沼裕子『史料による日本キリスト教史』（聖学院大学出版会）
海老沢有道『日本キリスト教史』（日本キリスト教団出版局）
土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』（新教出版社）

評価方法

(1)出席・参加度:40% (2)試験:40% (3)礼拝レポート:20%
試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

日本キリスト教史B

担当者：柳田 洋夫

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

日本のキリスト教の歴史について、特に明治以降のプロテスタントに重点を置きつつ、基礎的な事項を学ぶ。秋学期は代表的キリスト者や関連する思想家を取り上げ、その生涯・信仰・思想について学ぶ。

2.学びの意義と目標

日本におけるキリスト教の概について当時の社会・思想状況と併せて理解するとともに、宗教や信仰とは何かについて自ら考え実践に生かすことができるようになることを目指す。

準備学習(予習)

授業においてその都度指示する。

準備学習(復習)

授業においてその都度指示する。

授業計画

1. ヘボン
2. フルベッキ
3. 内村鑑三(1)
4. 内村鑑三(2)
5. 新渡戸稲造と「武士道」(1)
6. 新渡戸稲造と「武士道」(2)
7. 岡倉天心と「茶道」(1)
8. 岡倉天心と「茶道」(2)
9. ニコライ神父とギリシア正教
10. 八木重吉と三木露風
11. 矢内原忠雄
12. 森有正
13. 三浦綾子(1)
14. 三浦綾子(2)
15. まとめと試験

教科書

プリントを配布する

【参考文献】

鶴沼裕子『近代日本キリスト者の信仰と倫理』（聖学院大学出版会）
『近代日本のキリスト教思想家たち』（日本基督教団出版局）

評価方法

(1)出席・参加度:40% (2)試験:40% (3)礼拝レポート:20%
試験と礼拝レポートの詳細については授業で指示する。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。

日本語 1 (基礎文法) A

担当者：大越 貴子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

基礎的な日本語文法を復習し、より上級の文脈において運用できるようにする。

- (1) 文法が聞いてわかるかどうか確認する。
- (2) 文法の用法を理解し、用法練習をする。
- (3) 学んだ文法を使用した表現の練習をする。
- (4) 各課ごとに文法の確認の小テストを行う。

2.学びの意義と目標

大学で講義を受けるために必要な基礎的な日本語の文法力を習得し、その定着をはかり、さらに運用できるようにする。

準備学習(予習)

次の週に行う授業のプリントを渡すので、前もって自分でやっておくこと。

準備学習(復習)

習ったところは復習すること。課が終わるごとに復習テストを行う。習った文法項目を使った作文を課することがある。

授業計画

1. 授業概要、チェックテスト、他動詞・自動詞－ 1
2. 他動詞・自動詞－ 2
3. 他動詞・自動詞－ 3
4. 受給表現 - 1
5. 受給表現 - 2
6. 受給表現 - 3、受け身 - 1
7. 受け身 - 2
8. 中間テスト・受け身 - 3
9. 使役・使役受け身 - 1
10. 使役・使役受け身 - 2
11. 助詞－「は」と「が」－ 1
12. 助詞－「は」と「が」－ 2
13. 助詞の整理－ 1
14. 助詞の整理－ 2
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 中間・期末テスト:60%
- (2) 小テストおよび宿題:20%
- (3) 授業への参加度:10%
- (4) 出席率:10%

日本語 1 (基礎文法) B

担当者：大越 貴子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

基礎的な日本語文法を復習し、より上級の文脈において運用できるようにする。

- (1) 文法項目が聞いてわかるかどうか確認する。
- (2) 文法の用法を理解し、用法練習をする。
- (3) 学んだ文法を使用した表現の練習をする。
- (4) 各課ごとに文法の確認の小テストを行う。

2.学びの意義と目標

大学で講義を受けるために必要な基礎的な日本語の文法力を習得し、その定着をはかり、さらに運用できるようにする。

準備学習(予習)

次の週に行う授業のプリントを渡すので、前もって自分でやっておくこと。

準備学習(復習)

習ったところは復習すること。課が終わるごとに復習テストを行う。習った文法を使った作文を課することがある。

授業計画

1. 講義概要、チェックテスト、敬語 - 1
2. 敬語 - 2
3. 敬語 - 3
4. の・こと - 1
5. の・こと - 2
6. 連用修飾節II - 1
7. 中間テスト / 連用修飾節II - 2
8. 連用修飾節II - 3、連用修飾節I - 1
9. 連用修飾節I - 2
10. 連用修飾節I - 3、連用修飾節III - 1
11. 連用修飾節III - 2
12. 連用修飾節III - 3
13. 引用節 - 1
14. 引用節 - 2
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 中間・期末テスト:60%
- (2) 小テストおよび宿題:20%
- (3) 授業への参加度:10%
- (4) 出席率:10%

日本語 1 (総合) A

担当者：内藤 みち

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。

2.学びの意義と目標

大学での学習に必要な日本語力を身につけるためにその基礎力の定着向上をはかる。

準備学習(予習)

各読解教材に入る前には必ずその課の読み物を各自が読み、内容把握・語彙の意味や文型を調べる。また、漢字の読みの予習クイズが各課で実施される。

準備学習(復習)

学習した語彙・文型を使用しての短文作成、各課の語彙・文型の復習練習問題が課題となる。必要に応じて、学習項目の復習クイズが実施される。

授業計画

1. 授業概要、文体の導入、自己紹介文作成、
2. 読解「日本人の行動様式」
3. 読解「日本人の行動様式」
4. 読解「日本のビジネス」
5. 読解「日本のビジネス」
6. 音声言語理解「大学生活」
7. 音声言語理解「大学生活」
8. 中間試験
9. 読解「環境」
10. 読解「環境」
11. 読解「環境」
12. 読解「異文化理解」
13. 読解「異文化理解」
14. 読解「異文化理解」
15. 音声言語理解「環境と人間」

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)中間試験:30% (2)期末試験:30% (3)漢字クイズ:10%
(4)復習クイズ:10% (5)クラスワーク:20%

日本語 1 (総合) A

担当者：太田 ミユキ

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

基礎的日本語能力の習得と定着を目標とする。
時刻表や広告、さまざまなお知らせなどを教材とし、スキミングやスキミングの技術を用いて、多読や速読を可能にする。
読解力の向上のために必要な語彙力を身につけるため、語彙クイズや漢字クイズなども行う。

2.学びの意義と目標

日常生活のさまざまな情報を効率よく読み取るための技術を身につけ、読解力を向上させる。

準備学習(予習)

毎回の課題に合わせた事前学習を授業の中で指示する

準備学習(復習)

授業内で作成した課題シートを確認し、復習すること。

授業計画

1. オリエンテーション・自己紹介
2. スキャニングの技術を使う(1)
3. スキャニングの技術を使う(2)
4. スキャニングの技術を使う(3)
5. スキャニングの技術を使う(4)
6. スキャニングの技術を使う(5)
7. スキャニングの技術を使う(6)
8. 中間テスト・スキミングの技術を使う(1)
9. スキミングの技術を使う(2)
10. スキミングの技術を使う(3)
11. スキミングの技術を使う(4)
12. スキャニングとスキミングの技術を使う(1)
13. スキャニングとスキミングの技術を使う(2)
14. スキャニングとスキミングの技術を使う(3)
15. スキャニングとスキミングの技術を使う(4)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:60% (2)課題提出など平常点:15% (3)出席:15% (4)クイズ:10%
欠席が全授業数の3分の1を超える場合は評価の対象とならない。

日本語 1 (総合) B

担当者：内藤 みち

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

主に読解教材を使用し、大学レベルの日本語力の基礎的語彙・文型を学ぶとともに、読解内容に関連する日本社会における思考行動様式等、様々な情報・文化に触れる。日本語力向上のために授業外での教材に関連する予習復習課題が毎回課せられる。

2.学びの意義と目標

大学での学習に必要な日本語力を身につけるためにその基礎力の定着向上をはかる。

準備学習(予習)

各読解教材に入る前には必ずその課の読み物を各自が読み、内容把握・語彙の意味や文型を調べる。また、漢字の読みの予習クイズが各課で実施される。

準備学習(復習)

学習した語彙・文型を使用しての短文作成、各課の語彙・文型の復習練習問題が課題となる。必要に応じて、学習項目の復習クイズが実施される。

授業計画

1. 授業概要、文体の導入、自己紹介文作成
2. 読解「日本の文化」
3. 読解「日本の文化」
4. 読解「日本社会」
5. 読解「日本社会」
6. 音声言語理解「働く人々」
7. 音声言語理解「働く人々」
8. 中間試験
9. 読解「福祉」
10. 読解「福祉」
11. 音声言語理解「福祉」
12. 読解「日本製の品々」
13. 読解「日本製の品々」
14. 音声言語理解「日本のモノづくり」
15. 音声言語理解「日本のモノづくり」

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)中間試験:30% (2)期末試験:30% (3)漢字クイズ:10%
(4)復習クイズ:10% (5)クラスワーク:20%

日本語 1 (総合) B

担当者：太田 ミユキ

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

基礎的日本語能力の習得と定着を目標とする。
新聞記事、評論文などを教材とし、スキミングやスキミングの技術を用いて、多読や速読を可能にする。
さまざまな社会問題を取り上げるため、適宜ビデオ教材も使うこともある。
読解力の向上のために必要な語彙力を身につけるため、語彙クイズや漢字クイズなどを行う。

2.学びの意義と目標

レポート作成や論文作成する際に必要な文献を効率よく読み取れる力を養う。

準備学習(予習)

毎回の課題に合わせた事前学習を授業の中で指示する。

準備学習(復習)

授業内で作成した課題シートを確認し、復習すること。

授業計画

1. オリエンテーション・自己紹介
2. さまざまな速読技術 (1)
3. さまざまな速読技術 (2)
4. さまざまな速読技術 (3)
5. 必要な情報を取り出す (1)
6. 必要な情報を取り出す (2)
7. 正誤問題 (1)
8. 中間テスト・正誤問題 (2)
9. トピックを考える (1)
10. トピックを考える (2)
11. トピックを考える (3)
12. 次に続く内容を予測する (1)
13. 次に続く内容を予測する (2)
14. 新聞の見出しを読む (1)
15. 新聞の見出しを読む (2)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:60% (2)課題提出など平常点:15% (3)出席:15% (4)クイズ:10%
欠席が全授業数の3分の1を超える場合は評価の対象とならない。

日本語 1 (調査・発表) A

担当者：木原 郁子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

大学の授業に必要な口頭発表の表現や、具体的に調査や発表する方法について学ぶ。発音練習を行うとともに、日本語での発表に慣れるため、学期中に複数回スピーチや発表を行う。あるテーマについて各自調べた内容をまとめて発表したり、そこから自分で考えたことについて発表したりする。また、他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることも行い、発表用レジュメの書き方も併せて学ぶ。

2.学びの意義と目標

日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。毎回、発音練習をすることで、日本語のリズムに慣れ親しみ、自律した学習が進められるよう導く。その後の大学での活動や就職活動・仕事上のプレゼンテーションの基本となる授業である。

準備学習(予習)

資料収集や発表原稿など、毎回なんらかの宿題が課されるので、きちんとこなすこと。自分の原稿は、何度も口頭練習をすること。

準備学習(復習)

資料収集や発表原稿書きなど、毎回なんらかの宿題が課される。また、授業内で練習した「発音練習シート」を1日に10回程度、口頭練習すること。

授業計画

1. 講義ガイダンス、自己紹介
2. 図書館ツアー
3. 発表1 - 1 「私の大切なもの」原稿作成・練習
4. 発表1 - 2 「私の大切なもの」練習・発表
5. 発表2 - 1 「こちらの方が 」導入・資料集め
6. 発表2 - 2 「こちらの方が 」資料集め・原稿作成
7. 発表2 - 3 「こちらの方が 」原稿作成・練習
8. 発表2 - 4 「こちらの方が 」練習・発表
9. 発表3 - 1 「日本の 」導入・資料集め
10. 発表3 - 2 「日本の 」資料集め・原稿作成
11. 発表3 - 3 「日本の 」資料集め・原稿作成
12. 発表3 - 4 「日本の 」原稿作成・レジュメ作成
13. 発表3 - 5 「日本の 」原稿作成・レジュメ作成・練習
14. 発表3 - 6 「日本の 」練習・発表
15. 発表3 - 7 「日本の 」発表・まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)中間発表:30% (2)期末発表:40%
(3)平常点(提出物・発音練習・ミニ発表など):20% (4)出席:10%
*欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

日本語 1 (調査・発表) B

担当者：木原 郁子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

大学の授業に必要な口頭発表の表現や、具体的に調査や発表する方法について学ぶ。発音練習を行うとともに、日本語での発表に慣れるため、学期中に複数回スピーチや発表を行う。あるテーマについて各自調べた内容をまとめて発表したり、そこから自分で考えたことについて発表したりする。また、他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることも行い、発表用レジュメの書き方も併せて学ぶ。

2.学びの意義と目標

日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。毎回、発音練習をすることで、日本語のリズムに慣れ親しみ、自律した学習が進められるよう導く。その後の大学での活動や就職活動・仕事上のプレゼンテーションなどの口頭表現の基礎となる授業である。

準備学習(予習)

資料収集や発表原稿など、毎回なんらかの宿題が課されるので、きちんとこなすこと。自分の原稿は、何度も口頭練習をすること。

準備学習(復習)

資料収集や発表原稿書きなど、毎回なんらかの宿題が課される。また、授業内で練習した「発音練習シート」を1日に10回程度、口頭練習すること。

授業計画

1. 講義ガイダンス、自己紹介
2. 図書館ツアー
3. 発表1 - 1 「旅行に行くなら」 導入・資料集め
4. 発表1 - 2 「旅行に行くなら」 資料集め・原稿作成
5. 発表1 - 3 「旅行に行くなら」 原稿作成
6. 発表1 - 4 「旅行に行くなら」 原稿作成・レジュメ作成・練習
7. 発表1 - 5 「旅行に行くなら」 原稿作成・レジュメ作成・練習
8. 発表1 - 6 「旅行に行くなら」 練習・発表
9. 発表2 - 1 「新製品を作ろう」 導入・資料集め
10. 発表2 - 2 「新製品を作ろう」 資料集め・原稿作成
11. 発表2 - 3 「新製品を作ろう」 資料集め・原稿作成
12. 発表2 - 4 「新製品を作ろう」 原稿作成・レジュメ作成
13. 発表2 - 5 「新製品を作ろう」 原稿作成・レジュメ作成・練習
14. 発表2 - 6 「新製品を作ろう」 練習・発表
15. 発表2 - 7 「新製品を作ろう」 発表・まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)中間発表:30% (2)期末発表:40%
(3)平常点(提出物・発音練習・ミニ発表など):20% (4)出席:10%
*欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。

日本語 1 (表現文型) A

担当者：内藤 みち

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

- 1.日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。
- 2.日本語能力試験N3レベルの日本語文法を復習し、日本語能力試験N2レベルの文法項目を学習する。
- 3.短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。
- 4.文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。
- 5.課ごとに文法の確認の小テストを行う。
- 6.中間試験と期末試験を行う。

2.学びの意義と目標

- 1.外国人留学生のための授業で大学の講義を受ける上での不可欠な、四技能の基礎である文法能力の養成のためのものである。
- 2.大学で講義を受けレポートを書くために必要な基礎的な日本語の文法力の向上とその定着を目指す。

準備学習(予習)

- ・予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておく。
- ・当日学習する文型のディクテーションをするので、よく読んでくる。

準備学習(復習)

- ・例文を作成する。
- ・小テストに備えての復習をする。

授業計画

1. ガイダンス・チェックテスト
2. N3レベル文法
3. N3レベル文法
4. N3レベル文法
5. N3レベル文法
6. N2レベル文法 Unit 1 - 1
7. N2レベル文法 Unit 1 - 2
8. 復習
9. 中間試験・短文作成・フィードバック
10. N2レベル文法Unit 2 - 1
11. N2レベル文法Unit 2 - 2
12. N2レベル文法Unit 3 - 1
13. N2レベル文法Unit 3 - 2
14. 復習
15. 総まとめ

教科書

渡邊亜子・白石知代 『N2文法スピードマスター』(Jリサーチ出版)

評価方法

(1)中間テスト:25% (2)期末テスト:25%
(3)復習クイズ・宿題・短文作成:30% (4)クラスワーク:20%
欠席が3分の1を超える場合は、評価の対象とならない。

日本語 1 (表現文型) B

担当者：内藤 みち

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

- 1.日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び運用できるようにする。
- 2.日本語能力試験N2レベルの文法項目を学習する。
- 3.短い読み物や会話表現などを用いることによって、どのように文法項目が使われるのかを理解し日本語の文法力の向上をはかる。
- 4.文法の用法を理解し練習した後、さらに実際に例文を作成し、理解を深める。
- 5.課ごとに文法の確認の小テストを行う。
- 6.中間試験と期末試験を行う。

2.学びの意義と目標

- 1.外国人留学生のための授業で大学の講義を受ける上での不可欠な、四技能の基礎である文法能力の養成のためのものである。
- 2.大学で講義を受けレポートを書くために必要な基礎的な日本語の文法力の向上とその定着を目指す。

準備学習(予習)

- ・予定の部分に使われている言葉は授業の中で説明しないので、事前に意味を調べ、理解しておく。
- ・当日学習する文型のディクテーションをするので、よく読んでくる。

準備学習(復習)

- ・例文を作成する。
- ・小テストに向けての復習をする。

授業計画

1. ガイダンス・チェックテスト
2. N2レベル文法Unit 4 - 1
3. N2レベル文法Unit 4 - 2
4. N2レベル文法Unit 5 - 1
5. N2レベル文法Unit 5 - 2
6. N2レベル文法Unit 6 - 1
7. N2レベル文法Unit 6 - 2
8. 復習
9. 中間試験・短文作成・フィードバック
10. N2レベル文法Unit 7 - 1
11. N2レベル文法Unit 7 - 2
12. N2レベル文法Unit 8 - 1
13. N2レベル文法Unit 8 - 2
14. 復習
15. 総まとめ

教科書

渡邊亜子・白石知代 『N2文法スピードマスター』(Jリサーチ出版)

評価方法

(1)中間テスト:25% (2)期末テスト:25%
(3)復習クイズ・宿題・短文作成:30% (4)クラスワーク:20%
欠席が3分の1を超える場合は、評価の対象とならない。

日本語 1 (文章表現) A

担当者：黒崎 佐仁子, 太田 ミユキ

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本講義は、日本語を母語としない外国人留学生が講義レポートを日本語で書けるようになるための基礎力を養成するものである。一文からはじめ、最終的には600～800字の文章を作成する。学生自身の文章作成とともに、日本語の文章の特徴を学習し、日本語における論理的な文章とは何かを学んでいく。

2.学びの意義と目標

大学での講義レポートや卒業論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけることを学びの目標とする。

準備学習(予習)

予習用プリントを配布するため、きちんと丁寧に予習してもらいたい。

準備学習(復習)

毎時間、課題を出すため、きちんと丁寧に復習してもらいたい。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.「できるだけ書いてみよう」「言葉の地図を作ってみよう」
- 3.「順番を考えて書いてみよう」
- 4.「理由を考えて書いてみよう」
- 5.「イラストを見て書いてみよう」
- 6.「論理的に考えて書いてみよう」
- 7.テスト
- 8.テストフィードバック
- 9.作文の基本(1)(2)
- 10.書きことばの文体 普通体 連用中止形
- 11.話し言葉から書き言葉へ
- 12.話し言葉から書き言葉へ
- 13.正しい構造の文
- 14.正しい構造の文
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:25% (2)課題:25% (3)中間試験:25% (4)期末試験:25%

日本語 1 (文章表現) B

担当者：黒崎 佐仁子, 太田 ミユキ

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本講義は、日本語を母語としない外国人留学生が講義レポートを日本語で書けるようになるための基礎力を養成するものである。学生自身の文章作成とともに、日本語の文章の特徴を学習し、日本語における論理的な文章とは何かを学んでいく。また、レポート等の文章のほか、待遇表現を意識した手紙やE-mailの書き方についても学習する。

2.学びの意義と目標

大学での講義やレポート、更に就職活動や卒業論文に自信を持って臨めるような日本語の文章力を身につけることを学びの目標とする。

準備学習(予習)

予習用のプリントを配布するために、きちんと丁寧に勉強してくること。

準備学習(復習)

毎時間、課題を出すため、きちんと丁寧に課題に取り組むこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「文章を読んで図や表にしてみよう」
3. 「表・グラフ以外のものの内容を読み取ってみよう」
4. 表記のしかた
5. 硬い文章
6. 文章のまとめ
7. 中間テスト
8. フィードバック
9. 図表の提示
10. 数値を示す
11. 引用して書く
12. 引用して書く
13. Eメールの書き方
14. Eメールの書き方
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:25% (2)課題:25% (3)中間試験:25% (4)期末試験:25%

日本語 2 (音声表現理解) A

担当者：船山 久美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

大学の講義、テレビやインターネットの動画などを視聴し、音声や映像などの情報を理解して対応したり、自分の言葉でまとめたり、自分の考えが発信できるような日本語のコミュニケーション能力を養成することを目標とする。

授業では以下のことを行う。

聞き取れた音声などの情報から、意味を再構築できるように聴解ストラテジーを学ぶ。

大意をわかりやすく文章にまとめる練習を行う。

語彙を拡大し、文型を定着させるために聞き取りクイズを行う。

理解した情報をもとに自分の考えを発表して話し合う。

日本語能力試験1級の聴解・聴読解を意識した練習をする。

授業計画

1. ガイダンス 聴解能力の自己評価 ペアディクテーション 聴解ストラテジー（反応する）
2. アカデミック・ジャパニーズ 聴解ストラテジー（文法を意識して聞く）
3. 講義を聴く 聴解ストラテジー（文法を意識して聞く）
4. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（情報を選別する）
5. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（情報を選別する）
6. 講義を聴く 聴解ストラテジー（推測する）
7. 講義を聴く 聴解ストラテジー（モニターする）
8. 中間試験
9. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（予測する）
10. ニュースを視聴する 聴解ストラテジー（キーワード）
11. 講義を聴く 聴解ストラテジー（違いに注目する）
12. 講義を聴く 聴解ストラテジー（スキミング）
13. ドラマを見る 聴解ストラテジー（話の展開を予測する）
14. ドラマを見る 聴解ストラテジー（大意をまとめる）
15. 期末試験

2.学びの意義と目標

留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通じて日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。日本語2（音声表現理解）Aでは必要な情報を正確に理解して対応することや、講義を聴いてノートをとるような「受信型」のスキルの習得に重点を置く。

準備学習(予習)

単語リストを配布するので単語や表現の予習をすること。

教科書

プリントを配布する

準備学習(復習)

授業で視聴した動画の聞き取りテストのための復習をすること。

評価方法

(1)課題:30% (2)試験:40% (3)平常点:30%
。 欠席が3分の1を超える場合には単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

日本語 2 (音声表現理解) B

担当者: 太田 ミユキ

開講期: 秋学期 必修・選択: 選択科目 授業回数: 週1回 単位数: 1単位

講義概要

1. 内容

大学の講義、ニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、バラエティーなどの幅広いジャンルの番組を視聴し、正確に理解すると同時に、大意をまとめられるようになることを目指す。背景知識として必要な最新の日本社会の情報や現代日本の若者の考え方について学ぶ。読み解くための能力を養い、見たものに対して自分の考えを発信できるようになることを目指す。

授業では以下のことを行う。

聴解のストラテジーを学ぶ。

聞き取った内容の大意を文章にまとめる。

上級の語彙を拡大し、文型を定着させる。

番組の意図を考え、自分がどのように視聴したのか考えてレポートに書く。

日本語能力試験1級の聴解・聴読解を意識した練習をする。

授業計画

1. ガイダンス 聴解ストラテジー (予測する)
2. 講義を視聴する 聴解ストラテジー (キーワードや数字)
3. 講義を視聴する 聴解ストラテジー (情報の選別)
4. ドキュメンタリーを視聴する、 聴解ストラテジー (大意をまとめる)
5. ドキュメンタリーを視聴する
6. ニュース特集を視聴する、聴解ストラテジー (カタカナのことば)
7. ニュース特集を視聴する、聴解ストラテジー (カタカナのことば)
8. 中間試験
9. ドラマを視聴する、聴解ストラテジー (聞き取りにくい音)
10. ドラマを視聴する 聴解ストラテジー (音の変化)
11. 動画を視聴する
12. 動画を視聴する、番組の分析 (1)
13. 動画を視聴する、番組の分析 (2)
14. まとめ
15. 期末試験

2. 学びの意義と目標

留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通じて日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。日本語 2 (音声表現理解) Bでは聞いて理解したことにもとづいて意見を述べたりする「発信型」のスキルの取得に重点を置く。

準備学習(予習)

単語リストを配布するので単語や表現の予習をすること。

教科書

プリントを配布する

準備学習(復習)

授業で視聴した動画の聞き取りテストのための復習をすること。

評価方法

(1)課題:30% (2)試験:40% (3)平常点:30%

欠席が3分の1を超える場合には単位は与えられない。 出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

日本語 2 (総合) A

担当者：黒崎 佐仁子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

日本語を母語としない留学生の日本語力の伸張を旨とする授業である。特にこの授業では、読解力に力を入れる。リライトされた易しい文章を多読、速読後、原文を読むことによって、しっかりと文章の意味を把握する訓練を行う。

2.学びの意義と目標

分かる語彙だけを拾うのではなく、精読し、正確に文章の表現しているものを読み取る力を付けることを目標とする。

準備学習(予習)

学ぶ範囲の予習をきちんと丁寧に行うこと。また、毎時間、語彙試験を行うため、試験勉強も欠かさないこと。

準備学習(復習)

毎時間、前の時間で学んだ範囲の小テストを行うため、しっかりと復習をすること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 『走れメロス』(にほんごよむよむ文庫)
3. 『走れメロス』(東京出版)
4. 『走れメロス』(東京出版)
5. 『走れメロス』(東京出版)
6. 『高瀬舟』(にほんごよむよむ文庫)
7. 『高瀬舟』(光村図書)
8. 『高瀬舟』(光村図書)
9. 『高瀬舟』(光村図書)
10. 中間試験
11. 中間試験フィードバック
12. メディアと上手に付き合うために(光村図書)
13. ネット時代のコペルニクス(光村図書)
14. ネット時代のコペルニクス(光村図書)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席:25% (2)小テスト:5% (3)中間試験:30% (4)期末試験:30% (5)参加態度:10%

日本語 2 (総合) A

担当者：木原 郁子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

1.内容

本講義は、日本語を母語としない外国人留学生の日本語四技能（読む・書く・聴く・話す）の総合的な伸長を目的とする。

四技能の総合トレーニングとしては、新聞記事等の読解とディスカッション、学生自身による新聞記事の収集と発表、文化および社会的背景を持った語彙の予習とそれを利用した視聴覚教材による聴解練習などを行う。

なお、語彙力の強化のため、毎回カタカナのディクテーションまたは漢字の小テストを行う。

2.カリキュラムの位置づけ

留学生の語学科目である。

2.学びの意義と目標

大学生活を送る上で必要となる日本語能力の伸長とともに、ことばで自分の意見を表現すること及び発表する事柄を自分で探す習慣を付けることを学びの目標とする。

準備学習(予習)

読解教材の語句の意味、漢字の読み等は、授業前に予習しておくこと。また、毎回、授業のはじめに復習クイズを行うため、しっかりと自学習を行うこと。

準備学習(復習)

各課のまとめプリントを必ず完成すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.長文読解第1課 「清潔好きの日本人」
- 3.長文読解第1課 「清潔好きの日本人」
- 4.長文読解第2課 「少子高齢化の現状と対策」
- 5.長文読解第2課 「少子高齢化の現状と対策」
- 6.長文読解第3課 「お互いのコミュニケーションのために」
- 7.長文読解第3課 「お互いのコミュニケーションのために」
- 8.長文読解第4課 「古来の知恵が弊害か」
- 9.長文読解第4課 「古来の知恵が弊害か」
- 10.長文読解第5課 「日米の大学生はどこが違う」
- 11.長文読解第5課 「日米の大学生はどこが違う」
- 12.長文読解第6課 「社会保障という備え」
- 13.長文読解第6課 「社会保障という備え」
- 14.長文読解第7課 「少年犯罪における匿名報道の是非」
- 15.長文読解第7課 「少年犯罪における匿名報道の是非」

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:40% (2)小テスト:20% (3)授業参加度:20% (4)出席点:20%

日本語 2 (総合) B

担当者：黒崎 佐仁子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

日本語を母語としない留学生の日本語力の伸長を旨とする授業である。新書、エッセー、新聞など多様な文章を読む力を付ける。

2.学びの意義と目標

分かる語彙だけを拾うのではなく、精読し、正確に文章の表現しているものを読み取る力を付けることを目標とする。

準備学習(予習)

学ぶ範囲の予習をきちんと丁寧にしておくこと。また、毎時間、語彙試験を行うため、試験勉強も欠かさないこと。

準備学習(復習)

毎時間、前の時間で学んだ範囲の小テストを行うため、しっかりと復習をしておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 「好きと嫌いの心理と効果的な『第一印象』の与え方」
3. 「好きと嫌いの心理と効果的な『第一印象』の与え方」
4. 「好きと嫌いの心理と効果的な『第一印象』の与え方」
5. 「自分を好きにさせるためのごく日常的な方法」
6. 「自分を好きにさせるためのごく日常的な方法」
7. 「自分を好きにさせるためのごく日常的な方法」
8. 中間試験
9. 中間試験フィードバック
10. 「真っ白な嘘」「電車の中で若者に注意」
11. 「料理」「美しさ」
12. 「論理の展開に注目して読もう」(光村図書)
13. 新聞記事
14. 新聞記事
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席:25% (2)小テスト:5% (3)中間試験:30% (4)期末試験:30% (5)参加態度:10%

日本語 2 (総合) B

担当者：船山 久美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

1.内容

本講義は、日本語を母語としない外国人留学生の日本語四技能（読む・書く・聴く・話す）の総合的な伸長を目的とする。

四技能の総合トレーニングとしては、読解とディスカッション、長文読解とその聴解、視聴覚教材による日本語のバリエーションの理解などを行う。

なお、語彙力の強化のため、毎回カタカナのディクテーションまたは漢字の小テストを行う。

2.カリキュラムの位置づけ

留学生の語学科目である。

2.学びの意義と目標

大学生活を送る上で必要となる日本語能力の伸長とともに、ことばで自分の意見を表現すること及び実際に用いられている日本語の多様性を観察することを学びの目標とする。

準備学習(予習)

読解教材の語句の意味、漢字の読み等は、授業前に予習しておくこと。また、毎回、授業のはじめに復習クイズを行うため、しっかりと自学習を行うこと。

準備学習(復習)

各課のまとめプリントを完成すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.長文読解第8課「日本のな経営慣行と新時代の到来」
- 3.長文読解第8課「日本のな経営慣行と新時代の到来」
- 4.長文読解第9課「働く人のボランティア活動」
- 5.長文読解第9課「働く人のボランティア活動」
- 6.長文読解第10課「都市から地方へ、人は移り住む」
- 7.長文読解第10課「都市から地方へ、人は移り住む」
- 8.長文読解第11課「生産に必要な水とエネルギー」
- 9.長文読解第11課「生産に必要な水とエネルギー」
- 10.長文読解第12課「江戸のしぐさと現代人のモラル」
- 11.長文読解第12課「江戸のしぐさと現代人のモラル」
- 12.長文読解第13課「世界共通語になった日本の精神」
- 13.長文読解第13課「世界共通語になった日本の精神」
- 14.長文読解第14課「格差社会と教育」
- 15.長文読解第14課「格差社会と教育」

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:40% (2)小テスト:20% (3)授業参加度:20% (4)出席点:20%

日本語 2 (調査・発表) A

担当者：棚橋 明美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

留学生が大学の授業内で、口頭発表・討論を行う力を養成する。資料の集め方、アンケートなどの調査の仕方、データ分析とそのまとめ方、レジュメの作り方、発表や討論の仕方などを学びながら、最終的に自分の関心のあるテーマについての調査結果を発表し、それをレポートにまとめて提出する。

2.学びの意義と目標

自分でテーマを探し、適切な調査が行える。調査したことを取捨選択して、レジュメにまとめられる。聞き手に理解してもらえ発表にする。討論に参加できる。発表における聞き手の重要性を知り役割を果たす。

準備学習(予習)

必要な場合は指示する。

準備学習(復習)

授業時間以外に自主的に調査や発表の準備をする必要がある。その途中経過を小発表し、説明用のシートなどを作成する必要もある。

授業計画

1. 授業説明、自己紹介と関心事について[小発表]
2. 調査計画について[小発表]
3. 図書館オリエンテーション
4. 調査の基本（文献、アンケート、質問票の作成方法）
5. アウトラインについて[小発表]
6. アンケートシート作成
7. 図表の説明の仕方
8. 資料のまとめ方
9. 発表の仕方、質問の仕方と答え方、討論の仕方
10. レジュメの作り方、発音練習、発表原稿作成
11. 最終発表 1
12. 最終発表 2
13. 最終発表 3
14. 最終発表 4
15. まとめ、最終レポート提出

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)小発表:20% (2)平常点:20%:クラス活動への参加度、課題提出
(3)出席点:20% (4)最終発表:20%:レジュメ含む。スピーチ原稿含む。
(5)最終レポート:20%
小発表当該日に欠席した場合、メイクアップはされない。
欠席が三分の一を超える場合は評価しない。

日本語 2 (調査・発表) B

担当者：棚橋 明美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

留学生が大学の授業において口頭発表・討論を行う力を養成する。内容としては、資料の集め方、アンケートなどの調査の仕方、データ分析とまとめ方、レジュメの作り方、発表や討論の仕方などを学びながら、最終的には、自分の関心のあるテーマについての調査結果を発表し、それをレポートにまとめて提出する。

2.学びの意義と目標

自分でテーマを探し、適切な調査が行える。調べたことを取捨選択して、レジュメにまとめられる。聞き手に理解してもらえ発表が工夫できる。討論に参加できる。発表における聞き手の重要性を知り役割を果たす。

準備学習(予習)

必要な場合は指示する。

準備学習(復習)

授業時間以外に、自主的に調査や発表の準備をする必要がある。その途中経過を小発表し、説明用のシートなどを作成する必要もある。

授業計画

1. 授業説明、自己紹介と関心事について[小発表]
2. 調査計画について[小発表]
3. 調査の基本（文献、アンケート、インタビュー）、発表構成検討
4. アウトラインについて[小発表]
5. インタビューの仕方
6. 調査シートについて[小発表]
7. 図表の説明の仕方
8. 資料のまとめ方
9. 発表の仕方、質問の仕方と答え方、討論の仕方
10. レジュメの作り方、発音練習、発表原稿作成
11. 最終発表
12. 最終発表
13. 最終発表
14. 最終発表
15. まとめ、課題提出

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)小発表:20% (2)平常点:20%:クラス活動への参加度、課題提出
(3)出席点:20% (4)最終発表:20%:レジュメ含む。スピーチ原稿含む。
(5)最終レポート:20%
小発表当該日に欠席した場合、メイクアップはされない。
欠席が三分の一を超え場合は評価しない。

日本語 2 (文章表現) A

担当者：内藤 みち, 木原 郁子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

大学の授業で必要とされる基本的な文章表現を学ぶ。自分の考えを論理的な文章で他者に明確に伝えられるような能力を養成するために授業では以下のことを行う。

発想力・論理的思考能力養成のためのタスクにより、自分の書きたいことを発見する。

文章表現のポイントについて学ぶ。

あるトピックについて自分の考えをまとめて書き、他者の書いたものを読む。

書いたものに対してフィードバックする。

授業計画

- ガイダンス：授業の目的と概要の説明
- 2.1：助詞の使い方
- 3.2：言葉の使い分け
- 4.3：自動詞・他動詞・受け身
- 5.4：呼応
- 6.5：文末表現の調整
- 7.6：ひらがなと漢字のバランス
8. 中間試験
- 9.7：漢字の選択と誤変換
- 10.8：カタカナの使い方
- 11.9：読点の打ち方
- 12.10：書き言葉らしさ
- 13.11：辞書の危険性
- 14.12：専門用語の選び方
15. 期末試験

2. 学びの意義と目標

留学生が大学での勉学・研究生活に必要なレポート・論文の書き方を学ぶことがこの授業の目的である。

具体的には以下の能力により、他者に自分の考えを文章で伝えられるようになることである。

自分の考えを論理的に説明できるようになる。

データや文献を引用して自分の考えをサポートできるようになる。

自分の視点・立場を持ってレポートを書けるようになる。

準備学習(予習)

予習テストを行う。授業計画で指定された箇所の練習問題を予習しておくこと。

教科書

石黒 圭・筒井千絵 『留学生のためのここが大切 文章表現ルール』(スリーエーネットワーク)

準備学習(復習)

授業で課題とした作文を書き、オンライン提出することを宿題とする。次の授業でフィードバックするので必ず書いて提出すること。

評価方法

(1)予習クイズ:20% (2)提出物:15% (3)試験:50% (4)平常点:15%
欠席が3分の1を超える場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある

日本語 2 (文章表現) B

担当者：内藤 みち, 船山 久美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

日本語 2 (文章表現A) に続き本格的な文章表現を学び、大学で必要とされるレポートを書く能力を養成するために授業では以下のことを行う。
自分の書きたいことを論理的に書けるようになるための文章表現のルールを学ぶ。
与えられたテーマについて資料を使いながら短いレポートを書く。
自分でテーマを選び、レポートを書く。
他者の書いたものを読み、コメントをする。
自分の書いたレポートのフィードバックを受けて書き直す。

2. 学びの意義と目標

留学生が大学での勉学・研究生活に必要なレポート・論文の書き方を学ぶことがこの授業の目的である。具体的には以下の能力により、他者に自分の考えを文章で伝えられるようになることである。
アカデミックなレポートを書くための文体、表現、構成について学ぶ。
データや文献を引用して自分の考えをサポートできるようになる。
自分の視点・立場を持ってレポートを書けるようになる。
他者の書いたものを読み、コメントできるようになる。

準備学習(予習)

予習テストを行う。授業計画で指定された箇所の練習問題を予習しておくこと。

準備学習(復習)

授業で課題とした作文を書き、オンライン提出することを宿題とする。次の授業でフィードバックするので必ず書いて提出すること。

授業計画

- ガイダンス：授業の目的と概要の説明
- 13：文の長さを読みやすさ
- 14：指示詞による分の接続
- 15：接続詞と文章の構成
- 16：読み手のへの配慮
- 17：基本的なレポートの書き方（意見と事実を分けて書く）
- 18：レポートの基本的な書き方（複雑な内容の整理）
- 中間試験
- 18：レポートの基本的な書き方（複雑な内容の整理）
- 18：レポートの基本的な書き方（複雑な内容の整理）
- 課題のフィードバック
- 19：立場のある文章の書き方
- 19：立場のある文章の書き方
- 課題のフィードバック
- 最終レポートを書く

教科書

石黒圭, 筒井千絵 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』 (スリーエーネットワーク)

評価方法

(1)予習クイズ:20% (2)提出物:15% (3)試験・レポート:50%
(4)平常点:15%
欠席が3分の1を超える場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

日本語 2 (文法) A

担当者：内藤 みち

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

留学生が大学の授業を受ける上で必要とされる日本語の基礎力としての文法（N1レベル）の総復習を行う。N1レベルの文法教材を使用し、語彙・文型の導入に加え、数多くの練習問題を解きながらその定着をはかる。

2.学びの意義と目標

大学で学ぶためのみならず学外の様々な活動においても、より多くの事柄を学び取れるようになるために、必須となる日本語の文法（N1レベル）の定着とその向上を目標とする。

準備学習(予習)

毎回、授業計画にある学習項目の文型予習クイズを行う。受講生は、各自教材の学習箇所にある文型の予習が必須となる。

準備学習(復習)

各学習項目の文型復習練習問題が課題となる。

授業計画

1. 授業概要、1課「時間関係」
2. 2課「範囲の始まり・限度」、3課「限定・非限定・付加」
3. 4課「例示」、5課「関連・無関係」
4. 6課「様子」、7課「付随行動」
5. 8課「逆接」、9課「条件」
6. 10課「逆接条件」、11課「目的・手段」
7. 総まとめ / 1課～11課
8. 中間試験
9. 12課「原因・理由」、13課「可能・不可能・禁止」
10. 14課「話題・評価の基準」、15課「比較対照」
11. 16課「結末・最終の状態」、17課「強調」
12. 18課「主張・断定」、19課「評価・感想」
13. 20課「心情・強制的思い」
14. 総まとめ / 12課～20課
15. 期末試験

教科書

友松 悦子, 福島 佐知, 中村 かおり 『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)

評価方法

- (1)中間試験:30%
- (2)期末試験:30%
- (3)予習クイズ:20%
- (4)クラスワーク:20%

日本語 2 (文法) B

担当者：太田 ミユキ

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

留学生が大学の授業を受ける上で必要とされる日本語の基礎力としての文法（N1レベル）の総復習を行う。N1レベルの文法教材を使用し、語彙・文型の導入に加え、数多くの練習問題を解きながらその定着をはかる。

2.学びの意義と目標

大学で学ぶためのみならず学外の様々な活動においても、より多くの事柄を学び取れるようになるために、必須となる日本語の文法（N1レベル）の定着とその向上を目標とする。

準備学習(予習)

毎回、授業計画にある学習項目の文型予習クイズを行う。受講生は、各自教材の学習箇所にある文型の予習が必須となる。

準備学習(復習)

各学習項目の文型復習練習問題が課題となる。

授業計画

1. 授業概要、 文法形成の整理A「動詞の意味」
2. 文法形成の整理B「動詞の意味」とC「古い言葉を使った言い方」
3. 文法形成の整理D「もの・こと・ところを使った言い方」とE「2つの言葉を組みにする言い方」
4. 文法形成の整理F「助詞・複合助詞」とG「文法的性質の整理」
5. 第3部1課「時制」
6. 第3部3課「視点を動かさない手段－1」
7. 総まとめ / 文法形成の整理と第3部1課と3課
8. 中間試験
9. 第3部5課「視点を動かさない手段－3」
10. 第3部6課「視点を動かさない手段－4」
11. 第3部7課「指示表現『こ・そ・あ』の使い分け」
12. 第3部8課「『は・が』の使い分け」
13. 第3部9課「接続表現」
14. 総まとめ / 第3部5～9課
15. 期末試験

教科書

友松 悦子, 福島 佐知, 中村 かおり『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)

評価方法

- (1)中間試験:30%
- (2)期末試験:30%
- (3)予習クイズ:20%
- (4)クラスワーク:20%

日本語 3 (小説で学ぶ) A

担当者：太田 ミユキ

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

1.内容
いろいろな短編小説を通して、日本語の語彙力を高めるとともに文法の多様性を学ぶ。
さらに自律学習に向けてのストラテジーの育成を図る。
またこの授業では、視聴覚教材を通して作品の時代背景や作者の素顔なども学習していく。
各自語彙リストを作成し、読んだ後には読書ノートを記録する。
授業内容は、学生の日本語レベルに応じて変更することがある。

2.カリキュラム上の位置づけ
外国人留学生のための日本語授業である。授業内容は、専門的ではなく基本的な内容を扱う。しかし日本語2レベル履修後でない受講が難しい。

2.学びの意義と目標

学びの意義と目標
留学生が日本人と共に学ぶために必要な日本語力の向上を学習目標とする。
この授業では、小説を読むことを通して、日本語の語彙力を培うとともに、日本語文法の多様性をも理解できるようになることがこの授業の目標である。

準備学習(予習)

1つの課題を2～3週かけて取り扱うので、必ず言葉などの予習を行ってから授業に臨むこと。

準備学習(復習)

読書ノートを提出すること

授業計画

- 1.ガイダンス・自己紹介「来訪者」阿刀田高著(読解)
- 2.「来訪者」阿刀田高著(予測しながらの読解とディスカッション)
- 3.「来訪者」阿刀田高著(予測しながらの読解とディスカッション)
- 4.「キッチン」吉本ばなな著(読解)
- 5.「キッチン」吉本ばなな著(読解)
- 6.「キッチン」吉本ばなな著(読解と音読、ディスカッション)
- 7.「キッチン」吉本ばなな著(音読、ディスカッション、DVD視聴)
- 8.中間テスト・フィードバック
- 9.「高瀬舟」森鷗外著(背景理解・読解)
- 10.「高瀬舟」森鷗外著(読解)
- 11.「高瀬舟」森鷗外著(読解とDVD視聴、ディスカッション)
- 12.「夜行観覧車」湊かなえ著(読解)
- 13.「夜行観覧車」湊かなえ著(読解)
- 14.「夜行観覧車」湊かなえ著(読解とDVD視聴)
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)中間試験:25% (2)期末試験:25%
(3)課題(最終・読書ノート・語彙リスト):20% (4)出席点:20%
(5)平常点(授業参加度など):10%

日本語 3 (小説で学ぶ) B

担当者：作田 奈苗

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

この授業では、小説を素材にした日本語の読解を行う。
本学ではどの学部学科でも、小説が課題図書にあげられることが多く、留学生も日本語の小説を読まなければならない。しかし、小説には特有の文体や文法、表現があり、留学生には読解が難しい。このため、留学生がこれまで学習した実用的な日本語とは違う、小説の特殊な文体、文法、表現を把握し、小説の内容が理解できるようにする。
また、読解の副産物として、漢字を学習し、語彙力を高める。

2.学びの意義と目標

- ・小説特有の文体や文法、表現を知り、ほかのジャンルと違うことを理解すること。
- ・小説が読めるようになること。
- ・漢字力を高めること。
- ・語彙力を高めること。

準備学習(予習)

漢字、語彙を十分に予習して来ること。

準備学習(復習)

予習テストで間違えた、またはわからなかった漢字、語彙を復習してテストに備えること。

授業計画

1. 小説読解
2. 小説読解
3. 小説読解
4. 小説読解
5. 小説読解
6. 小説読解
7. 小説読解
8. 中間テストと解説、復習
9. 小説読解
10. 小説読解
11. 小説読解
12. 小説読解
13. 小説読解
14. 小説読解
15. 期末テストと解説、復習

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)漢字・語彙予習テスト(13回):30% (2)中間・期末試験:40%
(3)授業内課題(13回):30%
遅刻をすると予習テストが受けられず、その分、成績が悪くなる。

担当者：大越 貴子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

本講義は、日本語による創作活動を通し、留学生の自己表現力の育成を支援するものである。春学期は、身の回りの出来事や社会問題に対し、意見を述べる文語体(書き言葉)の創作形態(新聞への投稿、エッセイ、小論文)を学ぶ。また、クラスメートとの意見交換や資料検討、作品発表会での質疑応答を行う。作品は可能な限り外部へ投稿する。

2.学びの意義と目標

本学における留学生対象の日本語科目では、最高位のレベルにあるクラスなので、アカデミックな文語体(書き言葉)表現で自己表現ができることを目標とする。また、クラスメートとの意見交換や成果物の発表会などのインターアクションには、円滑なコミュニケーション能力習得の意義もある。

準備学習(予習)

エッセイや小論文鑑賞時は、授業前に読んでおくことが予習となる。

準備学習(復習)

授業内での創作活動の推敲・仕上げは、宿題となる。宿題を期限までに仕上げないと、授業時にクラス全体の迷惑になるので、責任を持った取り組みが大切である。

授業計画

1. オリエンテーション、新聞の投稿(1) 記事を読む
2. 新聞の投稿(2) 記事を書く準備 記事を書く
3. 新聞の投稿(3) 投稿記事発表会
4. エッセイ(1) エッセイ鑑賞・エッセイを書く準備
5. エッセイ(2) エッセイを書く
6. エッセイ(3) エッセイ読書感想会
7. 小論文(1) コンテスト入賞作品 読書感想会
8. 小論文(2) テーマの検討会
9. 小論文(3) テーマに関するインターネット資料検索
10. 小論文(4) 図書館学習 テーマに関する文献資料の検索
11. 小論文(5) テーマ決定理由と背景資料を発表する
12. 小論文(6) 小論文アウトラインを発表する
13. 小論文(7) 執筆途中の論文のピアリーディング・訂正
14. 小論文(8) 執筆途中の論文のピアリーディング・訂正
15. 小論文口頭発表会・まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)創作作品:50%:自己の能力をどれだけ伸ばせたかを重視。
 (2)平常点:20% (3)授業貢献度:10% (4)出席率:20%
 学期中の欠席率が1/5回授業の1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

担当者：大越 貴子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

本講義は、日本語による創作活動を通し、留学生の自己表現力の育成を支援するものである。秋学期は、様々な文学的作品（短歌、俳句、川柳、現代詩、ショートショート[掌編小説]など）を鑑賞し、創作を試みる。また、クラスメートの作品鑑賞や創作成果発表会で質疑応答を行う。作品は可能な限り外部へ投稿し、コンテスト参加も奨励される。

2.学びの意義と目標

本学における留学生対象の日本語科目では、最高位のレベルにあるクラスなので、様々な形態の文学作品鑑賞と自身の創作活動を通し、自己表現力を高めることを目標とする。また、その経過や成果をクラスメートと分かち合う発表会などのインターアクションには、円滑なコミュニケーション能力習得の意義がある。

準備学習(予習)

鑑賞する文学作品の内容理解や、創作のためのアイデア発案などは、予習となる。

準備学習(復習)

授業内での創作活動の推敲・仕上げは宿題となる。宿題を期限までに仕上げないと、授業時にクラス全体の迷惑になるので、責任を持った取り組みが大切である。

授業計画

1. オリエンテーション、日本の詩歌について
2. 詩歌(1) 短歌
3. 詩歌(2) 俳句・川柳
4. 詩歌(3) 詩
5. スピーチ(1) スピーチコンテストを視聴する
6. スピーチ(2) スピーチ原稿を書く
7. スピーチ(3) スピーチ原稿推敲、発表練習
8. スピーチ(4) クラス内スピーチ発表会
9. 掌編小説(1) 掌編小説とは? 作品鑑賞
10. 掌編小説(2) 執筆アイデア意見交換会
11. 掌編小説(3) 執筆途中の作品のピアリーディング・訂正
12. 掌編小説(4) 執筆途中の作品のピアリーディング・訂正
13. 掌編小説(5) 創作した掌編小説の読書会
14. その他のクラスメートの作品発表会
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)創作作品:50%:日本語力だけでなく、オリジナリティを重視。
 (2)平常点:20% (3)授業貢献度:10% (4)出席率:20%
 学期中の欠席率が1/5回授業の1/3を超えた場合、学期末評価の対象としない。

日本語 3 (調査・発表) A

担当者：太田 ミユキ

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

1.内容

この授業では、「多文化とは何か」「多文化共生とは何か」を留学生だけでなく、日本人学生もを交えたグループで互いに意見を交換し合いながら、思考したものを口頭で表現する能力を育成する。授業はディスカッションや発表を中心に進めるため、黙って座っているのではなく、積極的に意見を口にしてもらいたい。

2.カリキュラム上の位置づけ

留学生の語学科目である。

2.学びの意義と目標

相互理解を進めるためのコミュニケーションとは何かを体験から学ぶことを目標とする。

準備学習(予習)

また、グループディスカッション及び発表準備、レポート準備には、各自事前準備が必要になる。

準備学習(復習)

毎回授業終了後に短いクラスレポートの提出を必須とする。
また1つのテーマごとに小レポートを提出すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.グループディスカッション(1)
- 3.グループディスカッション(2)
- 4.グループディスカッション(3)
- 5.発表準備(1)テーマを決める
- 6.発表準備(2)資料を集める
- 7.発表準備(3)まとめる
- 8.発表(1)
- 9.発表(2)
- 10.グループディスカッション(4)
- 11.グループディスカッション(5)
- 12.レポート準備(1)
- 13.レポート準備(2)
- 14.レポート発表
- 15.レポート発表

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席点:30% (2)ディスカッション貢献度:20% (3)振り返りシート:15%
(4)小レポート:15% (5)最終レポート:20%

日本語 3 (調査・発表) B

担当者：太田 ミユキ

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

<内容>

留学生が大学の授業において口頭発表・討論を行う力を養成する。内容としては、資料の集め方、アンケートなどの調査の仕方、データ分析とまとめ方、レジュメの作り方、発表や討論の仕方などを学びながら、最終的には、自分の関心のあるテーマについての調査結果を発表し、それをレポートにまとめて提出する。

<2>カリキュラム上の位置づけ

留学生が調査・発表に関する基本的表現と技能を身につけ、口頭表現力を高めるための授業である。自分の専門のゼミや将来の仕事などでも応用できるようにする。

<3>学びの意義と目標

自分でテーマを探し、適切な調査が行える。調べたことを取捨選択して、レジュメにまとめられる。聞き手に理解してもらえる発表が工夫できる。討論に参加できる。発表における聞き手の重要性を知り役割を果たす。

2.学びの意義と目標

自分でテーマを探し、適切な調査が行える。調べたことを取捨選択して、レジュメにまとめられる。聞き手に理解してもらえる発表が工夫できる。討論に参加できる。発表における聞き手の重要性を知り役割を果たす。

準備学習(予習)

授業時間以外に、自主的に調査や発表の準備をする必要がある。その途中経過を小発表し、説明用のシートなどを作成する必要もある。

準備学習(復習)

授業内で注意された課題は必ずもう1度再調査すること。

授業計画

1. 授業説明、自己紹介と関心事について[小発表]
2. 調査計画について[小発表]
3. 調査の基本(文献、アンケート、インタビュー)、発表構成検討
4. アウトラインについて[小発表]
5. アンケートやインタビューの仕方
6. 調査シートについて[小発表]
7. 図表の説明の仕方
8. 資料のまとめ方
9. 発表の仕方、質問の仕方と答え方、討論の仕方
10. レジュメの作り方、発音練習
11. 最終発表 1
12. 最終発表 2
13. 最終発表 3
14. 最終発表 4
15. まとめ、課題提出

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)発表:40% (2)レポート:20% (3)課題提出:20% (4)出席:20%

日本語 3 (ドラマで学ぶ) A

担当者：船山 久美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

ドラマ視聴を通して、話し言葉に特有な表現が聞き取れるようにする。また、共起関係にある表現を学び、文脈に即した表現を理解し、使えるようにする。

2.学びの意義と目標

留学生のための日本語授業である。大学の講義を聴く力をつけつつ、日本人とスムーズなコミュニケーションを行うために必要な表現を学び、使えるようにする。

準備学習(予習)

授業の前の週に配付するプリントの語彙などを予習しておくこと。

準備学習(復習)

毎週配付されるタスクシートのフィードバックを確認すること。

授業計画

1. ガイダンス・ドラマ (小作品) の内容把握 (1) タスクシート 1
2. ドラマ (小作品) の内容把握 (2) タスクシート 2
3. テレビドラマ・文脈を考えて表現を選ぶ (1) タスクシート 3
4. テレビドラマ・文脈を考えて表現を選ぶ (2) タスクシート 4
5. テレビドラマ・文脈を考えて表現を選ぶ (3) タスクシート 5
6. テレビドラマ・文脈を考えて表現を選ぶ (4) タスクシート 6
7. テレビドラマ・文脈を考えて表現を選ぶ (5) タスクシート 7
8. 中間テスト・復習
9. テスト F B・テレビドラマ・文脈を考えて表現を選ぶ (6) タスクシート 8
10. テレビドラマ・文脈を考えて表現を選ぶ (7) タスクシート 9
11. テレビドラマ・文脈を考えて表現を選ぶ (8) タスクシート 10
12. テレビドラマ・文脈を考えて表現を選ぶ (9) タスクシート 11
13. テレビドラマ・文脈を考えて表現を選ぶ (10) タスクシート 12
14. テレビドラマ・文脈を考えて表現を選ぶ (11) タスクシート 13
15. 総まとめ・期末テスト

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:20% (2)授業参加度:30%:予習をしているか、授業内で積極的に意見を述べているか等 (3)中間テスト:20% (4)期末テスト:30%
欠席が全授業数の3分の1を超える場合は評価の対象とならない。

日本語 3 (ドラマで学ぶ) B

担当者：船山 久美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

ドラマ視聴を通して、話し言葉に特有な表現が聞き取れるようにする。また、共起関係にある表現を学び、会社や政治の世界で使われる表現を理解し、使えるようにする。目上の人への敬語から親しい友人とのおしゃべりまで幅広く扱う。

2.学びの意義と目標

留学生のための日本語授業である。大学の講義を聴く力をつけつつ、日本人とスムーズなコミュニケーションを行うために必要な表現を学び、使えるようにする。

準備学習(予習)

授業の前の週に配付するプリントの語彙などを予習しておくこと。

準備学習(復習)

毎週配付されるタスクシートのフィードバックを確認すること。

授業計画

1. ガイダンス・話し言葉に特有の表現 (1)
2. テレビドラマ・話し言葉に特有の表現 (2)
3. テレビドラマ・会社で使われる表現 (1)
4. テレビドラマ・会社で使われる表現 (2)
5. テレビドラマ・会社で使われる表現 (3)
6. テレビドラマ・会社で使われる表現 (4)
7. テレビドラマ・会社で使われる表現 (5)
8. 中間テスト・復習
9. テスト F B ・テレビドラマ・政治の世界で使われる表現 (1)
10. テレビドラマ・政治の世界で使われる表現 (2)
11. テレビドラマ・政治の世界で使われる表現 (3)
12. テレビドラマ・政治の世界で使われる表現 (4)
13. テレビドラマ・政治の世界で使われる表現 (5)
14. テレビドラマ・政治の世界で使われる表現 (6)
15. 期末テスト・総まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:20% (2)授業参加度:30%:予習をしているか、授業内で積極的に意見を述べているか等 (3)中間テスト:20% (4)期末テスト:30%
欠席が全授業数の3分の1を超える場合は評価の対象とならない。

日本語 3 (ニュースで学ぶ) A

担当者：船山 久美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1. 内容

日本語のテレビや動画のニュースや新聞記事などを通して時事問題を理解し、上級の語彙は表現を習得し、の解読ができるようになることを目指す。授業では 新聞記事の解読と話し合い、 ニュースの解読と話し合いを行う。日本語 3 (ニュースで学ぶ) Aでは教師が選んだ新聞やニュースを解読し、語彙や表現の理解と習得に重点を置く。

2. 学びの意義と目標

留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語でのメディア解読能力を身につけ、日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。

準備学習(予習)

事前に配布したプリントや語彙リストを予習してくること。

準備学習(復習)

授業で学んだ教材の聞き取り、穴埋め、語彙クイズを行う。

授業計画

1. オリエンテーション レベルチェック
2. 新聞の基礎知識
3. 地震
4. 異常気象
5. 事故
6. 科学技術
7. まとめ
8. 中間試験
9. 調査
10. トラブル
11. 裁判
12. 経済
13. 金融
14. 国際関係
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)クイズ:15% (2)提出物:15% (3)試験:40% (4)平常点:30%
欠席が3分の1を超える場合、単位は与えられない。出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

日本語 3 (ニュースで学ぶ) B

担当者：船山 久美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

日本語のテレビや動画のニュースや新聞記事などを通して時事問題を理解し、上級の語彙の習得し、メディアが批判的に解読ができるようになることを目指す。日本語 3 (ニュースで学ぶ) B では学生自らニュースを選んで分析し、発信する能力の養成に重点を置く。

課題 1 は自分が関心を持つ新聞記事を選び、クラスで発表して話し合い、その後レポートを書く。

課題 2 は動画ニュースを選び、クラスで発表して話し合い、その後レポートを書く。

2.学びの意義と目標

留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語のメディア解読能力を身につけ、日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。

準備学習(予習)

授業中に指示された課題の準備をすること。授業中に使用するので必ず書いてきてください。

準備学習(復習)

授業の感想やコメントをオンラインレポートで提出すること。

授業計画

1. オリエンテーション レベルチェック
2. メディア・リテラシーとは何か
3. ニュースとは何か
4. 新聞記事の種類・比較
5. ニュースの価値を考える
6. 新聞記事を読んで考える
7. 課題 1 の発表とフィードバック
8. 課題 1 の発表とフィードバック
9. 動画ニュースの選び方
10. 動画ニュースを見て考える
11. 動画ニュースの分析の仕方
12. 課題 2 の発表とフィードバック
13. 課題 2 の発表とフィードバック
14. 課題 2 の発表とフィードバック
15. 振り返り

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)課題 1 :25% (2)課題 2 :25% (3)提出物:20% (4)平常点:30%
欠席が 3 分の 1 を超える場合、単位は与えられない。出席が 3 分の 2 以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。

担当者：木原 郁子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

基本的な敬語を復習し、相手との関係（上下・親疎）やいろいろな場面において適切な待遇表現が選択できるように応用練習をする。具体的には、問い合わせや依頼などについて、口頭でのやりとりとメールの書き方を学ぶ。また、仕事や進学の面接場面での対応や、自己アピールの表現についても学習する。また、仕事のための日本語でのコミュニケーションも学ぶ。

2.学びの意義と目標

日本語での会話をスムーズに運ぶためには、人間関係や場面を考慮して表現を選ばなければならない。本講義では、そのような日本語での潤滑なコミュニケーションのための表現を学び、様々な場面において実際に応用できるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

敬語・待遇表現の基本事項を予習すること。会話作成・メールを出すなどの宿題を課す。毎回何らかの自宅学習が必要である。

準備学習(復習)

敬語・待遇表現の学習事項を復習すること。会話作成・メールを出すなどの宿題を課す。毎回何らかの自宅学習が必要である。

授業計画

1. 講義ガイダンス、敬語と待遇表現について
2. 敬語のまとめ(1) 尊敬語・謙譲語
3. 敬語のまとめ(2) 丁寧語・お/ご
4. 日本の会社(1) ビデオ教材
5. 対面や電話での会話(1) 問い合わせる
6. メールを書く(1) 問い合わせる
7. 日本の会社(2) ビデオ教材
8. 中間テスト
9. 対面や電話での会話(2) 目上の人を誘う
10. 対面や電話での会話(3) 依頼する
11. メールを書く(2) 依頼する
12. 電話を受ける・伝言メモを書く
13. 日本の会社(3) ビデオ教材
14. 面接で(1) 自己分析・自己紹介
15. 面接で(2) 自己アピール文を書く

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)テスト:50% (2)授業中の発表と課題の提出:30%
 (3)平常点(出席、授業への参加度):20%
 *欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。

日本語 3 (ビジネス日本語) B

担当者：木原 郁子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

基本的な敬語を復習し、適切な待遇表現ができるように応用練習をする。電話会話や日本語メールの書き方、進学や会社面接での対応や、自己アピールの表現についても学習する。また、社会に出て仕事をするための日本語でのコミュニケーションを学ぶ。

2.学びの意義と目標

本講義は、大学における日本語力を身につけた留学生のための、卒業後社会に出てからの日本語の使用に対応するものである。日本語での潤滑なコミュニケーションのための表現を学び、大学卒業後社会での様々な場面において、日本語を実際に応用できるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

敬語・待遇表現の基本事項を予習すること。会話作成・メールを出すなどの宿題を課す。毎回何らかの自宅学習が必要である。

準備学習(復習)

敬語・待遇表現の学習事項を復習すること。会話作成・メールを出すなどの宿題を課す。毎回何らかの自宅学習が必要である。

授業計画

1. 講義ガイダンス、敬語と待遇表現について
2. 敬語・待遇表現の復習
3. 日本の会社(1) ビデオ教材
4. 対面や電話での会話(1) 感謝を伝える
5. メールを書く(1) 感謝を伝える
6. 日本の会社(2) ビデオ教材
7. 日本の会社(3) ビデオ教材
8. 中間テスト
9. 対面や電話での会話(2) 謝る・申し出る
10. メールを書く(2) 謝る・申し出る
11. 日本の就活について
12. 面接で(1) 意見や考えの述べ方の基本
13. 面接で(2) 面接で意見や考えを述べる
14. 日本の会社(4) ビデオ教材
15. 日本の会社(5) ビデオ教材

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)テスト:50% (2)授業中の発表と課題の提出:30%
(3)平常点(出席率、授業への参加度):20%
*欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。

日本国憲法

担当者：武藤 健一

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

人権を論じられるようになるための最低限の基本原則を押さえた上で、ジェンダー憲法学から問題視される中心的な存在である家族単位主義の問題点を理解するために、法律婚家族のあり方、子どもの人権侵害の象徴的存在である「虐待」(CA)、という2項目にまつわる日本国憲法が関わる人権問題を検討していき(具体的内容は「授業計画」を参照のこと)、そのことによって、家族(単位主義)と人権の関係という人権論において重要な問題点を理解してもらうことが、本講義の内容であり目的です。

2.学びの意義と目標

日本国憲法の規定を手がかりにしながら、現代日本社会における人権のあり様を検討していきますが、私の専攻であるジェンダー憲法学(個人単位主義的人権論)から考える日本国憲法論なので、一般的な内容ではなく、学際的に社会的手法・研究成果も取り上げながら、現実の社会に存在する人権のあり方を探求し、それを理解していくことを目標とする授業となっています。

また、法学専攻でもなく法解釈学の基礎を知らない学生からすれば、一般的な日本国憲法の授業によく見られるような各条文の解釈論を展開していくことは難しいと思われるので、それを中心的に扱うことはありません。

特に卒業後、子どもに関わる職業を選択する学生にとって、子どもの虐待に関する法律論や子どもの人権論は理解しておくことが必要だと思われる。

準備学習(予習)

授業内容の関係上、事前に学生が予習できる項目は少ないですが、プリント(レジュメ)を見て、自分が知らない言葉があれば、その意味等を調べておくことは最低限要求されます。

準備学習(復習)

授業内で書き、添削されたリアクション=ペーパーの内容に関しては、次の授業での解説を踏まえてしっかりと復習しておくこと。

授業計画

- 1.(0) ガイダンス
- 2.(1) 法の基本原則
- 3.(2) 人権の基本原則
- 4.(2) 人権の基本原則
- 5.(3) 子どもの「虐待」(CA)
- 6.(3) 子どもの「虐待」(CA)
- 7.(3) 子どもの「虐待」(CA)
- 8.(3) 子どもの「虐待」(CA)
- 9.(3) 子どもの「虐待」(CA)
- 10.(3) 子どもの「虐待」(CA)
- 11.(4) 法律婚家族と結婚
- 12.(4) 法律婚家族と結婚
- 13.(4) 法律婚家族と結婚
- 14.(4) 法律婚家族と結婚
- 15.(5) 試験とその解説

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)授業:67%: リアクション=ペーパーの評価による
- (2)学期末試験:33%

日本国憲法

担当者：安原 陽平

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

憲法上保障されている自由・権利・平等、そしてそれらを保障するための統治機構（国会・内閣・裁判所）について学習していきます。できるだけ具体的な事例を扱い、憲法問題が身近なところにも存在していることを確認していきます。

2.学びの意義と目標

本授業を通して、憲法的な考え方を身につけることを目標とします。そしてその憲法的な考え方で身近な事例を自分自身で考えられるようになることが最終的な目標です。具体的には、自分と異なる考え方を持つ人を尊重することについて真剣に考えられるようになることが本講義の目標です。

準備学習(予習)

シラバスを参考にして、各回に何を学ぶかを押さえ、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読んでください。

準備学習(復習)

授業中配布されたプリントを用いて、各回の学習内容の復習に取り組んでください。また、授業中に紹介した参考文献の該当箇所を読んで復習に取り組んでください。

授業計画

1. ガイダンス 憲法への誘い
2. 憲法と国家、憲法の意義、日本憲法史
3. 象徴天皇制、国民主権、平和主義
4. 基本的人権総論、基本的人権の限界
5. 包括的基本権（幸福追求権）
6. 平等
7. 思想・良心の自由 信教の自由 学問の自由
8. 表現の自由
9. 経済的自由 人身の自由
10. 生存権 労働基本権
11. 教育を受ける権利
12. 国務請求権 参政権 国会
13. 内閣 裁判所
14. 財政 地方自治
15. まとめ 理解度の確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

話し方表現応用講座

担当者：川野 一字

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

「少し改まった場で話をする際、どう話せばよいのか、そのためには何が必要なのか」を習得する。課題に対する素材の選び方、その素材の組み立て方、具体例は何か、表現は適切か、制限時間を守れたか（例3分）など、録音再生を随時使用しながら多角的に吟味し、演習で実践する。

2.学びの意義と目標

この講座は、1年生必修の「基礎教育入門（話し方）」で、授業に対する姿勢、成績ともに良好な2年生以上を対象とするハイレベルの講座である。1年生で培った基礎をもとに、「一定時間内に、整理した形で話が出来、その内容を明確に聞き手に伝えられる応用力」を養うことを目標とする。

準備学習(予習)

話す内容を事前にメモでまとめ、声に出して 時間を計るなどの下準備が必要であることは、受講者に対する要望で触れたとおりである。

準備学習(復習)

教室での実践で指摘された点を生かして、どうまとめるか、真摯に復習をしてもらいたい。合わせて、日々の自分の暮らしを点検して、話のテーマになりそうなことを探してみることも大切である。また自分をどうアピールできるかを、日ごろからメモで良い、まとめておくとなかなか役に立つ。

授業計画

1. オリエンテーション 改まった場での話
2. 自分を語る 内容と時間の感覚
3. 発音、発声の基礎 自分の声の特質を知る
4. 私の住んでいる町 町をどれだけ語れるか
5. 私の家族を語る 全体像と具体例
6. 話は具体的に 具体的にとは
7. 季節感を表現する 話し方は多様である。
8. 私の専攻科目（私の専門） 内容と生かし方
9. 聞いて質問をする 真剣に聞けば疑問がわく
10. 敬語の確認と実践 難しいのは謙譲語だ
11. 自分をアピールする 面接で聞かれること 1
12. 自分をアピールする 面接で聞かれること 2
13. 総合復習 課題スピーチに備える
14. 課題スピーチ 積み重ねた力を全開する
15. 課題スピーチと全体のまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)講義ごとの実践:30% (2)授業に対する姿勢:10% (3)課題スピーチ:60%

課題スピーチを重く見るのは当然としても、毎回の講義での実践も重要である。出席だけはしても準備が十分にできていないようでは効果はほとんどないことを承知して欲しい。

話し方表現実践演習

担当者：岡部 晃彦

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回

単位数：1単位

講義概要

1. 内容

この講義は新3年生を対象に「就職活動に役立つ話し方」を学びます。経団連が行った調査によれば「新入社員の選考で最も重視した点」という問いに対し、「コミュニケーション能力」と答えた割合が80.2%でした。このデータは、これから社会に巣立っていく皆さんに、社会は今、明らかに、「話す力」「聞く力」のさらなる向上を求めていることがわかります。日本人はいわゆる、お喋りは得意でも公の場面で筋持ち立てて分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、今、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の考えや相手の意見を交換し、新たな価値観を見出していくことが重要になっています。つまり、「自分の考えを的確に伝える」「相手の発言を聞く」そして、「自分の意見と相手の意見との違いを明確にし、問題解決のため両者で展望を模索する」能力です。従って、この講義では「説得力ある話し方」や「面接」での受け答えのノウハウ、さらに、最近、就職試験の際、多くの企業が取り入れている「集団討論」のノウハウ、「小論文の書き方」、「エントリーシートの書き方」など、就職活動に直接役立つ内容を実践形式で学んでいきます。さらに、就職試験には必ず出題される「敬語」や「四文字熟語」などの日本語力の向上や、「時事問題」についても傾向と対策を考えます。

2. 学びの意義と目標

この講義は「就職対策」に特化した内容にはなっていますが、「分かりやすい話し方」など、広い意味で「ことばコミュニケーション」の向上にも役立つ講義です。さらには「ものの見方」「考え方」などの発想法、それを発表する時の分かりやすい論理展開など多くのヒントが満載された内容です。是非、受講していただき、ゼミなどでの発表や討論の場でも生かしていただきたいと思います。

準備学習(予習)

毎回、講義の最後に翌週の授業内容の概要を伝え、実践トレーニングは話す内容のタイトルを明示しますので、講義当日まで準備をしっかりと行ってください。

準備学習(復習)

毎回の授業の冒頭で前回の内容の復習をします。また、理解度によっては同じ内容を繰り返すともあります。

授業計画

1. 「説得力のある話し方」～情報の整理と組み立て～
2. 「実践！自己紹介」～話し方点検～
3. 「模擬面接」～自己PR～
4. 「模擬面接」～学生生活で得たもの～
5. 「模擬面接」～志望理由～
6. 「模擬面接」～社会的関心事～
7. 「小論文の書き方」～テーマ「絆」(仮)～
8. 「小論文の書き方」～添削～
9. 「小論文をことばで話す」～意見を述べる～
10. 「集団討論」～テーマ「さらに雇用を拡大するために」～
11. 「集団討論」～テーマ「今、世界に必要なこと」～
12. 「エントリーシートの書き方」～分かりやすく魅力的な表現～
13. 「エントリーシートの書き方」～添削～
14. ことばテスト～敬語・漢字・四文字熟語～
15. 時事問題テストと解説～解答と解説～

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)スキルの理解度:30% (2)実践での評価:60% (3)取り組みの積極性:10%

話し方スキルの理解度、進歩度や毎回の授業参加の積極性を見て評価する。

ビジネス日本語対策講座 A

担当者：内藤 みち

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

「ビジネス日本語能力テスト」に向けての授業となる。高いレベルの語彙・文型や敬語などの丁寧な表現以外にも、日本語での会議・商談・電話での対応などの様々なビジネスの場面において、語彙・文法力は十分にあるがビジネスの場での日本母語話者と同等のコミュニケーション能力を主にビジネス日本語能力に関する問題を解くことにより身につける。

2.学びの意義と目標

日本語を使用する社会において、日本語力以外の非言語的情報や常識等を通し、日本語を理解・運用し、日常の特にビジネス活動上の課題に対して適切に行動する能力を身につける。

準備学習(予習)

数多くのビジネス日本語能力テストに関連した問題を各自が事前に解いてくることが課せられる。授業では、特に難しい表現・文法・語彙についての解説等々が主になされるので、授業に向けての授業外学習が多くもとめられる。

準備学習(復習)

学習した表現・文型・語彙の定着に向けての練習問題等が課題となる。

授業計画

1. 授業概要、BJT実力試験
2. ビジネス日本語 / 漢字、聴解
3. ビジネス日本語 / 漢字、聴解
4. ビジネス日本語 / 漢字、聴解
5. ビジネス日本語 / 文法・語彙
6. ビジネス日本語 / 文法・語彙
7. ビジネス日本語 / 文法・語彙
8. 中間試験
9. ビジネス日本語 / 読解
10. ビジネス日本語 / 読解
11. ビジネス日本語 / 読解
12. ビジネス会話、ビジネス文書
13. ビジネス会話、ビジネス文書
14. ビジネス会話、ビジネス文書
15. 総まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)中間試験:30%
- (2)期末試験:30%
- (3)課題への取り組み:20%
- (4)クラスワーク:20%

ビジネス日本語対策講座 B

担当者：内藤 みち

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

「ビジネス日本語能力テスト」に向けての授業となる。高いレベルの語彙・文型や敬語などの丁寧な表現以外にも、日本語での会議・商談・電話での応対などの様々なビジネスの場面において、語彙・文法力は十分にあるがビジネスの場での日本母語話者と同等のコミュニケーション能力を主にビジネス日本語能力に関する問題を解くことにより身につける。

2.学びの意義と目標

日本語を使用する社会において、日本語力以外の非言語的情報や常識等を通し、日本語を理解・運用し、日常の特にビジネス活動上の課題に対して適切に行動する能力を身につける。

準備学習(予習)

数多くのビジネス日本語能力テストに関連した問題を各自が事前に解いてくることが課せられる。授業では、特に難しい表現・文法・語彙についての解説等々が主になされるので、授業に向けての授業外学習が多くもとめられる。

準備学習(復習)

学習した表現・文型・語彙の定着に向けての練習問題等が課題となる。

授業計画

1. 授業概要、BJT実力試験
2. ビジネス日本語 / 漢字、聴解
3. ビジネス日本語 / 漢字、聴解
4. ビジネス日本語 / 漢字、聴解
5. ビジネス日本語 / 文法・語彙
6. ビジネス日本語 / 文法・語彙
7. ビジネス日本語 / 文法・語彙
8. 中間試験
9. ビジネス日本語 / 読解
10. ビジネス日本語 / 読解
11. ビジネス日本語 / 読解
12. ビジネス会話、ビジネス文書
13. ビジネス会話、ビジネス文書
14. ビジネス会話、ビジネス文書
15. 総まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)中間試験:30%
- (2)期末試験:30%
- (3)課題への取り組み:20%
- (4)クラスワーク:20%

フランス語 (初級A)

担当者：石田 明夫, 小室 廉太, 塩谷 祐人

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

フランス語を初めて学ぶ学生のためのクラスです。会話と文法の両面から、フランス語の基礎を勉強していきます。

「町中で」「カフェで」「空港で」。さまざまな日常生活や旅行中のシチュエーションをシミュレーションしながら、フランス語の会話の基本フレーズを学習していきます。

文法に関しては会話とリンクさせながら、フランス語の基本ルールを身につけることとなります。

また語学の授業というだけでなく、フランスの文化や習慣にも触れていきます。

授業の進め方や評価方法は各クラス、担当者によって多少の違いがあります。進め方や試験のことなどは初回の授業（ガイダンス）の時に説明します。

必ずガイダンスには出席してください。

2. 学びの意義と目標

この授業の目標は、フランス語の基本を身につけることです。簡単な会話ができるようになること、フランス語とはどんな言語なのかがわかること、基本的な文法を理解してフランス語を書いたり、話したり、読みたりできるようにすることを目指しましょう。

新しい言語を学ぶことは、いままで「普通」だと思っていたこととは別の文化や異なった考え方を身につけることでもあります。日本語でも英語でもない、多様な考え方、多様な表現手段、多様なものの見方を意識することで、自分自身の可能性も広がっていくことでしょう。

準備学習(予習)

どんな文法やシチュエーションについて学ぶのか、教科書を前もって見て、授業にのぞむこと。

準備学習(復習)

その日に学んだ項目、たとえば新しく出てきた単語や文法項目、フレーズを何度も繰り返し発音したり、書いたりして暗記すること。それから小テストの準備や課題をしっかりと行うことが大切です。

授業計画

- ガイダンス
- 第1課 街中やカフェでの会話
- 第1課 アルファベット / フランス語であいさつ
- 第1課 フランス語の読み方 / 数字の1から10
- 第2課 リビングや教室での会話
- 第2課 フランス語でたずねる / これは ですか？
- 第2課 これは です / フランス語の読み方
- 第2課 これは君の ですか？ (私の 、君の 、彼の、私たちの などの言い方)
- 第3課 空港や税関での会話
- 第3課 名前、職業、国籍を言う・たずねる
- 第3課 フランス語で自己紹介 / フランス語の読み方
- 第3課 ではありません (否定文の作り方)
- 第4課 公園での会話 / フランス語の読み方
- 第4課 どこに住んでいますか？ / に住んでいます
- 第4課 を勉強しています / を見えていますetc.
- 第1課から第4課のまとめ
- 中間試験
- 第5課 美術館での会話
- 第5課 形容詞で物や人を説明してみる
- 第5課 を持っていますか？
- 第5課 数字の11から100 / フランス語の読み方
- 第6課 海や山での会話
- 第6課 天気の言い方 / がしたい / が好き
- 第6課 どこに行きますか？ / に行きます
- 第7課 学校での会話
- 第7課 から来ました
- 第7課 どうやって ですか？ (手段をたずねる)
- 第7課 そこに行きます (場所の代わりに「そこ」という言い方)
- まとめと期末試験対策
- まとめと期末試験対策

教科書

大湾宗定 / 阪口勝弘 『トゥ・ファシル!』(白水社)

評価方法

(1)平常点:50% (2)試験:50%
平常点は、「授業に出席して、きちんと授業に参加しているかどうか」や「小テストや提出課題」が点数になります。試験は中間試験と期末試験の合計点数で判断します。

フランス語 (初級B)

担当者：小室 廉太

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

・「フランス語Ⅰ」を受講した学生を対象とした授業です。これまでに習得した知識を活用し、さらに新たな表現や文法事項を学習します。
・会話を中心しつつ、文法や聞き取り問題などに取り組んでいきます。他者とのコミュニケーションを心がけましょう。
・「フランス語Ⅰ」に引き続き、ビデオ(DVD)やCD等を用いて、フランスの様々な文化に接し、多面的にフランスを学ぶ機会にしたいと思っています。

2.学びの意義と目標

・この科目では既習のフランス語理解を発展させ、基礎フランス語習得を目指し(仏検5級から4級レベル)、次のステップ「フランス語(総合)」への準備をします。
・文部科学省認定の実用フランス語検定試験に即した文法内容を学習します。希望者には仏検用の課題を出題します。
・フランス語およびフランス語圏の文化についての知識を得ることで、世界の様々な人々や文化との接触が可能になります。この科目を履修することはその第一歩となるでしょう。

準備学習(予習)

・各課ごとの例文の発音練習をしておいてください。
・新しい単語を辞書で調べ、単語帳を作成してください。

準備学習(復習)

動詞の活用、数字、基本単語等の小テストが行われます。課題の箇所を必ず覚えること。

授業計画

1. ガイダンス / 自己紹介 / アンケート
2. フランス語Ⅰの復習
3. 第7課の1 疑問詞：「どんな?」 時の表現：「何時」、「いつ」
4. 第7課の2 動詞「作る」、「する」/ 疑問詞「何を」
5. 第7課の3 練習問題 / 聞き取り練習
6. 第8課の1 近接未来 / 近接過去
7. 第8課の2 動詞：「できる」/ 「したい」
8. 第8課の3 身体表現：「・・・が痛い」
9. 第8課の4 練習問題 / 聞き取り練習
10. 第9課の1 代名動詞：「起きる」/ 「寝る」
11. 第9課の2 非人称構文：天候表現
12. 第9課の3 時の表現「週」「月」「四季」
13. 第9課の4 練習問題 / 聞き取り練習
14. 第9課までの復習と中間テスト対策
15. 中間テスト
16. 中間テストの返却・解説
17. 第10課の1 場所・道順の表現
18. 第10課の2 命令形
19. 第10課の3 練習問題 / 聞き取り練習
20. 第11課の1 直接法複合過去(1)
21. 第11課の2 否定形および疑問形複合過去
22. 第11課の3 中性代名詞(1)
23. 第11課の4 練習問題 / 聞き取り練習
24. 第12課の1 直接法複合過去(2)
25. 第12課の2 中性代名詞(2)
26. 第12課の3 さまざまな否定表現
27. 第12課の4 練習問題 / 聞き取り練習
28. 第10課から第12課までの復習
29. 総復習と期末期末テストの対策
30. 期末テスト

教科書

田辺保子ほか『やさしいサリュ (サリュ! 簡略版)』(駿河台出版社)

評価方法

- (1)定期テスト:50%:中間、期末テスト
- (2)平常点:30%:出席および課題への取り組み状況
- (3)小テスト:20%:各課ごとの単語および動詞活用テスト

フランス語 (初級B)

担当者：塩谷 祐人, 石田 明夫

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

フランス語 を終えた学生を対象にしたクラスです。
フランス語 で学んだことを土台にして、さらにフランス語の基礎を続けて学んでいきます。

また、ネイティブによるフランス語会話の授業やフランス語研究、中級フランス語といったよりレベルの高いフランス語のクラスにつながる授業でもあります。

フランス語 では「現在」のを中心に勉強しますが、フランス語では「過去」や「未来」のことも表現できるようにしていきます。

会話練習では「レストラン」や「お店」などのシチュエーションを想定しながら練習をしていきましょう。

フランス語 とおなじく、フランスの文化や習慣についても触れていきます。

授業の進め方や評価方法は各クラス、担当者によって多少の違いがあります。詳しくは初回の授業(ガイダンス)の時に説明します。

必ずガイダンスには出席してください。

2. 学びの意義と目標

この授業の目標は、フランス語の基礎をマスターすることです。フランス語 で学んだことをさらに発展させて、実践的なフランス語を身につけていきましょう。

フランス語 まで習得すれば、フランス語の基礎が理解でき、新しい道具としてフランス語を使い、いろいろな情報や楽しみを得る能力が身についているはずです。

またフランス語を通して知ることができるフランスの文化は、国際的な感覚を得たり、日々の生活を洗練されたものに変えたりする機会になることでしょう。

準備学習(予習)

どんな文法やシチュエーションについて学ぶのか、教科書を前もって見て授業にのぞむこと。

準備学習(復習)

その日に学んだ項目、たとえば新しく出てきた単語や文法項目、フレーズを何度も繰り返し発音したり、書いたりして暗記すること。それから小テストの準備や課題をしっかりと行うことが大切です。

授業計画

1. ガイダンス / 第1課から第7課の復習
2. 第1課から第7課の復習
3. 第1課から第7課の復習
4. 第8課 レストランでの会話
5. 第8課 が欲しいですか? / 何を注文しますか?
6. 第8課 注文する / を1つ・2つ・3つください
7. 第8課 これください
8. 第9課 お店での会話
9. 第9課 もっと大きいのを・小さいのをください(比較級)
10. 第9課 これを買います / これは小さすぎます(物や人の代わりに代名詞を使う)
11. 第9課 彼にプレゼントします / 彼女に電話します(物や人の代わりに代名詞を使う)
12. 第10課 日常生活の会話
13. 第10課 時間の言い方
14. 第10課 してください / しろ / しましょう
15. 第10課 起きる・寝る
16. 第8課から第10課のまとめ
17. 中間試験
18. 第11課 散歩中の会話 / 地下鉄での会話
19. 第11課 昨日、 しました(過去形)
20. 第11課 昨日、 に行きました(過去形)
21. 第11課 ませんでした / どうして?
22. 第12課 食卓での会話 / 車の中での会話
23. 第12課 昨日、雨が降っていました(過去形)
24. 第12課 したばかりです(過去形)
25. 第12課 映画が始まったとき、彼は寝ていた(二種類の過去形の使い分け)
26. 第13課 出かける前の会話
27. 第13課 30分後に出かけます(未来形)
28. 第13課 来年、パリに行きます(未来形)
29. まとめと期末試験対策
30. まとめと期末試験対策

教科書

大湾宗定 / 阪口勝弘 『トゥ・ファシル!』(白水社)

評価方法

(1)平常点:50% (2)試験:50%
平常点は、「授業に出席して、きちんと授業に参加しているかどうか」や「小テストや提出課題」で点数をつけていきます。試験は中間試験と期末試験の合計点数で判断します。

担当者：J.テーズ-清水

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

This covers office communication, a wide-range of business related vocabulary, making a CV in English and the how-to's of making a company presentation.

2.学びの意義と目標

Students will:

- participate in various listening, speaking and reading tasks in class to develop fluency
- create a professional CV in English
- make a short company presentation

準備学習(予習)

- always bring textbook and other relevant materials to class
- be on time and read to learn
- be prepared to share ideas and work in pairs
- complete homework and projects on time

準備学習(復習)

- review previous chapters
- study vocabulary

授業計画

1. Orientation
2. Job hunting
3. Company profile
4. Job description and CV writing Information
5. CV writing (Project Start)
6. Emailing - Announcing a meeting
7. Review Test and Meeting Business associates
8. Introductions and Exchanging Business Cards
9. Opening Remarks at a meeting
10. Presentation and Presentation project Information
11. Negotiation
12. Invitation to Dinner
13. Presentation preparation
14. Review Test and Presentation preparation
15. Final Presentation

教科書

辻和成, 辻勢都 『Let's Get Down to Business Student Book』 (マクミラン・ランゲージハウス)

評価方法

(1)Attendance:25%:participation, attitude (2)Homework:25%:quizzes (3)Tests:25%:(speaking/paper) (4)Projects:25%:Your CV and company presentation

担当者：チェンバレン 暁子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

1. 国際社会のグローバル化に伴い、ビジネスにおいても英語はコミュニケーションの手段としてその必要性は一層高まってきている。本授業においては、基礎的かつ実践的なビジネス英語を学んでゆく。

2. 基本的な英文法を習得していることと、PCの基本操作が出来る事が望ましい。

3. ビジネス英語会話や電話会話、ビジネス・メール&レターの読み書きなど実践的なビジネス英語を学んでいく。学期末には、自分の働いてみたい会社についてのリサーチを行い、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを授業内に行う。

2.学びの意義と目標

英語での就職活動に必要な履歴書の書き方、面接の受け方から、ビジネス・レターやメールの読み方&書き方、電話会話&メッセージの取り方、プレゼンテーションの行い方など基礎的かつ実践的なビジネス英語を学ぶ。

授業計画

1. Orientation
2. Job Hunting
3. Job Application and CV
4. Job Interview
5. Business Letters and E-mails
6. Taking Phone Calls
7. Taking Messages
8. Making Appointments
9. Review Test
10. Research and Presentation
11. How to prepare Visual Aid
12. プレゼンテーション準備
13. プレゼンテーション準備
14. プレゼンテーション
15. Review

準備学習(予習)

授業で行うユニットの予習 と小テストの準備を行う事。

教科書

Kazushige Tsuji/Setsu Tsuji/Margaret L. Lieb 『Let's Get Down to Business』 (MACMILLAN LANGUAGE HOUSE)

準備学習(復習)

必ず新しく学んだ表現や語彙などを実践できるように復習を必ず行うこと。

評価方法

(1)出席:20% (2)授業貢献度:10% (3)試験:40% (4)小テスト:10% (5)課題 & Presentation:20%

担当者：J.テーズ-清水

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

This course covers basic communication skills, focusing mainly on social functions within the business context. This course offers an opportunity to reinforce your daily life English functions.

授業計画

1. Orientation
2. Self-Introductions
3. Clarifying meaning
4. Phone conversation (taking a message)
5. Calling in sick
6. Making appointments
7. Making offers
8. Inviting
9. Review Test
10. Making Small Talk
11. Location
12. Giving Instructions
13. Checking in at a hotel
14. Review
15. Final Exam

2.学びの意義と目標

Students will:

- review basic communication skills
- become familiar with useful business terminology
- be able to produce a standard style business letter.
- Reinforce polite travel skills
- Increase in fluency and accuracy of speaking skills.

準備学習(予習)

Review key vocabulary and expressions
Complete homework
Listen to CD at home

教科書

工藤多恵 『First Steps to Office English Student Book (104 pp) with Audio CD』 (センゲージ・ラーニング)

準備学習(復習)

-review previous chapters
-listen to CD

評価方法

(1)Attendance:25%:participation, attitude (2)Homework:25%:quizzes
(3)Tests:25%:(Speaking/Paper) (4)Final Exam:25%

担当者：チェンバレン 暁子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

1. 国際社会のグローバル化に伴い、ビジネスにおいても英語はコミュニケーションの手段としてその必要性は一層高まってきている。本授業においては、基礎的かつ実践的なビジネス英語を学んでゆく。

2. 基本的な英文法を習得していることと、PCの基本操作が出来る事が望ましい。

3. ビジネス英語会話や電話会話、ビジネス・メール&レターの読み書きなど実践的なビジネス英語を学んでいく。学期末には、自分の関心のある商品についてのリサーチを行い、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを授業内に行う。

2.学びの意義と目標

様々なビジネス・シチュエーションでの会話を中心に、実践的なビジネス英語の基礎を総合的に学ぶ。

授業計画

1. Orientation
2. Introduction
3. Clarifying Meanings
4. Phone Conversation
5. Calling in Sick
6. Appointments
7. Making Offers
8. Invitation
9. Small Talk
10. Location
11. Directions
12. Checking in a Hotel
13. Shopping
14. Eating Out
15. Final Exam

準備学習(予習)

必ず教科書の予習と授業の復習とチャプター毎の小テストのための準備を行うこと。

教科書

Tae Kudo 『First Steps to Office English』 (CENGAGE Learning)

準備学習(復習)

ビジネス英語の基礎を身につけるために、授業で学んだ事項の復習を行うこと。

評価方法

(1)出席:20% (2)授業参加度:10% (3)試験:40% (4)小テスト:20% (5)課題:10%

担当者：遠藤 由佳里

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

映画School of Rockを教材にして、リスニング/語彙/会話表現を中心に学習する。また、物語の背景にある文化についても学ぶ。

2.学びの意義と目標

立場や場面に応じた英語表現を理解し、使用できることを目指す。自然な早さで話される英語を聞き取り、強弱や抑揚をつけて英語を話せるようにする。授業意外でも自主的に映画を見て英語学習に取り組む姿勢を育てる。

準備学習(予習)

プリントで指示された語句の意味を調べる。

準備学習(復習)

授業で学習した会話表現 / 語彙の確認。

授業計画

1. オリエンテーション、Chapter 1-5 視聴
2. Chapter 1
3. Chapter 2
4. Chapter 3
5. Chapter 4
6. Quiz #1
7. Chapter 5
8. Chapter 6-10 視聴
9. Chapter 6
10. Chapter 7、Quiz #2
11. Chapter 8
12. Chapter 9, 10
13. Quiz #3、発表
14. 発表
15. 理解度の確認

教科書

マイクホワイ特(著)高瀬文広(監修)『スクール・オブ・ロック(名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)

評価方法

- (1)平常点:50%:授業態度、課題、発表 (2)小テスト:15%
(3)期末試験:35%

担当者：鈴木 政浩

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

場面に応じた表現を学び、コミュニケーション能力の基礎を養う。Web教材を活用し、主体的かつ受講者の到達度に応じた学習を進める。洋画のセリフを音読する場面を可能な限り設け、生の英語の速度に近い速度で音読できるような練習を進める。

2.学びの意義と目標

洋画の音声と英語を活用し、音読や語彙、場面に応じた表現などを学ぶ。音読によりリスニング能力の向上やスピーキング能力の基礎を習得する。こうした取組を通じ、在学中だけでなく、社会人になってからの時期にも活用できる語学習得に必要なスキルを身につける。

準備学習(予習)

語句や表現の下調べ（指示した箇所をテキストから探し出し、意味等を理解する）。

準備学習(復習)

授業で取り上げた箇所の音読練習、語句・表現の内容理解。授業開始時に前時の振り返りをします。

授業計画

1. オリエンテーション、映画鑑賞Chapter1-4
2. Chapter1
3. Chapter2
4. Chapter3
5. Chapter4
6. 発表
7. 中間試験
8. 映画鑑賞Chapter5-10
9. Chapter5
10. Chapter6
11. Chapter7
12. Chapter8
13. Chapter9,10
14. 発表
15. 期末試験

教科書

マイクホワイト(著)高瀬文広(監修)『スクール・オブ・ロック(名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)

評価方法

- (1)平常点:30%:レポート、出席、授業参加度、予習・復習
 - (2)中間試験:20%:授業中使用したプリント等から出題
 - (3)期末試験:20%:授業中使用したプリント等から出題
 - (4)発表:30%:授業中に学習した表現等の音読発表
- 評価方法は、受講生の状況を見ながら若干の変更を加える場合があります

担当者：能町 和子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

アメリカの映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。

2.学びの意義と目標

映画に出てくるさまざまな英語表現を学ぶ。文化背景についても学ぶ。LL機能を用い聞き取り、発音練習も行う。大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。

準備学習(予習)

前もってテキストで学習箇所のあらすじを理解してくる。暗唱課題文を覚えてくる。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントをもとに、学習した語彙を復習する。暗唱課題文を覚える。

授業計画

1. オリエンテーション、1～3章の映画視聴
2. 第1章
3. 第2章
4. 第3章
5. テスト1、4～6章の映画視聴
6. 第4章
7. 第5章
8. 第6章
9. テスト2、7～10章の映画視聴
10. 第7章
11. 第8章
12. 第9章、第10章
13. テスト3、DVD視聴
14. DVD視聴
15. まとめ

教科書

マイクホワイト、高瀬文広、Mike White 『スクール・オブ・ロック(名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)

評価方法

- (1)出席 / 取組:30%
- (2)暗唱:16%:毎回の暗唱課題と3回の暗唱テストの平均点
- (3)聞き取り / 語彙テスト:39%:3回のテストの平均点 (4)レポート:15%

担当者：メイス みよ子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、リスニングや内容理解のタスクを行う。文化背景についても話し合う。ロールプレイを通し発音練習も行う。

2.学びの意義と目標

映画に出てくる日常表現を学び、大学生としての基礎コミュニケーション能力の向上に努める。

準備学習(予習)

語彙などの予習に積極的に取り組む事を望む。

準備学習(復習)

語彙の復習、テキストの台詞を読み、意味を確認しておくこと。

授業計画

1. 授業の紹介、映画鑑賞 1 ~ 5 章
2. 第1章
3. 第2章
4. 第3章
5. 復習
6. 第4章
7. 第5章
8. 映画鑑賞 6 ~ 10 章
9. 第6章
10. 復習
11. 第7章
12. 第8章
13. 第9章
14. 第10章
15. まとめ、期末試験

教科書

マイクホワイト, 高瀬文広, Mike White 『スクール・オブ・ロック(名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)

評価方法

- (1)小テスト:20% (2)授業作業:20% (3)発音テスト:10%
(4)シネマレポート:10% (5)期末試験:40%

担当者：吉牟田 聡美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

欧米の映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。

映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、文化背景についても話し合う。

ロールプレイを通し発音練習も行う。

授業計画

1. 授業の紹介、映画鑑賞一～五章
2. 第一章
3. 第二章
4. 第三章
5. 第四章
6. 第五章
7. 映画鑑賞 六～十章
8. 第六章
9. 第七章
10. 第八章
11. 第九章
12. 第十章
13. Movie Presentation
14. 復習
15. 学期末試験

2.学びの意義と目標

大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。

準備学習(予習)

毎回、次章をプリントで予習してきてください。

教科書を見れば、答えられるものです。

教科書

マイク・ホワイト 『School of Rock』 (スクリーンプレイ社)

準備学習(復習)

毎回、プリントを復習してください。

理解を確実なものにしましょう。

また、小テストの準備にもなります。

評価方法

- (1)平常点:50%:小テスト、レポート、発表、出席、授業参加
- (2)学期末試験:50%

担当者：遠藤 由佳里

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

映画を授業に取り入れることで、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現やアメリカ文化を学習する。

2.学びの意義と目標

映画を鑑賞しながら、リスニング力の向上を目指すと共に、英語表現や文法の解説、ロールプレイなどのアクティビティを通して、コミュニケーション能力の向上も目指す。

準備学習(予習)

次の授業で学習するチャプターの英語スクリプトに目を通しておく。

準備学習(復習)

学習したチャプターからの復習問題（授業内で配布）に取り組む。
授業で学んだ単語、文法、表現などを必ず復習する。

授業計画

1. オリエンテーション & 映画鑑賞 (Ch 1 - 5)
2. Chapter 1 Serving Society
3. Chapter 2 The Man
4. Chapter 3 Required Class Project
5. Chapter 4 Creating Musical Fusion
6. Chapter 5 Ticked Off
7. 中間試験
8. 映画鑑賞 (Ch 6 - 10)
9. Chapter 6 Field Trip
10. Chapter 7 Stevie Nicks
11. Chapter 8 A Fraud
12. Chapter 9 One Great Rock Show
13. Chapter 10 Encore
14. 課題発表
15. まとめ & 学期末試験

教科書

マイクホワイト, 高瀬文広, Mike White 『スクール・オブ・ロック(名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)

評価方法

- (1) 学期末、中間試験:50%
- (2) 平常点(宿題、課題、出席、授業態度):50%

担当者：島田 洋子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

映画を授業に取り入れることで、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現やアメリカ文化を学習する。

2.学びの意義と目標

映画を鑑賞しながら、リスニング力の向上を目指すと共に、英語表現や文法の解説、ロールプレイなどのアクティビティを通して、コミュニケーション能力の向上も目指す。

準備学習(予習)

次の授業で学習するチャプターの英語スクリプトに目を通しておく。

準備学習(復習)

学習したチャプターからの復習問題（授業内で配布）に取り組む。
授業で学んだ単語、文法、表現などを必ず復習する。

授業計画

1. オリエンテーション & 映画鑑賞 (Ch 1 - 5)
2. Chapter 1 Serving Society
3. Chapter 2 The Man
4. Chapter 3 Required Class Project
5. Chapter 4 Creating Musical Fusion
6. Chapter 5 Ticked Off
7. 中間試験
8. 映画鑑賞 (Ch 6 - 10)
9. Chapter 6 Field Trip
10. Chapter 7 Stevie Nicks
11. Chapter 8 A Fraud
12. Chapter 9 One Great Rock Show
13. Chapter 10 Encore
14. 課題発表
15. まとめ & 学期末試験

教科書

マイクホワイト, 高瀬文広, Mike White 『スクール・オブ・ロック(名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)

評価方法

- (1) 学期末、中間試験:50%
- (2) 平常点(宿題、課題、出席、授業態度):50%

担当者：中川 英幸

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

映画を授業に取り入れることで、アメリカの日常生活で使われている自然な英語表現やアメリカ文化を学習する。

2.学びの意義と目標

映画を鑑賞しながら、リスニング力の向上を目指すと共に、英語表現や文法の解説、ロールプレイなどのアクティビティを通して、コミュニケーション能力の向上も目指す。

準備学習(予習)

次の授業で学習するチャプターの英語スクリプトに目を通しておく。

準備学習(復習)

学習したチャプターからの復習問題（授業内で配布）に取り組む。
授業で学んだ単語、文法、表現などを必ず復習する。

授業計画

1. オリエンテーション & 映画鑑賞 (Ch 1 - 5)
2. Chapter 1 Serving Society
3. Chapter 2 The Man
4. Chapter 3 Required Class Project
5. Chapter 4 Creating Musical Fusion
6. Chapter 5 Ticked Off
7. 中間試験
8. 映画鑑賞 (Ch 6 - 10)
9. Chapter 6 Field Trip
10. Chapter 7 Stevie Nicks
11. Chapter 8 A Fraud
12. Chapter 9 One Great Rock Show
13. Chapter 10 Encore
14. 課題発表
15. まとめ & 学期末試験

教科書

マイクホワイト, 高瀬文広, Mike White 『スクール・オブ・ロック(名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』(スクリーンプレイ)

評価方法

- (1) 学期末、中間試験:50%
- (2) 平常点(宿題、課題、出席、授業態度):50%

担当者：L.アーノルド

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

授業の概要

欧米の映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、文化背景についても話し合う。LL機能を用い発音練習も行う。

2.学びの意義と目標

大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。

授業計画

1. プリーティチングアンケート、1～5章の映画を見て、内容確認のタスクを行う
2. 第1章
3. 第2章
4. 第3章
5. 復習
6. 第4章
7. 第5章
8. 6～10章の映画を見て、内容確認のタスクを行う。
9. 第6章
10. 第7章
11. 第8章
12. 復習
13. 第9章
14. 第10章
15. 復習、テスト、対策

準備学習(予習)

毎回の授業に必ず出席し、予習を含めた課題などに積極的に取り組む事を望む。

教科書

W. Nixon 『アバウト・ア・ボーイ』(スクリーンプレイ)

準備学習(復習)

スクリーンプレイを読み、講師のブログをチェックする。

評価方法

平常点(含 小テスト、レポート、発表、出席、授業参加) 50% (出席以上80%が)
 学期末試験 50%

担当者：遠藤 由佳里

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

映画about a boyを教材にして、リスニング/語彙/会話表現を中心に学習する。また、物語の背景にある文化についても学ぶ。

2.学びの意義と目標

立場や場面に応じた英語表現を理解し、使用できることを目指す。自然な早さで話される英語を聞き取り、強弱や抑揚をつけて英語を話せるようにする。授業意外でも自主的に映画を見て英語学習に取り組む姿勢を育てる。

準備学習(予習)

プリントで指示された語句の意味を調べる。

準備学習(復習)

授業で学習した会話表現/語彙の確認。

授業計画

1. オリエンテーション、Chapter 1-5 視聴
2. Chapter 1
3. Chapter 2
4. Chapter 3
5. Chapter 4
6. Quiz #1
7. Chapter 5
8. Chapter 6-10 視聴
9. Chapter 6
10. Chapter 7、Quiz #2
11. Chapter 8
12. Chapter 9, 10
13. Quiz #3、発表
14. 発表
15. 理解度の確認

教科書

亀山 太一 『アバウト・ア・ボーイ (名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』 (スクリーンプレイ)

評価方法

- (1)平常点:50%:授業態度、課題、発表
- (2)小テスト:15%:授業で使用したプリントより出題
- (3)期末試験:35%:授業で使用したプリントより出題

担当者：鈴木 政浩

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

場面に応じた表現を学び、コミュニケーション能力の基礎を養う。Web教材を活用し、主体的かつ受講者の到達度に応じた学習を進める。洋画のセリフを音読する場面を可能な限り設け、生の英語の速度に近い速度で音読できるような練習を進める。

2.学びの意義と目標

洋画の音声と英語を活用し、音読や語彙、場面に応じた表現などを学ぶ。音読によりリスニング能力の向上やスピーキング能力の基礎を習得する。こうした取組を通じ、在学中だけでなく、社会人になってからの時期にも活用できる語学習得に必要なスキルを身につける。

準備学習(予習)

語句や表現の下調べ（指示した箇所をテキストから探し出し、意味等を理解する）。

準備学習(復習)

授業で取り上げた箇所の音読練習、語句・表現の内容理解。授業開始時に前時の振り返りをします。

授業計画

1. オリエンテーション、映画鑑賞Chapter1-5
2. Chapter1
3. Chapter2
4. Chapter3
5. Chapter4
6. Chapter5
7. 発表
8. 中間試験
9. 映画鑑賞Chapter6-10
10. Chapter6
11. Chapter7
12. Chapter8
13. Chapter9,10
14. 発表
15. 期末試験

教科書

亀山 太一 (翻訳) 『アバウト・ア・ボーイ (名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』 (スクリーンプレイ)

評価方法

- (1)平常点:30%:レポート、出席、授業参加度、予習・復習
 - (2)中間試験:20%:授業中使用したプリント等から出題
 - (3)期末試験:20%:授業中使用したプリント等から出題
 - (4)発表:30%:授業中に学習した表現等の音読発表
- 評価方法は、受講生の状況を見ながら若干の変更を加える場合があります

担当者：能町 和子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

イギリスの映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。

2.学びの意義と目標

映画に出てくるさまざまな英語表現を学ぶ。文化背景についても学ぶ。LL機能を用い聞き取り、発音練習も行う。大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。

準備学習(予習)

前もってテキストで学習箇所のあらすじを理解してくる。暗唱課題文を覚えてくる。

準備学習(復習)

授業で配布されたプリントをもとに、学習した語彙を復習する。暗唱課題文を覚える。

授業計画

1. オリエンテーション、1～3章の映画視聴
2. 第1章
3. 第2章
4. 第3章
5. テスト1、4～6章の映画視聴
6. 第4章
7. 第5章
8. 第6章
9. テスト2、7～10章の映画視聴
10. 第7章
11. 第8章
12. 第9章、第10章
13. テスト3、DVD視聴
14. DVD視聴
15. まとめ

教科書

亀山 太一 『アバウト・ア・ボーイ (名作映画完全セリフ集スクリーンプレイ・シリーズ)』 (スクリーンプレイ)

評価方法

担当者：メイス みよ子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

1.内容
この授業では数本の映画を通して、英語圏の文化や社会情勢などについて学ぶ。また、映画からだけでなく、インターネットを利用して映画のテーマに関するリサーチを行い、自分の意見を組み立てる。そして、ディスカッションを通してクラスメートとお互いの感想や意見を交換したり、プレゼンテーション、レポートを通して、自分の考えを発表したりする。さらに、映画のシーンを題材にしたリスニング練習や映画についての読解練習も取り入れる。

2.学びの意義と目標

映画を通して異文化に対する理解を深める。またリサーチした内容をまとめ、自分の考えをしっかりとまとめ発表できることを目標とする。

準備学習(予習)

映画背景の検索とまとめ。

準備学習(復習)

映画のまとめと語彙表現の復習。

授業計画

1. オリエンテーション、第1作目のリサーチ活動
2. 第1作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
3. 第1作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
4. 第1作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
5. 第1作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
6. レポートのまとめ、ディスカッション
7. 第2作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評、発表
8. 第2作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評、発表
9. 第2作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評、発表
10. 第2作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評、発表
11. レポートのまとめ、ディスカッション
12. 第3作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
13. 第3作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
14. 第3作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、批評
15. 第3作目の映画鑑賞、内容理解のタスク、ディスカッション、レポートのまとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)リスニング演習:20% (2)小テスト:20% (3)レポート:40%
(4)授業参加:20%

担当者：能町 和子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

Peanuts (スヌーピー)の漫画と、登場人物に関する英文を読む。

2.学びの意義と目標

スヌーピーの登場人物の考察を読むことによって、文化や人間に対する理解を深める。レッスン毎に設定された習得課題の動詞と表現を身につける。単純な動詞でいろいろな表現の幅が広がります。

準備学習(予習)

各章の読み物の英語句の意味を全て調べ、内容を説明できるよう準備してくる。

準備学習(復習)

課題となる動詞、表現、それをういた英文を繰り返し読み(できれば音読)身につける。

授業計画

1. クラスガイダンス、プリントを使っての学習
2. Lesson 1、語彙と表現
3. lesson 1、Reading、discussion
4. Lesson 2、語彙と表現
5. lesson 2、Reading、discussion
6. Lesson 3、語彙と表現
7. lesson 3、Reading、discussion
8. 中間テスト
9. Lesson 4、語彙と表現
10. lesson 4、Reading、discussion
11. Lesson 5、語彙と表現
12. lesson 5、Reading、discussion
13. Lesson 6、語彙と表現
14. lesson 6、Reading、discussion
15. まとめ

教科書

外山 晴子 『Enjoy English with Charlie Brown and Friends 『ピーナッツ』で学ぶ英語と比較文化』(南雲堂)

評価方法

- (1)出席、辞書:24% (2)予習/グループワーク:16% (3)提出物:10%
 (4)中間テスト:20% (5)期末テスト:30%

担当者：能町 和子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

Peanuts (スヌーピー)の漫画と、登場人物に関する英文を読む。

2.学びの意義と目標

スヌーピーの登場人物の考察を読むことによって、文化や人間に対する理解を深める。レッスン毎に設定された習得課題の動詞と表現を身につける。単純な動詞でいろいろな表現の幅が広がります。

準備学習(予習)

各章の読み物の英語句の意味を全て調べ、内容を説明できるよう準備してくる。

準備学習(復習)

課題となる動詞、表現、それをういた英文を繰り返し読み(できれば音読)身につける。

授業計画

1. クラスガイダンス、プリントを使っての学習
2. Lesson 7、語彙と表現
3. lesson 7、Reading、discussion
4. Lesson 8、語彙と表現
5. lesson 8、Reading、discussion
6. Lesson 9、語彙と表現
7. lesson 9、Reading、discussion
8. 中間テスト
9. Lesson 10、語彙と表現
10. lesson 10、Reading、discussion
11. Lesson 11、語彙と表現
12. lesson 11、Reading、discussion
13. Lesson 12、語彙と表現
14. lesson 12、Reading、discussion
15. まとめ

教科書

外山 晴子 『Enjoy English with Charlie Brown and Friends 『ピーナッツ』で学ぶ英語と比較文化』(南雲堂)

評価方法

- (1)出席、辞書:24% (2)予習/グループワーク:16% (3)提出物:10% (4)中間テスト:20% (5)期末テスト:30%

担当者：J.テーズ-清水

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

This course covers 10 popular songs including, Rock, pop and folk. The course aims to train students to recognize the sound changes that make spoken English such a challenge. Some Disney Songs will be introduced from time to time.

2.学びの意義と目標

Students will:

- review basic grammar functions
- become familiar with various genres of music in the English context
- expand knowledge of various typical English expressions
- be able to speak reflectively about various music genres
- make a presentation reflecting their own music appreciation
- Increase in fluency and accuracy of listening and speaking skills.
- Make comments on Moodle-like network regarding personal responses to music topics

準備学習(予習)

Review key vocabulary and expressions
Complete homework
Listen to CD at home

準備学習(復習)

Review previous chapters

授業計画

1. Orientation
2. Only You (Enya)
3. Top of the World
4. Stand by Me (Ben E. King)
5. Your Song (Elton John)
6. I don ' t want to miss a thing (Aerosmith)
7. Hero (Mariah Carey)
8. I want it that way (Backstreet Boys)
9. Review Test and Disney Songs
10. Bye, Bye, Bye (NSYNC)
11. Life (Des ' ree)
12. I just called to say I love you (Stevie Wonder)
13. Review Test & Prepare for presentation
14. Prepare for presentation
15. Presentation

教科書

熊井信弘, ステファン・ティムソン 『Hit Parade Listening Third Edition Student Book』 (マクミラン・ランゲージハウス)

評価方法

- (1)Attendance:20%:Participation, attitude (2)Homework:20%:quizzes
(3)Comments on network:20%:Comments on Moodle-like network
(4)Tests:20% (5)Final Presentation:20%

担当者：能町 和子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

英語の歌を使って英語の学習をする。

2.学びの意義と目標

聞き取りのこつを踏まえた上で、聴き取り、発音を練習する（英語の音を体に取り込む）。歌詞と歌詞についての解説を読むことによって、理解力を深める。

準備学習(予習)

歌詞についての解説文（英文）を読みこなせる様、事前に英語句を調べる。

準備学習(復習)

聴き取り / 発音のポイントを復習し、発音練習する。

授業計画

1. クラスガイダンス、練習問題
2. Unit 1
3. Unit 2、グループ発表
4. Unit 3、グループ発表
5. Unit 4、Review test
6. Unit 5、グループ発表
7. Unit 6、グループ発表
8. Unit 7、グループ発表
9. Unit 8、Review test
10. Unit 9、グループ発表
11. Unit 10、グループ発表
12. Post-test、関連動画視聴
13. 関連動画視聴、個人発表準備
14. 個人発表、まとめ
15. 個人発表、まとめ

教科書

熊井信弘, ステファン・ティムソン 『Hit Parade Listening Third Edition Student Book』(マクミラン・ランゲージハウス)

評価方法

- (1)予習:15% (2)参加:25%:出席、辞書の持参、授業態度の総合
 (3)グループ発表:15%:複数回発表があります。(4)小テスト:10%
 (5)個人発表:35%

担当者：吉牟田 聡美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

英語の音楽映像を楽しみながら視聴します。

歌詞を聞き取ります。

歌詞に用いられている文法のポイントを学習し、意味をつかみ日本語に翻訳します。

アーティストや歌の背景的な情報を読み、洋楽に関する知識を深めます。

好みのアーティストや曲についてプレゼンテーションします。

2.学びの意義と目標

目標としているところは、洋楽の一般的な教養を深めます。

歌詞を翻訳しBGM代わりに聞いていた時には知りえなかった曲の世界を理解し、堪能します。

歌詞を解釈することにより、文法の知識を増強させ、四者択一の読解問題を解くことにより、検定試験にも対応する英語力の育成を目指します。

好みの音楽に関してプレゼンテーションを行うことにより、英語による自己表現力を磨きます。

準備学習(予習)

次回の曲を聴いてきてください。

準備学習(復習)

プリントを復習してください。

小テストの準備をしてきてください。
曲のサビの部分を書けるように、聞いて書いて歌って覚えてください。

授業計画

1. Orientation、アンケート（希望調査）、Seasons of Love
2. 省略される発音、Born This Way-Lady GaGa
3. 音の同化1、I Want You Back-Jackson 5
4. 音の同化2、I Miss You-Miley Cyrus
5. リエゾン1、I Will Always Love You-Whitney Houston
6. Presentation 1
7. リエゾン2、We Can Work It Out-The Beatles
8. 米語の特徴flap t I I Want It That Way- Backstreet Boys
9. 注意すべき子音L Beautiful-Christina Aguilera
10. Presentation 2
11. 似た発音の聞き分け（曲は希望調査により決定）
12. 音の脱落1（曲は希望調査により決定）
13. 音の脱落2（曲は希望調査により決定）
14. 米語の特徴flap 2（曲は希望調査により決定）
15. Presentation 3

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)発表点:30% (2)出席点:25% (3)平常点:45%
毎回小テストを行います。

学期末の筆記試験は行いません。
学期中に3回のプレゼンテーションがあります。

担当者：J.テーズ-清水

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

This course covers 10 popular songs including, Rock, pop and folk. The course aims to train students to recognize the sound changes that make spoken English such a challenge. Some Disney will be introduced from time to time.

2.学びの意義と目標

Students will:

- review basic grammar functions
- become familiar with various genres of music in the English context
- expand knowledge of various typical English expressions
- be able to speak reflectively about various music genres
- make a presentation reflecting their own music appreciation
- Increase in fluency and accuracy of speaking skills.
- Make comments on Moodle-like network regarding personal responses to music topics

準備学習(予習)

Review key vocabulary and expressions
Complete homework
Listen to CD at home

準備学習(復習)

Review previous chapters

授業計画

1. Orientation
2. Yesterday once more (The Carpenters)
3. Change the world (Eric Clapton)
4. I will always love you (Whitney Houston)
5. If we hold on together (Diana Ross)
6. Woman (John Lenon)
7. To love you more (Celine Dion)
8. When a man loves a woman (Michael Bolton)
9. Review Test and Disney Songs
10. Save the Best for Last (Vanessa Williams)
11. Hotel California (The Eagles)
12. Honesty (Billy Joel)
13. Review Test & Presentation Preparation
14. Presentation Preparation
15. Presentation

教科書

熊井信弘, ステファン・ティムソン 『Hit Parade Listening Third Edition Student Book』 (マクミラン・ランゲージハウス)

評価方法

(1)Participation and Attendance:20% (2)Homework and Quizzes:20%
(3)Comments on Moodle-like network:20%:Moodle network comments (4)Tests:20% (5)Final Presentation:20%

担当者：能町 和子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

英語の歌を使って英語の学習をする。

2.学びの意義と目標

聞き取りのこつを踏まえた上で、聴き取り、発音を練習する（英語の音を体に取り込む）。歌詞と歌詞についての解説を読むことによって、理解力を深める。

準備学習(予習)

歌詞についての解説文（英文）を読みこなせる様、事前に英語句を調べる。

準備学習(復習)

聴き取りノ発音のポイントを復習し、発音練習する。

授業計画

1. クラスガイダンス、練習問題
2. Unit 11
3. Unit 12、グループ発表
4. Unit 13、グループ発表
5. Unit 14、グループ発表
6. Unit 15、グループ発表
7. Unit 16、Review Test
8. Unit 17、グループ発表
9. Unit 18、グループ発表
10. Unit 19、グループ発表
11. Unit 20、Review Test
12. Post-test、関連動画視聴
13. 関連動画視聴、個人発表準備
14. 個人発表、まとめ
15. 個人発表、まとめ

教科書

熊井信弘, ステファン・ティムソン 『Hit Parade Listening Third Edition Student Book』(マクミラン・ランゲージハウス)

評価方法

- (1)予習:15% (2)参加:25%:出席、辞書の持参、授業態度の総合
 (3)グループ発表:15%:複数回発表があります。(4)小テスト:10%
 (5)個人発表:35%

ECA(Pleasure Reading) A

担当者：吉牟田 聡美

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）をしていく授業です。

Graded Readersというレベル別に分かれた本の中から、興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で本を読み進めていきます。

読んだ本の記録をつけ、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をアクティビティを通じて行ないます。

読んだ本について英語でプレゼンテーションを行います。

授業計画

1. オリエンテーション / ジャーナル記載方法、ジャンル区分 / WPM 計測 / 読書経験 / リーディング・ラボ案内
2. 読書とリーディングアクティビティ(1)
3. 読書とリーディングアクティビティ(2)
4. 読書とリーディングアクティビティ(3)
5. 読書とリーディングアクティビティ(4) / プレゼンテーション 1 準備
6. プレゼンテーション 1 / 読書とリーディングアクティビティ(5)
7. 読書とリーディングアクティビティ(6)
8. 読書とリーディングアクティビティ(7)
9. 読書とリーディングアクティビティ(8)
10. 読書とリーディングアクティビティ(9) / プレゼンテーション2準備
11. プレゼンテーション2 / 読書とリーディングアクティビティ(10)
12. 読書とリーディングアクティビティ(11)
13. 読書とリーディングアクティビティ(12)
14. 読書とリーディングアクティビティ(13) / プレゼンテーション 3 準備
15. プレゼンテーション 3

2.学びの意義と目標

英語で読む習慣を身につけ、自分のペースで読むことにより無理なく自然に英語力を伸ばし、英語で読むことの楽しさ (pleasure of reading)を知ることを目指します。

準備学習(予習)

リーディングラボで本を借りておいてください。

教科書

プリントを配布する

準備学習(復習)

授業で読みかけた本を最後まで読み、読書記録をつけましょう。次回提出してもらいます。

評価方法

(1)出席点:25% (2)平常点:45% (3)発表点:30%
学期末試験は筆記ではなく、プレゼンテーション形式の実技試験になります。

担当者：吉牟田 聡美

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）をしていく授業です。

Graded Readersというレベル別に分かれた本の中から、興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で本を読み進めていきます。

読んだ本の記録をつけ、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をアクティビティを通じて行ないます。

読んだ本について英語でプレゼンテーションを行います。

2.学びの意義と目標

英語で読む習慣を身につけ、自分のペースで読むことにより無理なく自然に英語力を伸ばし、英語で読むことの楽しさ（pleasure of reading)を知ることを目指します。

準備学習(予習)

リーディングラボで本を借りておいてください。

準備学習(復習)

授業で読みかけた本を最後まで読み、読書記録をつけましょう。次回提出してもらいます。

授業計画

1. オリエンテーション / ジャーナル記載方法、ジャンル区分 / WPM 計測 / 読書経験 / リーディング・ラボ案内
2. 読書とリーディングアクティビティ(1)
3. 読書とリーディングアクティビティ(2)
4. 読書とリーディングアクティビティ(3)
5. 読書とリーディングアクティビティ(4) / プレゼンテーション 1 準備
6. プレゼンテーション 1 / 読書とリーディングアクティビティ(5)
7. 読書とリーディングアクティビティ(6)
8. 読書とリーディングアクティビティ(7)
9. 読書とリーディングアクティビティ(8)
10. 読書とリーディングアクティビティ(9) / プレゼンテーション2準備
11. プレゼンテーション2 / 読書とリーディングアクティビティ(10)
12. 読書とリーディングアクティビティ(11)
13. 読書とリーディングアクティビティ(12)
14. 読書とリーディングアクティビティ(13) / プレゼンテーション 3 準備
15. プレゼンテーション 3

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席点:25% (2)平常点:45% (3)発表点:30%
学期末試験は筆記ではなく、プレゼンテーション形式の実技試験になります。

担当者：森 容子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

テキストの音読、語彙調べ

準備学習(復習)

語彙の復習、音読

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて
2. 第1章の読解、文法演習
3. 第2章の読解、文法演習
4. 第3章の読解、文法演習
5. キャッチアップ
6. 第4章の読解、文法演習
7. 第5章の読解、文法演習
8. 第6章の読解、文法演習
9. キャッチアップ
10. 第7章の読解、文法演習
11. 第8章の読解、文法演習
12. 第9章の読解、文法演習
13. 第10章の読解、文法演習
14. 第11章の読解、文法演習
15. まとめ、期末試験

教科書

Sandra Heyer 『More True Stories: A High-Beginning Reader (3rd Edition)』 (Pearson Education ESL)

評価方法

(1)期末試験:50% (2)平常点:50%:小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：遠藤 由佳里, 吉牟田 聡美

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

この授業では、様々なタイプの記事を読んでいく。読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

教科書のCDを繰り返し聴く。

準備学習(復習)

教科書の会話/リーディングの音読と文法の復習を行う。

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて
2. 天候に関する読解練習と語彙の学習
3. 天候に関する読解練習と語彙の学習
4. 文法演習
5. 日常生活に関する読解練習と語彙の学習
6. 日常生活に関する読解練習と語彙の学習
7. 家族に関する読解練習と語彙の学習
8. 家族に関する読解練習と語彙の学習
9. 文法練習
10. 住宅に関する読解練習と語彙の学習
11. 住宅に関する読解練習と語彙の学習
12. ショッピングに関する読解練習と語彙の学習
13. ショッピングに関する読解練習と語彙の学習
14. 外食に関する読解練習と語彙の学習
15. まとめ、期末試験

教科書

S. Iannuzzi & R. Weiss 『Read All About It, Starter』 (Oxford)

評価方法

- (1) 期末試験:50%
- (2) 平常点:50%:授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：メイス みよ子, 中川 英幸, 遠藤 由佳里, 島田 洋子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見をライティングで表現する。より自然な発音で音読出来るよう、指導していく。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

ポキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、プリテストの実施
2. be動詞について、テキスト練習問題
3. 一般動詞について、テキスト練習問題
4. 命令文について、テキストの練習問題
5. 現在進行形について、テキストの練習問題
6. 過去形について、テキストの練習問題
7. 過去形について、テキストの練習問題
8. 助動詞について、テキストの練習問題
9. 助動詞について、テキストの練習問題
10. 前置詞について、テキストの練習問題
11. 受動態について、テキストの練習問題
12. 受動態について、テキストの練習問題
13. to不定詞について、テキストの練習問題
14. to不定詞について、テキストの練習問題
15. まとめ、期末試験

教科書

Lori Howard 『Read All About It Book 2 (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))

評価方法

(1)期末試験:50% (2)平常点:50%:ブックレポート、授業の作業、小テスト、参加態度、宿題

担当者：中川 英幸, 遠藤 由佳里, 島田 洋子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

ポキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、フリテストの実施
2. be動詞について、テキスト練習問題
3. 一般動詞について、テキスト練習問題
4. 命令文について、テキストの練習問題
5. 現在進行形について、テキストの練習問題
6. 過去形について、テキストの練習問題
7. 過去形について、テキストの練習問題
8. 助動詞について、テキストの練習問題
9. 助動詞について、テキストの練習問題
10. 前置詞について、テキストの練習問題
11. 受動態について、テキストの練習問題
12. 受動態について、テキストの練習問題
13. to不定詞について、テキストの練習問題
14. to不定詞について、テキストの練習問題
15. まとめ、期末試験

教科書

Lori Howard 『Read All About It (Oxford Picture Dictionary Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))

評価方法

- (1) 期末試験:50%
- (2) 平常点:50%:授業の作業、小テスト、参加態度、宿題

担当者：島田 洋子,メイス みよ子,中川 英幸,遠藤 由佳里

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

ポキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて、フリテストの実施
2. be動詞について、テキスト練習問題
3. 一般動詞について、テキスト練習問題
4. 命令文について、テキストの練習問題
5. 現在進行形について、テキストの練習問題
6. 過去形について、テキストの練習問題
7. 過去形について、テキストの練習問題
8. 助動詞について、テキストの練習問題
9. 助動詞について、テキストの練習問題
10. 前置詞について、テキストの練習問題
11. 受動態について、テキストの練習問題
12. 受動態について、テキストの練習問題
13. to不定詞について、テキストの練習問題
14. to不定詞について、テキストの練習問題
15. まとめ、期末試験

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories: A Picture-Based Beginning Reader』(Longman Pub Group)

評価方法

(1)期末試験:50% (2)平常点:50%:授業の作業、小テスト、授業態度

担当者：L.アーノルド

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見をライティングで表現する。より自然な発音で音読出来るよう、指導していく。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習、多読の練習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

テキストを読んでおくこと。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習。講師のブログをチェックする。

授業計画

1. Orientation, 授業について, Pretest
2. be 動詞、Unit 1: Love at First Sight
3. 一般動詞、Unit 1 challenge
4. 命令文、Unit 2 The Tsunami
5. 現在進行形、Unit 2 challenge
6. 過去形、Unit 3 More Alike Than Different
7. 過去形、Unit 3 challenge
8. 助動詞、Unit 4 Healthy Again
9. 助動詞、Unit 4 challenge
10. 前置詞、Unit 5 If You Have Time
11. 受動態、Unit 5 challenge
12. 受動態、Unit 6 The Buried City
13. To 不定詞、Unit 6 challenge
14. To 不定詞、Review
15. Exam

教科書

Sandra Heyer 『Even More True Stories』 (Pearson Education)

評価方法

- (1)期末試験:50%
- (2)平常点:50%:ブックレポート、授業の作業、小テスト、宿題参加態度

担当者：鈴木 政浩

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

テキストの音読、語彙調べ

準備学習(復習)

語彙の復習、音読

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて
2. 第12章の読解、文法演習
3. 第13章の読解、文法演習
4. 第14章の読解、文法演習
5. キャッチアップ、文法演習
6. 第15章の読解、文法演習
7. 第16章の読解、文法演習
8. 第17章の読解、文法演習
9. 第18章の読解、文法演習
10. キャッチアップ
11. 第19章の読解、文法演習
12. 第20章の読解、文法演習
13. 第21章の読解、文法演習
14. 第22章の読解、文法演習
15. まとめ、期末試験

教科書

Sandra Heyer 『More True Stories: A High-Beginning Reader (3rd Edition)』 (Pearson Education ESL)

評価方法

(1)期末試験:50% (2)平常点:50%:小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：能町 和子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

テキストの音読、語彙調べ

準備学習(復習)

語彙の復習、音読

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、ブックレポートについて
2. 服装についての読解練習と語彙練習
3. 服装についての読解練習と語彙練習
4. 健康についての読解練習と語彙練習
5. 健康についての読解練習と語彙練習
6. 文法練習
7. 地域社会についての読解練習と語彙練習
8. 地域社会についての読解練習と語彙練習
9. 交通に関する読解練習と語彙練習
10. 交通に関する読解練習と語彙練習
11. 文法練習
12. ビジネスに関する読解練習と語彙練習
13. ビジネスに関する読解練習と語彙練習
14. フィットネスに関する読解練習と語彙練習
15. まとめ、期末試験

教科書

Susan Iannuzzi, Renee Weiss 『Read All About It: Starter』 (Oxford Univ Pr (Sd))

評価方法

(1)期末試験:50% (2)平常点:50%:小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：メイス みよ子, 島田 洋子

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見をライティングで表現する。より自然な発音で音読出来るよう、指導していく。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

ポキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、プリテストの実施
2. be動詞の復習、テキストの練習問題
3. 一般動詞の復習、テキストの練習問題
4. 復習
5. 時制の復習、テキストの練習問題
6. 関係代名詞について、テキストの練習問題
7. 復習
8. 接続詞について、テキストの練習問題
9. 助動詞の復習、テキストの練習問題
10. 句動詞の表現について、テキストの練習問題
11. 復習
12. 現在完了について、テキストの練習問題
13. 現在完了の続き、テキストの練習問題
14. Ifを使った条件文について、テキストの練習問題
15. まとめ、試験

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1) 期末試験:50%
- (2) 平常点:50%:授業の作業、小テスト、参加態度、宿題

担当者：中川 英幸, 島田 洋子

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、正しい発音、イントネーションで英文を読めるよう、音読の練習も行う。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

ポキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、プリテストの実施
2. be動詞の復習、テキストの練習問題
3. 一般動詞の復習、テキストの練習問題
4. 復習
5. 時制の復習、テキストの練習問題
6. 関係代名詞について、テキストの練習問題
7. 復習
8. 接続詞について、テキストの練習問題
9. 助動詞の復習、テキストの練習問題
10. 句動詞の表現について、テキストの練習問題
11. 復習
12. 現在完了について、テキストの練習問題
13. 現在完了の続き、テキストの練習問題
14. Ifを使った条件文について、テキストの練習問題
15. まとめ、試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)期末試験:50% (2)平常点:50%:
授業の作業、小テスト、参加態度、宿題

担当者：島田 洋子, 中川 英幸, メイス みよ子

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、スムーズに英文が読めるよう、音読練習も重視する。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

ポキャブラリーの予習、ECA Goalsの各文法項目を予習しておく。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習

授業計画

1. オリエンテーション、授業シラバスの説明、プリテストの実施
2. be動詞の復習、テキストの練習問題
3. 一般動詞の復習、テキストの練習問題
4. 復習
5. 時制の復習、テキストの練習問題
6. 関係代名詞について、テキストの練習問題
7. 関係代名詞について、テキストの練習問題
8. 接続詞について、テキストの練習問題
9. 助動詞の復習、テキストの練習問題
10. 句動詞の表現について、テキストの練習問題
11. 句動詞の表現について、テキストの練習問題
12. 現在完了について、テキストの練習問題
13. 現在完了について、テキストの練習問題
14. Ifを使った条件文について、テキストの練習問題
15. まとめ、試験

教科書

Sandra Heyer 『Easy True Stories: A Picture-Based Beginning Reader』(Longman Pub Group)

評価方法

(1)期末試験:50% (2)
平常点:50%:授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：L.アーノルド

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

様々なタイプの記事を読み、読解に必要な文法、語彙表現、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見をライティングで表現する。より自然な発音で音読出来るよう、指導していく。

2.学びの意義と目標

語彙表現の学習、文法の復習を通し、大学生としての基礎英語読解力を養成する。

準備学習(予習)

テキストを読んでおくこと。

準備学習(復習)

各章の語彙表現の復習、文法の復習、音読練習。講師のブログをチェックする。

授業計画

1. Orientation、授業シラバスの説明、Pretest の実施
2. be動詞の復習、Unit 9 Misunderstanding
3. 一般動詞の復習、Unit 9 challenge
4. Unit 10 Flight 5390
5. 時制の復習、Unit 10 challenge
6. 関係代名詞 Unit 11 A Killer in the Back Seat
7. Unit 11 challenge
8. 接続詞、Unit 12 The Treasure Hunt
9. 助動詞の復習、Unit 12 challenge
10. 句動詞の表現、Unit 13 The Plain People
11. 現在完了形、Unit 13 challenge
12. 現在完了形、Unit 14 Does Death Take A Holiday?
13. If を使った条件文、Unit 15 Sucker Day
14. Unit 16 Love Under Siege
15. まとめ、期末試験

教科書

Sandra Heyer 『Even More True Stories』 (Pearson Education)

評価方法

(1)期末試験:50% (2)平常点:50%:授業の作業、小テスト、ブックレポート、宿題、参加態度

担当者：L.アーノルド, 中川 英幸

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

2.学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

準備学習(復習)

テキスト、ワークブックの復習、講師のブログをチェックし、スピーキングテストの前に練習して。

授業計画

1. 授業内容説明・プリーテスト
2. 生徒達のクラスIDカード作り, クラスルーム英語, 挨拶
3. 人々の描写
4. 挨拶、描写の練習・活動
5. 日課
6. 健康・スポーツの言葉
7. 日課、健康、スポーツ会話の練習・活動
8. 復習・クイズ
9. できること・腕前
10. できること、腕前の練習・活動
11. 比較対照
12. できること、腕前の比較対照の練習・活動
13. 中間復習
14. 中間テスト(スピーキング)
15. 物の作ること
16. 物の描写
17. 家・近所・方向の言葉・会話
18. 方向の描写
19. 時間・日付
20. 好みの選択とお誘い・イベントの会話
21. 好みの選択・お誘い会話の練習・活動
22. 復習・クイズ
23. 話・行うの言葉
24. 話・行うの言葉
25. 話・行うの会話の練習
26. 話・行うこと会話の練習・活動
27. 将来言葉・会話
28. 将来のこと会話
29. 期末復習
30. 期末試験

教科書

M.ヘールゲン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success』(ピアソン・エデュケーション)
M.ヘールゲン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand Success Workbook』(ピアソン・エデュケーション)

評価方法

出席状況、授業態度・参加 25% (出席80%以上が)
課題 25%
スピーキングテスト(2回) 25%
期末試験 25%

担当者：チェンバレン 暁子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話ができるようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでゆく。

2.学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語力を身につけてゆく。

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。課題を必ず行う。

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

授業計画

1. Orientation: Class policy and procedures, Pre-test
2. Unit 1 Meeting People
3. Unit 1 Countries and Nationality
4. Unit 2 Family
5. Unit 2 Describing People
6. Unit 3 In a Classroom
7. Unit 3 In an Electronics Store
8. Unit 4 Everyday Activities
9. Unit 4 Places
10. Unit 5 Food and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. Mid-term Speech test
15. Unit 7 Free Time Activities
16. Unit 7 Popular Sports
17. Unit 8 Life Events
18. Unit 8 Weekend Plans
19. Unit 9 Movies
20. Unit 9 TV Programs
21. Unit 10 Health Problems
22. Unit 10 Getting Better
23. Unit 11 On Vacation
24. Unit 11 Past Events
25. Unit 12 Telephone Language
26. Unit 12 Things to Do
27. Review
28. Speech Test
29. Review
30. Final Exam

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

評価方法

- (1)出席:20% (2)授業参加度:10% (3)課題:10%
(4)試験:60%:期末試験とSpeech testを含む。

ECA(Speaking) [Level A]

担当者： K . O . アンダスン, J.テ-ヴズ-清水, L . ア-ノルド

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。

2.学びの意義と目標

総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。

授業計画

1. class policy and procedures: classroom English
2. Module I Who We Are: Self-Introduction in English
3. formal and informal instructions
4. introduce oneself in formal and informal contexts
5. ask for and give personal information
6. ask about family members
7. ask about family members, continued
8. Module II What We Are or Are Doing: Routines
9. initiate, extend and close a conversation
10. initiate, extend, and close a conversation, continued
11. review and consolidation
12. midterm oral exam
13. Module III Personal / Free Time
14. giving directions; stores and services
15. entertainment, hobbies, interests
16. entertainment, hobbies, interests, continued
17. How much is this? prices, shopping, etc.
18. Listen to music: favorite music, etc.
19. Module IV: Past Experiences
20. personal history
21. childhood
22. junior high and high school years
23. past experiences
24. past vacations / holidays
25. review and consolidation
26. Module V: Future Plans and Activities / Occupations
27. occupations: job-hunting, interviews, etc.
28. future plans and activities
29. review and consolidation
30. final oral exams (final exam during test week)

準備学習(予習)

Students should have homework done and should review material covered in the previous class before the next class. They should look up new words, read through the next lesson, and ask the teacher for help outside of class.

準備学習(復習)

Students should review material covered in a class after class and then try to prepare for the next class. They should review previously learned words, re-read previous material, and consult the teacher if they need further advice.

教科書

Marc Helgeson, et. al. 『English Firsthand 1, Student Book』 (Pearson Longman)
 Marc Helgeson, et. al. 『English Firsthand1, Student Workbook』 (Pearson Longman)

評価方法

- (1)出席状況、授業態度・参加:30% (2)語彙の宿題・小テスト:20%
 (3)スピーキングテスト(2回):30% (4)期末試験:20%

担当者：L.アーノルド, J.テヴズ-清水

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

2.学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

準備学習(復習)

テキスト、ワークブックの復習、講師をブログのチェックし、スピーキングテストの前に練習する。

授業計画

1. 授業内容説明・プリーテスト
2. 生徒達のクラスIDカード作り, クラスルーム英語, 挨拶
3. 人々の描写
4. 挨拶、人々描写の練習・活動
5. 日課の会話
6. 健康・スポーツ
7. 日課、健康、スポーツ会話の練習・活動
8. 復習・クイズ
9. 経験・雑学
10. 経験・雑学の会話
11. 比較対照
12. 経験、雑学の比較対照会話の練習・活動
13. 中間復習
14. 中間テスト(スピーキング)
15. できることの描写
16. 腕前の描写
17. できること、腕前会話の練習・活動
18. できること、腕前会話の練習・活動
19. 時間・日付
20. 好みの選択とお誘い・イベントの会話
21. 好みの選択・お誘い会話の練習・活動
22. 復習・クイズ
23. 話・行うの言葉
24. 話・行うこと会話の練習・活動
25. ルールのこと
26. ルールの会話
27. 将来言葉・会話
28. 将来のこと会話
29. 期末復習
30. 期末試験

教科書

M.ヘールゲセン、S.ブラウン、J.ウィルトシーア 『English Firsthand Success (4E)』(ピアソン・エデュケーション)
M.ヘールゲセン、S.ブラウン、J.ウィルトシーア 『English Firsthand Success Workbook』(ピアソン・エデュケーション)

評価方法

出席状況、授業態度・参加 25% (80%以上出席が)
課題 25%
スピーキングテスト(2回) 25%
期末試験 25%

ECA(Speaking) [Level C/D]

担当者：チェンバレン 暁子, メイス みよ子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「コミュニケーション・アプローチ」を用いながら、既習の英文法を復習すると共に、Speaking & Listeningの練習を行い、自然な英語会話ができるようにすることを主眼におく。様々な実践的なテーマの中で必要な英語表現や語彙を学んでゆく。

授業計画

1. Orientation: Class policy and procedures, Pre-test
2. Unit 1 Meeting People
3. Unit 1 Countries and Nationality
4. Unit 2 Family
5. Unit 2 Describing People
6. Unit 3 In a Classroom
7. Unit 3 In an Electronics Store
8. Unit 4 Everyday Activities
9. Unit 4 Places
10. Unit 5 Food and Drinks
11. Unit 5 Snacks
12. Unit 6 Housing
13. Unit 6 In an Apartment
14. Mid-term Speech test
15. Unit 7 Free Time Activities
16. Unit 7 Popular Sports
17. Unit 8 Life Events
18. Unit 8 Weekend Plans
19. Unit 9 Movies
20. Unit 9 TV Programs
21. Unit 10 Health Problems
22. Unit 10 Getting Better
23. Unit 11 On Vacation
24. Unit 11 Past Events
25. Unit 12 Telephone Language
26. Unit 12 Things to Do
27. Review
28. Speech Test
29. Review
30. Final Exam

2.学びの意義と目標

様々な場面において、実際に使える英語力を身につけてゆく。

準備学習(予習)

授業で行うユニットを前もって予習する。また、課題を行う。

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 1 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

準備学習(復習)

授業で学んだ様々な表現や語彙を復習する。教科書付属のCDを用いて会話を復習する。

評価方法

- (1)出席:20% (2)授業参加度:10% (3)課題:10%
 (4)試験:60%:期末試験とSpeech testを含む

担当者：M. サベット

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

この科目では受講生の考えや意見を効果的に英語で伝える能力を高める学習を行う。語学の授業に置いては出席が重要である。

2.学びの意義と目標

この科目は高校の英語授業で学んだ英語コミュニケーションスキルをもとに進める。国際コミュニケーションのための英語の話し方、聞き取り、書き方スキルを上達させる。学生が自信をもって、色々なコミュニケーション状況で参加できるようになることを目指す。

準備学習(予習)

Some exercises in the textbook will be assigned as homework. This is to facilitate speaking and discussion activities in the classroom.

準備学習(復習)

Additional reading passages will be assigned in order to reinforce materials covered in the class.

授業計画

1. Class introduction, Getting Acquainted/breaking the ice
2. Lesson 1: New perspectives; Introduction
3. Conversation strategies: Ask a question to buy time
4. Discussion: Finding balance in life
5. Grammar: Gerunds and infinitives
6. Review and Discussion
7. Lesson 2: Musical Moods
8. Describing creative personalities
9. Strategies to start a conversation
10. Discussion: Musical tastes
11. Grammar; Present perfect and present perfect continuous
12. Review and Discussion
13. Lesson 3: Money Matters
14. Describing spending habits
15. Clarification strategies
16. Discussion: Spending habits
17. Grammar: Future plans and finished future actions
18. Oral Presentation
19. Lesson 4: Looking Good
20. Describing fashion and styles
21. Strategies to show approval and disapproval
22. Discussion: Fashion and Style
23. Grammar: Quantifiers
24. Review and Discussion
25. Lesson 5: Community
26. Ways to soften objection
27. Strategies to show concern
28. Discussion: Urban life vs rural life
29. Grammar; Possessives with gerunds
30. Oral Presentation

教科書

Saslow and Ascher 『Summit 1 Second edition』 (Pearson Longman)
Saslow and Ascher 『Summit 1 Second edition workbook』 (Pearson Longman)

評価方法

(1)Attendance:15% (2)Participation:20% (3)Homework:15%
(4)Speaking tests:25% (5)Final exam:25%

ECA(Speaking) [All]

担当者：J.テーズ-清水

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

(2) 学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

2.学びの意義と目標

授業計画

授業計画

1. Introduction (class policy, etc)
2. Unit 1 Job
3. Daily activities
4. Unit 2 Current Activities
5. Unit 2 Feelings
6. Unit 3 People we admire
7. Unit 3 Cities
8. Unit 4 On the weekend
9. Unit 4 On vacation
10. Unit 5 Entertainment
11. Unit 5 Music
12. Unit 6 A city square
13. Unit 6 Public Transportation
14. Unit 7 At a supermarket
15. Unit 7 Clothes and colors
16. Speaking Test
17. Unit 8 Shop and stores
18. Unit 8 Places around the town
19. Unit 9 Hobbies
20. Unit 9 Indoor exercise
21. Unit 10
22. Unit 10
23. Unit 11
24. Unit 11
25. Unit 12
26. Unit 12
27. Unit 13
28. Speaking Test
29. Review
30. Final Exam

準備学習(予習)

- Be prepared to study in class
- Think about how you can contribute to the class

教科書

Susan Stempleski 『Talk Time 2: Everyday English Conversation (Talk Time Series)』 (Oxford Univ Pr (Sd))

準備学習(復習)

- Review vocabulary
- Review previous chapters
- Listen to the CD

評価方法

(1)Participation, Attendance:20%:Participation, Positive Attitude
 (2)Homework, Quizzes:20%:Homework and Quizzes (3)Speaking Tests:20% (4)Written Tests:20% (5)Final Exam :20%

ECA(Speaking) [Level A]

担当者：M. サベット

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

授業計画

1. Introduction and grading policy
2. Meeting new people
3. Exchanging personal information
4. Expressing emotions
5. Responding to others' feeling
6. Stating opinions
7. Explaining personal experiences
8. Stating interests and opinions
9. Stating interests and opinions
10. Apologizing, giving reasons and excuses
11. Apologizing, giving reasons and excuses
12. Talking about culture and customs
13. alking about culture and customs
14. Review and consolidation
15. Mid-Term Oral
16. Describing past events and personal experiences
17. Describing past events and personal experiences
18. Making plans, offers and requests
19. Making plans, offers and requests
20. Asking for and giving advice
21. Asking for and giving advice
22. Telling and appreciating stories
23. Telling and appreciating stories
24. Asking for and giving opinions
25. Asking for and giving opinions
26. Talking about plans, goals and dreams
27. Talking about plans, goals and dreams
28. Talking about plans, goals and dreams
29. Review and consolidation
30. Final Oral

2.学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

Students will be assigned homework and tasks in order to be prepared for speaking activities in the following classes.

教科書

Helgesen, Brown, Mandeville 『English Firsthand 2 New Gold Edition』 (Pearson Longman)
Helgesen, Brown, Mandeville 『English Firsthand 2 New Gold Edition Workbook』 (Pearson Longman)

準備学習(復習)

Assignment will be given to review materials taught in the class.

評価方法

(1)Attendance:15% (2)Participation:20% (3)Homework:15%
(4)Speaking tests:25% (5)Final test:25%

担当者：中川 英幸

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

2.学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」勉強、完成する。

準備学習(復習)

テキスト、ワークブックの復習、講師のブログをチェックし、スピーキングテストの前に練習する。

授業計画

1. 授業内容説明・プリーテスト
2. 生徒達のクラスIDカード作り, クラスルーム英語, 挨拶
3. 人々の描写
4. 挨拶、描写の練習・活動
5. 位置の描写
6. 方向の言葉
7. 位置、方向会話の練習・活動
8. 復習・クイズ
9. 映画・コンサート・他のイベントの会話
10. お誘いの言葉
11. イベントのお誘い会話の練習・活動
12. イベントのお誘い会話の練習・活動
13. 中間復習
14. 中間テスト(スピーキング)
15. 商品の描写
16. 買い物・料金の言葉
17. 商品・買い物の好み
18. 好み、買い物会話の練習・活動
19. 方法の描写
20. 使用・方法の描写
21. 使用方法の練習・活動
22. 復習・クイズ
23. 電話の言葉・練習
24. テキストメッセージのこと・練習
25. 過去言葉・会話
26. 過去の会話
27. 将来言葉・会話
28. 将来予定の会話
29. 期末復習
30. 期末試験

教科書

M.ヘールゲン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア 『English Firsthand 1 (4E)』 (ピアソン・エデュケーション)
M.ヘールゲン、S. ブラウン、J. ウィルトシーア、A. グレイ 『English Firsthand 1 Workbook』 (ピアソン・エデュケーション)

評価方法

出席状況、授業態度・参加 25% (80%以上出席が)
課題 25%
スピーキングテスト(2回) 25%
期末試験 25%

ECA(Speaking) [Level C]

担当者：チェンバレン 暁子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

様々なシチュエーションにおける会話や表現を、文法の復習と共に学ぶ。英語リスニング力の向上を目指す演習を行う。

2.学びの意義と目標

様々なシチュエーションでの会話を英語で行えるようにListening & Speakingを中心に英語のコミュニケーション能力を高める。

準備学習(予習)

授業で行う新しいユニットの会話をDCで聴く。単語や熟語の意味を辞書で調べておく。

準備学習(復習)

巻末のワークを行う。新しく学んだ表現、語彙、文法などを復習する。CD授業で行った会話を聴きながら発音練習を行う。

授業計画

1. Orientation:Class policy & proceduresの確認
2. Unit 1 Job
3. Unit 1 Daily activities
4. Unit 2 Current Activities
5. Unit 2 Feelings
6. Unit 3 People we admire
7. Unit 3 Cities
8. Unit 4 On the weekend
9. Unit 4 On vacation
10. Unit 5 Entertainment
11. Unit 5 Music
12. Unit 6 A city square
13. Unit 6 Public Transportation
14. Unit 7 At a supermarket
15. Unit 7 Clothes and colors
16. Speech test
17. Unit 8 Shop and stores
18. Unit 8 Places around the town
19. Unit 9 Hobbies
20. Unit 9 Indoor exercise
21. Unit 10 Travel plans
22. Unit 10 Tips preparations
23. Unit 11 Quantities
24. Unit 11 Cooking
25. Unit 12 Job skills
26. Unit 12 Artistic talents
27. Review
28. Speech test
29. Review
30. Final Exam

教科書

Susan Stempleski/ Lynne Robertson 『Talk Time 2 Student Book with Audio CD』 (Oxford University Press)

評価方法

(1)出席:20% (2)授業参加度:10% (3)課題:10% (4)試験 & Speech tests:60%

担当者：J.テーズ-清水

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

「コミュニケーション・アプローチ」に基づき、学習した文法を活用しながら流暢に会話ができることを主眼におく。会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルの学習に重点をおき、実践的なテーマにおける様々な口語表現や正しい発音を学習しながら会話の練習を行う。

2.学びの意義と目標

様々な場面において、円滑なコミュニケーションが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

Be prepared to participate actively in classroom activities. Always bring your textbooks and other learning tools. Be on time as this will be enforced strictly.

準備学習(復習)

Complete review of chapters and homework.

授業計画

1. class policy and procedures; getting acquainted
2. Lesson 6: Animals
3. Describing character traits
4. Strategies to introduce a topic
5. Discussion: Treatment of animals
6. Grammar: Passive voice with modals
7. Lesson 7: Advertising and consumers
8. Strategies to persuade
9. Discussion: Smart Shopping
10. Grammar: Passive forms and gerunds
11. Review and Discussion
12. Lesson 8: Family trends
13. Strategies to show feeling
14. Discussion: Parent-teen Issues
15. Grammar: Repeated comparatives
16. Review and Discussion
17. Oral Presentation
18. Lesson 9: History's mysteries
19. Strategies to express doubt or certainty
20. Discussion: Theories behind mysteries
21. Grammar: Indirect speech with modals
22. Review and Discussion
23. Lesson 10: Your Free Time
24. Strategies to show fear or fearlessness
25. Discussion: Hobbies and Interests
26. Discussion: Hobbies and Interests
27. Grammar: Orders of modifiers
28. Review and Discussion
29. Preparation for the final test
30. Oral presentation

教科書

Joan Saslow, Allen Ascher 『SUMMIT(E) 1: WORKBOOK』 (Pearson Education ESL)
Joan M. Saslow, Allen Ascher 『SUMMIT(E) 1: STUDENT BOOK+ACTIVE BOOK(ROM)』 (Pearson Education ESL)

評価方法

(1)attendance:30% (2)homework:20% (3)oral exams:20% (4)final exam:30%

担当者：L.アーノルド

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

簡単な英語、実践的な英語を理解したり伝えたりしなければならないさまざまなシチュエーションを体験する。また、コミュニケーションをよりなめらかにするために、特定の英語圏の国の文化と習慣について学ぶ。学期の終了時には、旅行先や滞在先の国の文化についての理解を深めると同時に、メニューの見方や注文の仕方、病気や症状の用語や病院での説明の仕方、道の聞き方、値段の聞き方や買い物の仕方など、さまざまな状況でサバイバルすることができる語学力を得ているだろう。

2.学びの意義と目標

英語圏への短期間の旅行や滞在で必要なスピーキングとリスニングのスキルを高めることを目的とする。

準備学習(予習)

毎回の授業に必ず出席し、積極的に取り組むことを望む。80%以上の出席が、単位習得の条件です。

準備学習(復習)

テキスト、課題の復習です。講師のブログをチェックする。

授業計画

- 1.文化を認識する
- 2.文化を認識する
- 3.挨拶と会話
- 4.挨拶と会話
- 5.日本事情
- 6.日本事情
- 7.入国・出国手続き
- 8.入国・出国手続き
- 9.依頼と許可
- 10.依頼と許可
- 11.依頼と許可
- 12.ナンバーと値段
- 13.ショッピング
- 14.ショッピング
- 15.復習
- 16.中間テスト
- 17.チップ
- 18.食べ物とレストラン
- 19.食べ物とレストラン
- 20.情報や道の尋ね方（観光名所、時間、日付など）
- 21.情報や道の尋ね方など・インターネットのこと
- 22.健康問題
- 23.健康問題
- 24.ホテルのチェックインとホテルサービス
- 25.非常時（火災、窃盗など）の対処:非常時の際の対処法や連絡方法、遺失物の説明の仕方
- 26.連絡方法、遺失物の説明の仕方・ファイナルプレゼンテーションの準備
- 27.ファイナルプレゼンテーションの準備
- 28.ファイナルプレゼンテーションの準備
- 29.ファイナルプレゼンテーション
- 30.ファイナルプレゼンテーション

教科書

Angela Buckingham, Lewis Lansford 『Passport Second Edition Level 2 Student Book with CD』 (Oxford University Press (Japan) Ltd.)

評価方法

出席状況、授業への参加 50%
課題の成績 20%
ファイナルプレゼンテーション結果 30%

担当者：チェンバレン 暁子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

海外旅行や短期留学などで遭遇するであろう様々なシチュエーションで役に立つ会話や表現を学んでゆく。リスニングや会話練習を行い、英語のコミュニケーション能力を高めるための学習を行う。

2.学びの意義と目標

海外旅行や短期留学などに役立つ事を目的とした英語のコミュニケーション能力を高める。

準備学習(予習)

新しく学ぶユニットの知らない単語の意味を辞書で調べておく。

準備学習(復習)

ワークブックの課題を行う。授業で新しく学んだ単語や表現を復習する。

授業計画

1. Orientation: Class Policy & Procedure の説明
2. Introduction & Where are you from?
3. Unit 1 What's the purpose of your visit?
4. Unit 2 How much is it?
5. Unit 3 When is your next train?
6. Unit 4 The TV is broken
7. Unit 5 What is there to see?
8. Destination: The United States of America
9. Unit 6 I'd like to rent a snowboard
10. Unit 7 Tell me about your country
11. Unit 8 How was your weekend?
12. Unit 9 Does it hurt?
13. Unit 10 I'd like a cup of coffee
14. The destination: Canada
15. Speech Test
16. Unit 11 Would you like to visit the Temple of Heaven?
17. Unit 12 I want to send an attachment
18. Unit 13 I'd like a chicken sandwich
19. Unit 14 Go straight along this road
20. Unit 15 Have you been to the Great Wall yet?
21. Destination: China
22. Unit 16 Excuse me. Can you help us?
23. Unit 17 I don't think this is right
24. Unit 18 Keep in touch!
25. Unit 19 Did you pack this bag yourself?
26. Unit 20 Are you going snowboarding again?
27. Destination: Australia
28. Speech test
29. Review
30. Final Exam

教科書

Angela Buckingham/Lewis Lansford 『Passport 2 Student Book』 (Oxford University Press)
Angela Buckingham/ Lewis Lnasford 『Passport 2 Work Book』 (Oxford University Press)

評価方法

(1)出席:20% (2)授業参加度:10% (3)課題:10% (4)試験 & Speech tests:60%

担当者：メイス みよ子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

基礎文法の習得を中心に授業を進めて行く。英文法をしっかりとマスターできるよう、繰り返し文法演習を行う。英語資格テスト、公務員試験の準備講座として、長文読解演習も行う。基礎力だけでなく、応用力もつけられるよう指導して行く。

2.学びの意義と目標

資格英語で高得点をとれるよう、基礎文法力、読解力をしっかり身につける事を目標とする。

準備学習(予習)

テキストの解説の部分を読んでおく。

準備学習(復習)

テキストの練習問題の復習

授業計画

1. コースイントロダクション
2. 5文型
3. 動詞の特性
4. 単文と複文、句と節
5. 文の種類
6. 時制:現在、過去、未来
7. 時制:進行形と完了形
8. 能動態と受動態
9. 条件と仮定
10. 不定詞
11. 復習
12. 分詞
13. 動名詞
14. 話法
15. 復習、期末試験について

教科書

竹前、菊池、秋山、W.オコナー 『Fundamental English for College Students: Rules of Syntax』(南雲堂)

評価方法

- (1)試験:50%
- (2)平常点:50%:授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：島田 洋子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

英語の4技能（聴く、話す、読む、書く）習得の礎となる文法を基礎から着実に理解できるように、1回の授業で1つの文法項目を取り上げ、指導する。

2.学びの意義と目標

文法を理解することで英語力の土台を築き、さらなる英語能力（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）の向上につながることを目標とし、より理解を増すことで英語嫌いの克服を目指す。

準備学習(予習)

テキストに付属のCDを何度も聴く。

準備学習(復習)

授業でやったところを復習し、宿題や課題に取り組む。

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 be動詞
3. Unit 2 一般動詞（現在）
4. Unit 3 一般動詞（過去）
5. Unit 4 進行形
6. Unit 5 未来形
7. Unit 6 助動詞
8. Unit 7 名詞・冠詞
9. Unit 8 代名詞
10. Unit 9 前置詞
11. Unit 10 形容詞・副詞
12. Unit 11 比較
13. Unit 12 命令文・感嘆文
14. 総復習
15. まとめ & 学期末試験

教科書

佐藤哲三, 愛甲ゆかり 『基礎からの英語入門 First Primer』(南雲堂)

評価方法

- (1)学期末試験:50%
- (2)平常点（小テスト、宿題、課題、出席、授業態度）:50%

担当者：中川 英幸

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

英語の4技能（聴く、話す、読む、書く）習得の礎となる文法を基礎から着実に理解できるように、1回の授業で1つの文法項目を取り上げ、指導する。

2.学びの意義と目標

文法を理解することで英語力の土台を築き、さらなる英語能力（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）の向上につながることを目標とし、より理解を増すことで英語嫌いの克服を目指す。

準備学習(予習)

テキストに付属のCDを何度も聴く。

準備学習(復習)

授業でやったところを復習し、宿題や課題に取り組む。

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 be動詞
3. Unit 2 一般動詞（現在）
4. Unit 3 一般動詞（過去）
5. Unit 4 進行形
6. Unit 5 未来形
7. Unit 6 助動詞
8. Unit 7 名詞・冠詞
9. Unit 8 代名詞
10. Unit 9 前置詞
11. Unit 10 形容詞・副詞
12. Unit 11 比較
13. Unit 12 命令文・感嘆文
14. 総復習
15. まとめ & 学期末試験

教科書

佐藤哲三, 愛甲ゆかり 『基礎からの英語入門 First Primer』 (南雲堂)

評価方法

- (1) 学期末試験:50%
- (2) 平常点（小テスト、宿題、課題、出席、授業態度）:50%

担当者：メイス みよ子, 中川 英幸

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

英文法を基礎から徹底的に復習する。繰り返し練習問題を行い、出題の形式に慣れ、より早く問題を解けるよう指導していく。

授業計画

1. コースイントロダクション
2. be動詞とhave
3. 現在時制
4. 復習
5. 未来を表す表現
6. 過去時制
7. 復習
8. 完了形
9. 助動詞
10. 復習
11. 受動態
12. 疑問文と否定文
13. 復習
14. 不定詞と-ing形
15. 復習、期末試験について

2.学びの意義と目標

基本的な文法を身につけ、資格英語テストで高得点を目指す。

準備学習(予習)

テキストの黄色い解説の部分をよく読んでおく。

教科書

M. Swan & C. Walter 『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法パートA: 動詞と時制』(旺文社)

準備学習(復習)

確認テストの復習。文法解説を読み、復習する。

評価方法

- (1) 期末試験:50%
- (2) 平常点:50%:授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：吉牟田 聡美, 島田 洋子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

英文法を基礎から徹底的に復習する。繰り返し練習問題を行い、出題の形式に慣れ、より早く問題を解けるよう指導していく。

2.学びの意義と目標

基本的な文法を身につけ、資格英語テストで高得点を目指す。

準備学習(予習)

テキストの黄色い解説の部分をよく読んでおく。

準備学習(復習)

確認テストの復習。文法解説を読み、復習する。

授業計画

1. コースイントロダクション
2. be動詞とhave
3. 現在時制
4. 復習
5. 未来を表す表現
6. 過去時制
7. 復習
8. 完了形
9. 助動詞
10. 復習
11. 受動態
12. 疑問文と否定文
13. 復習
14. 不定詞と-ing形
15. 復習、期末試験について

教科書

M. Swan & C. Walter 『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法パートA: 動詞と時制』(旺文社)

評価方法

- (1)試験:50%
- (2)平常点:50%:授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：中川 英幸, メイス みよ子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

英文法を基礎から徹底的に復習する。繰り返し練習問題を行い、出題の形式に慣れ、より早く問題を解けるよう指導していく。

2.学びの意義と目標

基本的な文法を身につけ、資格英語テストで高得点を目指す。

準備学習(予習)

テキストの黄色い解説の部分をよく読んでおく。

準備学習(復習)

確認テストの復習。文法解説を読み、復習する。

授業計画

1. Introduction
2. Section 1 冠詞
3. Section 2 限定詞 & 確認テスト
4. Section 3 人称代名詞 & 確認テスト
5. Section 4 名詞 & 確認テスト
6. Section 5 形容詞と副詞 & 確認テスト
7. Section 6 接続詞 & 確認テスト
8. Section 7 Ifを使った文 & 確認テスト
9. Section 7 仮定法
10. Section 8 関係代名詞 & 確認テスト
11. Section 9 話法 & 確認テスト
12. Section 10 前置詞 & 確認テスト
13. Section 10 前置詞
14. Review & 確認テスト
15. Review

教科書

Michael Swan & Catherine Walter 『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法 パートB:修飾と接続』(旺文社)

評価方法

- (1)期末試験:50%
- (2)平常点:50%:授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：遠藤 由佳里, 島田 洋子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

英文法を基礎から徹底的に復習する。繰り返し練習問題を行い、出題の形式に慣れ、より早く問題を解けるよう指導していく。

2.学びの意義と目標

基本的な文法を身につけ、資格英語テストで高得点を目指す。

準備学習(予習)

テキストの黄色い解説の部分をよく読んでおく。

準備学習(復習)

確認テストの復習。文法解説を読み、復習する。

授業計画

1. Introduction
2. Section 1 冠詞
3. Section 2 限定詞 & 確認テスト
4. Section 3 人称代名詞 & 確認テスト
5. Section 4 名詞 & 確認テスト
6. Section 5 形容詞と副詞 & 確認テスト
7. Section 6 接続詞 & 確認テスト
8. Section 7 Ifを使った文 & 確認テスト
9. Section 7 仮定法
10. Section 8 関係代名詞 & 確認テスト
11. Section 9 話法 & 確認テスト
12. Section 10 前置詞 & 確認テスト
13. Section 10 前置詞
14. Review & 確認テスト
15. Review

教科書

Michael Swan & Catherine Walter 『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法 パートB:修飾と接続』(旺文社)

評価方法

- (1)試験:50%
- (2)平常点:50%:授業の課題、小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：メイス みよ子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

基礎文法の習得を中心に授業を進めて行く。英文法をしっかりとマスターできるよう、繰り返し文法演習を行う。英語資格テスト、公務員試験の準備講座として、長文読解演習も行う。基礎力だけでなく、応用力もつけられるよう指導して行く。

2.学びの意義と目標

資格英語で高得点をとれるよう、基礎文法力、読解力をしっかり身につける事を目標とする。

準備学習(予習)

テキストの文法ポイントを読んでおく。

準備学習(復習)

テキストの見直し

授業計画

1. コースイントロダクション
2. 名詞
3. 代名詞
4. 代名詞
5. 疑問詞
6. 形容詞
7. 形容詞
8. 副詞
9. 動詞
10. 関係詞
11. 前置詞
12. 前置詞
13. 接続詞
14. 助動詞
15. まとめ、期末試験

教科書

竹前 文夫 菊地 圭子 秋山 紀子 William F. O'Connor 『大学英語セミナー 品詞のはたらき編』(南雲堂)

評価方法

(1)平常点:50%:小テスト、宿題、課題、授業参加態度 (2)期末試験:50%

担当者：中川 英幸

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

基礎英文法の習得を中心に授業を進めていく。英文法をしっかりと習得できるように繰り返し文法演習を行う。また英語資格試験、公務員試験の準備講座として、長文読解演習も行う。

2.学びの意義と目標

英語資格試験等で高得点がとれるように、基礎文法力、読解力をしっかり身につける。授業で習得する文法力、読解力を駆使し、英語運用能力を高める。

準備学習(予習)

学習する文法項目が扱われている教科書の章をあらかじめ読んでおく。

準備学習(復習)

授業で学習した文法項目をしっかりと復習する。教科書にのっている文法問題、長文読解問題を解きなます。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Unit 11 助動詞
3. Unit 12 受動態 1
4. Unit 12 受動態 2
5. Unit 13 現在分詞・過去分詞
6. Unit 14 不定詞・動名詞 1
7. Unit 14 不定詞・動名詞 2
8. Unit 15 前置詞
9. Unit 16 接続詞
10. Unit 17 関係代名詞・関係副詞 1
11. Unit 17 関係代名詞・関係副詞 2
12. Unit 18 仮定法 1
13. Unit 18 仮定法 2
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ・期末試験

教科書

芝垣茂, ナンY.ヒライワ 『Grammar BOOST すぐに役立つ英文法』(マクミランランゲージハウス)

評価方法

- (1)平常点(出席、授業参加態度、宿題、小テスト、授業内作業):50%
- (2)期末試験:50%

担当者：島田 洋子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

基礎英文法の習得を中心に授業を進めていく。英文法をしっかりと習得できるように繰り返し文法演習を行う。また英語資格試験、公務員試験の準備講座として、長文読解演習も行う。

2.学びの意義と目標

英語資格試験等で高得点がとれるように、基礎文法力、読解力をしっかり身につける。授業で習得する文法力、読解力を駆使し、英語運用能力を高める。

準備学習(予習)

学習する文法項目が扱われている教科書の章をあらかじめ読んでおく。

準備学習(復習)

授業で学習した文法項目をしっかりと復習する。教科書にのっている文法問題、長文読解問題を解きなます。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Unit 11 助動詞
3. Unit 12 受動態 1
4. Unit 12 受動態 2
5. Unit 13 現在分詞・過去分詞
6. Unit 14 不定詞・動名詞 1
7. Unit 14 不定詞・動名詞 2
8. Unit 15 前置詞
9. Unit 16 接続詞
10. Unit 17 関係代名詞・関係副詞 1
11. Unit 17 関係代名詞・関係副詞 2
12. Unit 18 仮定法 1
13. Unit 18 仮定法 2
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ・期末試験

教科書

芝垣茂, ナンY.ヒライワ 『Grammar BOOST すぐに役立つ英文法』(マクミランランゲージハウス)

評価方法

- (1)平常点(出席、授業参加態度、宿題、小テスト、授業内作業):50%
- (2)期末試験:50%

担当者：遠藤 由佳里

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは日常生活で使用される頻度の高い表現を学習する。
文法、リーディングでは検定試験でよく出題される内容・形式の練習問題を行う。
さらに映画を使い自然な表現を学ぶ。

2.学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading,Test Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。
さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

テキスト付属のCDを使用してListening Sectionの問題を解く。

準備学習(復習)

授業で正解できなかった問題を復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Personal Correspondence (1) 現在形・現在進行形1
3. Unit 2 Personal Correspondence (2) 現在形・現在進行形2
4. Unit 3 Biography (1) 過去形・過去進行形1
5. Unit 4 Biography (2) 過去形・過去進行形2
6. Movie Activity (1)
7. Unit 5 Events & Festivals 未来形
8. Unit 6 Directions & Locations (1) 前置詞1
9. Unit 7 Directions & Locations (2) 前置詞2
10. Unit 8 Directions & Locations (3) There is/are
11. Movie Activity (2)
12. Unit 9 Occupations (1) 代名詞
13. Unit 10 Occupations (2) 代名詞・再帰代名詞
14. Movie Activity (3)
15. まとめ & 学期末試験

教科書

JACETリスニング研究会『総合英語パワーアップ-リスニングからリーディングBASIC Power-Up English』(南雲堂)

評価方法

- (1)学期末試験:50%
- (2)平常点(小テスト、宿題、課題、出席、授業態度):50%

担当者：鈴木 政浩

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

洋楽の歌詞を使って発音の基礎（単語、語句、音変化等）を学びます。歌詞はメロディーに合わせて音読できる程度まで徹底した練習を進めます。歌詞を活用して語句の定着を図ります。歌の背景について英文を読みリーディングの基礎を身に付けます。

2.学びの意義と目標

洋楽の歌詞を耳だけで聞き取ることは、ある程度英語ができるようになった人でも難しいものです。授業では歌詞の理解や解釈を丁寧に進めながら、たくさん音読をすることでリスニング能力を高めます。歌詞や英文を読むことでリーディング能力を高め、自力で英文が読める力の基礎を身につけます。

準備学習(予習)

語句や表現の下調べ。

準備学習(復習)

授業で取り上げた箇所の音読練習、語句・表現の内容理解。授業開始時に前時の振り返りをします。

授業計画

1. オリエンテーション、Unit1
2. Unit2
3. Unit3
4. Unit6
5. Unit6
6. Unit7
7. 中間試験
8. Unit8
9. Unit9
10. Unit10
11. Unit12
12. Unit16
13. Unit19
14. Unit20
15. 期末試験

教科書

JACETリスニング研究会『Forerunner to Power Up English 総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』(南雲堂)

評価方法

- (1)平常点:50%:レポート、出席、授業参加度、予習・復習
 (2)中間試験:25% (3)期末試験:25%
 授業中の取組は受講生の状況により各自が選択できるようにしますが、中間・期末試験は全員同一のテストで行います。

ECA(英語基礎表現) [Level A]

担当者：島田 洋子, 中川 英幸, 遠藤 由佳里, J.テーズ-清水

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、
文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り
上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。
さらに映画を使い自然な表現方法を学ぶ。

2.学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、
リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading,Test
Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。
さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

テキストに付属のCDを何度も聴く。

準備学習(復習)

授業でやったことは必ず復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Personal Correspondence (1) 現在形・現在進行形・1
3. Unit 2 Personal Correspondence (2) 現在形・現在進行形・2
4. Unit 3 Biography (1) 過去形・過去進行形・1
5. Unit 4 Biography (1) 過去形・過去進行形・2
6. Movie Activity (1)
7. Unit 5 Events & Festivals 未来形
8. Unit 6 Directions & Locations (1) 前置詞・1
9. Unit 7 Directions & Locations (2) 前置詞・2
10. Unit 8 Directions & Locations (3) There is/are
11. Movie Activity (2)
12. Unit 9 Occupations (1) 代名詞
13. Unit 10 Occupations (1) 代名詞/再帰代名詞
14. Movie Activity (3)
15. まとめ & 学期末試験

教科書

JACETリスニング研究会『総合英語パワーアップ-リスニングからリーディングBASIC Power-Up English』(南雲堂)

評価方法

- (1)学期末試験:50%
- (2)平常点(小テスト、宿題、課題、出席、授業態度):50%

ECA(英語基礎表現) [Level B]

担当者：遠藤 由佳里, 能町 和子, メイス みよ子, 中川 英幸

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

リスニング、語彙、リーディング、文法、発音練習を含む総合教材を使い、コミュニケーションに必要な英語の基礎を指導を行う。さらに、映画を使い、自然な表現方法を学ぶ。

2.学びの意義と目標

Speaking、Reading、Test English等ECA科目を履修するために必要な英語の基礎を身に着ける。基礎英文法、語彙表現の習得と語彙運用能力の向上を目指し、より自然に表現できることを目標とする。

準備学習(予習)

テキスト用CDを何度も聴く。

準備学習(復習)

テキストの音読。文法の復習を行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 自己紹介 / 名詞
3. 家族について / 動詞 / Movie activity #1
4. 大学生活について / 人称代名詞
5. 食べ物について / 疑問詞 / Movie activity #2
6. コンサート / アーティスト / Howから始まる疑問文
7. 復習 / Movie activity #3
8. 案内について / 助動詞
9. 日本文化の紹介 / 助動詞 / Movie activity #4
10. ジェスチャーについて / 前置詞
11. 観光案内について / 過去形・現在形・未来形
12. 復習 / Movie activity #5
13. 航空券のネット予約について / 現在進行形
14. 復習
15. まとめ、期末試験

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power Up English 総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』(南雲堂)

評価方法

- (1)試験:50%
- (2)平常点:50%:授業の作業、小テスト、宿題、授業参加態度

担当者：中川 英幸, 島田 洋子, メイス みよ子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。さらに映画を使い、自然な表現方法を学ぶ。

2.学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

準備学習(予習)

教科書に付属しているCDを何度も聞く。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Unit 1 自己紹介 (名詞)
3. Unit 2 家族・ペット (動詞) / Movie Activity #1
4. Unit 3 趣味 (主語 + 動詞 + ~)
5. Unit 4 大学生生活 (人称代名詞)
6. Unit 5 食べ物 (疑問詞) / Movie Activity #2
7. Unit 6 コンサート (How + 形容詞 / 副詞 ~?)
8. Unit 7 道案内 (助動詞 can、may、must)
9. Unit 8 日本文化紹介 (助動詞 would、could、should) / Movie Activity #3
10. Unit 9 ジェスチャー (前置詞)
11. Unit 10 観光案内 (過去形、現在形、未来形)
12. Unit 11 航空券をNetでGet (現在進行形) / Movie Activity #4
13. Unit 12 E-mailを送る (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ・期末試験

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power Up English 総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』(南雲堂)

評価方法

- (1)平常点
(出席、授業参加態度、課題、宿題、小テスト、授業内作業):50%
- (2)期末試験:50%

担当者：J.テーズ-清水

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

This course covers basic communication of personal ideas and writing skills

2.学びの意義と目標

Students will:

- understand and use basic grammatical sentence patterns
- correctly choose and use appropriate verb tenses
- organize their ideas and vocabulary
- participate in speaking tasks to express their ideas and write effectively
- make a presentation expressing their ideas

準備学習(予習)

Review key vocabulary and expressions
Complete homework, write report(s) and presentation

準備学習(復習)

- complete homework
- review previous chapters

授業計画

1. Orientation
2. basic parts of speech
3. talk/write about your country/city
4. talk/write about people and their feelings
5. talk/describe animals and people
6. talk/write about hobbies and interests
7. talk/write about clothing and fashion
8. talk/write about school subjects
9. Review Test
10. Talk/write about popular international items
11. talk/write about popular media
12. talk/write about travel and experiences
13. Prepare for final report and presentation
14. Final Test and Prepare for final report and presentation
15. Presentation

教科書

Dorothy E. Zemach 『Sentence Writing Student Book』(マクミラン・ランゲージハウス)

評価方法

(1)Attendance:20%:participation, attitude (2)Homework:20%:quizzes
(3)Tests:20% (4)Final Presentation:20%:and report (5)Final Test:20%

担当者：島田 洋子, 遠藤 由佳里

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

リスニング、文法、リーディングを中心に授業を行う。
リスニングでは英語圏での使用頻度の高い語彙やイディオムを学習し、
文法、リーディングでは検定試験で出題傾向の高い項目やトピックを取り
上げることで、学生の要望に応えられる内容にした。
さらに映画を使い自然な英語表現を学ぶ

2.学びの意義と目標

英語の総合的な基礎学力を養成することを目標に、リスニング、文法、
リーディングなど多面的に学習し、今後のSpeakingやReading,Test
Englishなどのクラスへのスムーズな移行を目指す。
さらには自然な英語で自己表現できるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

テキストに付属のCDを何度も聴く。

準備学習(復習)

授業でやったことは必ず復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 11 Instructions 命令文
3. Unit 12 Health & Physical Condition Yes/No疑問文
4. Unit 13 Service Requests 現在完了
5. Movie Activity (1)
6. Unit 14 Special Orders 疑問詞を用いた疑問文
7. Unit 15 Money 疑問詞Howを用いた疑問文
8. Unit 16 Public Signs 助動詞(1)
9. Unit 17 Sports 助動詞(2)
10. Movie Activity (2)
11. Unit 18 History 受動態
12. Unit 19 Sightseeing 原級・比較級；最上級
13. Unit 20 Science 比較級；最上級
14. Movie Activity (3)
15. まとめ & 学期末試験

教科書

JACETリスニング研究会『総合英語パワーアップ-リスニングからリーディングBASIC Power-Up English』(南雲堂)

評価方法

- (1)学期末試験:50%
- (2)平常点(小テスト、宿題、課題、出席、授業態度):50%

ECA(英語基礎表現) [Level B]

担当者：遠藤 由佳里, 中川 英幸

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

リスニング、語彙、リーディング、文法、発音練習を含む総合教材を使い、コミュニケーションに必要な英語の基礎を指導する。さらに、映画を使い、自然な表現方法を学ぶ。

2.学びの意義と目標

Speaking, Reading, Test English等ECA科目を履修するために必要な英語の基礎を身につける。基礎英文法、語彙表現の習得と語彙運用能力の向上を目指し、より自然に表現できることを目標とする。

準備学習(予習)

Reading Sectionを読み、Words & Phrasesの問題に答える。
教科書添付のCDを用いてListening Sectionの問題に答える。

準備学習(復習)

Listening Sectionの復習問題。

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 13 機内で / 時・天候のIt
3. Unit 14 空港で / 接続詞 / Movie Activity #1
4. Unit 15 ホテル / 不定詞
5. Unit 16 レストランで / 形容詞
6. Unit 17 ショッピング / 頻度を表す副詞 / Movie Activity #2
7. Unit 18 ベースボール / 比較級
8. 理解度の確認 (1)
9. Unit 19 ミュージカル鑑賞 / 現在完了
10. Unit 20 旅行案内 / 受動態(1) / Movie Activity #3
11. Unit 21 トラブル・シューティング / 受動態(2)
12. Unit 22 体調不良 / 分詞 / Movie Activity #4
13. Unit 23 電話での申し込み / 動名詞
14. Unit 24 さよなら、アメリカ！ / Review
15. 理解度の確認 (2)

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power Up English 総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』(南雲堂)

評価方法

(1)試験:50% (2)平常点:50%:授業参加、宿題、小テスト

担当者：中川 英幸, 島田 洋子

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目/選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

教科書の英会話を聞き、内容理解を行う。また基礎的な文法や英語表現を学習する。さらに映画を使い、自然な表現方法を学ぶ。

2.学びの意義と目標

英語コミュニケーションに必要とされる基礎的な文法の理解と英語表現の習得を目指す。また学習した内容を実際の会話で使えるようにする。授業では、文法、語彙運用能力の向上を目指す。この講座は、Reading、Speaking、Test Englishの準備講座と位置付ける。

準備学習(予習)

教科書に付属しているCDを何度も聞く。

準備学習(復習)

教科書の音読、学んだ文法事項の復習を行う。

授業計画

1. 授業オリエンテーション
2. Unit 13 機内で (時・天候などを表す It)
3. Unit 14 空港で (接続詞) / Movie Activity #1
4. Unit 15 ホテル (不定詞)
5. Unit 16 レストランで (形容詞)
6. Unit 17 ショッピング (頻度を表す副詞) / Movie Activity #2
7. Unit 18 ベースボール (比較級)
8. Unit 19 ミュージカル鑑賞 (現在完了形)
9. Unit 20 旅行案内 (受動態 1) / Movie Activity #3
10. Unit 21 トラブル・シューティング (受動態 2)
11. Unit 22 体調不良 (分詞)
12. Unit 23 電話での申し込み (動名詞) / Movie Activity #4
13. Unit 24 さよなら、アメリカ! (復習)
14. 授業で学習した項目の総復習
15. まとめ・期末試験

教科書

JACETリスニング研究会 『Forerunner to Power Up English 総合英語パワーアップ入門編 リスニングからリーディング』(南雲堂)

評価方法

- (1)平常点
(出席、授業参加態度、課題、宿題、小テスト、授業内作業):50%
- (2)期末試験:50%

担当者：L.アーノルド

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要**1.内容**

学習した文法を活用しながら流暢に書くができることを主眼におく。

2.学びの意義と目標

様々な場面において、書きことが取れるような英語力を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

課題はワークブックのテキスト章「文法、語彙」文を練習、完成する。

準備学習(復習)

テキスト、課題の復習。講師のブログをチェックする。

授業計画

1. 授業内容説明・プリーティチングアンケート
2. 主語、目的語の代名詞・and, but, or, soを作り
3. 文の主語、形容詞・動詞のパターン
4. 節の描写
5. 映画の活動・クイズ
6. 間接の目的語・受動態
7. 正式、日常のこと・メールを書く
8. 映画の活動
9. 映画場面の描写クイズ・活動
10. 節の別こと、動詞のパターン・tooとnot enoughを作り
11. 描写の節
12. 映画場面の描写・活動
13. 期末試験・作文のあらすじ
14. 作文の草案を作り、批評、下書き
15. 完成な作文の提出

教科書

ドロシー E. ゼマック 『Sentence Writing Student Book』 (マクミラン・ランゲージハウス)

評価方法

出席、課題、クイズ 50% (80%以上出席が)
期末試験・作文 50%

ITパスポート講座

担当者：竹井 潔

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

情報処理分野で唯一の国家試験である情報処理技術者試験の「ITパスポート試験」で求められる、総合的な知識を幅広く学ぶ。試験の内容は、テクノロジー系（情報技術）、マネジメント系（情報管理）、ストラテジ系（経営全般）の3分野に分かれている。外部講師を招き、講義を行う。

2.学びの意義と目標

現代の高度情報化社会においては、社会で働く全ての人々が情報技術（Information Technology）を利用することが求められる。ITを十分に活用するためには、事務、営業、技術などの職種に関わらず、すべての職種でITと経営全般に関する知識が必要になる。

本講座で「ITパスポート試験」の出題範囲を学び、合格できる知識を習得することで、これからの職業人として必要なITスキルを身につけてもらいたい。

準備学習(予習)

次回の講義範囲のテキスト本文に、一度目を通しておくこと。

準備学習(復習)

毎回の講義で学習した内容について、次の講義までに自宅で「問題集」の該当問題を解き、良く復習しておくこと。

授業計画

1. テクノロジー系/ハードウェア(1)
2. テクノロジー系/ハードウェア(2)
3. テクノロジー系/ハードウェア(3)
4. テクノロジー系/ハードウェア(4)
5. テクノロジー系/ソフトウェア(1)
6. テクノロジー系/ソフトウェア(2)
7. テクノロジー系/システム構成
8. テクノロジー系 / 第1部 まとめ
9. テクノロジー系/データベース(1)
10. テクノロジー系/データベース(2)
11. テクノロジー系/ネットワーク(1)
12. テクノロジー系/ネットワーク(2)
13. テクノロジー系/情報セキュリティ(1)
14. テクノロジー系/情報セキュリティ(2)
15. テクノロジー系/マルチメディア
16. テクノロジー系 / 第2部 まとめ
17. テクノロジー系/アルゴリズムとプログラミング(1)
18. テクノロジー系/アルゴリズムとプログラミング(2)
19. マネジメント系/システム開発技術(1)
20. マネジメント系/システム開発技術(2)
21. マネジメント系/プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント
22. マネジメント系 / 第3部 まとめ
23. ストラテジ系/企業と法務(1)
24. ストラテジ系/企業と法務(2)
25. ストラテジ系/企業と法務(3)
26. ストラテジ系/企業と法務(4)
27. ストラテジ系/経営戦略(1)
28. ストラテジ系/経営戦略(2)
29. ストラテジ系 / 第4部 まとめ
30. まとめ 定期試験

教科書

インフォテック・サーブ編 『ここから始めるITパスポート』(インフォテック・サーブ)
インフォテック・サーブ編 『ITパスポート試験問題集』(インフォテック・サーブ)

評価方法

- (1)出席:20%
- (2)課題提出:20%:原則は提出点(内容不備は、再提出または減点)
- (3)定期試験:60%

絵本文化

担当者：上原 里佳

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

絵本とは、「絵」と「文字」の絶妙なバランスによって成立する極めて特殊な文化であるため、その切り口も多様である。また、そこには物語だけでなく、自然科学、人間の在り方の基盤となる哲学などが、極力単純化された形で展開される。ここでは、絵本の歴史と発展を学びながら、できるだけ多くの絵本に触れその魅力と特徴について考えたい。

2.学びの意義と目標

この講義は、幅広く深い教養を学ぶ観点から絵本文化を通して子どもの世界を知るための入門的なものである。子ども時代に親しんできた絵本、現代の子どもたち（そして大人たち）が楽しんでいる絵本、世界の絵本を通して、子ども文化の一端を担う「絵本文化」の奥深さについて学ぶ。

準備学習(予習)

子ども時代に読んだ絵本の再読も含め、日頃から、絵本に触れる機会を積極的に増やすようにしてください。大学図書館の他に、地元の図書館で検索・リクエストをかけるなど上手に活用しましょう。

準備学習(復習)

講義で取り上げた絵本は、図書館などを利用し、各自、目を通すようにしてください。気になった絵本作家については、授業で紹介したもの以外の絵本も積極的に読むようにすること。

授業計画

1. イントロダクション・アンケート
2. 子どもと絵本との出会い1・子どもの感性とナンセンス絵本
3. 子どもと絵本との出会い2・お父さんとお母さん
4. 絵本の起源1・日本編
5. 絵本の起源2・イギリス編
6. 子どもの生活に関する絵本・しつけ
7. 子どもの生活に関する絵本・友達
8. 言葉の絵本・3つのカテゴリー
9. 文字なし絵本1
10. 文字なし絵本2
11. 写真絵本
12. 数の絵本
13. 時間・比較の絵本
14. 絵本に登場する老人たち
15. 世界の絵本:イギリス1
16. 世界の絵本:イギリス2
17. 世界の絵本:イギリス3
18. 世界の絵本:イギリス4
19. 世界の絵本:イギリス5
20. 世界の絵本 イギリス6 (ポストモダン)
21. 世界の絵本:アメリカ1
22. 世界の絵本:アメリカ2
23. 世界の絵本:アメリカ3
24. 世界の絵本:アメリカ4
25. 世界の絵本:アメリカ5
26. 世界の絵本:アメリカ6 (表現の多様化)
27. コマ割り絵本
28. キャラクター絵本
29. 統括
30. テスト

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:20% (2)コメントペーパー:30%:講義の理解度、積極性を判断するので、成績に反映します。(3)期末テスト:50%
復習、期末テストで必要になりますので、講義中にノートをとること。最低必須出席日数が大学の規定に満たない場合は期末テストを受けることが出来ません。

演奏形式とその音楽

担当者：藤田 明

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

この講義では、楽器の特徴と時代背景、主な作曲家やその作品等について学び、音楽鑑賞を行う。

2.学びの意義と目標

この講義を受講することによって、学生諸君が音楽を鑑賞する時、より深く感動することが出来るようになるだろう。

準備学習(予習)

授業で取り上げる作曲家や作品について、前もって調べることにより、その演奏や作品をより深く感じ取ることが出来るので、必ず予習をしておくこと。

準備学習(復習)

授業で学んだ事柄や監修した曲の内容や感想をノートに書いておくこと。

授業計画

1. 授業の進め方について説明する
2. ピアノについて、その歴史と音色、構造を学ぶ
3. ピアノ曲について学び、その音楽を鑑賞する(1)
4. ピアノ曲について学び、その音楽を鑑賞する(2)
5. 作曲家ベートーヴェンについて学ぶ
6. 木管楽器の種類と構造について学ぶ
7. 金管楽器の種類と構造について学ぶ
8. 木管楽器と金管楽器に関する曲の鑑賞
9. 弦楽器の種類と構造について学ぶ
10. 弦楽器に関する曲の鑑賞
11. ヴィヴァルディについて学ぶ
12. オーケストラの音楽を鑑賞(1)
13. オーケストラの音楽を鑑賞(2)
14. シューベルトについて学ぶ
15. 声楽曲について学び、歌曲を鑑賞
16. ゲーテの「のばら」について学ぶ
17. 歌曲を鑑賞する
18. シューベルトの三大歌曲について学ぶ
19. 歌劇(オペラ)について学ぶ
20. ワグナー、ヴェルディ、プッチーニについて学ぶ
21. プッチーニの歌劇を鑑賞する(1)
22. プッチーニの歌劇を鑑賞する(2)
23. プッチーニの歌劇を鑑賞する(3)
24. ヴェルディの歌劇を鑑賞する(1)
25. ヴェルディの歌劇を鑑賞する(2)
26. ヴェルディの歌劇を鑑賞する(3)
27. ワグナーの歌劇を鑑賞する(1)
28. ワグナーの歌劇を鑑賞する(2)
29. ワグナーの歌劇を鑑賞する(3)
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)試験:40% (2)ノート提出:30% (3)出席:30%

欧米文学

担当者：塩谷 祐人

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

ヨーロッパやアメリカの文学を扱う講義ですが、テーマの中心はヨーロッパ、それも主にフランスの文学になります。

文学の歴史を追っていく文学史の授業ではありません。文学という言葉の芸術であり、エンタテインメントであり、世界を映し出す鏡でもある、この奥が深く不思議なジャンルに触れ、さまざまなテーマ、さまざまな作品を紹介・解説しながら文学について考えていきます。

また映画化・舞台化されている文学作品を見ながら、文学が視覚的になった時にどういったことが起きるのかを考えることで、文学とは何かを探っていきましょう。

さらに文学を読み解いていくための「文学理論」についても紹介、解説していきます。

2. 学びの意義と目標

なによりもヨーロッパの文学に親しむことが目標です。本を読むことが好きな学生はもちろん、いままであまり文学に触れてこなかった学生も、文学とは何かを考え、作品を読む機会にしてください。

文学をただストーリーを読むだけのものとしてではなく、人間が想像／創造するものの偉大さ、面白さを味わい、そこから文化を知る手がかりや、文学を通して見ることができるものを考えましょう。

文学を通して思考することの大切さを知ること、想像力を高め、言葉に対する感覚を鋭くし、自分の身の回りで起きていることや周りの人間が考えていることに対する意識を高める機会になるでしょう。

準備学習(予習)

授業計画および授業中に指示する次回扱うテーマや作家、作品について情報を集めたり、作品を実際に読んでみたりしておいてください。

準備学習(復習)

ノートを作って、授業で扱った作家、テーマ、理論、映像資料などをまとめ、そこに自分なりの感想や考え、疑問を書き込んでいくこと。

授業計画

- ガイダンス
- 文学と現実社会の接点
- フランスの19世紀の作家ユゴーとバルザック
- 『レ・ミゼラブル』（小説／映画／舞台）
- 文学と理想社会
- 15世紀のイギリスの作家トマス・モア／18世紀のフランスの作家フーリエ
- 文学と哲学の接点
- 20世紀のフランスの作家カミュとサルトル
- 幻想文学
- 18世紀のドイツの作家ホフマン『砂男』とフロイトの精神分析
- 19世紀のドイツ語で書く作家カフカ『変身』／19世紀のフランスの作家リラダン『未来のイヴ』
- オッフェンバックのオペラ『ホフマン物語』／『変身』の映像化
- 文学と言語
- 20世紀のフランスの作家クノー／19世紀のフランスの詩人アポリネール
- クノーの小説の映画化『地下鉄のザジ』
- 20世紀半ばに起きた「新しい小説」
- 20世紀フランスの作家ロプ＝グリエ『迷路の中で』と映画『去年マリエンバード』
- 物語とは何か
- 20世紀のアルゼンチンの作家コルタサルの『石蹴り遊び』
- 童話と文学
- 17世紀のフランスの作家ペロー／19世紀のイギリスの作家ワイルドと『幸福の王子』
- 19世紀のフランスの作家コクトー
- 映画『ろばと王女』／『美女と野獣』
- 外国人が書くフランス文学／国民文学とは何か
- 20世紀のチェコの作家クンデラ、20世紀のハンガリーの作家クリストフ
- マイナーな(?)作家たち
- 20世紀のコロンビアの作家ガルシア・マルケス／20世紀のポーランドの作家ゴンプロヴィッチ
- 20世紀のアルゼンチンの作家ボルヘス／20世紀のイタリアの作家カルビーノ
- まとめ
- 記述試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業参加:40% (2)期末試験:60%
授業中に書いてもらうアクションペーパーなどで授業参加の度合いを測ります。それに学期末に行う記述試験（詳しくはガイダンス時に話します）の点数を加えて評価をつけます。

欧米文学

担当者：三宅 美千代

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

本講義は、英語圏文学の初心者を対象とした入門的な授業です。各時代の英米文学の作品を取り上げ、英語圏文学の基礎的な知識、作品を生んだ歴史や時代背景についての予備知識を身につけます。さまざまな作家の作品を少しずつ読みながら文学史を概観していきます。

2.学びの意義と目標

英語圏文学についての基本的な知識を得ることを目指します。イギリスとアメリカの作品や文学的潮流についてはもちろんのこと、各国内のマイノリティの問題や旧植民地出身の書き手についても考察します。

準備学習(予習)

次週の授業内容にかんする問題を課し、提出してもらう。

準備学習(復習)

毎回プリントなどで、前週の授業内容を復習してくる。また、授業で紹介した作品は、1冊でも多く読むこと。

授業計画

1. イントロダクション
2. イギリス小説の起源 : 18世紀時代背景 / 産業革命 / 階級制度
3. イギリス小説の起源 : 近代小説の発達 / デフォー / スウィフト、他
4. フランス革命とロマン派詩人 / P・B・シェリー / キーツ、他
5. 19世紀イギリス文学 : 科学と宗教 / メアリー・シェリー / スティーヴンソン
6. 19世紀イギリス文学 : 帝国主義 / 都市と貧困 / ディケンズ
7. 都市と文学---関連映画
8. 19世紀アメリカ文学 : 時代背景 / 先住民問題 / 奴隷制度
9. 19世紀アメリカ文学 : アメリカン・ルネサンス / ホーソン / メルヴィル、他
10. 19世紀の女性と文学 : 19世紀の女性の立場 / 職業と結婚 / マナーとエチケット / オースティン / ブロンテ、他
11. 19世紀の女性と文学 : 女性運動の誕生 / ウルストンクラフト / ウルフ
12. 女性と文学---関連映画
13. 帝国主義の欲望と文学 : 帝国主義と冒険小説 / キップリング / コンラッド / スティーヴンソン
14. 帝国主義の欲望と文学 : 万国博覧会 / ジャポニズム / ラフカディオ・ハーン
15. 中間試験、Q&A
16. 1910年代 : 世界戦争とモダニズム芸術 / ジョイス / ロレンス / エリオット、他
17. 1910年代 : アイルランド独立運動 / アイルランド文芸復興
18. モダニズム期の前衛芸術---関連映画
19. 1920年代 : パリのアメリカ人作家 / スタイン / フィッツジェラルド / ヘミングウェイ
20. 1920年代 : ハーレム・ルネサンス / ヒューズ / ハーストン / マッケイ
21. 1930-40年代 : 大恐慌 / スタインベック / ドス・パソス / ファークナー
22. 1930-40年代 : 世界戦争、ディストピア小説 / ハクスリー / オーウェル
23. 1950年代 : 第二次大戦の影響、マッカーシズム / ゴールドディング / ミラー
24. 1950年代 : 公民権運動と文学 / ボールドウィン / ライト
25. 公民権運動と文学---関連映画
26. 1960年代以降 : 植民地の独立 / ラミング / グギ・ワ・ジオンゴ / リース
27. 1960年代以降 : 移民出身作家 / ラシュディ / イシグロ / レッシング
28. 1960年代以降 : 政治の季節と文学 / ベトナム反戦と対抗文化
29. 試験前復習
30. 学期末試験、Q&A

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 中間試験:30%:授業内容についての問題を出題。
- (2) 学期末試験:40%:レポート形式の問題を出題。
- (3) 提出課題:30%:予習課題、および宿題。

環境学

担当者：村上 公久

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

君たちが生まれた頃から現在まで、つまり君たちの平均年齢に相当する約20年間の間に私たちの地球の生命圏の環境は、急速に悪化し、この間日本列島の約6倍の面積の熱帯の森林が失われ、中国の耕地面積に相当する陸地が砂漠化した。

今日、世界的規模での最大の問題は、環境の急激な悪化による生命圏(生態圏)の全的壊滅の危険、すなわち地球環境問題である。この科目では「ヒトと環境」が相互に影響し呼応し合うシステム〔人間-環境〕系を理解し、「ヒトと森林の関係」を例にとって考える。かつては環境問題の問題意識の中心は産業公害だったが、現在ではこの問題は国境を突破した生命圏全体の存続を懸けた「地球環境問題」として捉えられており、いわゆる公害問題はその一部として意識されている。

2.学びの意義と目標

専門科目「環境保全論」履修の準備となる科目でもあるので学びを進めて「環境保全論」を履修する予定の者は予めこの科目を学んでおくことが望ましい。

NGOの果たす大きな役割を含め、私たちと生き物たちのこの世界を全体的な壊滅から救うほとんど唯一の戦略「保続的開発」の可能性を探る。

準備学習(予習)

岩波ジュニア新書の中で環境をテーマとしている、「地球をこわさない生き方の本」「世界の環境都市に行く」などを読んでおくこと。

準備学習(復習)

各回の講義内容について、関係する情報・資料を探して参考にし、講義を受けて自分で考えたことを含めて講義記録のノートに記録する。

授業計画

- 1.地球環境問題(1) - 自然破壊の実態 砂漠化
- 2.地球環境問題(2) - 自然破壊の実態 森林破壊
- 3.地球環境問題(3) - 地球温暖化問題
- 4.自然の中の人間 - 「自然の支配」か「自然と共存」か
- 5.自然と環境
- 6.〔人間-環境〕系(1)
- 7.〔人間-環境〕系(2)
- 8.「自然」が「環境」に変わるとき - 主体(ヒト)が帯びている生命圏への責任
- 9.ガイアGaia仮説 - 地球も宇宙も生きている
- 10.さまざまな自然観と風土(1) - 温度・降水量と植生区
- 11.さまざまな自然観と風土(2) - 世界各地の自然と「風土」
- 12.わが国の自然、風土の特徴
- 13.水文循環
- 14.エコロジーに関する概念 生命圏(生態圏)の理解
- 15.「命」とは - エントロピーの概念
- 16.人口問題(1) - 人口増加と環境容量
- 17.人口問題(2) - 人口増加と、環境・天然資源
- 18.森と人間(1)
- 19.森と人間(2) - 森と人と文化、森林の科学、木の文化の復権
- 20.「破壊」と「保護」の対立から「保全」へ - 第三の立場「環境保全」
- 21.環境関連法と制度 - わが国の「環境基本法」と「環境基本計画」
- 22.地球環境問題の課題『アジェンダ21』の検討
- 23.新しい課題「保続(持続)可能な開発」(1)
- 24.新しい課題「保続(持続)可能な開発」(2)
- 25.NGOの役割 - 「お団子」が、未来を担う(お団子=ODA+NGO)
- 26.環境NGOの事例(1)
- 27.環境NGOの事例(2)
- 28.「宇宙船地球号」から「地球村」へ Spaceship Earth Global Village
- 29.〔人間-環境〕系を保つための課題
- 30.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)2回以上の試験と期末試験:60%
欠席回数が講義回数の3分の1を超える者には、単位を認定しない。

担当者：鈴木 真実哉

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

経済学の特徴の考え方、理論の構成のし方に力点を置く。なぜ経済学が必要なのか、現実を経済学的にどのように理解できるか、経済社会はどのようにあるべきか、経済的意思決定主体はどのような行動すべきか、などについて解説する。

2.学びの意義と目標

政治経済学科1年生の必修専門科目であり、他学部の学生にとっては教養科目である。「経済」に無縁ではられない現代人にとって「生活必須」科目でもあろう。

経済学的思考によって、学習以前とは異なる次元から現実をみることができるようになる。また、合理性の経済学的意味が理解できるようになる。

参考文献 福岡正夫 『経済学入門』（日本経済新聞社）

授業計画

1. 経済学とは何か
2. 資源の稀少性と解決（1）
3. 資源の稀少性と解決（2）
4. 生産可能性フロンティア
5. 機会費用（1）
6. 機会費用（2）
7. 消費者の行動（1） 効用と無差別曲線
8. 消費者の行動（2） 予算制約と消費可能領域
9. 消費者の行動（3） 効用最大化
10. 消費者の行動（4） 需要曲線
11. 生産者の行動（1） 生産関数と収入
12. 生産者の行動（2） 費用と費用関数
13. 生産者の行動（3） 利潤最大化
14. 供給曲線
15. 需要と供給 市場（1）
16. 需要と供給 市場（2）
17. マクロ経済学1（生産物市場） 45°線モデル
18. マクロ経済学2（乗数理論）
19. マクロ経済学3（貨幣市場）
20. マクロ経済学4（労働市場）
21. IS曲線
22. LM曲線
23. 総需要曲線
24. 総供給曲線
25. オープンマクロ（1）
26. オープンマクロ（2）
27. オープンマクロ（3）
28. オープンマクロ（4）
29. 経済変動と景気循環
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

準備学習(予習)

シラバスの講義予定テーマについてメモを作成しておくこと。

準備学習(復習)

板書を中心にノートを整理し、関連書籍によって補充しながら毎回清書ノートをまとめておくこと。

評価方法

(1)定期試験:90% (2)出席状況:10%
定期試験の一部を補充する目的のレポートを課する場合もある。

経済学

担当者：正上 常雄

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

カリキュラム上の位置づけ

政治経済学科の学生は1年次必修科目であり、本科目の単位修得は各種の経済学系選択科目を履修するための必須条件である。尚、本科目は教養科目として他学科の学生にも開放されている。

内容

経済学とは、個人、企業、政府などさまざまな組織が、どのように選択を行い、その選択によって社会の資源がどのように使われるかを研究する学問のことである。経済学について学ぶ前に、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配、といった概念を知っておく必要があり、まずは経済学で使われる概念と経済学的な思考をきちんと身に付け、教科書に沿って、経済学の基礎を学んでゆく。

2.学びの意義と目標

学びの意義と目標

経済学の基礎をきちんと理解し、基本的な知識を身に付けることが、本講義の目標である。経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学がある。本講義では、経済学を学ぶために、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配などの概念を使って、様々な経済的問題を考えてゆく。経済全体を構成する要素は、家計（消費者）、企業、金融、政府、貿易の5つである。企業は他の4つと密接に関係している。企業のあり方について学ぶことで、経済全体についての考察も深まってゆく。社会に出て、企業で働くときの準備として経済学を学んで欲しい。

準備学習(予習)

予習としては、教科書の内容を一読しておいて下さい。細かいことは初回の授業で学生の皆さんと相談して決めます。

準備学習(復習)

復習は、ノートやプリントなどを活用して、自分が理解できている点や理解できていない点をきちんと整理して、次回の授業に活かして下さい。

授業計画

1. 大学で履修する経済学の考え方 1
2. 大学で履修する経済学の考え方 2
3. 家計の目的 1
4. 家計の目的 2
5. 企業の目的 1
6. 企業の目的 2
7. 政府の目的 1
8. 政府の目的 2
9. 需要と供給の話 1
10. 需要と供給の話 2
11. 不完全競争市場 1
12. 不完全競争市場 2
13. ミクロ経済学の復習
14. 中間試験
15. マクロ経済学って何？ 1
16. マクロ経済学って何？ 2
17. 短期の経済 1
18. 短期の経済 2
19. 貨幣の影響 1
20. 貨幣の影響 2
21. なぜ国民所得をコントロールするのか？ 1
22. なぜ国民所得をコントロールするのか？ 2
23. IS-LM分析 1
24. IS-LM分析 2
25. 長期の経済 1
26. 長期の経済 2
27. 長期の経済における失業 1
28. 長期の経済における失業 2
29. 長期の経済における政策 1
30. 長期の経済における政策 2 および期末試験

教科書

木暮 太一 『大学で履修する入門経済学が1日でつかめる本 絶対わかりやすい経済学の教科書』(マトマ出版)

評価方法

(1)中間試験:40% (2)期末試験:40% (3)平常点:20%
大学の規定に従い、出席率60%以上を単位取得の条件とします。
基本的には中間試験と期末試験の成績で評価します。

担当者：高橋 聡

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

私たちの日々の経済活動をふりかえると、誰にも強制されず、一人一人が自由に行動しているか見える。しかしよくよく観察してみると、経済には自分の思いや努力とは別の客観的な法則があり、その力が人々を動かしていることがわかる。この法則を知ることが講義の第一のテーマとなる。これに続くテーマは、経済法則の力を生かして、様々な問題(貧困と格差、失業、財政危機、環境問題、貿易自由化など)の処方せんを描いてみることである。これらを行う際、歴史の知恵に学ぶことは有効な学習法といえる。そこで、私たちより先に以上の諸問題に立ち向かった経済学者の思考に学ぶことを通じて、受講者が経済と社会を見る目を養えるような内容とする。

なお、福祉や欧米の歴史・社会に興味のある人でも経済学になじんでもらえる内容とするので、他学部履修も歓迎する。

2.学びの意義と目標

経済の法則を理解する。 法則を適用した政策論を理解する。 経済社会の様々な制度(税・社会保障・雇用・貿易)のしくみを理解する。

授業計画

1. 経済学の基本用語 市場と政府
2. 経済学の基本用語 家計と企業
3. アダム・スミスと経済成長
4. アダム・スミスと経済倫理
5. ベンサムと国民の幸福 / 福祉
6. ベンサムと自由放任政策
7. マルサス・リカードウと貧困問題
8. マルサス・リカードウと自由貿易論争
9. J.S.ミルと自由主義経済
10. J.S.ミルと女性の労働
11. ワルラスとミクロ経済学(一般均衡分析)
12. ワルラスと市場・制度・共済
13. マーシャルとミクロ経済学(余剰分析)
14. マーシャルと人間開発
15. ピグーとミクロ経済学(厚生経済学)
16. ピグーと環境問題
17. ウエップ夫妻と労働市場政策
18. ウエップ夫妻と競争政策
19. ケインズとマクロ経済学の誕生
20. ケインズとベバレッジの社会保障政策
21. シュンペーターとイノベーション
22. シュンペーターと経済体制
23. ミュルダールと人口減少問題
24. ミュルダールと北欧福祉国家
25. ハイエクと自由主義経済
26. ハイエクと貨幣改革
27. フリードマンとケインジアン批判
28. フリードマンと税制改革
29. センとロールズ 正義論と人間発展
30. センとロールズ 格差と豊かさ / 幸福

準備学習(予習)

教科書の該当する章を読むこと。 新聞やインターネット記事を収集すること。

教科書

小峯敦編 『福祉の経済思想家たち』(ナカニシヤ出版)

準備学習(復習)

配布したプリントの問題を解くこと。 授業で紹介する本(新書)を読むこと。

評価方法

(1)中間(レポート)・期末試験:80% (2)出席:20%

担当者：中野 宏

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

モノを作る・買う、モノの価格が上がる・下がる、景気が良くなる・悪くなる、為替レートが円高になる・円安になる等々、学生諸君の身の回りで日々生じている経済的行動や経済現象にはすべて理屈や法則がある。これらの理屈や法則を明らかにし、社会全体を最も望ましい状態に導くにはどうすればよいかを考えるのが経済学である。本講義は「経済学入門」として、経済学的方法論を習得し、今後学生諸君が経済学系の科目を履修するための基礎付けを行うとともに、それらを用いて現在の日本経済が抱える諸問題についての理論的な理解を試みる。経済を見る目を養うとともに、経済学が現実の社会の中でどのように機能しているのか、学生諸君には存分に知ってもらいたい。

2.学びの意義と目標

将来学生諸君がどのような職業に就こうと、社会に出れば「経済」と付き合わずに済ますことは出来ない。景気の動向や、金利・物価・為替レートの動きなどから必要なことを読み取り、あるいはそれらの動きを予想し、仕事に反映させていくことになる。また、少子高齢化・人口減少社会に突入した我が国においては、これまでのような年金に依存にした老後は期待すべきもなく、諸君は投資により自らの手腕において老後のための資産形成を行っていかねばならない。今後必要となるのは、テレビや新聞、ネットなどのマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具である。それらを身に付けるために本講義が少しでも役に立てばと願う。

準備学習(予習)

現実の経済の動きに関心を持たなければ、この授業はよほどつまらないものとなるであろう。まずは指示されたキーワードを自分の手で調べることからは始めてみよう。

準備学習(復習)

経済学の講義は積み重ねで進んでいくため、一度わからなくなるとその後が続かなくなる恐れがある。毎回講義の復習プリントを配布するので、次の講義日までに各自仕上げてくること。

授業計画

1. 経済学とは何か
2. 景気循環と経済成長(1)
3. 景気循環と経済成長(2)
4. 景気循環と経済成長(3)
5. GDP統計(1)
6. GDP統計(2)
7. GDPの決定(1)
8. GDPの決定(2)
9. 乗数理論
10. 財政の機能(1)
11. 財政の機能(2)
12. 貨幣とは何か(1)
13. 貨幣とは何か(2)
14. 金利と経済
15. 中央銀行と金融政策
16. 為替レートと経済
17. 市場の分類
18. 需要と供給(1)
19. 需要と供給(2)
20. 需要と供給(3)
21. 需要と供給(4)
22. 需要と供給(5)
23. 消費者行動(1)
24. 消費者行動(2)
25. 生産者行動(1)
26. 生産者行動(2)
27. 政府の市場介入(1)
28. 政府の市場介入(2)
29. 講義のまとめ(1)
30. 講義のまとめ(2)

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)レポート:30%:講義期間半ばに1回課題を出す。
 (3)期末試験:40%
 上記評価のほか、質問等授業に積極的に参加しようとする態度や意欲は加点対象となる。自分の存在をアピールして欲しい。

担当者：由川 稔

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

経済学は抽象化や理論化という科学的な方法に拠っています。日常生活の中で、しばしば「感情」や「常識」に埋没して見えなくなりがちな経済現象の「本質」を暴き、そこから新しい経済や人間のあり方などを構想するためです。しかしやり方を間違えると、かえって現実を見る目を曇らせてしまいます。授業では、このバランスを重視したいと思います。

2.学びの意義と目標

本来、「経済が人間のためにあるのであって、人間が経済のためにあるのではない」はずですが。しかし現実の経済は、人間を奴隷化する恐ろしい面も持っています。究極的には、私たちが英知と勇気を持って、少なくとも経済の面で明るい未来を築いていくことが、経済学を学ぶ意義であり、目標であると言えるでしょう。

準備学習(予習)

教科書の予習ポイントは毎回指示します。国内外の政治経済動向に十分注意する姿勢を持ち続けてください。

準備学習(復習)

復習は絶対に必要です。何度でも、読んで、書いて...、「頭で」というよりもむしろ「身体で」覚えるくらいの意識で臨んでください。

授業計画

1. 経済学とマネーの暴走 (1)
2. 経済学とマネーの暴走 (2)
3. 経済学とマネーの暴走 (3)
4. 経済学とマネーの暴走 (4)
5. 経済と法 (1)
6. 経済と法 (2)
7. 租税と財政の問題 (1)
8. 租税と財政の問題 (2)
9. 租税と財政の問題 (3)
10. 租税と財政の問題 (4)
11. 新自由主義 (1)
12. 新自由主義 (2)
13. ケインズ理論をめぐって (1)
14. ケインズ理論をめぐって (2)
15. ケインズ理論をめぐって (3)
16. ケインズ理論をめぐって (4)
17. ケインズ理論をめぐって (5)
18. ケインズ理論をめぐって (6)
19. 国際経済 (1)
20. 国際経済 (2)
21. 国際経済 (3)
22. 国際経済 (4)
23. 消費者行動 (1)
24. 消費者行動 (2)
25. 消費者行動 (3)
26. 消費者行動 (4)
27. 生産者行動 (1)
28. 生産者行動 (2)
29. 生産者行動 (3)
30. 生産者行動 (4)

教科書

伊藤元重 『はじめての経済学「上」』 (日本経済新聞出版社)
伊藤元重 『はじめての経済学「下」』 (日本経済新聞出版社)

評価方法

(1)受講態度:30%:授業内小テストを含む (2)レポート等:20%:諸提出物
(3)試験:50%

言語学

担当者：文 智暎

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

言語学は「ことばの科学」である。「ことば」はわれわれにとって大変身近な存在であるが、それを客観的・科学的に捉えるのは簡単ではない。この講義では、主に日本語を中心に具体的な例を通して解説し、ことばの本質的な役割について考察する。

2.学びの意義と目標

「ことば」について、これまでと違った観点をもつこと、深く考えること、新たに生み出すことに興味を持って欲しい。基本的な学術的思考法・分析法を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、扱われるトピックについて考えてくること。

準備学習(復習)

配布プリントを再読し、各トピックについて次回までに説明できるようにすること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 言語学とは
3. 言語学の考え方
4. 世界の言語と日本語
5. 音と単語のしくみ 1
6. 音と単語のしくみ 2
7. 文のしくみ 1
8. 文のしくみ 2
9. 文のしくみ 3
10. 文のしくみ 4
11. ことばの「意味」とは
12. 意味分析の方法
13. 言語と社会 1
14. 言語と社会 2
15. 言語と社会 3
16. 言語と社会 4
17. 前半のまとめ
18. 言語の歴史的变化 1
19. 言語の歴史的变化 2
20. 言語変化と方言
21. 男のことば、女のことば
22. 若者のことば
23. 語順
24. コミュニケーション 1
25. コミュニケーション 2
26. 世界の言語
27. 異なる言語を比較する 1
28. 異なる言語を比較する 2
29. 質疑応答
30. 総まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)学期末試験:50% (2)出席:10% (3)授業中の小課題・小テスト:40%

高齢者保健福祉特論

担当者：古谷野 亘

開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

高齢者保健福祉の歴史の変遷を、そのときどきの社会的諸条件と関連づけて取り上げ、現状と変化の方向を明らかにする。そしてその上で、最近の学会誌の論文の講読とあわせて、現在の問題とその解決に向けての方策を考究する。

2.学びの意義と目標

高齢者の保健福祉は現在急速に変化しつつある。介護保険の施行は本質的な変化であったが、制度の改変は今後もさらに続くものと予想される。そこで、高齢者の保健福祉の現在の制度について知るとどまらず、その成立の背景や条件を正確に理解して、将来の方向を見通す力を獲得することを目指す。

準備学習(予習)

文献講読の際には当該文献と関連資料を精読するなどの予習が必要になる。

準備学習(復習)

また全体を通して、積極的な討議への参加と復習が必要である。

授業計画

1. 高齢者保健福祉の歴史から学ぶ： 歴史をみる視点 (1)
2. 歴史をみる視点 (2)
3. 老人ホームの歴史 (1)
4. 老人ホームの歴史 (2)
5. 老人医療費の推移 (1)
6. 老人医療費の推移 (2)
7. ホームヘルプ事業の変遷 (1)
8. ホームヘルプ事業の変遷 (2)
9. 介護保険導入の意味 (1)
10. 介護保険導入の意味 (2)
11. 介護保険導入によってわかった“福祉”の意味 (1)
12. 介護保険導入によってわかった“福祉”の意味 (2)
13. 文献講読と討議： 家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死” (1)
14. 家族関係の変化と地域高齢者の孤立、“孤独死” (2)
15. 地域包括ケアの課題 (1)
16. 地域包括ケアの課題 (2)
17. 介護予防の可能性 (1)
18. 介護予防の可能性 (2)
19. 保健福祉サービスの利用を規定する要因 (1)
20. 保健福祉サービスの利用を規定する要因 (2)
21. 要介護認定の問題 (1)
22. 要介護認定の問題 (2)
23. 介護保険下における老人ホームの経営 (1)
24. 介護保険下における老人ホームの経営 (2)
25. 在宅サービス事業者の課題 (1)
26. 在宅サービス事業者の課題 (2)
27. 高齢者保健福祉サービスを支える人 (1)
28. 高齢者保健福祉サービスを支える人 (2)
29. まとめと課題、総合討論 (1)
30. まとめと課題、総合討論 (2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への参加度:50% (2)レポート:50%

児童教育学

担当者：永井 理恵子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

主として教育学の基礎的な事項を学ぶ。

2.学びの意義と目標

教育の意義、目標について理解する。
教育の師僧と歴史的変遷について学び、教育の基礎的な理論について理解する。
幼稚園・保育所・小学校における教育の実践についての基礎を理解する。
幅広く教育の展開について理解する。

準備学習(予習)

本講義においては、学習内容が全て新しいので、おそらく予習は難しい。復習に重点を置く。せめても教育関係のテレビや新聞記事に意識を向けること。

準備学習(復習)

その日に学んだ箇所を、帰宅してから必ず読み返し、振り返りをする。定期的実施される小テストやレポート提出があるので、一回ごとに気合を入れて書く。これが復習である。

授業計画

- 1.教育学の全体像 1
- 2.教育学の全体像 2
- 3.教育・保育とは何か 1
- 4.教育・保育とは何か 2
- 5.教育の3つの場 1
- 6.教育の3つの場 2
- 7.西洋教育史 1
- 8.西洋教育史 2
- 9.西洋教育史 3
- 10.西洋教育史 4
- 11.西洋教育史 5
- 12.西洋教育史 6
- 13.西洋教育史 7
- 14.西洋教育史 8
- 15.日本教育史 1
- 16.日本教育史 2
- 17.日本教育史 3
- 18.日本教育史 4
- 19.子どもの心身の成長発達 1
- 20.子どもの心身の成長発達 2
- 21.子どもの心身の成長発達 3
- 22.子どもの心身の成長発達 4
- 23.子どもの心身の成長発達 5
- 24.子どもの心身の成長発達 6
- 25.小学校教育と幼稚園教育（保育所保育）
- 26.子どもを取り巻く文化 1
- 27.子どもを取り巻く文化 2
- 28.子どもを取り巻く文化 3
- 29.子どもを取り巻く文化 4
- 30.総括

教科書

広岡 義之 『新しい教育原理』（ミネルヴァ書房）

評価方法

(1)出席率:60% (2)提出の成果:40%

児童教育学特論

担当者：永井 理恵子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

西洋および日本の、主として近代の教育史について学ぶ。

2.学びの意義と目標

この特論では、教育学について、歴史的観点から再考することを目的とする。履修者が教育学を専門としない場合、もしくは十分な教育学の素養が積まれていない場合が予想されるため、教育学の基礎的概念を改めて習得することを目指す。

準備学習(予習)

次週の教科書の範囲を予め読んで、わからない用語は辞典で調べてくること。

準備学習(復習)

要点を整理すること。発表を担当する際には、その準備に十分な時間をかけること。

授業計画

- 1.教育学の基礎的概念 1
- 2.教育学の基礎的概念 2
- 3.教育の多様な場面 1
- 4.教育の多様な場面 2
- 5.教育、保育、福祉の相互関係 1
- 6.教育、保育、福祉の相互関係 2
- 7.西洋教育史 1
- 8.西洋教育史 2
- 9.西洋教育史 3
- 10.西洋教育史 4
- 11.西洋教育史 5
- 12.西洋教育史 6
- 13.西洋教育史 7
- 14.西洋教育史 8
- 15.西洋教育史 9
- 16.西洋教育史 1 0
- 17.西洋教育史 1 1
- 18.西洋教育史 1 2
- 19.西洋教育史 1 3
- 20.西洋教育史 1 4
- 21.西洋教育史 1 5
- 22.西洋教育史 1 6
- 23.日本教育史 1
- 24.日本教育史 2
- 25.日本教育史 3
- 26.日本教育史 4
- 27.日本教育史 5
- 28.日本教育史 6
- 29.総括 1
- 30.総括 2

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席率:60% (2)参加の態度:30% (3)提出物の成果:10%

児童福祉特論

担当者：中谷 茂一

開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。

2.学びの意義と目標

子どもの福祉に関するその国の理念・サービスの議論と実施状況は次代の社会を占う試金石でもある。現代的な子ども観に基づく新しいサービスを学びながら、これまでの環境の再検討と将来に向けての育児支援の利用をイメージする契機としたい。なお、子ども虐待に関する社会的対応と人々の意識についてあつかう時間を多くとる。

準備学習(予習)

次回該当箇所のテキストに目を通す

準備学習(復習)

当日配付資料の復習

授業計画

1. 子ども家庭福祉における「子ども」観
2. 子ども家庭福祉における「子ども」観
3. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題
4. 子ども家庭福祉におけるジェンダー問題
5. 少子社会と福祉環境
6. 少子社会と福祉環境
7. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ
8. 「子どもの権利条約」と権利擁護のしくみ
9. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷
10. 内外の歴史と子ども家庭福祉観の変遷
11. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点
12. 実際のサービスの制度と児童相談所、保育所、児童養護施設などの概要と課題点
13. 具体的なサービス内容と課題点
14. 具体的なサービス内容と課題点
15. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源
16. 子育てサークルなど育児支援の社会的資源
17. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職
18. 子ども家庭福祉にたずさわる専門職
19. 「子ども虐待」をとりまく神話
20. 「子ども虐待」をとりまく神話
21. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」
22. 「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」
23. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし
24. 子ども虐待に関する人々の意識とまなざし
25. 子ども虐待の社会的対応と限界
26. 子ども虐待の社会的対応と限界
27. スクールソーシャルワークの実際
28. スクールソーシャルワークの実際
29. ディスカッション
30. ディスカッション

教科書

評価方法

(1)出席:20% (2)テスト:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

社会学

担当者：加藤 敦也

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

本講義は社会問題を解釈するための方法論ないし理論枠組みとしての社会学の内容を概観していく。授業では、教科書の内容を、雑誌記事や、テレビドラマ、映画、ニュース番組などの映像を補助資料として用い、日常生活における身近な現象がいかに社会学のテーマとして取り上げられ、どのように社会学の対象領域として説明されるかについて解説していく。また、授業中にテーマに応じて小レポート作成やディスカッションを課すことで、社会学の取り扱う問題を自ら考えることを促す。

2.学びの意義と目標

受講者自身が社会問題を解釈する認知枠組みとして社会的な視点を身につけてもらうことを目標とする。受講者各自はそれぞれ成長してきた過程で問題を解釈する認知の枠組みを身につけてきたはずである。本講義は、その認知のあり方を一つの価値観と見なしながら、その価値観に従うだけでなく、ものごとを社会通念にとらわれず、社会的に理解するための基礎的な知識を身につけてもらいたいと思っている。

準備学習(予習)

授業前の予習としては教科書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。

準備学習(復習)

授業後の復習としては講義をまとめた自筆ノートを教科書とあわせて見直すことをすすめる。

授業計画

- 1.社会学とは何か(1)
- 2.社会学とは何か(2)
- 3.社会調査の方法
- 4.家族社会学(1)
- 5.家族社会学(2)
- 6.家族社会学(3)
- 7.地域社会学(1)
- 8.地域社会学(2)
- 9.メディア社会学(1)
- 10.メディア社会学(2)
- 11.階級・階層の社会学(1)
- 12.階級・階層の社会学(2)
- 13.アイデンティティと社会学(1)
- 14.アイデンティティと社会学(2)
- 15.ジェンダーの社会学(1)
- 16.ジェンダーの社会学(2)
- 17.セクシュアリティの社会学
- 18.エスニシティの社会学
- 19.社会運動の社会学(1)
- 20.社会運動の社会学(2)
- 21.教育社会学(1)
- 22.教育社会学(2)
- 23.政治社会学
- 24.相互行為論、社会構築主義
- 25.社会学の歴史：ヴェーバーとデュルケム
- 26.ヨーロッパの現代：ルーマン、ギデンズ、ブルデュー
- 27.日本の社会学史：意味社会学と統合理論
- 28.近代と脱近代(1)
- 29.近代と脱近代(2)
- 30.社会学のまとめ

教科書

宇都宮京子 『よくわかる社会学(第2版)』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)出席:30% (2)小レポート:30%:授業中に課す (3)定期試験:40%

社会学

担当者：寺田 征也

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

この講義では、日常生活で見られる身近な出来事を題材にして、「社会学」という分野について概観します。「自己」「相互行為」「家族」「メディア」などをテーマに、現代社会の問題にたいして「社会学」がどのようにアプローチしているのか、考えていきます。

教科書を中心に、新聞記事や映像作品などをもちいて、社会的なものの方の見方、考え方、問いの立て方について講義していきます。また、講義は板書にておこない、授業レポートをとおして講義内容の定着具合をはかります。

2.学びの意義と目標

「社会学」という分野は、自分たちが生きている社会を対象に、その成り立ちや仕組みを関係の視線から明らかにしていくことを目的としています。そこには、特有の概念やものの見方、考え方があります。この講義を通じて、受講生自身が自分の生活について、社会的な見方と考え方を通じて見直すことができ、社会的な問いを自ら立てることができるようになることが目標となります。

そうした社会的な思考力は、受講生が今後専門科目を学び進めていく上での基本力となります。また、一人の人間として生きていくときの、周囲との関係づくりや仕事を共同的に進めていくときの助けとなります。普段と少し違った見方、考え方を身につけられることが、社会学を学ぶ意義です。講義をつうじて、「社会学」を楽しく学んでください。

準備学習(予習)

教科書の該当箇所をあらかじめ読んで来てください。

準備学習(復習)

教科書、講義ノート、配布資料を読み直してください。

授業計画

- 1.社会学入門
- 2.社会学の考え方
- 3.社会学の歴史(1)
- 4.社会学の歴史(2)
- 5.社会学の理論(1)
- 6.社会学の理論(2)
- 7.自己とアイデンティティの社会学(1)
- 8.自己とアイデンティティの社会学(2)
- 9.相互行為の社会学(1)
- 10.相互行為の社会学(2)
- 11.家族の社会学(1)
- 12.家族の社会学(2)
- 13.地域の社会学(1)
- 14.地域の社会学(2)
- 15.情報とメディアの社会学(1)
- 16.情報とメディアの社会学(2)
- 17.ジェンダーの社会学(1)
- 18.ジェンダーの社会学(2)
- 19.感情の社会学
- 20.医療の社会学
- 21.グローバル化の社会学(1)
- 22.グローバル化の社会学(2)
- 23.階級・階層の社会学(1)
- 24.階級・階層の社会学(2)
- 25.政治の社会学
- 26.社会運動の社会学
- 27.社会調査方法論(1)
- 28.社会調査方法論(2)
- 29.社会調査方法論(3)
- 30.まとめ

教科書

宇都宮京子 『よくわかる社会学』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)出席:20% (2)授業レポート:20% (3)学期末試験:60%

社会学

担当者：新倉 貴仁

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

社会学は、私たちが生きる社会を考える学問である。そのため、自らを問うこと＝反省が要請される。本講義では、受講者が置かれた状況を反省することからはじめたい。すなわち、第一に、大学といった制度、学生という身分、書物というメディアから考えることから出発し、社会学を学ぶための準備をおこなっていく。第二に、社会学の思考の系譜を学び、その思考に込められた方法と、それぞれの思考が生み出された背景となる社会について考察していく(学説史)。第三に、宮沢賢治の童話「銀河鉄道の夜」を素材として、さまざまな社会学の主題群を拾い出し、その内容について、ともに、考えていきたい(概論)。

2.学びの意義と目標

社会学の概要を把握するとともに、社会的想像力を養う。また、読む、考える、書くことを身につける。

準備学習(予習)

適宜、教科書の該当箇所を指示する。各自にて、読んでおく。

準備学習(復習)

配布したレジュメの内容を確認し、要点について、各自の視点で論じる。

授業計画

1. イントロダクション
2. 社会とはいうけれども
3. 大学とはいかなる制度か
4. 学生とはいかなる存在か
5. 本との出会い方 書物と出版
6. 読むことを学ぶ 書評を書いてみるために
7. 社会学学説史(1) 近代社会の成立
8. 社会学学説史(2) マルクス
9. 社会学学説史(3) デュルケムとヴェーバー
10. 社会学学説史(4) 形式化と反省 文化社会学と知識社会学
11. 社会学学説史(5) 移民と大衆 アメリカ社会学
12. 社会学学説史(6) 福祉国家と多文化社会 カルチュラル・スタディーズ
13. 社会学学説史(7) 消費社会 構造主義とそれ以後
14. 社会学学説史(8) 現代日本社会と社会学
15. 知と権力 「午後の授業」より
16. 複製技術と労働 「活版所」より
17. 家庭、家族、家 「家」より
18. 共同体と疎外 「ケンタウルス祭の夜」より
19. 都市と田舎 「天気輪の柱」より
20. 空間と時間 「銀河ステーション」「北十字とプリオシン海岸」より
21. アイデンティティ 「鳥を捕る人」より
22. 宗教 「ジョバンニの切符」より
23. 贈与 「ジョバンニの切符」より
24. 自己と他者 「ジョバンニの切符」より
25. 子どもと大人 「ジョバンニの切符」より
26. 現実 「ジョバンニの切符」より
27. ジェンダーの社会学
28. 現代社会の社会学
29. 試験
30. 総括討論、レポート講評

教科書

宇都宮京子編 『よくわかる社会学 第二版』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)出席:40% (2)レポート:30% (3)試験:30%
出席点は、20点を基礎とし、残り20点について、各コマで指示した課題について書いてもらい、その内容によって加点する。

社会学

担当者：新津 尚子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

この講義は「家族」「地域」「ジェンダー」などについて、社会学的に学ぶことを目的とする。また後半（19回目以降）は社会学の歴史についても学ぶ。授業では教科書を用いて講義を行うほか、小レポート作成など、履修者が自分自身で考える機会を設け、確実に知識を身につけることを目指す。

2.学びの意義と目標

この講義の目標は、毎回の授業を通じて「社会学的な思考を身につける」ことにある。この思考を身につけることによって、「個人的」と思われる問題の中にある社会的な要素や、「社会的」と思われる問題の中にある個人的な要素を理解できるようになる。これにより将来、履修生がさまざまな問題に直面した際、その問題を多角的に考えられるようになるだろう。

準備学習(予習)

予習として教科書の当該箇所を読み、概要をつかんでおくこと。

準備学習(復習)

復習として教科書と講義ノートを見直すこと。不明な点があれば自分で調べたり、質問するなどして解決すること。

授業計画

- 1.社会学とは何か(1)
- 2.社会学とは何か(2)
- 3.家族社会学(1)
- 4.家族社会学(2)
- 5.地域社会学(1)
- 6.地域社会学(2)
- 7.メディア社会学(1)
- 8.メディア社会学(2)
- 9.階級・階層と社会(1)
- 10.階級・階層と社会(2)
- 11.アイデンティティと社会(1)
- 12.アイデンティティと社会(2)
- 13.ジェンダーと社会(1)
- 14.ジェンダーと社会(2)
- 15.国際社会(1)
- 16.国際社会(2)
- 17.社会運動(1)
- 18.社会運動(2)
- 19.社会学の歴史とさまざまな研究:社会学の始まり(1)
- 20.社会学の歴史とさまざまな研究:社会学の始まり(2)
- 21.社会学の歴史とさまざまな研究:デュルケム(1)
- 22.社会学の歴史とさまざまな研究:デュルケム(2)
- 23.社会学の歴史とさまざまな研究:ヴェーバー(1)
- 24.社会学の歴史とさまざまな研究:ヴェーバー(2)
- 25.社会学の歴史とさまざまな研究:マートン
- 26.社会学の歴史とさまざまな研究:パーソンズ
- 27.社会学の歴史とさまざまな研究:シュッツ
- 28.社会学の歴史とさまざまな研究:ブルデュー
- 29.社会学的想像力
- 30.まとめ

教科書

宇都宮京子編 『よくわかる社会学』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)出席:30% (2)講義内に課す提出物など:30% (3)学期末試験:40%

社会学

担当者：横山 寿世理

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

1.内容

教科書、雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、社会学を広く概観する。講義内容を板書でまとめる形で講義を展開する。また、講義内容の定着を図るため、簡単なコメント・シートの提出を課す。

2.カリキュラム上の位置づけ

この授業は1年次に配当される政治経済学科の専門基礎科目（必修）であり、上位の社会学系専門科目を履修するにはこの科目を修得しておく必要がある。また、コミュニティ政策学科の学生にとっては共通専門科目、他学部の学生にとっては教養科目となる。

2.学びの意義と目標

この講義は、社会的な視点を身につけることを目標とする。社会的な視点とは、社会において起きている現象を個人的な問題ではなく、「社会問題」として認識する能力である。良い/悪いといった判断から離れて、常識を疑うという姿勢を身につければ、普段意識されない「社会」「社会の仕組み」を受講者自身が実感できるようになるだろう。

準備学習(予習)

授業前の予習としては教科書の該当箇所を読んでおくとよい。

準備学習(復習)

講義の板書ノートを見直し・作り直すという復習作業を絶えず行うことを勧める。

授業計画

1. 社会的な視点:予言の自己成就
2. 社会学の誕生
3. 産業社会学(1)
4. 産業社会学(2)
5. 産業社会学(3)
6. 階級・階層の社会学(1)
7. 階級・階層の社会学(2)
8. 階級・階層の社会学(3)
9. メディア社会学(1)
10. メディア社会学(2)
11. メディア社会学(3)
12. 社会調査論(1)
13. 社会調査論(2)
14. 社会調査論(3)
15. 家族社会学(1)
16. 家族社会学(2)
17. 家族社会学(3)
18. ジェンダーの社会学
19. セクシュアリティの社会学
20. 行為論
21. 相互行為論
22. アイデンティティの社会学(1)
23. アイデンティティの社会学(2)
24. アイデンティティの社会学(3)
25. 歴史の社会学:マルクス
26. 歴史の社会学(1):ヴェーバー
27. 歴史の社会学(2):ヴェーバー
28. 記憶の社会学
29. 理論社会学
30. まとめ

教科書

宇都宮京子『よくわかる社会学(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)(第二版)』(ミネルヴァ書房)

評価方法

- (1)期末試験:40%
- (2)講義内課題:60%:各テーマごとにコメントの提出を課す。

社会福祉概論

担当者：木下 大生

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

我々が社会生活を営んでいく上で、私たちの生活に深く関わっている「社会福祉」を全般的に学ぶ。ただ、一口に「社会福祉」といってもその範囲は非常に広く、この講義で全てを網羅することは困難である。そこで、まず社会福祉の理念や思想、制度についての基礎的な内容を学び、その後特に社会的課題として取り上げられているトピックを取り上げ、それを通じ「社会福祉」に対する理解を深める。

2.学びの意義と目標

生活に密接に関わっている社会福祉の理念、目的、方法を、事例を通じて理解し、社会福祉の社会的な意義を理解することを目的とする。

準備学習(予習)

日頃から、社会福祉に関するトピックに関心を持ち、新聞記事等に目を通しておくこと。

準備学習(復習)

講義の内容、配布した資料等を確認し、自分の考えを整理しておくこと。

授業計画

1. 社会福祉の成立（福祉国家論）
2. 社会福祉の思想・理念
3. ライフステージと社会福祉・ジェンダーと社会福祉
4. 人権とは
5. 海外の社会福祉の展開（1）
6. 海外の社会福祉の展開（2）
7. 日本の社会福祉の展開（1）
8. 日本の社会福祉の展開（2）
9. 日本の社会保障制度
10. 社会福祉の機関と施設
11. 低所得者と社会福祉（生活保護制度について）
12. ホームレスにおける課題
13. 仕事と社会福祉
14. 子どもと社会福祉
15. 子どもの貧困問題
16. 社会における居場所
17. 高齢者と社会福祉
18. 少子・高齢化の問題
19. 尊厳死の問題
20. 身体障害者と社会福祉
21. 知的障害の種類と特性
22. 知的障害者と社会福祉
23. 精神疾患の種類と特性
24. 精神障害者と社会福祉
25. 社会福祉の担い手
26. 福祉専門職の価値と視点
27. ボランティアと社会福祉
28. これからの社会福祉の課題
29. まとめ
30. テスト

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:30% (2)試験:70%

障害児(者)の理解と社会

担当者：吉田 昌義

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

今日、共生社会の形成が求められており、その実現に向けて、障害者の権利条約の批准について障害者の諸制度改革が行われている。今後の共生社会の形成を目指して、一層の視野を広げるために、障害者の社会生活を直視し、その諸問題を明らかにしながら、共生社会のあるべき姿を考える。

授業では、講義のほか、各課題に沿った調査等のレポート（約7～8回）を提出・発表し、協議を通して、あるべき姿や、今後の問題解決の方向を検討する。

【共生社会】共生社会とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。

2.学びの意義と目標

<学びの意義>

障害者の社会生活における医療・福祉・労働・社会生活等における今日的な諸問題を明らかにし、諸制度等の基本的な考え方を押さえながら、望ましい共生社会の実現に向けた方向を探る。

<目標>

1 共生社会の実現に向けて、障害の種類や程度により、どのような指導や支援、配慮が必要であるかを理解する。

準備学習(予習)

授業の資料は、あらかじめ配布するので、必ず目を通すとともに、重要な事項は調べておくこと。

準備学習(復習)

配布資料やレポートに眼を通し、授業内容を振り返り、理解を図ること。

授業計画

1. オリエンテーション（授業内容・方法、学習方法等）
2. 障害の理解と教育（視覚障害）
3. 障害の理解と教育（聴覚障害）
4. 障害の理解と教育（知的障害）
5. 障害の理解と教育（肢体不自由）
6. 障害の理解と教育（病弱）
7. 障害の理解と教育（発達障害）
8. 障害児の教育の歴史と今後
9. 障害と医学（胎児診断の問題）講義
10. 障害と医学（リハビリテーション）講義
11. 障害と医学に関する課題とレポート発表・協議
12. 障害者の社会生活（バリアフリー・ユニバーサルデザイン）講義
13. 障害者の社会生活の課題とレポート発表・協議
14. 障害者の社会福祉制度（手帳・年金・施設等）
15. 障害者の社会生活（契約、選挙権、氏名等の筆記等）
16. 障害者の社会生活の課題とレポート発表・協議
17. 障害者の福祉機器
18. 福祉機器に関するレポート発表と協議
19. 障害者と労働（職業訓練、雇用促進・雇用率、最低賃金）
20. 障害者と労働の課題についてのレポート発表・協議
21. 障害者と犯罪（取調べ段階における問題、責任能力、累犯等）
22. 障害者と犯罪に関するレポート発表・協議
23. 戦争と障害者（地雷・枯葉剤等）
24. 薬物と障害者（サリドマイド、水銀中毒等）
25. 差別用語問題
26. いじめ問題、障害者虐待
27. 障害者の理解推進
28. 障害者の理解推進のレポート協議・発表
29. 障害者の権利条約
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)レポート:60% (2)試験:40%
成績評価全体に対するコメント
1 レポートは必ず提出のこと。

心理学概論

担当者：大島 由之

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

多くの人が『人のところが読めたらいいのにな』と考えたことがあると思います。「心理学」とは文字通り、「こころ」を「理解」することを目指す「学問」です。物理学や化学と同じように、人のこころの働きやその仕組み 知覚、記憶、対人関係、感情、発達、パーソナリティなど様々な『こころ』を、実験や調査、面接といった科学的な方法を用いて研究を行う学問の1つです。

この「心理学概論」では、受講生の興味関心を内容に含めつつ、心理学という学問を広く取り上げ、各分野で研究されている「こころ」の捉え方について紹介し、一緒に学んでいきたいと思っています。

授業計画や各回の内容は第1回目の講義でのオリエンテーションや授業を進める中で適宜変更していく予定です。

基本的には講義が中心ですが、回によってはアンケート形式の心理検査を実施したり、簡単な実験のような内容を含むことがあります。

2.学びの意義と目標

心理学に関心をもつ最初の一步となるよう、講義を通じて心理学の基本的な知識・考え方を身に付けてもらいたいと考えています。

また、講義を通じて、自分自身や周囲の他者の「こころ」を考える機会があると思います。心理学に触れる中で、そういった自己理解・他者理解のきっかけとなるような体験を逃さないよう、授業に参加するように心がけてください。

準備学習(予習)

各回ごとに、次回の内容についてのトピックをまとめたプリントや書籍を紹介する予定です。可能な範囲で目を通すようにしてください。

準備学習(復習)

試験での成績評価を行うため、各回の配布資料等を保管し、復習が可能なように心がけてください。

授業計画

1. 授業の紹介と評価方法について
2. 「こころを理解する学問」とは？
3. 「ものの見え方・感じ方」の心理学
4. 「ものの見え方・感じ方」の心理学
5. 「学びと記憶」の心理学
6. 「学びと記憶」の心理学
7. 「対人関係」の心理学
8. 「対人関係」の心理学
9. 「気持ちとやる気」の心理学
10. 「気持ちとやる気」の心理学
11. 「成長と老い」の心理学
12. 「成長と老い」の心理学
13. 「学校」の心理学
14. 「学校」の心理学
15. 「性格と個人差」の心理学
16. 「性格と個人差」の心理学
17. こころを研究する方法
18. こころを研究する方法
19. 「こころの健康」を目指す心理学
20. 「こころの健康」を目指す心理学
21. 「こころの不調」の科学
22. 「こころの不調」の科学
23. 心理検査とは
24. 心理検査とは
25. さまざまな現場での心理学
26. さまざまな現場での心理学
27. こころを援助する方法
28. こころを援助する方法
29. 心理学の歴史
30. 講義のまとめ・試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)出席:50% (2)期末試験:25%
(3)小レポートまたは小テスト:25%:第1回目に決定予定
第1回目の講義で評価方法の検討・説明を行いますので、受講を考えている場合にはできるだけ出席するようにしてください。

担当者：小畑 俊太郎

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要**1.内容**

日本では現在、社会構造が大きく変化するなかで、意志決定システムとしての政治制度のあり方も根底から問い直されてきている。日本を含めて現代の多くの国で採用されている政治体制は、一般的に「自由民主主義」と言われる。それは、制度の体系であると同時に理念の体系でもある。本講義では、その思想的基盤と制度的構造を検討することによって、「自由民主主義」についての理解を様々な角度から深めていく。

2.学びの意義と目標

政治学の基礎的な理論や概念を理解することで、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。

準備学習(予習)

授業で扱う予定のテーマについて、事前に新聞や著作などでよく調べておくこと。

準備学習(復習)

配布したプリントと授業中にとったノートをよく再読すること。

授業計画

1. 政治とは何か(1):権力
2. 政治とは何か(2):公共善
3. 自由主義(1):生命と財産の自由
4. 自由主義(2):思想と信仰の自由
5. 自由主義(3):権力の分立
6. 直接民主主義(1):民主主義の起源
7. 直接民主主義(2):ポリスの政治
8. 直接民主主義(3):人民主権論
9. 代表制民主主義(1):二つの代表観
10. 代表制民主主義(2):保守主義
11. 代表制民主主義(3):功利主義
12. 自由民主主義(1):大衆社会の自由
13. 自由民主主義(2):自由と陶冶
14. 現代の自由民主主義
15. 中間試験
16. 政治制度(1):大統領制
17. 政治制度(2):議院内閣制
18. 政治制度(3):日本の議院内閣制
19. 官僚制(1):官僚制の合理性と非合理性
20. 官僚制(2):公務員任用制度
21. 官僚制(3):日本の行政改革
22. 政党制(1):政党の構造
23. 政党制(2):政党制の諸類型
24. 政党制(3):日本の政党政治
25. 利益団体(1):利益団体の意義と限界
26. 利益団体(2):利益団体政治の条件
27. マス・メディア(1):メディアの影響力
28. マス・メディア(2):テレビ報道と政治
29. マス・メディア(3):インターネットと政治
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)中間試験:30% (3)期末試験:40%

政治学

担当者：高橋 愛子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

現実の政治的な課題、諸現象について、歴史的に捉える視座（座標軸）、自分で考える基本的な力を身につけることを目的とする講義である。今日の歴史的な位置としては、1945年の「敗戦」から始まった「戦後政治」が国際社会における「冷戦終結」、国内における「政界再編」という転換点を経て新たな国際秩序、国内秩序を模索する過渡期であると同時に、21世紀という新たな時代の方向付けをめぐる分岐点でもある。こうした「現在（についての）認識」に立ち、現代の「文脈」（コンテキスト）の中でさまざまな政治課題・現象を「政治学的に」考察するとはどのようなことを学ぶことを目的とする。つまり、「政治学」の概念、理論を学ぶだけでなく、「政治現象」を「週刊誌的に」「ワイドショー的に」取り上げるのとは異なる「政治学的な考察」とは何か、という点を、できる限りリアルタイムな時事問題を素材としつつ考えてゆく。

<カリキュラム上の位置づけ>政治学を学ぶための入門的な講座であり、かつそのための基礎的な概念、理論を学ぶ講座である。

2.学びの意義と目標

- 1) 政治学とはどのような学問であるかを理解する。
- 2) 基本的な概念、「権力」「合法性」「正当性」「公益」などの概念を理解する。
- 3) 現実の政治現象について、「政治学的に」考察する資質を学ぶ。

準備学習(予習)

各回の授業の際に配布されるペーパーを予めよく読んでくること。

準備学習(復習)

授業で取り上げた課題についてのコメントシートに記入し、各回の授業の基本概念をよく理解する。

授業計画

1. 導入:政治学とは何か(1)
2. 導入:政治学とは何か(2)
3. 現代における政治:全面的政治化の時代(1)
4. 現代における政治:全面的政治化の時代(2)
5. 政治にとっての文脈としての歴史(1)
6. 政治にとっての文脈としての歴史(2)
7. 政治にとっての文脈としての歴史(3)
8. 政治にとっての文脈としての歴史(4)
9. 政治にとっての文脈としての歴史(5)
10. 政治にとっての文脈としての歴史(6)
11. 政治の場としての国会(1)
12. 政治の場としての国会(2)
13. 政治の場としての自治体(1)
14. 政治の場としての自治体(2)
15. 政治における主体(1)
16. 政治における主体(2)
17. 合法性と正当性(1)
18. 合法性と正当性(2)
19. 公益とは何か(1)
20. 公益とは何か(2)
21. 公益とは何か(3)
22. メディアリテラシー(1)
23. メディアリテラシー(2)
24. メディアリテラシー(3)
25. 民主主義と選挙(1)
26. 民主主義と選挙(2)
27. 民主主義と教育(1)
28. 民主主義と教育(2)
29. 一学期間のまとめ:復習
30. 一学期間のまとめ:今後の政治学の学びに向けて

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)新聞レポートの提出:30% (3)ブックレポート:30%

政治学

担当者：谷口 隆一郎

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

この科目では、現代政治学の主な領域の重要な知識を網羅的に学習します。将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくといいいテーマと内容が、この講義には含まれています。地方上級・警察・消防・国家IIで出題される政治学の頻出テーマのほぼすべてをカバーします。加えて、この科目の内容は、一般の企業の採用一次試験の対策としても有効です。

2. 学びの意義と目標

聖学院大学政治経済学部、特にコミュニティ政策学科というところで専門的に学ぶ内容（特に、その政治学的基礎）とはどのようなものかを知ることができます。そして、公務員試験（地方上級・警察・消防）の政治学の内容をカバーしますので、公務員試験合格を目指す人にとって有益です。

準備学習(予習)

テキストの各章を読んで予習する。授業内レポート（BRC：授業内で書き上げる簡単な論述400字程度。BRCについては、オリエンテーションで説明する）の作成を通して予習する。加えて、問題集（『70点で合格！政治学 厳選100問』）で予習する。オリエンテーションで、BRCについての別紙シラバスを配布する。

準備学習(復習)

BRCを再読する。授業内予習時間に書き残した未完成のBRCを授業後に完成させる。それにより、授業後の理解を深める。加えて、問題集（『70点で合格！政治学 厳選100問』）で復習する。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 政治とは何か
3. 政治学の発展（1）
4. 政治学の発展（2）
5. 政治と権力
6. 支配の正当性
7. 権力構造
8. 政治的リーダーシップ
9. 政治思想とイデオロギー
10. デモクラシーの理論
11. 現代社会における国家
12. 近代の議会政治
13. 近代の政治原理
14. 主要諸国の政治制度
15. 【中間試験】
16. 現代の行政国家
17. 現代社会と官僚
18. 議会と立法過程
19. 選挙制度
20. 政策と政策過程
21. 現代政治と政党
22. 政治社会と政党制
23. 圧力団体と住民運動
24. 現代の政治過程
25. 政治意識と投票行動
26. 政治的コミュニケーション
27. 大衆社会の政治
28. 日本の政治
29. 国際政治
30. 【期末試験】

教科書

中村昭雄 『基礎からわかる政治学』（芦書房）
TAC公務員講座 『70点で合格！政治学 厳選100問』（TAC出版）

評価方法

(1)中間試験:20%: 穴埋め問題および文章問題（公務員院試験問題）形式 (2) 期末試験 :30%: 中間試験に準じる (3) BRC（要注意）:50%: 各回授業の授業内レポート（BRC）を完成させ、全てを綴じて提出
【要注意】中間・期末試験のいずれかもしくは両方を受験した受講生だけがBRCの評価を受けることができる。

政治学

担当者：森 達也

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

<テーマ> 政治の基礎知識 / 政治学の基礎
政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。本講義ではまず政治学の基本的な考え方を学び、現代政治の基礎知識を習得しながら、政治学内部の各テーマを順に考察していきます。

2.学びの意義と目標

政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。身近な問題を政治(学)的に捉え、それに意見を表明し、他者と議論することができるようになること。

準備学習(予習)

配布プリントを各自でできるかぎり完成させ、次回の講義に備えること。

準備学習(復習)

授業で扱った範囲の教科書・プリントの内容を習得して小テストに備えること。

授業計画

1. 講義の概要と趣旨の説明
2. 政治学とは何か(教科書序章)
3. 民主主義の基本原則(プリント)
4. 政治とは何か(教科書第1章)
5. 各国の政治体制(プリント)
6. 政治体制・比較政治制度論(教科書第2章)
7. 国会の仕組み(プリント)
8. 現代政治学の歴史(教科書第11章)
9. 内閣と行政機構(プリント)
10. 政治過程論(教科書第4章)
11. 現代政治の特質と政党(プリント)
12. 政党・圧力団体・メディア(教科書4・6章)
13. 財政と税(プリント)
14. 政策決定論(教科書第5章)
15. 貨幣・金融と日銀の役割(プリント)
16. 中間試験
17. 映像で見る政治(1)
18. 映像で見る政治(2)
19. 資本主義 / 社会主義経済(プリント)
20. 政治と経済(教科書第3章)
21. 日本の社会保障制度(プリント)
22. 福祉資本主義レジーム論(教科書第3章)
23. 労働問題と労働市場の変化(プリント)
24. 福祉国家の危機と再編(教科書第3章)
25. 国際社会と国際法(プリント、教科書第9章)
26. 国際機関(プリント)
27. 冷戦と核兵器の問題(プリント、教科書第9・10章)
28. ナショナリズムと民族問題(プリント、映像)
29. 地球環境問題(プリント、教科書第10章)
30. 総括

教科書

加茂利男ほか著 『現代政治学 第4版』(有斐閣)

評価方法

(1)中間試験:35%:論述問題を含む (2)最終試験:35%:論述問題を含む
(3)授業内課題:30%:小テスト・コメントシート

政治学

担当者：森分 大輔

開講期：秋学期/春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

1.内容

本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。

2.カリキュラム上の位置づけ

政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。

2.学びの意義と目標

転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。

準備学習(予習)

政治学に対する専門的な知識を必要とはしないが、それらに関する積極的な関心を抱いていることが望ましい。1日15分~1時間程度のニュースの視聴が必要である。

準備学習(復習)

講義後1時間程度の復習をすることを求める。加えて、授業内で示された関連テーマに関する書籍を購読することが望ましい。

授業計画

1. 政治学とは何か1
2. 政治学とは何か2
3. 人間の権利と民主主義について1
4. 人間の権利と民主主義について2
5. 国家の機能1
6. 国家の機能2
7. 国家の機能3
8. 政党1
9. 政党2
10. 政党3
11. 圧力団体1
12. 圧力団体2
13. 圧力団体3
14. 官僚制1
15. 官僚制2
16. 官僚制3
17. 政治的リーダーシップ1
18. 政治的リーダーシップ2
19. 政治的リーダーシップ3
20. 地方自治と政治構造1
21. 地方自治と政治構造2
22. 地方自治と政治構造3
23. 住民参加と参加型民主主義1
24. 住民参加と参加型民主主義2
25. 住民参加と参加型民主主義3
26. 政治の担い手に関する考察1----世論
27. 政治の担い手に関する考察1----ジャーナリズム
28. グローバル化と政治1
29. グローバル化と政治2
30. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:40% (2)中間レポート:30% (3)期末テスト:30%

生命の科学

担当者：近藤 雅雄

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

地球および生命の誕生から人間の誕生、進化、生涯を通して、地球と宇宙の恵みに感謝し、自然の営みを大切にすることを育て、人類の持続可能な発展をもたらす社会をつくるためにはどうしたらよいかを人間の健康を中心として、パワーポイントにてわかりやすく展望します。

2. 学びの意義と目標

健全なところからだの働きのメカニズムを学び、地球市民として人類の健康と平和および地球環境の保全に貢献できる教養を身につけます。

生命の科学は生命の誕生、そして生体を構成する多くの細胞、組織、臓器およびそのネットワーク（生命系）の特有な現象および様々な機能を科学的に究明し、人類の発展に貢献するという、自然科学から人間・総合科学にまたがった広領域の分野です。今、地球環境問題、経済産業や社会保障の問題は、私たち人類の存続基盤にかかわる大きな問題となっています。人類が、いのちを大切に、平和で健康な生活を営む中で、豊かさを味わい、心の安らぎを感じられる新たな社会システムの構築が望まれます。そこで、これからの社会を担う学生として、生命のしくみ、健康・病気の概念、こころの問題、生命倫理を理解し、平和で、健康的な生活を送るための方法及びそれに必要な生命科学の基本的知識を身につけます。

準備学習(予習)

配布された「生命の科学のテキスト」を通して、予習・復習をしっかりと行う。わからない用語があれば、事前に調べておくこと。

準備学習(復習)

配布された「生命の科学のテキスト」を通して、予習・復習をしっかりと行うこと。わからない用語（専門用語など）があれば、授業前・授業後に調べておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション～生命科学序論
2. 生命科学の概念～生命とは、健康とは
3. 生殖と生命の誕生 (1) 生殖・受精と妊娠のメカニズム
4. 生殖と生命の誕生 (2) 遺伝:生命の設計図:遺伝子とその働き
5. 生命の基礎 (1) 生命の最小単位—細胞のしくみと働き、遺伝と健康
6. 生命の基礎 (2)
血液の働きと血液型、免疫～感染症 (AIDS)発症のメカニズム
7. 生命維持のための呼吸・血液循環のしくみ (1)
呼吸・血圧調節のメカニズム
8. 生命維持のための呼吸・血液循環のしくみ (2)
メタボリックシンドローム発症メカニズム
9. 生命維持のための栄養・健康 (1)
食欲、消化・吸収、栄養素の働き、代謝調節
10. 生命維持のための栄養・健康 (2) 日本の食文化と食育
11. 生命維持のための栄養・健康 (3) 肥満発症のメカニズム
12. 生命維持のための体液の恒常性維持機能と体温調節の機序
13. 生命活動の情報連絡のしくみ (1) ホメオスタシスとは
14. 生命活動の情報連絡のしくみ (2) 内分泌調節と情報連絡システム
15. 生命活動の情報連絡のしくみ (3) 感覚細胞による情報連絡のしくみ
16. 生命活動の情報連絡のしくみ (4) 神経細胞による情報連絡のしくみ
17. 生命活動としての運動システム (1) 皮膚の働きと健康
18. 生命活動としての運動システム (2) 骨と筋肉の働きと健康
19. 生命の成長・加齢システム～老化とは
20. 生命倫理(バイオエシックス)と医療倫理
21. 先天代謝異常、難病と健康 (1) 遺伝子—環境因子相互干渉作用
22. 先天代謝異常、難病と健康 (2) いのちの科学から健康の科学へ
23. 健全なところと健康 (1) ストレスと健康
24. 健全なところと健康 (2) 治癒と治療
25. 生命と地球～地球と生命の誕生
26. 生命リズムと地球環境 (1) 地球環境に影響を与える因子
27. 生命リズムと地球環境 (2) 人間と地球環境
28. 生命リズムと地球環境 (3) 地球環境の現状と未来予測
29. 生命科学研究最前線
30. 「健康のための生命科学」まとめ

教科書

プリントを配布する
テキストを配布する、「参考書」：健康のための生命科学：近藤雅雄著 (ISBN4 902738 00 7)：全国ポルフィリン代謝障害友の会発行、担当教員に連絡

評価方法

- (1) 学習意欲・受講態度:15%
- (2) レポート:15%
- (3) 試験:70%:試験は持ち込み可

西洋史

担当者：田中 史高

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

この科目では、古代から中世、近世へ、さらに近代、現代へと、年代順にヨーロッパ史上の重要な事象や人物を論じていきます。毎回、講義内容の概要と図版を載せたプリント（レジュメ）を配布します。また、なるべく毎時10分程度をあてて、視覚教材（ビデオ）を用いる予定です。

2.学びの意義と目標

西洋史の基本的な認識をつちかう序論的講義です。全部で30回の講義は、毎回ことなるテーマを扱い、西洋史の基本的な流れがつかめるように配列してあります。

準備学習(予習)

できれば受講前に、高校世界史の既習者は、その教科書を西洋史関係の部分だけでもう一度目を通しておくとよいでしょう。

準備学習(復習)

毎回授業の最後に10～15分をあてて、配布レジュメに即した授業内容のまとめを作成し提出してもらいます。ただしこのまとめは、後日の提出も可とします。

授業計画

1. オリエンテーション
2. エーゲ文明
3. 古代スパルタとアテネ
4. ギリシアの古典文化
5. ヘレニズム史
6. 共和政ローマ
7. 帝政ローマ
8. ゲルマン人の移動と部族国家
9. ローマ・カトリック教会の発展
10. 十字軍
11. 封建制と荘園制
12. 中世都市
13. 西欧中世の文化
14. イタリア・ルネサンス
15. ヨーロッパ世界の拡大
16. 西欧諸国の国王巡行
17. 宗教改革
18. ロシアの絶対主義
19. オランダの独立と繁栄
20. 市民革命
21. ナポレオンとその時代
22. 西欧ユダヤ人の歴史
23. ドイツの統一
24. 第一次・第二次産業革命
25. 帝国主義
26. 第一次世界大戦
27. 第二次世界大戦
28. 20世紀の西洋諸文化
29. 20世紀後半の西欧
30. 20世紀後半の東欧

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』 (山川出版社)

評価方法

- (1) 授業の出席点: 25% (2) 授業内容のまとめ: 25%
(3) 小テスト (3回): 50%

担当者：森 齊丈

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要**1.内容**

本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。

また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。

2.学びの意義と目標

西洋史は、西洋文化を学ぶ上で必要な基本的知識の宝庫であり、西洋文化がいかにして発展してきたかを知るために必須の分野であるとともに、社会に出たあと、現状を分析し必要な判断をするための基本的知識になるものである。

個々の事項を細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。

準備学習(予習)

毎授業の最後に次回のテーマを発表するので、教科書の該当部分に目を通すことを勧める。大事なところは板書するので、各自プリント、ノート等へ書き込み、補足し復習するのが望ましい。

準備学習(復習)

授業で学んだ人物、事項についてプリント・ノート等を見ながら思い出せるようにするとよい。

授業計画

1. 歴史とは何か？
2. 古代オリエント
3. 地中海世界
4. 古代ギリシア
5. 共和政ローマ
6. 帝政ローマ
7. ローマ帝国の社会とキリスト教
8. ゲルマン世界の誕生
9. 中世ヨーロッパ
10. 十字軍とイスラム世界
11. 中世ヨーロッパの社会
12. キリスト教と世俗君主
13. ヨーロッパ世界の拡大
14. 大航海時代
15. ルネサンス
16. 宗教改革
17. 宗教戦争とウェストファリア条約
18. 絶対王政
19. 市民革命 1
20. 市民革命 2
21. 産業革命と労働問題
22. 帝国主義と民族主義
23. 第一次世界大戦
24. 戦間期のヨーロッパ
25. 第二次世界大戦
26. 東西冷戦と欧州統合
27. 冷戦の終結と東欧の民主化
28. ポストコロニアリズム
29. グローバリズム
30. 現代の世界

教科書

成瀬 治, 佐藤 次高, 木村 靖二, 岸本 美緒, 桑島 良平 『山川世界史総合図録』(山川出版社)

評価方法

(1)出席点:20% (2)授業内レポート:20% (3)小テスト 1 :20%
(4)小テスト 2 :20% (5)小テスト 3 :20%

地球環境論研究

担当者：村上 公久

開講期：秋学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

まず環境史を概観し産業革命以後の環境問題を省みた上で、特にUnited Nations Conference on the Human Environment (ストックホルム「国連人間環境会議」) 1972年から、United Nations Conference on Environment and Development, "UNCED" (リオ・デジャネイロ「国連地球サミット」) 1992年、さらに一連の「地球温暖化防止国際会議」、World Summit on Sustainable Development, "WSSD" (持続可能な開発に関する世界首脳会議 2002年)、およびUnited Nations Conference on Sustainable Development (Rio+20) (「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」) 2012年など近年の地球環境問題を巡るアジェンダの変遷とその背景を考察する。

2.学びの意義と目標

国際化・地球化における地球環境問題への取り組みのあり方を検討する。急速な国際化の進展に伴い、国民国家の枠組みが解消してゆき、世界の担い手がコミュニティ・自治体と超国家機構・国際的組織とに分極してゆく中で、「水と空気に国境はない」環境問題の解決の方途を、持続的開発(持続的発展) Sustainable Developmentを実現させるための環境政策の視野で考える。

準備学習(予習)

農水、経産、外務、環境、各省資料。特に「エネルギー白書」「日本の国際協力」、IBRD、OECD、ADB(Asian Development Bank)、UNDP、UNEP 関連資料。

準備学習(復習)

各回の講義内容について、各自関連する資料を学び、履修者間で講義時間外にもディスカッションを通じて理解を深めること。

授業計画

1. Science について - body of knowledge 知識の体系
2. ふたつのアプローチ - genetic / functional approach
3. 「相の転換」 phase transition
4. 地球環境問題とは何か - 環境問題概論
5. 生態学におけるいくつかの重要な概念について
6. 地球環境問題をめぐる理念の変遷 - 環境史概観
7. 処方箋『アジェンダ21』 Agenda 21とその背景の検討
8. 環境関連 国際機関・機構
9. 法・制度
10. 保続的(持続的)発展 Sustainable Development
11. 環境はいくらか - 環境の経済的評価
12. OECD モデルの検討
13. 事例研究
14. 合意形成の方途、第4セクタ - の重要性
15. 「全球時代」の地球環境問題と国際的資源管理

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)ディスカッションへの参画(出席を含む)と寄与・貢献:50%:出席を含む (2)レポート:50%

哲学

担当者：勝西 良典

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

何かについて根本的に理解すること、そして、そのような理解とはどのようなものかを明らかにすることが哲学の課題です。目の前に広がっていると同時に自分がそこに住んでいる世界の本当の姿とはいかなるものか、あるいは、そのような問いにかかわっている自分自身はいったいどんな存在なのかを問うためには、先達が練り上げた言葉が示す当座の理解内容に助けられながら、主体的にこの問いを引き受けて少しでもクリアな答えを求めていくしかありません。

この講義では哲学の中心的テーマ、特に認識論、存在論、人間論と呼ばれるものを包括的に取り扱い、現代的な関心に引きつけながら、その解明に努めます。予備知識は前提とせず、諸テーマを哲学史的・思想的に紹介したうえで問題それ自体を考察する方法を採ります。

2. 学びの意義と目標

この講義を通して哲学的問題意識と思考力の発展をめざすとともに、思考過程や理解内容を論理的に表現する力を養います。そうすることによって、たんなる受け売りではなく、自分で考える力が身につきます。

準備学習(予習)

- ・教科書の関連箇所を読んでおくこと。
- ・講義で扱う内容にかんする現時点での自分の考えをまとめておくこと。

準備学習(復習)

- ・配布プリントやノートなどを読み返し、講義で扱った内容にかんする哲学者の考えについて説明できるようにすること。
- ・そうした内容にかんする自分の考えを整理すること。

授業計画

1. イントロダクション
2. 哲学の問いと個別科学の問い：知的関心の多様性
3. 知るとはいかなることか：認識の問題
4. 知られるものとは何か：認識論と存在論
5. 知ることの意義：哲学の問いの人間論的意義
6. 知る者とはいかなるものか：「存在」理解と自己認識
7. 自己同一性と他者とのかわり：孤立的存在 v s 関係的存在
8. 真理とは何か(1)：真理と知られるものとの関係
9. 真理とは何か(2)：真理と知る者との関係：精神形而上学
10. 「存在する」とはいかなることか(1)：個別性・特殊性と普遍性・一般性
11. 「存在する」とはいかなることか(2)：有限性(目に見えるもの)と(目に見えないもの)：存在論と形而上学
12. 善と価値(1)：知られるものとの関係：倫理学(1)
13. 善と価値(2)：知る者との関係と悪の問題：倫理学(2)
14. 美しいことと「存在」：美学・美術学
15. まとめ(1)
16. 問いを立てるものとしての人間：哲学と人間論
17. 身体としての人間
18. 経験するとはいかなることか：人間の生の根源的受容性
19. 主体性と自己意識
20. 応答するものとしての人間：人間の人格性
21. 人間の生を駆動するもの(1)：「存在」の知的肯定と価値的肯定
22. 人間の生を駆動するもの(2)：意思・自由・目的
23. 人生の意義の追求(1)：意義の個人的探求としての自律
24. 人生の意義の追求(2)：意義の社会的共有としての共同
25. 人生の意義の追求(3)：相対主義とニヒリズム
26. 人間の超越とのかかわり：宗教
27. 人称性と社会的共同の成立：愛
28. 態度決定としての語り：言語の多様性
29. 人間の時間性と歴史性
30. まとめ(2)

教科書

ミシェル・オンフレ、嶋崎 正樹 『<反>哲学教科書』(NTT出版)

評価方法

- (1)中間レポート:30% (2)学期末レポート:40%
- (3)平常点:30%:授業態度、リアクションペーパー、授業中の発言を含む

哲学

担当者：高橋 章仁

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（春学期）では、近代以降の哲学史の流れを、実際に哲学者が語ったテキストを通じて丹念にたどり、ともに考えながら、なるべくわかりやすく解説していきたいと思っている。なお、一人の哲学者の思想をじっくりと読みたいという人は、秋学期の「哲学」を受講されたい。

2.学びの意義と目標

取り上げる思想のどれもが、単なる過ぎ去った思想ではなく、現代にも十分通用しうるものを備えており、そこから学ぶべきところは決して少なくないはずである。この講義を通じて、受講者それぞれが、今の、そして、これからの自分の生きる糧となりうるような思想を見つけ出すことを期待している。

準備学習(予習)

毎回授業の最後に、次回取り上げる哲学者を伝達するので、何らかの哲学史の本などを利用して、その思想に関する予備的な知識を得ておくこと。詳しくは最初の授業のときに指示する。

準備学習(復習)

授業で提示されたテーマや事柄についてももう一度深く考え、可能なかぎり自分の言葉に置き換える努力してほしい。そうした言語化の作業を通じて、自身の立場や思想を明確にしていくことを求めたい。

授業計画

1. ガイダンスと哲学とは何か
2. 歴史的概観
3. デカルト（１） 近代的自我の確立
4. デカルト（２） 道徳の問題
5. スピノザ・ライブニッツ デカルトの克服
6. パスカル 理性と信仰
7. イギリス経験論（１） ロックとパークリ
8. イギリス経験論（２） ヒューム
9. 功利主義 ベンサムとJ．S．ミル
10. カント（１） 理性の特殊な運命
11. カント（２） 義務と定言命法
12. カント（３） 自律とアンチノミー
13. フィヒテ 自我の三原則
14. ドイツ観念論の展開
15. ヘーゲル（１） 弁証法の確立
16. ヘーゲル（２） 自由と歴史
17. ショーペンハウアー 生への意志
18. キルケゴール 実存哲学の誕生
19. ニーチェ（１） 強者の生
20. ニーチェ（２） ニヒリズムを生きる
21. ハイデガー（１） 現存在と実存
22. ハイデガー（２） 死への存在
23. サルトル（１） 即自存在と対自存在
24. サルトル（２） 対他存在
25. 実存思想概観
26. ヤスパース（１） 交わり
27. ヤスパース（２） 限界状況・その１
28. ヤスパース（３） 限界状況・その２
29. マックス・ウェーバー 責任倫理
30. 理解度の確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)学期末試験:70%:教場での論述試験を行う。
- (2)平常点:30%:出席・授業態度の他に、状況に応じて小テストを行う。

哲学

担当者：高橋 章仁

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、主体的に哲学することなくして、豊かな学びは得られない。本講義（秋学期）では、20世紀ドイツの哲学者カール・ヤスパースの『哲学入門』（新潮文庫）を精読し、その思想を解説していく。「入門」を銘打った著作ではあるが、内容は必ずしも平易ではないので、哲学的な知識をつねに確認しながら、読み進めていくことにしたい。なお、様々な哲学者のテキストを読みたいという人は、春学期の「哲学」を受講されたい。

2.学びの意義と目標

哲学の正確な知識を身につけることは必要であるが、単なる暗記に終始しては意味がない。テキストの内容理解を深めることはもちろんであるが、自らが主体的に哲学と向き合うことを通じて、哲学することの意義を体感してほしいと思っている。

準備学習(予習)

次回読み進めることになる箇所を、予め読み込んでおくこと。そして、どこが分かって、どこが分からないかを把握したうえで、授業にのぞんでほしい。

準備学習(復習)

授業で提示されたテーマや事柄についてもう一度深く考え、可能な限り自分の言葉に置き換える努力してほしい。そうした言語化の作業を通じて、自身の立場や思想を明確にしていくことを求めたい。

授業計画

1. ガイダンスと予備的講義
2. 第1講「哲学とは何ぞや」(1)
3. 第1講「哲学とは何ぞや」(2)
4. 第1講「哲学とは何ぞや」(3)
5. 第2講「哲学の根源」(1)
6. 第2講「哲学の根源」(2)
7. 第2講「哲学の根源」(3)
8. 第3講「包括者」(1)
9. 第3講「包括者」(2)
10. 第3講「包括者」(3)
11. 第4講「神の思想」(1)
12. 第4講「神の思想」(2)
13. 第4講「神の思想」(3)
14. 第5講「無制約的な要求」(1)
15. 第5講「無制約的な要求」(2)
16. 第6講「人間」(1)
17. 第6講「人間」(2)
18. 第7講「世界」(1)
19. 第7講「世界」(2)
20. 第8講「信仰と啓蒙」(1)
21. 第8講「信仰と啓蒙」(2)
22. 第9講「人類の歴史」(1)
23. 第9講「人類の歴史」(2)
24. 第10講「哲学する人間の独立性」(1)
25. 第10講「哲学する人間の独立性」(2)
26. 第11講「哲学的な生活態度」(1)
27. 第11講「哲学的な生活態度」(2)
28. 第12講「哲学の歴史」(1)
29. 第12講「哲学の歴史」(2)
30. 理解度の確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)学期末試験:70%:教場での論述試験を行う。
- (2)平常点:30%:出席・授業態度の他、状況に応じて小テストを行う。

担当者：川崎 司

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

時の流れとともに、心象を反映する「ことば」が次々と生み出されてきた。私たちは今、その言葉の海にたゆたいながら、新たなコンパスを探しているところだ。先人の遺した、心に響く言葉を手がかりに、時代を超越した普遍的なるものを求めて 歴史 の海原に泳ぎ出よう。自分探しの旅に立つ。新旧の名言を、映像の力を借りながらじっくり味わっていく。

2.学びの意義と目標

喜怒哀楽を共にし、歴史から学ぶ喜びを共有したい。視野が広がり感性がますます磨かれ、人生に輝きが増せば幸いである。

準備学習(予習)

日頃接する言葉のうち、心に響く「ことば」があれば書き留めて、自分だけの辞典(事典)を作ってみよう。

準備学習(復習)

毎回配布する資料を熟読して試験に備えること。

授業計画

1. 「ものづくり日本(1) 文明開化～汽笛一声 新橋を～」
2. 「日本の近代化遺産(1) 絹から始まった産業革命(2) 鉄は国家なり」
3. 「ものづくり日本(2) 殖産興業～数入りは活動写真で～」
4. 「近代百貨店誕生物語」, 「大正デモクラシーを生んだ米騒動」
5. 「ものづくり日本(3) 大正モダン～乗合自動車、帝都を走る～」, 「大学は出たけれど」(小津安二郎監督作品)
6. 「証言の昭和(1) 昭和前夜～近代国家の礎～」
7. 「証言の昭和(2) 満州事変～非常時日本～」, 「<小さな旅>再起の記憶刻んで～横浜山下公園～」
8. 「証言の昭和(3) 二・二六事件～国家改造の夢と現実～」, 「“蟹工船” 小林多喜二のメッセージ」
9. 「証言の昭和(4) 日中戦争～総動員体制始動～」
10. 「ものづくり日本(4) 第二次世界大戦」, 「プロフェッショナル・仕事の流儀 勇気をくれた言葉」
11. 「雨の神宮外苑～学徒出陣、56年目の証言～」
12. 「証言の昭和(5) 太平洋戦争開戦～聖戦の名の下に～」
13. 「証言の昭和(6) 敗戦～総力戦の果てに～」, 「戦争はなぜ始まり、どう終わるのか」
14. 「鐘の鳴る丘(隆太の巻)」(佐々木啓祐監督作品)
15. 「ものづくり日本(5) 焼け跡から～復興・原料は空き缶～」
16. 「子どもたちに伝える戦争」
17. 「鐘の鳴る丘(2) 修吉の巻」
18. 「証言の昭和(7) 占領と復興～日本の再出発～」
19. 「ものづくり日本(6) 独立国としての再出発～銀幕の中の電化製品～」, 「本多宗一郎と安藤百福」
20. 「家電元年、最強営業マンが立つ～勝負は洗濯機～」
21. 「3000万の署名、大国を揺るがす～第五福竜丸が伝えた核の恐怖～」
22. 「ものづくり日本(7) 東京オリンピック～新幹線登場～」, 「妻へ贈ったダイニングキッチン～住宅革命の秘密～」
23. 「料理人たち～炎のオリンピック～」, 「東京オリンピック」(市川崑監督作品)
24. 「<小さな旅>ふるさとの始発駅～東京上野界わい～」, 「柴田トヨ・くじけないで」
25. 「ものづくり日本(8) 昭和元禄～地上147メートル、昭和初の高層ビル～」
26. 「ものづくり日本(9) 半導体登場～携帯用ヘッドホンステレオ世界へ～」
27. 「ものづくり日本(10) ものづくり原点回帰～バブルとその崩壊、そして未来へ～」
28. 「山田洋二 50年の時が過ぎて(前編) 夢を追った時代からバブル崩壊まで」
29. 「山田洋二 50年の時が過ぎて(後編) バブル崩壊から震災まで」
30. 「宮沢賢治の音楽会」

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)出席状況:25% (2)毎回の小テスト:25% (3)期末試験:25% (4)研究レポート:25%

担当者：山田 康弘

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要**1.内容**

戦国時代から現代にいたる五百年にわたる日本の歴史をわかりやすく解説していく。まずは、信長や秀吉が活躍した戦国時代をとりあげる。次いで、日本型組織経営システムが生み出されていった江戸時代や、日本が近代化を推し進めていった明治・大正時代、そして「太平洋戦争」の起きた昭和の時代をとりあげてそれぞれの特徴を検討し、最後に、苦悩する現代日本などを考察しながら、日本の歴史を概観していく。

2.学びの意義と目標

「歴史を学ぶ」ということは、単に過去を知ることではなく、現代を知ることである。私たちにとって現代はあまりにも「当たり前」な存在であり、それゆえ、私たちが現代の真の姿を見きわめることは容易ではない。そこで、過去を知り、過去と現代とを比較することで「本当の現代」を知るのである。本講義では、学生諸君が単に過去だけでなく、過去をつうじて現代の「本当の姿」を知るきっかけを得ることができるようにしていく。

準備学習(予習)

毎回、講義の際に配布するプリントに記された「前回のあらすじ」を確認しておくこと。

準備学習(復習)

講義で取り上げた歴史上の事件について、「なぜそのような結果になったのか?」「どうすればよかったのか?」といったことを深く考えていくこと。

授業計画

- 1.戦国の「いくさ」はどうだったのか? (戦国時代(1))
- 2.戦国大名は何のために戦ったのか? (戦国時代(2))
- 3.戦国大名は何に気を使ったのか? (戦国時代(3))
- 4.なぜ「天下統一」に向かった? (前編) (戦国時代(4))
- 5.なぜ「天下統一」に向かった? (後編) (戦国時代(5))
- 6.なぜキリスト教は伝わったのか? (戦国時代(6))
- 7.神父を驚かした戦国の人びとは? (戦国時代(7))
- 8.本当の織田信長とは? (戦国時代(8))
- 9.織田信長はなぜ死んだのか? (戦国時代(9))
- 10.豊臣秀吉はなぜ朝鮮を侵略したのか? (戦国時代(10))
- 11.キリスト教はなぜ禁じられたのか? (戦国時代(11))
- 12.日本のやり方はダメなのか? (江戸時代(1))
- 13.「下が上を支える」とは? (江戸時代(2))
- 14.暴君が出たらどうしたのか? (江戸時代(3))
- 15.どうやってキリスト教は復活したのか? (江戸時代(4))
- 16.前半のまとめ
- 17.明治の日本は何に恐怖したのか? (明治時代(1))
- 18.日本はロシアとどう戦ったのか? (前編) (明治時代(2))
- 19.日本はロシアとどう戦ったのか? (後編) (明治時代(3))
- 20.ロシアとの戦争は何をもたらしたのか? (明治時代(4))
- 21.南京事件とは何か? (昭和時代(1))
- 22.太平洋戦争はなぜ起きたのか? (昭和時代(2))
- 23.太平洋戦争をどう戦ったのか? (昭和時代(3))
- 24.日本兵はなぜ「玉砕」したのか? (昭和時代(4))
- 25.原爆投下は防げなかったのか? (昭和時代(5))
- 26.「東京裁判」とは何か? (昭和時代(6))
- 27.「靖国問題」とは何か? (昭和時代(7))
- 28.なぜ「バブル」は生じたのか? (昭和時代(8))
- 29.平成大不況とは何か? (平成時代)
- 30.後半のまとめ

教科書

プリントを配布する
毎回、「前回のあらすじ」や「用語解説」を記したプリントを配布する。

評価方法

(1)期末試験:50% (2)小テスト:50%
毎回、講義の終わりの15分くらいを使って、その日の講義内容についての小テストを実施する。なお、欠席・遅刻者は減点の対象となるので注意すること。

日本思想

担当者：清水 正之

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

日本の思想を学ぶことは、自らの内にながれている思考形式や、宗教観・道徳意識等をふりかえることでもあります。この講義では、大きく視野をとって、日本の思想のながれを古代から近代まで概観し、そこから私たちが考えるべきことを抜き出していきたいと思えます。

2.学びの意義と目標

日本の思想の歴史は、近代以前は、中国大陸を経由した文化・思想の、近世後期以降は、欧米の文化・思想の受容の歴史でもあります。そうした対外的な動向にも目を配りながら、先人達が何を受容し、何を選択し、そして深化させてきたかと学んでいきます。日本の思想を学ぶことは、自己の内に流れている意識を対象化することでもあります。以上の様な観点から、日本の思想が何を問題として何を解こうとしたのかを考えてみたいと思えます。理解を助けるためビデオ等も利用して進めます。

準備学習(予習)

提出された小レポートのもとづく討論、授業中の質疑応答をまじえて授業をすすめます。意欲的な参加を望みます。教科書の該当する一章を前もって読むとともに、配布資料で復習して下さい。

準備学習(復習)

授業で指示したポイントにそって、教科書、配付資料から、要点をまとめてください。

授業計画

1. 日本の思想を学ぶ意味 1
2. 日本の思想を学ぶ意味 2
3. 神話の思想 1
4. 神話の思想 2
5. 仏教の伝来と日本の思想
6. 古代仏教の展開 1
7. 古代仏教の展開 2
8. 平安仏教の思想
9. 平安時代の美意識と文化
10. 貴族文化とその精神世界
11. 物語と歴史書 貴族と武士
12. 武士という存在の思想的意味
13. 鎌倉仏教の思想 1
14. 鎌倉仏教の思想 2
15. 室町文化と芸道論 1
16. 室町文化と芸道論 2
17. 中間考察
18. 近世の思想と学問 キリシタンの伝来
19. 近世の文化と歴史概観
20. 儒教と東アジア
21. 儒教(朱子学)の受容 近世の思想と学問
22. 国学とその周辺 近世の思想と学問
23. 商人・農民・武士の思想 1 近世の思想と学問
24. 商人・農民・武士の思想 2 近世の思想と学問
25. 蘭学・洋学・水戸学 近世の思想と学問
26. 幕末から明治の新宗教の思想
27. 近代の思想
28. 近代日本の哲学
29. 思想の歴史をふりかえって
30. おわりに

教科書

清水正之 『日本の思想』(放送大学教育振興会)

評価方法

(1)出席:30% (2)小レポート:30% (3)期末レポート:40%

日本思想

担当者：村松 晋

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

先人の営んできた思想・思考の歴史には、皆さんが自己と自己をとりまく社会とを批判的に問い質し、借り物でない独自の視点を構築していくために学ぶべきことがら、数多く散りばめられている。本講義では通史的に、その主要なものを提示することで、皆さんの「常識」に創造的なゆさぶりをかけてみたいと思っている。

2.学びの意義と目標

受講者みずから、これまでに教え込まれた「知識」を主体的に検証し、自分なりのものの見方を構築していくきっかけを手に入れること。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、日本文化学科「ライフデザイン」における私の推薦図書に眼を通しておくこと。

準備学習(復習)

講義後はその日のうちにレジュメを読み直し理解を深め、次回までに前講義の最後で投げかけられた問いを考えてくること

授業計画

- 1.何を学ぶか オリエンテーション
- 2.「無文字社会」の人々とその思想
- 3.「遺物」に託された祈りの世界
- 4.「カミ」をめぐる文化誌
- 5.「日本」を問い直す
- 6.竹をめぐる諸文化
- 7.仏教を受け容れた人々 「罪の意識」の芽生え
- 8.「百姓＝農民」とされた訳
- 9.『竹取物語』をめぐる文化誌 その1
- 10.『竹取物語』をめぐる文化誌 その2
- 11.「日本文化史」の陰に その1
- 12.「日本文化史」の陰に その2
- 13.「見捨てられた人々」と共に 親鸞の深さと新しさ
- 14.歴史と思想の関係 その1 転換の時代の意味を問う
- 15.歴史と思想の関係 その2 弱き者の視点から
- 16.歴史と思想の関係 その3 創られた「江戸時代」イメージ
- 17.「日本文化」を問う その1 歌舞伎の歩み
- 18.「日本文化」を問う その2 「創られた伝統」として
- 19.「日本文化」を問う その3 「国語」と軍隊
- 20.「大日本帝国」を創った思想 その1 「祝祭日」をめぐる
- 21.「大日本帝国」を創った思想 その2 国家と教育
- 22.歴史認識を問い直す 戦争体験をめぐって
- 23.文化とは何か その1 生活者の目線から
- 24.文化とは何か その2 外国人旅行者の眼
- 25.文化とは何か その3 明日を拓く資料論
- 26.君たちはどう生きるか その1 いのち への祈り
- 27.君たちはどう生きるか その2 現代 への目
- 28.残された課題 その1 「文化的多元主義」について
- 29.残された課題 その2 宗教 の可能性
- 30.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)期末試験:100%
期末試験によって評価する。全授業数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。遅刻等の扱いについては初回に説明する。

担当者：清水 正之

開講期：春学期集中 必修・選択：専門科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

【キリスト教と日本の宗教的心性】
 最初のキリスト教と西洋文化との受容の局面を、キリスト教と日本の宗教的心性との出会いとして思想史的に考察し、その意味を考えることが、この授業のねらいである。キリシタン宗教思想の伝来は、その後の禁教政策、鎖国政策という形で後世に多大な影響を与えることとなった。キリスト教・一神教は、近世の日本の思想に陰に陽に意識され続ける。キリシタンの思想は、在来のとくに禅仏教との論争という形でまず対峙したが、ついで儒教思想との対峙とすすんだ。キリシタンの伝来から、西洋認識を改めることとなった新井白石とシドッチの対面まで、ほぼ160年が過ぎた。授業では、従来の研究史を振り返りつつキリシタン宗教思想の必須文献によって、その伝来の経緯と意味を考察する。

2.学びの意義と目標

キリスト教との接触は、同時に、東アジア規模の事件でもあった。明末から清朝における宣教師の活動の歴史、また朝鮮王朝での受容は、儒教的世界とキリスト教との接触・受容・摩擦をへて、遠く現代のキリスト教をめぐる東アジア世界での諸問題とも関わっている。そうした点も視野に入れていきたい

準備学習(予習)

各自の関心にそう関連図書に目を通しておかれることを望む。参照する原典テキストとして、前もって読解しておくこと。『キリシタン書・排耶書』(岩波日本思想大系第25巻)の中から適宜選ぶ。

準備学習(復習)

毎回のポイントを600字程度にまとめる

授業計画

1. はじめに キリシタン研究の推移と動向
2. キリシタン伝来の背景
3. キリシタン受容の経緯と思想史の意味1(神観等)
4. キリシタン受容の経緯と思想史の意味2(魂論、自由意志論)
5. キリシタン思想と日本の宗教・倫理思想1
6. キリシタン思想と日本の宗教・倫理思想2
7. 排耶蘇の言説(禅仏教とキリシタン)
8. 排耶蘇の言説(儒教・朱子学とキリシタン)
9. キリシタンの近世日本思想への影響1
10. キリシタンの近世日本思想への影響2
11. 新井白石とシドッチの出会い
12. 洋学とキリシタン
13. 朝鮮・中国の思想と天主教(キリスト教)
14. 東アジアとキリスト教
15. まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:30% (2)小レポート:40%:3回ほど課します (3)期末レポート:30%

担当者：山田 義文

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要**1.内容**

皆さんはそれぞれに興味や生きがいをもち、様々な製品やサービス、情報、建物や交通機関などを利用しながら毎日を過ごしていることと思います。しかし、それらを利用した時に不便に感じた経験も少なくないかと思えます。その悩みは、障がいを持つ人や高齢の人も全く同じです。福祉環境学の講義では、高齢者や障がいを持つ人に限らず、皆さんも含めた誰にでも便利で快適な環境を実現するための具体的な改善手法に関して考察を重ねてゆきます。

2.学びの意義と目標

様々な立場の人々が抱くバリアを実体験として捉え、皆さん自身が考える福祉環境像を提言できるよう、体験型の実習も実施します。今後も、常にすべての人々が安全で快適な環境を構築するための大切な意識を持ち続けられるようになることを目標とします。

準備学習(予習)

シラバスの授業計画の中に含まれる福祉環境に関わる用語の意味や背景を各自で調べ、講義前により深く学びたい部分を明確にしておくこと。

準備学習(復習)

講義で紹介した事例を身近な環境の中で問題意識を持ちながら各自で見つめ直し、考察を深めてゆくこと。関連する参考図書や新聞記事等の中で紹介されている最新の事例にも目を向けることが望ましい。

授業計画

1. オリエンテーション スケジュールと講義概要、講義のねらいと成績評価について
2. 福祉環境学を学ぶ意義と社会における位置付け
3. 福祉に関する基本的な考え方
4. ノーマライゼーションの考え方
5. 人間の生活機能と私たちを取り巻く様々なバリア
6. 障がいを持つ人の身体的特性と行動特性に関する基礎的事項
7. 車いすを利用する方々の生活環境
8. 視覚に障がいを持つ方々の生活環境
9. 障がいを持つ方々の生活環境改善 環境整備の方法と事例紹介
10. 実習 障がいを持つ人の立場に立ったキャンパス環境の検証(1) 実習の意義及び課題の説明と実習
11. 実習 障がいを持つ人の立場に立ったキャンパス環境の検証(2) プレゼンテーションの作成、改善案の考察、指導、質疑応答
12. 実習 障がいを持つ人の立場に立ったキャンパス環境の検証(3) 代表学生による発表とまとめ
13. 高齢者の身体的特性と行動特性に関する基礎的事項
14. 高齢者の生活環境(1) 環境整備の方法
15. 高齢者の生活環境(2) 事例紹介
16. 高齢の人や障がいを持つ方々への社会的支援
17. 介護保険制度とは
18. 介護保険制度を利用した高齢者住宅改修の現状と課題
19. バリアフリーデザインに関する基本的な考え方
20. ユニバーサルデザインに関する基本的な考え方
21. 身近な製品やサービスに見るユニバーサルデザインのプロセス
22. バリアフリー新法と福祉のまちづくり条例
23. 高齢者の居住環境におけるユニバーサルデザインの適用状況
24. 医療施設におけるユニバーサルデザインの適用状況
25. 実習 身近な環境におけるユニバーサルデザインの達成度に関する検証(1) 実習の意義及び課題の説明と実習
26. 実習 身近な環境におけるユニバーサルデザインの達成度に関する検証(2) プレゼンテーションの作成、指導、質疑応答
27. 実習 身近な環境におけるユニバーサルデザインの達成度に関する検証(3) 代表学生による発表とまとめ
28. 世界の福祉環境(1) 北欧諸国における社会福祉
29. 世界の福祉環境(2) ノルウェーにおけるサイン計画と高齢者の居住環境に関する事例
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

出席が3分の2以下の場合、単位を認定しません。

担当者：坂巻 理恵子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要**1.内容**

一昨年、東日本大震災で、秩序を保ち忍耐を持ってみんなのために尽くす日本人の姿は海外で絶賛されました。私たちは長いこと忘れていた日本人らしさを再認識したように思います。

本講義では、当たり前のようにまわりにある日本のよき文化について、言葉・文字という観点から考えます。後半は「和本」といわれる昔の書物を実際に手にとってみたり、出版の仕組みについてもふれてみたいと思っています。

また社会にでてからの素養となる基本的な日本語語彙についてのドリル学習、短い文章の作成・添削もあわせてやっていくつもりです。

2.学びの意義と目標

言葉をとりまく様々な文化について、これからの学びの糸口をつかむ入門的な授業とします。

日本の文化・伝統に興味を持ち理解を深めていくこと。そして自身がこれらを世界に、また後の世代の子供達に伝える担い手であるという自覚をひとりひとりをもってほしいと考えます。

準備学習(予習)

毎回ワークの時間を設けます。必ず国語辞典または電子辞書を持参してください。

準備学習(復習)

授業で取り上げた語彙のプリントの内容はもう一度確認し復習しておくこと。配布するプリントはかなりの分量になります。きちんと整理保管しておくよう心がけてください。

授業計画

1. 授業ガイダンス
2. 言葉の力
3. ものの名称(1)
4. ものの名称(2)
5. 言葉の由来(1)
6. 言葉の由来(2)
7. 日本のしきたり(1)
8. 日本のしきたり(2)
9. 敬語について(1)
10. 敬語について(2)
11. 敬語について(3)
12. 漢字について(1)
13. 漢字について(2)
14. 平仮名・片仮名について(1)
15. 平仮名・片仮名について(2)
16. 物語を生み出す力
17. 日本の神話(1)
18. 日本の神話(2)
19. 日本の昔話(1)
20. 日本の昔話(2)
21. 中間試験(語彙復習テスト)
22. 翻訳ということ(1)
23. 翻訳ということ(2)
24. 本のはなし(1)
25. 本のはなし(2)
26. 本のはなし(3)
27. 本のはなし(4)
28. 本のはなし(5)
29. 本のはなし(6)
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席状況:50% (2)授業時のワーク:20% (3)中間試験:15% (4)課題レポート:15%

文学

担当者：上宇都ゆりほ

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

文学作品とは、人間の普遍的な精神活動を基盤として、政治のあり方や人々の暮らしなどの、社会的背景が深く関わって成り立つものである。とすれば、日本の古典文学に触れることを通して、日本の社会のあり方によって今とは異なるもの、反対に、何百年経っても変わらないものがあるだろう。日本を知るために、文学作品を系統的に辿ってみよう。原文そのものに触れて、当時の人々の思想や暮らしに思いを馳せてみよう。現在の日本や日本人を考える時、日本の古典文学を知ることは、様々な価値観を相対化するための一つの物差しとなるはずである。

2.学びの意義と目標

文学研究を専門としない学生のための教養としての科目として位置づける。しかし文学を広く見渡し、時代と思想のあり方を考えるために複合的な視野を導入した講義を進める。講義では教科書、プリントの音読を学生自身にしてもらう他、DVDなどを用いて日本人の思想の背景などに多面的に迫りたいと考えている。なおその際、授業に即した小さなレポートを提出してもらう。様々な時代の古典文学作品を通して、当時の社会的背景を考え、日本人の思想の成り立ちから、時代や地域に限定されない、普遍的な人間の精神に迫ることを目標とする。

準備学習(予習)

毎回、教科書や関連するプリントを数名に読んでもらうので、教科書を予習してくること。私語は他の学生の授業妨害行為となるので厳禁する。

準備学習(復習)

授業中に読めなかった文字やことばについては必ず復習すること。

授業計画

1. 授業概説、古典の色彩
2. 「伊勢物語」を読む(1)
3. 「伊勢物語」を読む(2)
4. 「源氏物語」を読む(1)
5. 「源氏物語」を読む(2)
6. 愛をめぐる世界の名作—トルストイ「復活」(1)
7. 愛をめぐる世界の名作—トルストイ「復活」(2)
8. 「今昔物語集」を読む(1)
9. 「今昔物語集」を読む(2)
10. 「宇治拾遺物語」を読む(1)
11. 「宇治拾遺物語」を読む(2)
12. 罪をめぐる世界の名作—「オペラ座の怪人」より「ファントム」(1)
13. 罪をめぐる世界の名作—「オペラ座の怪人」より「ファントム」(2)
14. 「軍記文学」と動乱の時代
15. 「平家物語」を読む(1)
16. 「平家物語」を読む(2)
17. 「平家物語」を読む(3)
18. 「平家物語」を読む(4)
19. 「方丈記」を読む(1)
20. 「方丈記」を読む(2)
21. 「徒然草」を読む(1)
22. 「徒然草」を読む(2)
23. 「徒然草」を読む(3)
24. 「曾根崎心中」を読む(1)
25. 「曾根崎心中」を読む(2)
26. 「曾根崎心中」を読む(3)
27. 「雨月物語」を読む(1)
28. 「雨月物語」を読む(2)
29. 「雨月物語」を読む(3)
30. まとめ

教科書

小林保治 『あらすじで読む日本の古典』(新人物往来社)

評価方法

(1)学期末試験:60% (2)音読、DVD鑑賞のレポートなど:40%

文学

担当者：中島 佐和子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

明治から現代に至る短編小説を主にした近現代日本文学を講読する。作品を鑑賞し、時代背景を探り、小説技法を学ぶ。人は、自分ひとりで存在しているのではなく、必ず周囲の人々との関係性の中にある。文学を読むということは、様々な関係性を体験するという他にない。また文学は時代を映す鏡である。明治から現代に至る道筋を文学でたどる事によって、現在の私たちがどのような位置にいるのかを確認したい。

2.学びの意義と目標

第一に、文学の楽しさを知ること。次に、様々な文学作品を読むことは、人間関係が希薄化し、いじめや引きこもりが問題になっている今の時代において、他者を思いやり、他者との関わりについて考える絶好の機会となるだろう。自分の今いる場が、唯一絶対のものではないということにも気づくはずである。さらに、明治以降の日本社会について考察し、漢字、語彙、慣用句などの知識を得ることによる日本語能力の増進と、創作技法を分析することによるメディアリテラシー（情報を読み取り発信する能力）の強化を図りたい。文学を通しての人間理解は、どのような専門科目を学ぶ者にも非常に有益である。（取り上げる作家・作品は変更する可能性があります。）

準備学習(予習)

課題作品を必ず通読すること。 通読解題をする。

準備学習(復習)

授業で学んだ作家の他の作品や同時代の作品を読み、理解を深める。

授業計画

1. ガイダンス
2. 樋口一葉の作品を読む（1）
3. 樋口一葉の作品を読む（2）
4. 樋口一葉の作品を読む（3）
5. 樋口一葉の作品を読む（4）
6. 夏目漱石の作品を読む（1）
7. 夏目漱石の作品を読む（2）
8. 夏目漱石の作品を読む（3）
9. 夏目漱石の作品を読む（4）
10. 芥川龍之介の作品を読む（1）
11. 芥川龍之介の作品を読む（2）
12. 芥川龍之介の作品を読む（3）
13. 芥川龍之介の作品を読む（4）
14. 金子みすゞの作品を読む（1）
15. 金子みすゞの作品を読む（2）
16. 金子みすゞの作品を読む（3）
17. 金子みすゞの作品を読む（4）
18. 宮沢賢治の作品を読む（1）
19. 宮沢賢治の作品を読む（2）
20. 宮沢賢治の作品を読む（3）
21. 宮沢賢治の作品を読む（4）
22. 田村俊子の作品を読む（1）
23. 田村俊子の作品を読む（2）
24. 太宰治の作品を読む（1）
25. 太宰治の作品を読む（2）
26. 太宰治の作品を読む（3）
27. 太宰治の作品を読む（4）
28. 依万智の作品を読む（1）
29. 依万智の作品を読む（2）
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業態度:10% (2)提出物:60% (3)期末テスト:30%

ヘルス・プロモーション概論

担当者：和田 雅史

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

健康の維持・増進に必要なとされるヘルスプロモーションの基礎的理念を享受する。現代社会に出現している身近な健康課題を取り上げ、その社会的要因に目を向ける。現代科学の到達点と大学教養という概念を視座に入れ考察していく。

青年期の健康が、その後の生涯にわたっての健康に影響していることをいしきしつつ、現代社会に出現している青年期の健康課題の中で、主として身近にある健康課題を取り上げ、その健康課題自体を理解するだけではなく、その成立要因や予防の方策などを検討する。

時代の変遷とともに、社会構造の変容が見られる。生活は合理化され、省力化が達成され、家庭の生活においても、労働の形態においても大きな変化が見られた。その半面、人間生活においては、身体活動の不足、食生活の内容の変化、ストレス過剰な社会などの生活様式の変化が生まれてきた。その結果、人間の身体の異常や疾病のあり方にも大きな変化が見られるようになってきた。ライフスタイル型の疾病の増加という問題である。これらの疾病の発生要因のうち危険因子（リスクファクター）と呼ばれる要因に着目しつつ講義を展開していく。同時に健康課題の理解に即して、ヒトの身体の学習をすすめていく。ヒトの身体の構造（解剖学）と仕組み（生理学）について知ることにより、健康課題への関心がより高まることになる。全体を構成する内容としては、簡易な医学知識の切り売りではなく、健康を見据えた健康科学の知識を学ぶ内容である。

2. 学びの意義と目標

健康科学の認識を高めると同時に、今後出現しうる新たな健康課題に対応できるように自主的健康管理能力の育成を図る。健康の意義を明確化し、基礎的健康科学の知識を習得することによって、現在、将来にわたって健康の維持増進が図られることを理解する。

現在の健康状況が、将来の健康な生活に密接に関係していること、人生80年時代を迎え、あらゆる人々が健康で長命を維持することが重要であるという認識にたって行動できる必要がある。

講義を通じて、健康課題の理解だけではなく、自らの健康維持のための処方方を身につけ、日々の生活の中で実践できるようになり、同時に健康な社会を形成していくための一般教養を習得することにより、地域や社会に尽力できる健康の基礎的教養を身につけることができる。

健康とは目標ではなく、人生をより豊に過ごすための手段にしか過ぎないということを理解し、健康を維持し増進することによって、はじめて人生の目標に到達できるということを明確にすることができる。

準備学習(予習)

講義計画を参照し、予定されている講義課題の情報を事前に集めておくこと。

準備学習(復習)

扱った内容を整理し、次回の講義までに自身の考えをまとめておくこと。

授業計画

1. オリエンテーション - ヘルスプロモーションとは
2. 健康の変遷と現代的健康観
3. 青年期の健康課題 背筋力の低下と姿勢の歪み
4. 青年期の健康課題 VDT作業と近視の増加
5. 青年期の健康課題 顎の縮小と歯の話
6. 青年期の健康課題 生活リズムの変化と体温低下
7. 青年期の健康課題 反射力の低下と神経系の発達
8. 青年期の健康課題 骨折の増加と骨の話
9. 青年期の健康課題 扁平足の増加と身体活動
10. 青年期の健康課題 不定愁訴の増加と不安傾向
11. 社会構造の変化と生活習慣病の増加
12. 運動と健康 運動不足病
13. 運動と健康 運動の効果
14. 運動と健康 運動障害
15. 食生活と健康 食生活上の現代的課題
16. 食生活と健康 肥満
17. 食生活と健康 ダイエット
18. 健康mapから見た日本人の食生活
19. 命の食べ方 (DVD)
20. 嗜好品摂取と健康
21. 薬物依存と健康被害
22. 精神の健康 - 心身症の増加
23. ストレス - 現代人の心理的ストレス
24. ストレス - 生理学の適応概念
25. アレルギーの増加とアナフィラキシーショック
26. 感染症とウイルス
27. 性感染症 従来型の性感染症
28. 性感染症 AIDSを中心として
29. 社会的権利としての健康権と病気の自己責任制
30. まとめとテスト、テストの解説

教科書

和田雅史 『健康科学ヘルスプロモーションの理念』(犀書房)

評価方法

(1)授業への態度:20% (2)出席点:30% (3)筆記試験:50%

法学

担当者：石川 裕一郎

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

日常生活に関わる法律問題やテレビ・新聞等で出くわす法律についての素朴な疑問といった実例から出発して、現代日本の法の実態を丁寧にみてゆきたいと思います。

また、法制度全体を網羅的に取り上げるのではなく、なるべく最近の具体的な事件を様々な角度から掘り下げるといったスタイルにしたいと考えています。

取り上げる内容としては、法の一般原則に始まり、民法、社会法、民事裁判、刑事法、刑事裁判、行政法、生命倫理法の順に各法分野を予定しています。

なお、できるだけアクチュアルな問題を取り上げたいので、内容は多少変更される可能性があります。また、法学に関わる講演会または映像作品の鑑賞も2～3回ほど実施する予定です。

2.学びの意義と目標

現代における政治・経済・社会・文化の様々な事象を、法的視点から考察できるようになることをめざします。

政治経済学部の学生にとっては、とりわけ政治学・経済学の理解を深めるためにも法学の知識は必須です。

人文学部および人間福祉学部の学生にとっても、法の論理に親しむことを通じて様々な領域の学問を深めることができると考えます。

準備学習(予習)

原則として事前にレジュメを配布するので、必ず目を通しておくことを求めます。毎回かなりの分量なので、ある程度の時間と集中力を必要とします。

準備学習(復習)

毎回の講義の後で、習得した知識の確認と講義への主体的な取り組み姿勢を評価することを目的としたリアクションペーパーの作成および提出を課しますので、それを踏まえて次回までに講義内容の理解を定着させることを求めます。

授業計画

1. 法とは何か(1)
2. 法とは何か(2)
3. 法の一般原則(1)
4. 法の一般原則(2)
5. 民法の基本原則(1)
6. 民法の基本原則(2)
7. 家族・ジェンダーと法(1)
8. 家族・ジェンダーと法(2)
9. 家族・ジェンダーと法(3)
10. 経済活動と法(1)
11. 経済活動と法(2)
12. 労働・社会保障と法(1)
13. 労働・社会保障と法(2)
14. 労働・社会保障と法(3)
15. 民事裁判(1)
16. 民事裁判(2)
17. 民事裁判(3)
18. 刑事法の基本原則(1)
19. 刑事法の基本原則(2)
20. 刑事裁判(1)
21. 刑事裁判(2)
22. 刑事裁判(3)
23. 少年法と児童福祉法
24. 行政と法(1)
25. 行政と法(2)
26. 行政と法(3)
27. 生命倫理・環境と法(1)
28. 生命倫理・環境と法(2)
29. 予備
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。

法学

担当者：伊藤 泰

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

法律学の基礎的な知識を習得することを目的として、おもに憲法、刑法、および民法に関する講義を行う。

2.学びの意義と目標

市民生活を有意義なものとするべく、法学の一般知識を習得し、法的な思考を身につけることが目標。

準備学習(予習)

あらかじめ教科書の内容をざっとでいいので読んでくると、理解が深まります。

準備学習(復習)

関連書籍を読む。

授業計画

1. 法とは何か
2. 法と道德
3. 法の目的
4. 権利と義務
5. 法と裁判
6. 裁判制度
7. 訴訟手続上の諸原則
8. 法源
9. 制定法と慣習法
10. 事実認定と法の解釈
11. 法の解釈の方法
12. 公法と私法
13. 実定法の体系
14. 国家と憲法
15. 日本国憲法の基本原理(1)
16. 日本国憲法の基本原理(2)
17. 犯罪と刑法
18. 刑法の機能
19. 犯罪の成立要件(1)
20. 犯罪の成立要件(2)
21. 刑事手続(1)
22. 刑事手続(2)
23. 家族法
24. 婚姻と離婚
25. 親子
26. 相続
27. 財産法
28. 取引の主体
29. 取引の客体
30. 契約

教科書

伊藤 正己, 加藤 一郎 『現代法学入門(有斐閣双書)』(有斐閣)

評価方法

(1)試験:80% (2)受講態度:20%

法学

担当者：加藤 恵司

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1. 内容

法学は、いわゆる法文の解釈や判例研究、学説などの詳細について覚えこむことだと考えるものがある。初学者が法学を学ぶにあたって重要なことは、法律的な物の見方、考え方、すなわち、legal mindを身につけることにある。そこで、本講義は、法的思考の核心となる法の基礎理論を付与することを目的とする。

法的思考は、健全な常識を基礎として、合理的、科学的な観点から法の原理、法の本質を理解することである。現代社会に目を向ける時、市民の常識的な正義や公平感覚と合致しないために矛盾を感じたり、ひとたび法律が制定されてしまうと強制的に服従させられるようになり、割り切れない気持ちになることがある。その結果、法律はその専門家の所与のものと考えたり、法にある種の不信感を抱くことすらある。このような諦観は、学問をする立場からは禁物である。正義、自由、平等、人権、愛などを基礎にした説得力ある提言、論評、意見こそ法的思考の視座となるのである。

さて、裁判員制度が設けられるようになって、この法的思考を養うために判例を中心とした日常的な事例を解きながら講義をすすめていく予定である。

2. 学びの意義と目標

六法、判例などを用いて、模擬判決を授業の中で行う。自分で考える力を養う。法が社会生活の中で機能していることを学ぶ。

準備学習(予習)

教科書欄にある六法については、下記の中から1冊を用意すればよい。講義時に指示する教科書を読むこと。

準備学習(復習)

ノートと教科書を再読して、文章で表現できるように自分で訓練する。

授業計画

- はじめに
- 法と法律と法学、法の常識
- 社会と法、国家と法律
- 社会規範と法I
- 社会規範と法II（道徳を中心として）
- 法の成立と発展I
- 近代実定法
- 法の精神
- 法の目的と法概念
- 法の構造
- 法存在の基礎
- 法の淵源・成文法I（憲法）
- 法の淵源・成文法I（法律）
- 法の淵源・成文法II（命令、規則）
- 法の淵源・成文法III（条例、条約など）
- 法の淵源・不文法I（慣習法）
- 法の淵源・不文法II（判例法など）
- 法の分類（固有法・継受法、普通法・特別法）
- 法の分類（実体法・手続法、強行法・任意法）
- 法の分類（公法・私法・社会法、国際法・国内法）
- 法の効力I
- 法の効力II（法の変更、廃止）
- 法の適用
- 法の適用と法の解釈
- 法の解釈（学理解釈）
- 法の解釈（論理解釈）
- 権利義務とその主体
- 法律関係I（権利）
- 法律関係II（義務）
- おわりに

教科書

授業の中で指示する

六法

- ・西田 典之、高橋 宏志、能見 善久 『ポケット六法 平成25年版』（有斐閣）
- ・鎌田 薫 『デイリー六法2013 平成25年版』（三省堂）
- ・笠井 正俊 ほか 『岩波 セレクト六法 平成25(2013)年版』（岩波書店）

評価方法

(1)試験:90% (2)出席:10%

法学

担当者：齋藤 美沙

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

本講義では、様々な法規範の中から、おもに憲法、民法及び刑法を扱います。
身近な問題を手がかりに、法あるいは法律の基本的理論や知識を確認していきます。

2.学びの意義と目標

社会では、法的視点が必要とされる場面が多くあります。
本講義では、基本的な法的思考・知識を身につけることを目標とします。

準備学習(予習)

前週に指示します。

準備学習(復習)

配布プリントを再読して下さい。必要に応じて参考文献を紹介します。

授業計画

1. ガイダンス
2. 法を学ぶことについて
3. 法とは何か
4. 法の分類
5. 憲法（国民主権）
6. 憲法（平和主義）
7. 憲法（基本的人権の原理）
8. 憲法（平等原則）
9. 憲法（精神的自由）
10. 憲法（政教分離）
11. 憲法（経済的自由・人身の自由）
12. 憲法（生存権・労働基本権）
13. 憲法（国会・内閣・裁判所）
14. 憲法（違憲審査制）
15. 比較法（諸外国の法）
16. 民法（総則）
17. 民法（総則）
18. 民法（物権）
19. 民法（債権）
20. 民法（親族）（婚姻・親子・親権）
21. 民法（相続）（相続人・遺言）
22. 民事訴訟，裁判によらない紛争解決
23. 刑法（総則）
24. 刑法（総則）
25. 刑法（罪）
26. 刑法（死刑制度，少年法）
27. 刑事訴訟，裁判員制度
28. 法と社会のかかわり
29. 法・道徳・正義
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:70% (2)平常点:30%
試験の成績をもとに、出席やリアクションペーパー等を考慮し、総合的に評価します。

担当者：宮澤 弘

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

この授業では法的なものの見方や考え方について学んでいきます。法的なものの見方や考え方には様々な理解がありますが、この授業では次に挙げる二つの側面を念頭において問題の解決策を検討するもの、として説明をしていきます。二つの側面とは「問題解決の理由付けや説明がどれも整合していること」、すなわち論理的に矛盾せず説得力を持っていること、そして得ようとしている問題解決の結論について「私たちが信じている道徳や倫理に照らして受け入れられると判断できること」、すなわちその結論が良い結論だと納得できること、の二つを指しています。授業では具体的な裁判例を多数取り上げて説明をしていきますが、法学における理論的な事柄、特に原理や理念についても適宜解説をしていきます。

この授業は、今後の専門科目の学習において必要な知識を習得する役割を担うものとの位置づけから、基礎的でありかつ入門的な授業となります。

2.学びの意義と目標

一見複雑に見える出来事でも法的な思考法に基づいて整理することにより、当該出来事において重要と思われるものを明瞭に捉えることができます。授業の目標として、物事についてある視点を軸に整理して考える態度、そして自己の見解を何らかの根拠に基づいて説明をする能力、この二つを身につけることを目標としています。社会では価値観や考え方の様々に異なった人々が共存しています。このような社会の中で紛争が生じたときに、唯一最上の、あるいは絶対的基準による解決方法というものを探し出すことは非常に困難です。しかし法学を学ぶことによって、問題を分析する能力、そして問題解決策を考案する能力を高めることができ、その結果そうした困難な問題への対応力も向上していくのです。社会が複雑化し価値観が多様化している現在、このような法的思考が果たす役割は大きくなっています。

準備学習(予習)

事前に配布した資料は必ず読んできて下さい。それから講義期間中すべてにわたって言えることですが、社会の様々な問題に日常から関心を持つように心がけてください。

準備学習(復習)

配布したレジュメは必ず読み返してください。それから授業の中で適宜関連する著書（新書や文庫程度のもの）を紹介しますので、積極的に読み進めてください。関心のあるものを一つでもよいので自ら取り組んで下さい。

授業計画

1. 法へのアプローチ（法学ことはじめ）
2. どのような法があるか1（法源）
3. どのような法があるか2（判例というもの）
4. どのような法があるか3（法領域の種類）
5. 法の機能（法の規範的機能と社会的機能）
6. 日本における近代法の継受
7. 日本人の法意識と法文化
8. 法と道徳（社会規範としての法）
9. 自己決定権とパターナリズム1（基本編）
10. 自己決定権とパターナリズム2（事例問題）
11. 自己決定権とパターナリズム3（応用編）
12. 犯罪と刑罰1（刑事法の基礎）
13. 犯罪と刑罰2（刑事法の基礎）
14. 犯罪と刑罰3（裁判員裁判と国民の司法参加）
15. 不法行為と過失1（民法法の基礎）
16. 不法行為と過失2（民法法の基礎）
17. 不法行為と過失3（民法法の基礎）
18. 法と正義1（法的安定性）
19. 法と正義2（正義の四類型・事例問題～分配的正義を題材に）
20. 日本の裁判所（裁判所の組織）
21. 裁判手続1（刑事法）
22. 裁判手続2（民法法）
23. 現代型訴訟（現代社会において司法が担う役割とは何か）
24. 裁判外紛争処理1（基本編）
25. 裁判外紛争処理2（事例問題1）
26. 裁判外紛争処理3（事例問題2）
27. 法の解釈1（法的三段論法）
28. 法の解釈2（解釈の目的と技法）
29. 法律における理屈と人情（論理と倫理の融合的解決）
30. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:60% (2)平常点:40%:出席点とは異なります。授業中あるいは次の授業時まで提出する課題のことを指します。

法学

担当者：渡辺 英人

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

「法を守る精神・法令遵守と責任」
「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人が社会の中でいかに上手く生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人、良き市民として、社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。講義内容の中心は「法の概念」「市民社会の法」「消費者と法」「知的財産権」などです。

2.学びの意義と目標

法を学ぶことは「生きる」ために必要な知識と心構えそのものです。市民社会に生きる一人として、しっかりと学びましょう。

準備学習(予習)

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

準備学習(復習)

受講の準備として、前週までに講義で使う資料の配布と参考文献の指示を行います。あらかじめ資料や参考文献等をよく読んで、予習、復習をそれぞれ2時間程度行ってください。

授業計画

- 1.法を守る精神: 社会における信頼関係
- 2.法を守る精神: 社会(コミュニティ)の形成
- 3.法と道徳
- 4.法の概念
- 5.法の存在形式(法源)
- 6.法の種類
- 7.法の効力 その範囲と限界
- 8.「自然法論」と「法実証主義」
- 9.法と道徳(2)
- 10.自己決定権
- 11.法がめざすもの(法の目的)
- 12.罪刑法定主義とデュー・プロセス
- 13.法の目的(2)
- 14.適法性と違法性
- 15.「犯罪」とは何か?
- 16.「犯罪」とは何か?(2)
- 17.モラルの低下した社会に生きる
- 18.法の目的(3)
- 19.「公」と「私」
- 20.「責任」とは何か?
- 21.「権利」とは何か?
- 22.「正義」とは何か?
- 23.「市民社会」に生きる
- 24.「法」を守る精神
- 25.諸外国の法
- 26.諸外国の法(2)
- 27.市民社会の法
- 28.消費者と法
- 29.知的財産権と法(1)
- 30.知的財産権と法(2)

教科書

西田 典之 『ポケット六法 平成25年版』(有斐閣)

評価方法

(1)授業参加:40% (2)課題作成:30% (3)試験:30%

担当者：平 修久

開講期：春学期集中 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要**1.内容**

前半は、まちづくりの概要、まちづくりにとって重要な合意形成、まちづくりの基本的進め方である住民参加・協働と合意形成のあり方、物理的なまちづくり制度の都市計画制度、地区計画・建築協定について学ぶ。後半は、分野別に、まちの問題を整理し、問題解決に向けたまちづくり事例について、受講生の発表をもとに議論する。分野としては、中心市街地の衰退、郊外住宅地の維持、福祉のまちづくりなどを予定している。

2.学びの意義と目標

「都市計画」という行政主導で行うことが多い都市整備に対して、「まちづくり」ということばとその動きが住民の間に誕生し広がっている。地方分権、住民と行政との協働といった潮流がまちづくりを後押ししている。本科目では、具体的な事例などを学ぶことにより、まちづくりの意義、効果、あり方、課題などについての理解を深める。また、大学院（政治政策学研究科）の授業であり、社会人を主体とする大学院生に混じって、発表や討議などのあり方も学ぶ。

準備学習(予習)

2-13回については事前に提示した関連資料を予習しておくこと。14-15回の事例発表については、担当の受講生がレジュメ2-4枚を用意して発表を行う。

準備学習(復習)

毎回、講義ノートをまとめること。

授業計画

1. まちづくりの概要(1)
2. まちづくりの概要(2)
3. まちづくりのプロセス・合意形成
4. 住民参加と協働
5. 都市計画制度
6. 地区計画・建築協定
7. スマートグロース
8. コンパクトシティ
9. 商店街の衰退と中心市街地活性化
10. 中心市街地活性化の事例
11. 震災復興とまちづくり
12. 日米の郊外住宅地の問題と存続
13. 福祉のまちづくり
14. 事例発表 + 討議
15. 事例発表 + 討議

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への参加状況:20%:出席回数に加えて、クラスでのディスカッションへの参加状況を評価する。(2)事例発表:30% (3)レポート:50%

英語科教育法

担当者：行森 まさみ

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

本講義では英語教育の意義と目的について考察し、第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領、指導技術への理解を深める。そして、理論を実践へとつなげるべく、実際の授業について考察する。さらに、英語教師として必要とされる英語力を身につけ、指導案の作成および模擬授業を行うことを試みる。

2. 学びの意義と目標

日本の英語教育は、コミュニケーション能力育成の重視、小学校での外国語活動の導入など、大きなシフトチェンジを展開している。このような変化にともない、英語教師に求められるものも大きくなりつつある。英語に熟達することは当然のことながら、教えるためには理論に裏づけられた指導法を身につけることが必要とされる。本講義では、指導に必要な英語力を習得し、英語教育に関する諸理論と実践を結びつけ、教壇に立つ際に役立つ力を身につけることを目的とする。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、テキスト各章を読み込んだ上で疑問点等をまとめること

準備学習(復習)

既習項目についてテキストを再読し、自身が行う模擬授業でどのように活かすかを検討すること

授業計画

1. オリエンテーション、英語教育の目的と意義（第1章）
2. 国際語としての英語（第2章）
3. 学習指導要領（第3章）
4. 学習者要因（第4章）
5. 英語教員（第5章）、英語教授法（第7章）
6. 英語教授法（第7章）
7. 授業運営（第20章）、模擬授業について
8. 指導案の作成、教室英語
9. 模擬授業（1）
10. 模擬授業（1）
11. 指導案の作成、教室英語、オーラルイントロダクション
12. 指導案の作成、教室英語、オーラルイントロダクション
13. 模擬授業（2）
14. 模擬授業（2）
15. 学期末テスト

教科書

望月昭彦・久保田章・盤崎弘貞・卯城祐司『新学習指導要領にもとづく英語科教育法（改訂版）』（大修館書店）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編 平成20年9月』（開隆館出版販売）
高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1』（三省堂）
高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2』（三省堂）
高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3』（三省堂）

評価方法

- (1)出席・授業参加:20% (2)レポート:20% (3)模擬授業（2回）:30%
(4)学期末テスト:30%

英語科教育法

担当者：行森 まさみ

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

本講義では英語教育の意義と目的について考察し、第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領、指導技術への理解を深める。そして、理論を実践へとつなげるべく、実際の授業について考察する。さらに、英語教師として必要とされる英語力を身につけ、指導案の作成および模擬授業を行うことを試みる。

2. 学びの意義と目標

日本の英語教育は、コミュニケーション能力育成の重視、小学校での外国語活動の導入など、大きなシフトチェンジを展開している。このような変化にともない、英語教師に求められるものも大きくなりつつある。英語に熟達することは当然のことながら、教えるためには理論に裏づけられた指導法を身につけることが必要とされる。本講義では、指導に必要な英語力を習得し、英語教育に関する諸理論と実践を結びつけ、教壇に立つ際に役立つ力を身につけることを目的とする。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、テキスト各章を読み込んだ上で疑問点等をまとめてくること

準備学習(復習)

既習項目についてテキストを再読し、自身が行う模擬授業でどのように活かすかを検討すること

授業計画

1. オリエンテーション
2. コミュニケーション能力の育成（第9章）
3. リスニング、スピーキング、ライティング指導（第10、11、13章）
4. ティームティーチング、測定と評価（第14章、15章）
5. 文法の学習と指導（第18章）
6. 文法の学習と指導、模擬授業の準備、指導案の作成
7. 模擬授業（1）
8. 模擬授業（1）
9. 模擬授業（1）
10. 模擬授業（1）
11. リーディング指導（第12章）
12. リーディング、模擬授業の準備、指導案の作成
13. 模擬授業（2）
14. 模擬授業（2）
15. まとめ

教科書

望月昭彦、磐崎弘貞、卯城祐司、久保田章『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編 平成20年9月』（開隆館出版販売）
高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1』（三省堂）
高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 2』（三省堂）
高橋貞雄『NEW CROWN ENGLISH SERIES 3』（三省堂）

評価方法

(1)出席・授業参加:20% (2)レポート:20% (3)模擬授業（2回）:60%

英語科教育法

担当者：小川 隆夫

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

中学校の英語授業のための必須要素を網羅し、授業の展開方法から、4技能を伸ばす指導技術、家庭学習までを学ぶ。
また、授業を効果的に行うため、生徒との人間関係づくり、生徒が互いに協力し合って学習に取り組むクラス、授業のムード作りなど、クラスルーム・マネジメントの方法も取り上げる。

2.学びの意義と目標

中学校の英語学習は、これから長期間にわたる英語学習に備えるため、生徒たちを自律した学習者に育てる必要がある。この講義を通して、さまざまな指導技術とともに、英語教師としての心構え、生き方を学ぶことを目標とする。

準備学習(予習)

指定されたテキストのページを読んで参加する。

準備学習(復習)

1～10までの授業のポイントをまとめる。11～14は模擬授業のフィードバックをまとめる。すべてをポートフォリオとして指定日に提出する。

授業計画

1. 入門期の指導・基本の授業パターン 1時間の授業構成
2. 文法中心の授業・リーディング中心の授業
3. 活動中心の授業
4. 指導技術 ペアワーク・グループワーク・TT
5. 文法指導と語彙指導の技術
6. リスニング指導・リーディング指導の技術
7. スピーキング指導・ライティング指導の技術
8. 文法指導のアプローチと評価
9. 教材・教具 クラスルームマネジメント
10. 自律的学習者に育てるための工夫 家庭学習
11. 模擬授業
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. まとめ

教科書

金谷 憲, 太田 洋, 馬場 哲生, 青野 保, 柳瀬 陽介 『大修館 英語授業ハンドブック 中学校編』(大修館書店)

評価方法

- (1)授業への貢献度:30%
- (2)模擬授業:30%
- (3)ポートフォリオ:20%
- (4)レポート:20%

英語科教育法

担当者：小川 隆夫

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義では高等学校新学習要領による「コミュニケーション英語基礎 . . . 」と「英語表現 . . . 」「英語会話」の7科目構成をどう教えるかを実践DVDを見ながら考えることにする。また、中学校の英語と比較しながら、高等学校では「英語授業は英語で行うことを基本とする」という方針が示されたことにより、これから授業をどう行っても考える。

2.学びの意義と目標

高等学校の英語の大きな変化に対応するための方策などを中心に、中学校からの連携を考えるとともに、指導技術から文法まで着実に教えられるようにすることを目標とする。

準備学習(予習)

テキストの指定ページを読んで授業に臨む。

準備学習(復習)

1～11は授業後に内容をまとめる。また、12～14はフィードバックをまとめる。すべてポートフォリオとして指定日に提出すること。

授業計画

- 1.高等学校新学習指導要領について
- 2.中学校との連携と入学時の指導
- 3.「英語で授業」の考え方
- 4.基本の授業パターン
- 5.「コミュニケーション英語」の指導と授業構成
- 6.聞いて理解する活動と読んで理解する活動
- 7.「英語表現」の指導と展開
- 8.「英語会話」の指導計画と展開
- 9.ネイティブスピーカーの活用と指導技術(発音指導・語彙指導)
- 10.リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング指導他
- 11.文法指導
- 12.プレゼンテーション
- 13.プレゼンテーション
- 14.プレゼンテーション
- 15.まとめ

教科書

金谷 憲, 久保野 雅史, 高山 芳樹, 阿野 幸一 『大修館英語授業ハンドブック 高校編』(大修館書店)

評価方法

- (1)授業への貢献度:20%
- (2)ポートフォリオ:30%
- (3)レポート:20%
- (4)プレゼンテーション:30%

介護等体験及び事前事後指導

担当者：山口 圭, 高山 法子, 吉田 昌義

開講期：通年集中 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行えば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。

事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。

2201教室は、土足厳禁であるので、上履きを用意しておくこと。また、介護技術の演習を数回行なう予定である。その際、動きやすい服装で参加すること。

2. 学びの意義と目標

< 学びの意義 >

1 教員を目指す者が、介護等体験を行うことにより、視野を拓け、個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深める。

2 高齢者や障害者とのかかわりの基本を学び、介護等体験を通して具体的に経験する。

< 目標 >

介護等体験を行うに当たって必要とされる、最小限の基本的な知識や技能等を学ぶ。

教員を目指す者が、個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深め、教員としての資質を考え、今後の大学生活で身につけておくべきことを追究する。

準備学習(予習)

事前に教科書を読み、内容の理解に努めること

また、介護等体験に行く前から、教員(社会人)として、望ましい姿を考え、適切な言動に努めること。

準備学習(復習)

介護等体験で出会った高齢者・障害者・指導員などの関係者等との関わりを振り返り、介護等体験の意義や、本授業の概要にあるように「個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めること。」

授業計画

1. 社会福祉施設における「介護等体験の意義」 特別支援学校における「介護等体験の意義」(高山)
2. コミュニケーション(高山)
3. 事例を通して考える(受容と共感)(高山)
4. 事例を通して考える(個別性)(高山)
5. 社会福祉施設の目的及び原則(高山)
6. 福祉施設利用者の理解(高山)
7. 高齢者疑似体験(高山)
8. 基本介護技術(移動・食事・着脱)(高山)
9. 介護等体験の始まり 教員に求められるもの(吉田)
10. 障害とは 障害の種類と教育の場・指導内容(吉田)
11. 知的障害の理解と指導(吉田)
12. 自閉症の理解と指導(吉田)
13. 通常の学級における障害児への配慮(吉田)
14. 人権について 介護等体験に行くに当たって(吉田)
15. 介護等体験の振り返り、事後指導(9月)

教科書

全国特別支援学校長会 『フィリア』(ジヤース教育新社)
全国社会福祉協議会 『よくわかる社会福祉施設』(全国社会福祉協議会出版部)

評価方法

(1)出席状況・コメント・受講態度:50% (2)実習態度・実習記録:50%

教育課程論

担当者：小川 洋

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目/教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

学習指導要領などの教育課程に関する資料を参考として、授業実践の基盤となる教育課程についての理解を深め、具体的・実践的な学習指導能力の養成に努める。学習指導要領の総則を中心として、教育課程についての考え方がどのように変化してきたか理解を深め、現代の教育課程についての基本的な性格について考えを深める。さらに教育課程を授業実践に具体化するうえで、授業法にどのような工夫が求められているのかなど、多様な授業実践の事例にも触れる機会を提供し、実践的な能力の養成に努める。またいわゆるPISA型学力などに示される学力の考え方に関する国際的な流れについての理解をとおして、教育課程の今後の課題について考察させる。

2.学びの意義と目標

- 1) 教育課程の基本的な性格やその構造についての理解を深める。
- 2) 「学習指導要領」の成立と変遷についての基本的な知識を得る。
- 3) 学力観と学習指導要領の関係についての理解を深める。
- 4) 学習の個別化・個性化の流れを、学習指導法の変化について考えを深める。
- 5) 授業の展開と学習環境の在り方について実践的な能力を養成する。
- 6) 日本の教育課程と諸外国の教育課程との比較を通して、今後の課題について考察させる

準備学習(予習)

現行の学習指導要領を基本テキストとし、以前の指導要領を必要に応じて部分的に印刷・配布します。事前に授業範囲の資料をよく読んでくること。

準備学習(復習)

学習指導要領の変更や国際学力調査の結果などによって、学習内容や指導法について、さまざまな議論が行われてきた経緯を確実に理解するため、ひとつの単元が終了するごとに論点をしっかり整理すること。

授業計画

1. 履修上の注意などのガイダンス及び教育課程に関する基本知識
2. 学習指導要領の基礎知識と構成についての理解
3. 学習指導要領の成立 - 昭和20年代の試案の性格
4. 学習指導要領の変遷 - 昭和33年版から平成元年版に至る学習指導要領の変化
5. 学習指導要領の変遷 - 平成10年版と学力論争
6. 学習指導要領の変遷 - 平成20年版とその背景（教育基本法改正など）
7. 学習指導要領と「ゆとり教育」をめぐる流れと学力観の変化
8. 「総合的な学習の時間」の意義と実践例
9. 教科外活動の目標と扱い方
10. 教育課程の編成原理（教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則など）
11. 学習指導要領と教育評価の考え方の変化と現代の課題
12. 初等教育と前期中等教育との接続の現代的な課題
13. PISAの学力観と学習指導の在り方
14. 先進諸国の教育課程の事例をとおしてこれからの課題を考える
15. 講義の総括と今後の教職課程への取組み

教科書

文部科学省 『中学校学習指導要領』（ぎょうせい）

評価方法

(1)小テスト:教科書の指定した範囲の予習・復習を前提とする:30%(2)レポート1本:授業で取り上げたテーマから関心をもったことを取り上げて作成:30%(3)期末テスト:40%

教育経営

担当者：村上 純一

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本科目は、教育政策・教育制度に関する視点を中心に教育の経営・学校経営を考察するとともに、今日行われている教育改革の実情について学習することを主眼としています。主に日本の学校を運営する仕組みとして、教育制度（教育法規、学校制度）、教育行政の機構（文部科学省、教育委員会等）、学校経営（学校組織、学校評価等）、教員政策（教員養成・研修、教職員給与等）を概観した後、いくつかの具体的なテーマについて政策的な観点を踏まえ取り上げる予定です。

2.学びの意義と目標

1. 教育改革をめぐる多様な問題とその解決に向けた取り組みについて基礎的な知識を習得する。
2. 演習を通して、コミュニケーション能力・ディスカッション能力の向上をはかる。
3. 「教育」についてこれまでよりも一段深い考察を行い、自分の意見を持つことができるよう、その手がかりを獲得する。

準備学習(予習)

講義で扱うテーマについて、新聞やインターネット、参考図書等で事前に学習する。

準備学習(復習)

配布資料や課題に取り組む。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育法制・制度概論
3. 教育法制・制度概論
4. 中央教育行政のしくみ
5. 地方教育行政のしくみ
6. 教育行財政改革
7. 教育行財政改革
8. 学校の管理・経営
9. 学校の管理・経営
10. 教員政策
11. 教員政策
12. 教育振興基本計画と学力政策
13. 教育委員会制度をめぐる課題
14. 学校経営の今日的諸課題への対応
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
参考となる文献・資料等を授業内に適宜紹介するが、さしあたり小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』（放送大学教育振興会）を参考図書とする。

評価方法

(1)各回のリアクションペーパー:50%:毎回、授業の終わりにリアクションペーパーを記入していただきます。(2)学期末テスト:50%

教育原理

担当者：小川 洋

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容:教職の入門科目であり、教育についての基礎的知識をひと通り取り扱う。指定の教科書と各回配布のプリント資料などを利用しながら、教育心理、文化人類学、教育制度、教育法規、教育社会学、比較教育、教育史など、広範にわたるテーマを取上げていく。自分が興味をもったテーマについて関連図書などを参考にしてレポートも作成してもらう。

2.カリキュラム上の位置づけ:中学校、高等学校の教職課程履修者が最初に履修すべき科目である。基本的には1年次の秋学期に「教師論」とともに履修することが望ましい。教育実習の前年度までに履修を済ませないと実習が不可能になるので気をつけること。

3.学びの意義と目標:教育を「受ける」立場であった諸君が、教育を「ほどこす」立場に立つためには、教育に対する考え方を根本から洗いなおすことが必要となる。これらの学習を通じて、社会にとって不可欠な営みのひとつとしての教育を捉え、教育に対して、より豊かな視野を獲得するように努めてもらう。

2.学びの意義と目標

教育について、その歴史、心理学的な理解、学校教育の基本あるいは、成績評価など、教育についての基本を学んでいきます。今まで教育を受ける側だった学生諸君にとって、教育を担う側になるために必要な心構えができることが目標です。

準備学習(予習)

教職の基礎科目なので、授業を通じて自分にとって興味のある分野を見出し、自ら発展的な学習をするようにしてほしい。また授業を通じて、自分の教職の適性を見極めほしい。

準備学習(復習)

次の授業に、読んでおくべきテキストの範囲を指示します。テキストを読んでくることを前提として授業を進めます。

授業計画

1. ガイダンス
2. 教育とは何か(1) - ヒト固有の営みとして
3. 教育とは何か(2) - 教育と教育もどき
4. 学校とは何か(1) - 学校の歴史(古代から中世)
5. 学校とは何か(2) - 学校の歴史(近代)
6. 学校とは何か(3) - 日本における学校
7. こころとからだを育てる(1)
8. こころとからだを育てる(2)
9. よりよく教え、学ばせる(1)
10. よりよく教え、学ばせる(2)
11. 教育評価とはなにか
12. 授業の可能性・学校の可能性(1)
13. 授業の可能性・学校の可能性(2)
14. よりよい教育を求めて
15. まとめ

教科書

田嶋一ほか編 『やさしい教育原理 新版補訂版』(有斐閣)

評価方法

(1)期末テスト:40% (2)レポート:30% (3)授業中の学習活動:30%

教育社会学

担当者：小川 洋

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容:教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになると、学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのように社会学的に理解できるのか、研究事例などの紹介をとおして、考えてもらうことを中心とする。

2.カリキュラム上の位置づけ:教育に関する幅広い視野をもつための教職課程科目。児童学科の幼稚園教諭・小学校教諭の課程においては必修、中学校・高校の教職課程においては、選択必修である。

2.学びの意義と目標

将来、子どもの保育あるいは教育に携わる学生たちには、社会の見方をしっかり身に付けてほしい。一般的な常識とは異なる内容もあるはずだが、自分の見方に拘らず、広い視野に立つように授業を役立ててもらいたい。

準備学習(予習)

各テーマで2,3回の授業を構成します。初回の授業を提示する各テーマのキーワードなどについて、予備的な学習をすること。

準備学習(復習)

ひとつのテーマが終了する度に、学習内容をまとめること。そのなかから一つのテーマを選んでレポートを作成してもらう。

授業計画

- 1.ガイダンス(教員としての素養としての教育社会学)
- 2.教育の見方(1) - 経済学と社会学
- 3.教育の見方(2) - 社会学の理論
- 4.学歴と階層移動(1) - 努力の報われる社会か
- 5.学歴と階層移動(2) - エリート教育
- 6.逸脱行為(1) - 逸脱の理論
- 7.逸脱行為(2) - 統計の見方(少年非行を中心に)
- 8.教育家族(1) - 家族とはなにか
- 9.教育家族(2) - 戦前から戦後へ
- 10.教育家族(3) - 教育とジェンダー
- 11.貧困と子どもの教育(1)
- 12.貧困と子どもの教育(2)
- 13.貧困と子どもの教育(3)
- 14.学校選択と地域社会
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)通常の学習活動:40%:出席、授業中の作業など
(2)レポート:30%:授業中に説明する1本のレポート(3)期末テスト:30%

教育心理学

担当者：小山 義徳

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

教育心理学は「人間がどのように物事を学んでいるのか」ということと、「物事を教えるにはどうすればよいのか」ということを心理学的手法により明らかにしていく学問です。

授業では教育心理学の基礎的な知識を紹介していきます。しかし、学問としての教育心理学と福祉や教育の現場で求められている実践の間にギャップが生じてしまっている場合があります。そこで、授業では講義に加えて、学んだ知識をもとにしたレポートの提出や、他者の意見と自分の意見を対比するディスカッションを取り入れて、理論を教育場面での実践事例に関連付けていきます。

2.学びの意義と目標

教育心理学は教師になる人だけに必要な学問であると誤解されがちですが、どのような仕事に就いても多くの知識を学ばなければなりません。また、仕事に就いてから数年経てば、自らが後輩に仕事を教える立場になります。そのため、すべて人にとって有用な学問です。本講義は、受講者が自らの学びや他者に教えることに関する知識を獲得することを、目標とします。

準備学習(予習)

講義内容に関する資料を配布する。その内容を読んだ上で、講師が設定した問いや、疑問に感じた点、よくわからない点を小レポートとして事前に提出してもらう。

準備学習(復習)

主に口頭で説明した内容について、複数回の小テストを実施する。

授業計画

1. ガイダンス:教育心理学とは
2. 記憶のメカニズム
3. 動機づけの基本的な考え方
4. 内発的動機づけと外発的動機づけ
5. 学習者から見た学習動機
6. 動機づけの認知理論と学習意欲
7. 学習行動の基礎
8. 知識表現と概念
9. 知識の獲得について
10. 手続き的知識とその学習
11. 問題解決の過程と学習
12. 文章の理解
13. 言語の発達
14. 子どもの認知発達
15. イメージと空間の情報処理
16. 性格の形成
17. 知能とは何か
18. 個人差のとらえかた
19. 個に応じた指導方法
20. 授業の検討方法
21. 授業をどのように構成するか
22. 授業における教授・学習過程
23. 測定と評価・学習者をどう評価するのか
24. 評価の心理的影響
25. 教室内の人間関係
26. 社会性と社会的スキルの形成
27. 注意とメタ認知
28. 学習方略とは
29. 自己学習力の育成
30. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:45% (2)小テスト:35% (3)期末レポート:20%

教育相談(カウンセリングを含む。)

担当者：山田 麻有美

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

生徒がもつ教育上の諸問題や悩みや困難を解決し、よく適応させ、人格の成長を援助するために教師が行なう教育相談活動のための基本的な態度（カウンセリング・マインド）を実践的に習得できるよう計画されている。具体的には、教育相談の意義や現状を踏まえた上で、受講生が、サイコドラマの手法を用いて生徒や保護者に対する態度やコミュニケーションスキルを実践的且つ段階的に身につけられるようにする。

2.学びの意義と目標

教師が生徒に助言や援助を行う時、一方的に指導するという態度ではなく、児童生徒の様々な心の動きを察知し、適切に対応しようとするカウンセリングマインドを、この講義を通して習得し、生徒にとってよりよい指導のできる教師、また保護者や地域社会からは信頼される教師となることが期待される。

準備学習(予習)

予習は、授業終了時に指示する課題に沿って行ってください。

準備学習(復習)

復習は、授業開始時に前回の授業内容の確認を行いますので準備してください。

授業計画

1. 講義の概略と進め方
2. 教育相談の意義とカウンセリングマインド
3. 教育相談の進め方と関係諸機関との連携
4. 教育相談を行うための自己理解
5. 生徒との信頼関係形成のための態度
6. 生徒との信頼関係形成のためのコミュニケーション
7. 生徒との信頼関係維持のためのコミュニケーション
8. 生徒への適切な指導助言を行うためのコミュニケーション
9. 保護者との信頼関係形成のための態度
10. 保護者との信頼関係形成のためのコミュニケーション
11. 保護者との信頼関係維持のためのコミュニケーション
12. 保護者への適切な指導助言を行うためのコミュニケーション
13. 学級場面における児童理解
14. 学級場面における課題解決
15. 理解度の確認

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業への参加度:40% (2)理解度:50% (3)出席状況:10%

教育方法論

担当者：小川 洋

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

教育は、生徒に知識や技術を伝達するとともに、ものごとの考え方など育てるためのさまざまな技術・方法を学習する。

資料集めから、伝えるための資料整理、理解を求めるためのプレゼンテーションの方法、話法などを体験しながら実践的に学習していく。情報機器を利用した資料の集め方やプレゼンテーション機器の利用方法などについても積極的に取り組んでもらう。

2.学びの意義と目標

二年生の後半に入り、教科教育法も並行履修する段階です。またこの授業が終わると、教育実習の予約確保の段階になります。学習指導の能力向上のため、実践的で具体的な技術も含めた学習指導法の基本から応用まで経験してもらいます。

準備学習(予習)

多くの課題提出を求めます。求められている内容をよく理解し、指定された期日に遅れないよう準備すること。

準備学習(復習)

作品によっては、次回の授業までに完成させて、発表・提出という宿題の形をとります。授業中の指示などを確実に理解して、取り組むこと。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学習と学力をめぐって 1
3. 学習と学力をめぐって 2
4. 学校という場 1 - オープンスペースとは
5. 学校という場 2 - 教科教室とは
6. 学校という場 3 - 新しい学習環境を考える
7. 板書に挑戦する(1)
8. 板書に挑戦する(2)
9. 新しい技術の利用 - I C T 技術(1)
10. 新しい技術の利用 - I C T 技術(2)
11. 魅力的な教材を作る 1 - 独自教材
12. 魅力的な教材を作る 2 - NIE など
13. 生徒を評価する 1 - テストとは
14. 生徒を評価する 2
15. まとめ

教科書

文部科学省 『中学校学習指導要領』(文部科学省)

評価方法

- (1)作品:50%: 4 ~ 5 作品 (2)レポート:20%: 1 本
(3)授業中の発表活動など:30%

教職実践演習(中等)

担当者：小川 洋,小川 隆夫,熊谷 芳郎,木下 大生

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

<p>講義概要</p> <p>1.内容</p> <p>教職課程の最後の科目です。教育実習から実際の教師としての仕事の間 に位置付けられます。教職課程で学んできたこと、教育実習で経験し学 んできたことを踏まえて、実践的な能力を養います。</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none">1. ガイダンス2. 教師の仕事(1) 職員室での仕事3. 教師の仕事(2) 教室での仕事4. 教師の仕事(3) 現職の先生の経験から5. 教師の仕事(4) 地域・保護者との関係づくり6. 授業に取り組む(1)7. 授業に取り組む(2)8. 授業に取り組む(3) 現職の先生の経験から9. 授業に取り組む(4)10. 特別活動を計画する(1)11. 特別活動を計画する(2)12. 特別活動を計画する(3)現職の先生の経験から13. 教師の身体的・精神的健康を維持するために14. 教師としてのキャリアを考える15. まとめ
<p>2.学びの意義と目標</p> <p>卒業後、ただちに教壇に立つことを想定して、より実践的な能力を養う ことを目標とします。教職員の一員として他の教職員からの信頼、生徒 ・保護者からの信頼を得ることが最初の一步となります。そのためには 、あらゆる場面を想定した学びが求められます。</p>	
<p>準備学習(予習)</p> <p>毎回、テーマを設定して、さまざまな仕事、さまざまな場面を想定した 実践的な学習をしていきます。指定された内容にそった事前準備が求め られます。</p>	<p>教科書</p> <p>プリントを配布する</p>
<p>準備学習(復習)</p> <p>授業中に取り組んだ課題には、必ず不十分な点に気付くはずですが。必要 に応じて追加的な課題への取り組みを求めます。</p>	<p>評価方法</p> <p>(1)授業中の学習活動:100%</p>

教師論

担当者：小川 洋

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。

教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場（役割）にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。

その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。

2.学びの意義と目標

教師としての仕事の意義について、さまざまな角度から考え、自分の経験した（教わった）個々の教師を超えた、これからのあるべき教師像について、一定のイメージや考えを養うことが、教師には必要です。そのための授業です。

準備学習(予習)

最初の授業で配布する詳細な授業計画に沿って、各時間の授業内容について自分の体験などを整理しておくこと。

準備学習(復習)

一つ一つのテーマが終わるごとに、学習した内容を確認し、自分の考えがどう変わったのかを確認する作業をすること。その中からレポート作成の課題を選ぶこと。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.教師に求められる資質・能力とは(1)
- 3.教師に求められる資質・能力とは(2) - 生徒は何を求めているか
- 4.教師に求められる資質・能力とは(3) - 人権意識
- 5.教師の地位(1) - 教師の専門性
- 6.教師の地位(2) - 教師をめぐる法令
- 7.教師の地位(3) - 現代社会と教師
- 8.教師の環境(1) - 組織の一員としての教師
- 9.教師の環境(2) - 教育改革と教師
- 10.教師の環境(3) - 最近の環境変化の動向
- 11.教師養成(1) - その歴史
- 12.教師養成(2) - 現代の課題
- 13.地域社会と学校・教師(1)
- 14.地域社会と学校・教師(2)
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)期末テスト:40% (2)レポート:30% (3)授業中の活動:30%

高等学校教育実習

担当者：小川 洋

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：3単位

講義概要

1.内容

1.内容:実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と2週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。

2.カリキュラム上の位置づけ:「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。

2.学びの意義と目標

教職課程の総仕上げです。2週間の実習は体力、精神力とも非常に厳しいものがあります。これを達成して初めて教員免許の取得がほぼ確実なものになります。

準備学習(予習)

実習が近づくにつれて、実習内容がじょじょに具体化してくる。どう対応するのか、各自が不足する知識や技術について補うこと。

準備学習(復習)

実習で必要となる教材準備などは、授業時間外の活動になる。時間を十分に確保すること。

授業計画

- 1.教育実習の意義と目的
- 2.教育実習の展開 - 事前研究、教育実習の心得
- 3.教育実習の形態 - 観察、参加、授業、事後研究
- 4.教育実習の内容(1) - 学校経営
- 5.教育実習の内容(2) - 教育課程、学習指導
- 6.教育実習の内容(3) - 生活指導、学級経営、特別活動
- 7.さまざまな教科指導
- 8.教科外活動のあり方
- 9.直前指導
- 10.教育実習の実際(1) - 教材研究、学習指導
- 11.教育実習の実際(2) - 授業参観、記録、授業分析
- 12.実習記録の観点と内容
- 13.教育実習の反省と評価
- 14.実習記録の整理
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

- (1)実習校からの評価:70%:実習校からの評価
- (2)通常授業の活動:30%:実習前後の授業での学習活動

高等学校教育実習

担当者：熊谷 芳郎

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：3単位

講義概要

1.内容

本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しどう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。

2.学びの意義と目標

「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいかをつかみとってほしい。

準備学習(予習)

教科書は既に配布済みなので、全体を読み、実習の意義を意識しつづけること。

準備学習(復習)

授業後には教科書で内容を確認し、次回までに学習内容を整理しておくこと。

授業計画

- 1.教育実習の意義と目的
- 2.教育実習の内容 1 学校経営、学校の組織、施設環境
- 3.教育実習の内容 2 教育課程、学習指導
- 4.教育実習の内容 3 生徒指導、学級経営、特別活動
- 5.教育実習の実際 授業参観の視点、記録、授業分析
- 6.模擬授業と研究討議 1
- 7.模擬授業と研究討議 2
- 8.模擬授業と研究討議 3
- 9.模擬授業と研究討議 4
- 10.中間まとめ
- 11.実習体験報告 記録の作成 1
- 12.実習体験報告 記録の作成 2
- 13.実習体験報告 記録の作成 3
- 14.実習体験報告 記録の作成 4
- 15.まとめ

教科書

教育実習を考える会『新編 教育実習の常識 事例にもとづく必須66項』(蒼丘書林)

評価方法

- (1)実習前の準備活動:20%
- (2)実習校からの評価:60%
- (3)実習後のレポート:20%

高等学校教育実習

担当者：中谷 茂一

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：3単位

講義概要

1.内容

教育実習の意義と心構え、事前準備、教育実習中の諸注意、実習日誌の留意点について学ぶ。
並行して実際に教壇に立って授業を行う指導案作成、教材準備を行い、模擬授業をととして最終的な授業内容の練り上げを実施する。

2.学びの意義と目標

福祉科教育法I・IIで学習した内容を応用し、高等学校における実際の2週間の教育実習とその事前・事後指導を行い、教育法の涵養を目標とする。

準備学習(予習)

自己の模擬講義の作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

授業計画

- 1.教育実習の意義と心構え
- 2.事前準備
- 3.教育実習中の諸注意
- 4.実習日誌の留意点
- 5.学習指導案の作成
- 6.学習指導案の作成
- 7.学習指導案の作成
- 8.学習指導案の作成
- 9.学習指導案の作成
- 10.教育実習
- 11.教育実習
- 12.教育実習
- 13.ふりかえりと評価～その1
- 14.ふりかえりと評価～その2
- 15.ふりかえりと評価～その3

教科書

教育実習研究会 編 『中学・高等学校教育実習ノート』(協同出版)

評価方法

(1)出席:20% (2)模擬講義内容:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

高等学校教育実習

担当者：東 仁美

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：3単位

講義概要

1.内容

本講義は(1)教育実習において適切な指導ができるように準備を行う(2)実習を体験する(3)実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけの準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む先輩のために報告を行うことを求める。

2.学びの意義と目標

英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。

準備学習(予習)

実習で使用する教科書の教材研究を行う。

準備学習(復習)

実習前:授業でのフィードバックを受けて指導案の修正を行う。実習後:教員採用試験対策に取り組む。

授業計画

- 1.オリエンテーション・教育実習の流れ
- 2.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(1)
- 3.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(2)
- 4.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(3)
- 5.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(4)
- 6.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(5)
- 7.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(6)
- 8.教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(1)・文集原稿作成
- 9.教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(2)・文集原稿作成
- 10.教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(3)・文集原稿作成
- 11.教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(4)・文集原稿作成
- 12.教員採用試験対策(1)
- 13.教員採用試験対策(2)
- 14.教員採用試験対策(3)
- 15.総括

教科書

青木昭六,田中誠『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』(現代教育社)

評価方法

- (1)出席:20% (2)指導案、模擬授業:30% (3)実習レポート、報告:20% (4)教育実習日誌:30%

公民科教育法

担当者：小川 洋

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容:まず「公民」教科の構成について、学習指導要領の変遷および現在の指導要領の内容について学習する。基本的知識として求められる。基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを報告し、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成をすすめる。後半の授業では、模擬授業を行うとともに考查問題の試作などもする。

2.カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「公民」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、基本的に3年次に履修し、教育実習の準備の性格も持つ。

2.学びの意義と目標

高校の公民の範囲は広い。科目としては「政治・経済」「倫理」「現代社会」があるわけだが、それぞれの標準的な教科書を利用しながら、授業方法について目標設定から一コマの授業計画まで、実践的な力をつけることを目標とします。

準備学習(予習)

教科の中のコ目ごとに授業計画から模擬授業までこなしてもらうので、不足する知識などは事前に幅広く吸収すること。

準備学習(復習)

単元計画や授業計画を授業中に完成させることは時間的にも不可能です。課題の作業内容について指摘された問題点など、丁寧に振り返って、よりよいものとする。

授業計画

- 1.「学習指導要領」の「公民科」の変遷と構成
- 2.「政治・経済」の教育目標など
- 3.「政治・経済」の学習指導法(1) 政治分野(1)
- 4.「政治・経済」の学習指導法(2) 政治分野(2)
- 5.「政治・経済」の学習指導法(3) 経済分野(1)
- 6.「政治・経済」の学習指導法(4) 経済分野(2)
- 7.「政治・経済」の学習指導法(5) 国際政治など
- 8.「倫理」の教育目標など
- 9.「倫理」の学習指導法(1) 現代の課題(1)
- 10.「倫理」の学習指導法(2) 現代の課題(2)
- 11.「倫理」の学習指導法(3) 在り方生き方(1)
- 12.「倫理」の学習指導法(4) 在り方生き方(2)
- 13.教材開発
- 14.教材の利用法
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業中の学習活動:100%:単元計画、授業計画などの作成・提出、模擬授業など。

国語科教育法

担当者：熊谷 芳郎

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「国語科教育法」と「国語科教育法」とが設定されているが、前者は主に「理論編」、後者は主に「実践編」という棲み分けがある。したがって、この科目は主に国語科教育の理論を主眼とした内容を扱うことになる。

中学校で2012年度から、高等学校では2013年度から全面実施となる学習指導要領に注目が集まるいま、学校教育現場では多様な課題が浮かび上がりつつある。授業を一方的な知識伝達の場から、相互交流による「学び」の場へと、大きく転換することが必要である。

授業では、国語科教育が抱える今日的な課題について受講者とともに考え、国語科教育とは何かについて一人ひとりがアプローチすることを旨とする。その上で、実践を視野にした授業構想を練ることを通じて、効果的な国語科教育の実践者をめざす。

2.学びの意義と目標

国語の教師として、高等学校あるいは中学校の教壇に立つとはどういうことであるのか、どうあるべきなのかを考える基礎を作っていきたい。本科目の目標は、次のとおりである。

- 1 国語科教育の今日的課題に対する理解を深める。
- 2 学習指導要領に対する知見を得る。
- 3 検定教科書に対する知見を得る。
- 4 教材に関する読書経験を広げる。
- 5 具体的な授業構想を展開する。

準備学習(予習)

授業計画を参照し、課題に関する準備は早め早めに行うこと。

準備学習(復習)

配布プリントを参考にしながら、教科書の該当部分の内容を次回までに確認しておくこと。

授業計画

1. 授業に関するガイダンス、および国語科教育の現状と課題に関する討議。
2. 前回の討議の重点整理と、関連する資料に基づく研究討議。
3. 学習者の現在についての資料に基づく研究討議。
4. 中学校および高等学校の学習指導要領の要点の紹介。
5. 国語科の検定教科書の実態について、特に検定および採択制度に関する検討。
6. 国語科教育と道徳との関係に関する検討。
7. 国語科学習指導案の作成についての説明と実習。
8. 小説教材の教材研究と授業構想に関する研究討議。
9. 説明文教材の教材研究と授業構想に関する研究討議。
10. 評論文教材の教材研究と授業構想に関する研究討議。
11. 韻文教材の教材研究と授業構想に関する研究討議。
12. 古文教材の教材研究と授業構想に関する研究討議。
13. 漢文教材の教材研究と授業構想に関する研究討議。
14. 言語教材の教材研究と授業構想に関する研究討議。
15. 授業の総括と「国語科教育法」に向けての課題確認。

教科書

町田守弘、岩崎淳、吉田茂、李暉、大塚大蔵、古井純士、澤本和子、桑原雅、大貫賢弘、熊谷芳郎、高野光男、佐野正俊、平野孝子、町田守弘『実践国語科教育法「楽しく、力のつく」授業の創造』(学文社)

評価方法

- (1)課題レポート:30%
- (2)授業への参加状況:20%
- (3)最終課題レポート:50%

国語科教育法

担当者：熊谷 芳郎

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

「国語科教育法」と「国語科教育法」とが設定されているが、前者は「理論編」、後者は主に「実践編」という棲み分けがある。したがって、この科目は主に国語科教育の実践を主眼とした内容を扱うことになる。

新しい学習指導要領において「言語活動」が重視されていることを踏まえ、この科目では、国語科における様々な言語活動の魅力的な扱いを工夫していきたい。

国語科教育法は実践を基盤とするということに配慮して、授業そのものをテキストとした実践的な授業構造にすることにより、効果的な国語科教育指導者の育成を目指す。特に、後半は受講者による模擬授業を実施して、実践的な内容を中心とした授業を展開する。

2.学びの意義と目標

教材研修の進め方について理解することは、学習指導に対する自信を生みだし、その自信が教育という職業に対する新たな情熱を生むであろう。ただし、教えるということは、大きな責任も伴うものである。この授業を通して、そのことも自覚してほしい。

本科目の目標は、次のとおりである。

- 1 学習指導案の書き方を理解し、実際に作成できる。
- 2 授業構想を具体化し、国語科の授業創りに向けての準備ができる。
- 3 模擬授業を通して、発問や板書など、様々な授業創りの要素が理解できる。
- 4 目標に準拠した評価を理解した上で、学習者の学習活動について適切な評価ができる。

準備学習(予習)

夏休み中に古典に関する課題があり、その後も2週間に1冊のペースで読書課題を提出するなど、ほぼ毎週何らかの提出課題がある。最初の授業で、授業計画の詳細を示すので、早め早めに準備すること。

準備学習(復習)

配布資料や教科書を参考にして、授業内容を次回までに理解しておくこと。

授業計画

1. 授業に関するガイダンス、および国語科教育の現状と課題に関する討議。
2. 前回の討議の重点整理と、具体的な改善策の提案および提案に基づく研究討議。
3. 効果的な授業創りに関する提案と、提案に基づく研究討議。
4. 国語科の授業における「発問」と「指示」に関する講義と実習。
5. 国語科の授業における「板書」に関する講義と実習。
6. 国語科における目標に準拠した評価に関する講義と実習。
7. 学習指導案の作製と、学習指導案に即した授業展開の要点の整理。
8. 受講者による模擬授業（小説教材による）と、その研究討議。
9. 受講者による模擬授業（評論文教材による）と、その研究討議。
10. 受講者による模擬授業（韻文教材による）と、その研究討議。
11. 受講者による模擬授業（古典教材による）と、その研究討議。
12. 受講者による模擬授業（「話すこと・聞くこと」の指導）と、その研究討議。
13. 受講者による模擬授業（「書くこと」の指導）と、その研究討議。
14. 模擬授業の総括と教育実習に向けての留意事項の確認。
15. 授業の総括と国語教育に関する今日的課題の整理。

教科書

町田守弘 岩崎 淳 吉田 茂 李 軍 大塚大蔵 古井 純 津本 和子 桑原 隆 大貫 賢弘 熊谷 芳郎 高野 光男 佐野 正俊 平野 孝子 町田 守弘 『実践国語科教育法 「楽しく、力のつく」授業の創造』(学文社)
文部科学省,文科省= 『高等学校学習指導要領解説 国語編』(教育出版)
文部科学省,文科省= 『中学校学習指導要領解説 国語編 平成20年9月』(東洋館出版社)

評価方法

(1)提出課題:20% (2)模擬授業への参加状況:50% (3)最終レポート:30%
この科目では、筆記試験は行わない。何を知っているかだけでなく、その知識をいかに生かし、以下に授業実践に結びつけるかを問う。

国語科教育法

担当者：熊谷 芳郎

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

最初に言語の教育とは何かについて討議によって認識を深め、その後は国語科教育IIで使用した教科書を引き続き使用しながら、国語科指導の進め方を実践的に学ぶ。さらに、『学習指導要領』における国語科の位置づけについて確認し、「評価規準」の考え方を学ぶ。

2.学びの意義と目標

教材研究の実際と学習指導における計画性について、この授業を通して体系的に理解して行ってほしい。さらに、『学習指導要領』および「評価規準」の考え方を単に知識として頭に入れるのではなく、具体的体験的に身につけていくことができるようになることをめざす。

準備学習(予習)

特に教材研究については、自分の納得するまでの取組を期待する。

準備学習(復習)

配布資料やテキストにより、授業内容を次回までに理解しておくこと。

授業計画

1. 授業に関するガイダンス、および国語科教育の現状と課題に関する討議。
2. 前回の討議の重点整理と、具体的な改善策の提案および提案に基づく研究討議。
3. 新しい学習指導要領の要点の紹介。
4. 目標に準拠した評価に関する講義と実習。
5. 教材研究に関する講義と実習 1。
6. 教材研究に関する講義と実習 2。
7. 「発問」と「指示」に関する講義と実習。
8. 学習指導案の作成と、学習指導案に即した授業展開の要点の整理。
9. 受講者による模擬（小説教材による）と、研究討議 1。
10. 受講者による模擬（小説教材による）と、研究討議 2。
11. 受講者による模擬（小説教材による）と、研究討議 3。
12. 受講者による模擬（評論文教材による）と、研究討議 1。
13. 受講者による模擬（評論文教材による）と、研究討議 2。
14. 受講者による模擬（評論文教材による）と、研究討議 3。
15. 授業の総括と「国語科教育法」に向けての留意事項の確認。

教科書

川本 信幹 『新編 魅力ある国語の授業を創る』(東京書籍)

評価方法

- (1)課題レポート:30% (2)模擬授業への参加状況:40%
(3)最終レポート:30%

担当者：熊谷 芳郎

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

内容

各自が交代で模擬授業を行い、それを撮影したビデオをもとに、授業の展開の仕方や指導方法などについて相互評価を行い、その後討論を行う。

2.学びの意義と目標

『学習指導要領』および「評価規準」の考え方、あるいは様々な指導方法を学んできたが、それらを知識として頭に入れるのではなく、具体的に体験的に身につけていくことができるようになることをめざす。

準備学習(予習)

教材は前もって渡すので、その教材研究は早め早めに行うこと。

準備学習(復習)

研究討議で指摘された点についての改善策を次回の模擬授業までに整理すること。

授業計画

1. 授業に関するガイダンス、および教育機器に関する解説。
2. 受講者による模擬授業（言語教材による）と、研究討議 1。
3. 受講者による模擬授業（言語教材による）と、研究討議 2。
4. 受講者による模擬授業（言語教材による）と、研究討議 3。
5. 受講者による模擬授業（言語教材による）と、研究討議 4。
6. 受講者による模擬授業（古典教材による）と、研究討議 1。
7. 受講者による模擬授業（古典教材による）と、研究討議 2。
8. 受講者による模擬授業（古典教材による）と、研究討議 3。
9. 受講者による模擬授業（古典教材による）と、研究討議 4。
10. 過去の実践事例に学ぶ
11. 受講者による模擬授業（小説教材による）と、研究討議 1。
12. 受講者による模擬授業（小説教材による）と、研究討議 2。
13. 受講者による模擬授業（評論文教材による）と、研究討議 1。
14. 受講者による模擬授業（評論文教材による）と、研究討議 2。
15. 授業の総括と教育実習に向けた留意事項の確認

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1) 模擬授業への参加状況:70%
- (2) 研究討議への参加状況:30%:moodlへの投稿を含む。

社会科公民的分野教育法

担当者：石井 昇

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の2教科となった。本講義は高校の公民科も視野に入れながら、中学校における「公民的分野」の内容について考察する。

本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。

戦前の「公民教育」と戦後の社会科教育の関係について理解する。

「公民的資質」の概念、公民的分野の内容について理解する。

「政治」的単元、「経済」的単元、「国際政治・経済学習、現代社会」的単元について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2. 学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。

< 学びの目標 >

「公民」「公民的資質」における「公民」の概念を理解できる。

公民的分野の内容と学習方法を理解できる。

公民的分野の学習指導案を作成することができる。

準備学習(予習)

「シラバスと本講義」のときに予習課題一覧を提示するとともに、それぞれの講義の終わり5分前に予習課題を説明する。14回目の際に自己評価カードを提出する。

準備学習(復習)

「シラバスと本講義」のときに復習課題一覧を提示するとともに、課題について学生の疑問に答える。14回目の際に自己評価カードを提出する。

授業計画

1. シラバスと本講義の説明 本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
2. 「生きる力」と戦前の公民教育 - 戦前の公民教育、戦後の公民科、社会科へ至る経緯について理解する。
3. 戦後の社会科教育の推移と社会科の目標 現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の内容とその推移を理解する。
4. 公民的分野の目標と学習内容(1) 公民・公民的資質の概念、現在までの公民的分野の内容・目標の推移を理解する。
5. 公民的分野の目標と学習内容(2) - 公民的分野の内容とその推移について理解する。
6. 公民的内容の指導計画と指導事例 指導計画の作成方法を理解するとともに、中項目を選択し、指導計画を作成する。
7. 「政治」的単元の扱い - 政治的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。
8. 「政治」的単元の学習指導案の作成 < 演習 > 教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、発問計画もたてる。
9. 「経済」的単元の扱い - 経済的単元の内容を理解するとともに、学習指導案作成の方法を知る。
10. 「経済」的単元の学習指導案の作成 < 演習 > 教材を選択し、学習指導案を作成するとともに、板書計画もたてる。
11. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の扱い - 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の内容を理解する。
12. 「国際政治・経済学習、現代社会」的単元の学習指導案の作成 < 演習 > 学習指導案を作成、発問・板書計画をてる。
13. 公民的分野の授業評価と方法 評価規準について具体的に理解するとともに、評価方法について知る。
14. テスト問題の作成と実践例の紹介 テスト問題の作成の方法を理解するとともに、先進的な実践事例について知る。
15. 講義のまとめ 公民的な見方・考え方についてまとめる。

教科書

文部科学省, 文科省= 『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版)
五味 文彦, 斎藤 功, 高橋 進 『新編新しい社会公民』(東京書籍)

評価方法

(1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%
必ず指示された提出物は提出すること。

社会科授業研究

担当者：石井 昇

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

中学校社会科3分野の教育法の発展として、本講義を位置づける。本講義表の内容は小・中の社会科・高の「地歴科」「公民科」の関連に注目するとともに、地理・歴史・公民的各分野で「地域」にこだわり、「身近な地域」のフィールドワークを実施する。

戦前に実践された「社会科」学習の内容を理解する。

歴史的分野における「郷土」・「人物」・「生活文化」、地理的分野における「身近な地域」、公民的分野における「消費者文化」・「法教育」、等の実践について理解する。

地理的分野における二万五千分の一の地形図の読図を行う。

教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2.学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。

<学びの目標>

中学校社会科は講義ではなく、学習であること理解する。そのために生徒の住んでいる「地域」に注目することが生徒の興味・関心を喚起できることに気づく。

フィールドワークの重要性を理解できる。

地域にこだわった学習指導案を作成することができる。

準備学習(予習)

「シラバスと本講義」のときに予習課題一覧を提示するとともに、それぞれの講義の終わり5分前に予習課題を説明する。最後に自己評価カードを提出する。

準備学習(復習)

「シラバスと本講義」のときに復習課題一覧を提示するとともに、課題について学生の疑問に答える。最後に自己評価カードを提出する。

授業計画

- 1.シラバスと本講義の説明 本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
- 2.社会科教育の沿革と教科構造 戦前の「地理・歴史」学習、戦後の社会科教育の推移、社会科の構造を理解する。
- 3.現代における社会科教育の役割 「同和教育」を通じて社会科教育の果たす役割を理解する。
- 4.中学校社会科の目標と内容 社会科の目標と内容を理解するとともに、「総合的学習の時間」との関連について知る。
- 5.小学校社会科・高等学校「地歴科」「公民科」との関連 小・中・高の関連について理解する。
- 6.地理的分野「身近な地域の学習」 - 二万五千分の一の地形図について理解する。
- 7.地理的分野「身近な地域の学習」 - <演習>地形図をもとにフィールドワークを行う。
- 8.歴史的分野「郷土」の扱いー「郷土」の扱いの変遷と「郷土」を扱う意義について理解する。
- 9.歴史的分野「生活文化」の学習と博物館 「生活文化」の概念を理解するとともに、博学連携について知る。
- 10.歴史的分野「人物」の扱いー歴史における人物の果たす役割について理解する。
- 11.公民的分野「消費者教育」 - 消費者教育の変遷と消費者教育の意義について理解する。
- 12.公民的分野「法教育」 - 法教育の内容と意義を理解するとともに、裁判員制度について知る。
- 13.「学習指導案」の作成 <演習>地域にこだわった学習指導案を作成する。
- 14.「考古学の利用」・補遺 考古学を利用する意義について理解するとともに、実践例を紹介する。
- 15.講義のまとめー社会科教育では「地域」が重要であることを理解する。

教科書

文部科学省,文科省=『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版)
東京書籍 『新しい社会 地理』(東京書籍)
東京書籍 『新しい社会 歴史』(東京書籍)
東京書籍 『新しい社会 公民』(東京書籍)

評価方法

(1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%
必ず指示された提出物は提出すること。

社会科授業研究

担当者：石井 昇

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

中学校社会科3分野の教育法の発展として、さらに「社会科授業研究」をふまえて本講義を位置づける。本講義の内容は社会科の資料論、指導論を中心に構成した。

学習方法について、「問題解決学習」、「検証学習」をはじめ多様な方法論を理解する。

学習過程の多様な方法論と評価論について理解する。

実物資料による体験、古文書資料の読解などを行う。

地理的分野における地図帳、歴史的分野における年表、公民的分野における新聞、等の扱いについて理解する。

教育実習をすることを考えて、「社会科」3分野のいずれかを選択し、学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2.学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。

<学びの目標>

中学校社会科は講義ではなく、学習であること理解する。そのために一斉画一指導を克服して多様な学習方法があることに気づく。

「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の内容・方法について理解する。

学習指導案を作成することができる。

準備学習(予習)

「シラバスと本講義」のときに予習課題一覧を提示するとともに、それぞれの講義の終わり5分前に予習課題を説明する。最後に自己評価カードを提出する。

準備学習(復習)

「シラバスと本講義」のときに復習課題一覧を提示するとともに、課題について学生の疑問に答える。最後に自己評価カードを提出する。

授業計画

- 1.シラバスと本講義の説明 本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
- 2.指導計画の作成と教材研究 アメリカ社会科の変遷を理解する。あわせて単元学習のありようについて知る。
- 3.学習指導過程の工夫 「オープンマインド」・「オープンプロセス」・「オープンエンド」の3つのオープンを理解する。
- 4.学習指導の評価と方法 「診断的評価」・「形成的評価」・「総括的評価」の3つの評価を理解する。
- 5.学習方法の工夫 「問題解決学習」、「発見学習」をはじめ多様な学習方法を理解する。
- 6.授業過程の工夫 「受容的課題」、「選択的課題」、「発見的課題」について理解する。
- 7.学習資料の開発—実物資料、加工資料の実際に触れ、資料の重要性を理解する。
- 8.地図帳と地理的分野の授業 地理的分野の学習において、空間的認識の育成と地図帳の関連を理解する。
- 9.年表と歴史的分野の授業 歴史的分野の学習において、時間的認識を育成するには年表が大きな役割を果たすことについて理解する。
- 10.新聞と公民的分野の授業 公民的分野は現実の政治・経済・社会を扱うために新聞が大きな役割を果たしていることについて理解する。
- 11.統計の活用 - 3分野の教科書には多くの統計が掲載されている。この統計の見方について理解する。
- 12.学習指導案の作成 <演習> 卒論としての社会科学学習指導案作成を2時間にわたって行う。
- 13.「学習指導案」の作成 同上
- 14.授業研究と教師のありかた—社会科実践家の事例を紹介し、教材研究の重要性を理解する。
- 15.講義のまとめ—教育実習への意欲を喚起する。

教科書

文部科学省,文科省=『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版)
帝国書院編集部『中学校社会科地図(Teikoku's Atlas)』(帝国書院)
東京書籍『新しい社会 地理』(東京書籍)
東京書籍『新しい社会 歴史』(東京書籍)
東京書籍『新しい社会 公民』(東京書籍)

評価方法

(1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%
必ず指示された提出物は提出すること

社会科地理・歴史的分野教育法

担当者：石井 昇

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を経て、今日に至っている。中学校社会科においては、地理的・歴史的・公民的分野に統合され、高校では社会科の名が消え、「地歴科」と「公民科」の2教科となった。本講義は高校の地歴科も視野に入れながら、中学校における「地理的分野」、「歴史的分野」の内容について考察する。

本講義はこのことをふまえ、次の点を重点とする。

戦前の「地理教育」「歴史教育」のねらいを知るとともに、戦後の社会教育の変遷を理解する。

社会科の教科構造について理解する。

「歴史的分野」、「地理的分野」について学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2.学びの意義と目標

この講義は中学校社会科の教員免許を得ようとする学生のために開設した。

<学びの目標>

「公民的資質」の概念を理解できる。

地理的分野・歴史的分野の内容と学習方法を理解できる。

日本・世界の略図を描きことができ、地理的分野・歴史的分野の学習指導案を作成することができる。

準備学習(予習)

「シラバスと本講義」のときに予習課題一覧を提示するとともに、それぞれの講義の終わり5分前に予習課題を説明する。14回目の際に自己評価カードを提出する。

準備学習(復習)

「シラバスと本講義」のときに復習課題一覧を提示するとともに、課題について学生の疑問に応える。14回目の際に自己評価カードを提出する。

授業計画

- 1.シラバスと本講義の説明 本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
- 2.地理・歴史教育の沿革(戦前期) - 戦前の地理・歴史教育の内容とそのねらいについて理解する。
- 3.戦後の社会科教育の変遷と社会科の目標 現在に至るまでの社会科教育の推移、目標の推移とその内容を理解する。
- 4.歴史的分野教育法(歴史的分野の目標) - 歴史的分野の目標の推移とその内容について理解する。
- 5.歴史的分野教育法(歴史的分野の内容) - 歴史分野の内容とその推移について理解する。
- 6.歴史的分野教育法(指導計画と指導事例) <演習>指導計画の方法を知るとともに中項目を選択し、指導計画を作成する。
- 7.歴史的分野教育法(学習指導案の作成) - 学習指導案(細案)を作成する方法について理解する。
- 8.歴史的分野教育法(学習指導案の作成) - <演習>教材を選択し、学習指導案を作成する。
- 9.地理的分野教育法(地理的分野の目標) - 地理的分野の目標の推移とその内容について理解する。
- 10.地理的分野教育法(地理的分野の内容) - 地理的分野の内容とその推移について理解する。
- 11.地理的分野教育法(指導計画と指導事例) - 地理的分野の指導計画を知り、学習指導案(略案)の書き方を理解する。
- 12.地理的分野教育法(学習指導案の作成) - <演習>教材を選択し、学習指導案(略案)を作成する。
- 13.地理的分野教育法(略図の作成) - <演習>日本、世界の略図を作成する。
- 14.地理的分野教育法(略図を用いた板書・テスト問題の作成) テスト問題の作成の方法、略図を用いた板書を理解する。
- 15.講義のまとめ 地理的・歴史的分野の見方・考え方についてまとめる。

教科書

文部科学省,文科省=『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版)
東京書籍 『新しい社会 地理』(東京書籍)
東京書籍 『新しい社会 歴史』(東京書籍)

評価方法

(1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%
必ず指示された提出物は提出すること。

情報科教育法

担当者：国分 道雄

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は高等学校の「情報」の教員免許を取得し、将来情報科の科目を担当使用と志す学生のための授業である。したがって教員免許取得を目指す学生に対する授業として、授業で担当する各科目の指導目標や、教科の特徴、および関連する教育活動についての法的根拠などについてもあわせて学習することを目的とする。

2.学びの意義と目標

普通教科「情報」および専門教科「情報」の担当者としてふさわしい生徒指導ができるための基本的な事柄の理解と態度を養うことを目標とする。

準備学習(予習)

次回のテキストの箇所を読んでくること。

準備学習(復習)

授業の内容に基づき、指導案の作成を行うこと。

授業計画

- 1.教師としての心構え
- 2.高等学校学習指導要領と教育関係法規
- 3.生徒理解と授業
- 4.普通教科「情報」
- 5.専門教科「情報」
- 6.学習指導要領解説1
- 7.学習指導要領解説2
- 8.学習指導要領解説3
- 9.学習指導要領解説4
- 10.学習指導要領解説5
- 11.実際の授業1
- 12.実際の授業2
- 13.授業実習と教材
- 14.授業実習と教材
- 15.授業実習と教材

教科書

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 情報編』(開隆堂出版)

評価方法

(1)授業での課題:60% (2)レポート:40%

担当者：国分 道雄

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は高等学校の「情報」の教員免許を取得し、将来情報科の科目を担当使用と志す学生のための授業である。したがって教員免許取得を目指す学生に対する授業として、授業で担当する各科目の指導目標や、教科の特徴、および関連する教育活動についての法的根拠などについてもあわせて学習することを目的とする。

2.学びの意義と目標

普通教科「情報」および専門教科「情報」の担当者としてふさわしい生徒指導ができるための基本的な事柄の理解と態度を養うことを目標とする。

授業計画

1. 学習指導要領解説1
2. 学習指導要領解説2
3. 学習指導要領解説3
4. 学習指導要領解説4
5. 教材作成1
6. 教材作成2
7. 教材作成3
8. 教材作成4
9. 教材作成5
10. 模擬授業1
11. 模擬授業2
12. 模擬授業3
13. 模擬授業4
14. 模擬授業5
15. まとめ

準備学習(予習)

次回のテキストの箇所を読んでくること。

教科書

文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 情報編』(開隆堂出版)

準備学習(復習)

授業の内容に基づき、指導案の作成を行うこと。

評価方法

(1)授業での課題:60% (2)レポート:40%

生徒指導論(進路指導を含む。)

担当者：小川 洋

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容:「生徒指導」は「教科指導」と並んで学校における重要な教育活動の柱であり、近年、学校を取り巻く環境の変化などから、その重要性を増している。「生活指導」とも呼ばれる「生徒指導」をめぐって、幅広いテーマを取り上げながら、教師として必要な知識や考え方を取り上げる。さらに多くの場合「進学指導」や「就職指導」となっている「進路指導」の問題を扱う。

2.カリキュラム上の位置づけ:「教育原理」「教師論」の履修を終えて教育についての基礎的基本的な知識や考え方を理解したうえで、教科指導以外の面での生徒の指導のあり方について幅広く扱う。

2.学びの意義と目標

生徒の指導のあり方について表面的な知識を理解するのではなく、指導の理念などについての理解を深め、これからの学校教育の中での生徒指導のあり方について、諸君が自分なりの考えを持てるようになることを目指したい。

準備学習(予習)

最初の授業で配布する詳細な授業計画を配布する。各テーマについて、あらかじめ各自で知識を補っておくこと。

準備学習(復習)

レポートは授業中に扱ったテーマから選んで取り組んでもらう。毎回の授業内容の理解が前提になる。知識や理解が不十分な部分は各自、学習の努力をすること。

授業計画

- 1.ガイダンス
- 2.喫煙・薬物防止教育 - タバコ、アルコール、ドラッグの乱用防止教育
- 3.少年犯罪 - 非行・校内暴力などの実態と対策
- 4.不登校問題 - 不登校問題の実態と対策
- 5.人権教育 - 差別問題に取り組む
- 6.性教育 - 性行動をめぐる諸問題、性的マイノリティ
- 7.生徒指導のあり方を見直す
- 8.生徒指導と裁判事例
- 9.進路指導(第1回) - 戦後日本の「進路指導」
- 10.進路指導(第2回) - 若年者の雇用環境の変化と新たな問題
- 11.進路指導(第3回) 新たな進路指導のあり方
- 12.進路指導と学校教育
- 13.生徒指導のさまざまな試み
- 14.生徒指導のさまざまな実践
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)期末テスト:40% (2)レポート:30%:2本 (3)出席状況:30%

中学校教育実習

担当者：小川 洋

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：5単位

講義概要

1.内容

1.内容:実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と3週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。
2.カリキュラム上の位置づけ:「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。

2.学びの意義と目標

教職課程の総仕上げです。3週間の実習は体力、精神力とも非常に厳しいものがあります。これを達成して初めて教員免許の取得がほぼ確実なものになります。

準備学習(予習)

実習が近づくにつれて、実習内容がじょじょに具体化してくる。どう対応するのか、各自が不足する知識や技術について補うこと。

準備学習(復習)

実習で必要となる教材準備などは、授業時間外の活動になる。時間を十分に確保すること。

授業計画

- 1.教育実習の意義と目的
- 2.教育実習の展開 - 事前研究、教育実習の心得
- 3.教育実習の形態 - 観察、参加、授業、事後研究
- 4.(4)教育実習の内容(1) - 学校経営
- 5.教育実習の内容(2) - 教育課程、学習指導
- 6.教育実習の内容(3) - 生活指導、学級経営、特別活動
- 7.教育実習に備えて(1) - さまざまな授業
- 8.教育実習に備えて(2) - さまざまな教科外活動
- 9.直前指導
- 10.教育実習の実際(1) - 教材研究、学習指導
- 11.教育実習の実際(2) - 授業参観、記録、授業分析
- 12.実習記録の観点と内容
- 13.教育実習の反省と評価
- 14.実習記録の整理
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業中の学習活動:30% (2)実習校の評価:70%

中学校教育実習

担当者：熊谷 芳郎

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：5単位

講義概要

1.内容

本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しどう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。

2.学びの意義と目標

「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいかをつかみとってほしい。

準備学習(予習)

教科書は既に配布済みなので、全体を読み、実習の意義を意識しつづけること。

準備学習(復習)

授業後には教科書で内容を確認し、次回までに学習内容を整理しておくこと。

授業計画

- 1.教育実習の意義と目的
- 2.教育実習の内容 1 学校経営、学校の組織、施設環境
- 3.教育実習の内容 2 教育課程、学習指導
- 4.教育実習の内容 3 生徒指導、学級経営、特別活動
- 5.教育実習の実際 授業参観の視点、記録、授業分析
- 6.模擬授業と研究討議 1
- 7.模擬授業と研究討議 2
- 8.模擬授業と研究討議 3
- 9.模擬授業と研究討議 4
- 10.中間まとめ
- 11.実習体験報告 記録の作成 1
- 12.実習体験報告 記録の作成 2
- 13.実習体験報告 記録の作成 3
- 14.実習体験報告 記録の作成 4
- 15.まとめ

教科書

教育実習を考える会『新編 教育実習の常識 事例にもとづく必須66項』(蒼丘書林)

評価方法

- (1)実習前の準備活動:20%
- (2)実習校からの評価:60%
- (3)実習後のレポート:20%

中学校教育実習

担当者：東 仁美

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：5単位

講義概要

1.内容

本講義は(1)教育実習において適切な指導ができるように準備を行う(2)実習を体験する(3)実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけの準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む先輩のために報告を行うことを求める。

2.学びの意義と目標

英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。

準備学習(予習)

実習で使用する教科書の教材研究を行う。

準備学習(復習)

実習前:授業でのフィードバックを受けて指導案の修正を行う。実習後:教員採用試験対策に取り組む。

授業計画

- 1.オリエンテーション・教育実習の流れ
- 2.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(1)
- 3.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(2)
- 4.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(3)
- 5.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(4)
- 6.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(5)
- 7.教育実習で行う範囲の教材研究・模擬授業(6)
- 8.教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(1)・文集原稿作成
- 9.教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(2)・文集原稿作成
- 10.教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(3)・文集原稿作成
- 11.教育実習日誌のまとめ・教育実習報告(4)・文集原稿作成
- 12.教員採用試験対策(1)
- 13.教員採用試験対策(2)
- 14.教員採用試験対策(3)
- 15.総括

教科書

青木昭六,田中誠『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』(現代教育社)

評価方法

- (1)出席:20% (2)指導案、模擬授業:30% (3)実習レポート、報告:20% (4)教育実習日誌:30%

地理歴史科教育法

担当者：小川 洋

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容:まず「地理」・「日本史」・「世界史」の3科目からなる「地理歴史」教科の構成について、「学習指導要領」の変遷および現在の指導要領の構成・内容について学習する。これは基本的な知識として求められる。これらの基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを決めて、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成も行う。後半の授業では模擬授業を行う。

2.カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「地理歴史」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、教育実習準備の性格も持つ。したがって、より実践的な学習に取り組むことを通じて、教科指導に必要な知識と技術などを習得することを目指す。

2.学びの意義と目標

地歴科の科目を一通り、授業ができるように指導します。高校で履修していない学生もいますが、その部分については自助努力に期待することになります。十分な知識が教授法の前提となります。自分にどのような知識が足りないかを常に意識して取り組み、ある程度の自信をもってもらうことが目標です。

準備学習(予習)

各科目ごとに作業を進めるので、あらかじめ自分に知識が不足している科目・単元については自発的に学習準備をすること。

準備学習(復習)

授業で指摘された不十分な箇所や内容については次の授業までに確実に修正しておくこと。

授業計画

- 1.「学習指導要領」の「地理歴史科」の変遷と構成
- 2.地歴科の教育目標など
- 3.「日本史」科目の教育目標など
- 4.「日本史」の学習指導法(1) 前近代史
- 5.「日本史」の学習指導法(2) 近現代史
- 6.「世界史」の教育目標など
- 7.「世界史」の学習指導法(1) 前近代史
- 8.「世界史」の学習指導法(2) 近現代史
- 9.「地理」の教育目標など
- 10.「地理」の学習指導法(1) 系統地理分野
- 11.「地理」の学習指導法(2) 地誌分野
- 12.教材づくり
- 13.教材の活用法
- 14.授業の技術
- 15.まとめ

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業中の学習活動:100%:単元計画から一コマの授業計画あるいは模擬授業を課します。

道徳教育の研究

担当者：石井 昇

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講義は中学校教育の中で、道徳教育がどのように位置づけられているか、その歴史的変遷について理解するとともに、道徳教育の意義・目的・内容・方法について実践事例をもとに考察する。指導資料を発掘し、それをもとに学習指導案を作成する。

「道徳教育」は、生徒の「生きる力」を育成するために重要な領域であることを理解する。

戦前の道徳教育で「修身」の果たした役割を知るとともに、戦後の道徳教育の変遷について理解する。

道徳の内容「1主として自分自身に関すること」、「2主として他の人との関わりに関すること」、「3主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」、「4主として集団や社会とのかかわりに関すること」の内容を理解するとともに、その関連を知る。

教育実習をすることを考えて、「道徳の時間」の学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2.学びの意義と目標

この講義は中学校の教員免許を得ようとする学生のために開設した。
<学びの目標>

教育課程のなかで、「道徳」が大きな役割を占めていることが理解できる。

「道徳の時間」の学習指導案を作成することができる。

準備学習(予習)

「シラバスと本講義」のときに予習課題一覧を提示するとともに、それぞれの講義の終わり5分前に予習課題を説明する。14回目の際に自己評価カードを提出する。

準備学習(復習)

「シラバスと本講義」のときに復習課題一覧を提示するとともに、課題について学生の疑問に答える。14回目の際に自己評価カードを提出する。

授業計画

- 1.シラバスと本講義の説明 本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
- 2.道徳及び道徳教育の本質 「道徳」の概念と道徳教育の本質を理解する。
- 3.現代社会と道徳教育 現代社会における道徳教育の必要性について理解する。
- 4.戦前の道徳教育の展開 教育勅語と修身、修身と「新教育運動」の関わりについて理解する。
- 5.戦前の道徳教育の展開 戦間期に修身の果たした役割について理解する。
- 6.戦後の道徳教育の展開 「道徳の時間」が設置された理由とその後の推移について理解する。
- 7.学校の教育課程と道徳教育 「道徳性」の概念を理解するとともに、道徳教育の発達に尽した人々について知る。
- 8.道徳教育の目標と内容 道徳教育の目標の変遷とその内容を理解する。
- 9.「道徳の時間」の目標と道徳の授業 「道徳の時間」の目標の内容・「道徳的実践力」の概念を理解する。
- 10.指導計画の作成 「全体計画」と「道徳の時間」の指導計画の内容、「道徳教育推進教師」の果たす役割について理解する。
- 11.「道徳の時間」の指導（指導資料の開発）-資料選択・開発の方法、道徳資料の可否を判断する力を育成する。
- 12.「道徳の時間」の指導（学習指導案の作成とその手順）-学習指導案の作成方法について理解する。
- 13.「道徳の時間」の指導（学習指導案の作成）<演習>題材を選び、学習指導案を作成する。
- 14.道徳教育の評価 道徳教育の評価の方法について理解するとともに、教科と違って評価の難しさについて知る。
- 15.本講義のまとめ 道徳教育の重要性について理解する。

教科書

文部科学省,文科省=『中学校学習指導要領解説 道徳編』(日本文教出版)

評価方法

(1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%
必ず指示された提出物は提出すること。

特別活動の理論と方法

担当者：石井 昇

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

中学校では、生徒の人間関係や連帯感、集団の一員としての自覚や責任感の希薄化等が問題になる中で、「特別活動」は最も大事な教育活動である。本講義はそのことをふまえ、次の点を重点とする。

「特別活動」の学校教育に占める役割では、生徒の「生きる力」を育成するために「特別活動」のあり方について考察する。

「特別活動」の沿革では、昭和22年の発足以降どのように推移して現在に至っているのかについて考察する。

「特別活動」の内容の「学級活動」・「生徒会活動」・「学校行事」については現在学校で行われている活動に即しながら考察する。また「生徒指導」・「いじめ」・「進路指導」と「学級活動」の関係について考察する。

教育実習をすることを考えて、「学級活動」の時間の学習指導案を作成し、そのスキルを獲得する。

2. 学びの意義と目標

この講義は中学校、高等学校の教員免許を得ようとする学生のために開設した。

< 学びの目標 >

教育課程のなかで、「特別活動」が大きな役割を占めていることを理解できる。

「学級活動」の時間の学習指導案を作成することができる。

準備学習(予習)

「シラバスと本講義」のときに予習課題一覧を提示するとともに、それぞれの講義の終わり5分前に予習課題を説明する。14回目の際に自己評価カードを提出する。

準備学習(復習)

「シラバスと本講義」のときに復習課題一覧を提示するとともに、課題について学生の疑問に答える。14回目の際に自己評価カードを提出を提出する。

授業計画

1. シラバスと本講義の説明 本講義後の導入として、位置づけ意欲づけを図る。
2. 「生きる力」と「特別活動」 - 「特別活動」の意義について中学生の作文を通して理解する。
3. 「特別活動」の沿革 昭和22年の発足以降、現在に至るまでの「特別活動」の推移を理解する。
4. 「特別活動」のねらい-昭和22年の発足以降、現在に至るまでの「特別活動」の目標の内容とその推移を理解する。
5. 「学級活動」の内容とその指導 「学級活動」の前提である「学級」の概念を知るとともに、「学級活動」の内容について理解する。
6. 「学級活動」の内容(進路指導)とその指導 「学級活動」における「進路指導」の指導なかりかたについて理解する。
7. 「学級活動」の内容(生徒指導)とその指導 「非行生徒」指導と「学級活動」の関連について理解する。
8. 「学級活動」の内容(いじめ・学級崩壊)とその指導 いじめの実態・克服した実践を踏まえ「学級活動」の必要性を理解する。
9. 「生徒会活動」の意義とその活動 「生徒会活動」の内容・推移を知るとともに、現在の課題について理解する。
10. 「学校行事」のねらいとその活動 「学校行事」のねらいと「学級活動」・「生徒会」との関係について理解する。
11. 戦前の「生徒の活動」(運動会・修学旅行・自治会) - アメリカの特別活動・戦前の「生徒の活動」を理解する。
12. 「特別活動」の指導計画の作成 「特別活動」の指導計画はどのように作成するかについて理解する。
13. 「学習指導案」の作成 < 演習 > 題材を選び、学習指導案を作成する。
14. 「特別活動」の評価と方法 「特別活動」の評価はどのように行われるか、実態に即して理解する。
15. まとめと実践事例の紹介 特別活動の重要性について理解する。

教科書

文部科学省, 文科省= 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』(ぎょうせい)

評価方法

(1)出席:35% (2)新聞発表、レポート、テスト:65%
必ず指示された提出物は提出すること。

福祉科教育法

担当者：中谷 茂一

開講期：春学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。

学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。

2.学びの意義と目標

模擬授業案を作成し実際に受講生の前で教えてもらうので人前で話すことが苦手であると受講は難しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加しない者は単位修得できない。自分の教育方法を謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。

準備学習(予習)

自己の模擬講義の作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

授業計画

- 1.1 「福祉」教科創設の背景と経緯・基本方針
- 2.2 福祉教育の意義と福祉に関する学科設置の基本的な考え方
- 3.3 社会福祉学と「福祉」教科
- 4.4 「福祉」教科の科目関連と構造
- 5.5 教育観と福祉科教育
- 6.6 「福祉」の内容と解説 目標・社会福祉基礎・社会福祉制度・社会福祉援助技術
- 7.7 基礎介護・社会福祉実習
- 8.8 社会福祉演習・福祉情報処理
- 9.9 指導計画の作成と内容の取扱い
- 10.10 模擬授業(1)
- 11.11 模擬授業(2)
- 12.12 模擬授業(3)
- 13.13 模擬授業(4)
- 14.14 模擬授業(5)
- 15.15 模擬授業(6)

教科書

保住 芳美 『高等学校新学習指導要領の展開 福祉科編』(明治図書出版)
教育実習を考える会 編 『教育実習用学習指導案作成教本(社会 地・歴 公民科)』(蒼丘書林)
桐原宏行 編著 『福祉科教育法』(三和書籍)

評価方法

(1)出席:20% (2)模擬講義内容:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

福祉科教育法

担当者：中谷 茂一

開講期：秋学期 必修・選択：教職科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

福祉科教育法で学習したことを展開させ、さらにレベルアップした指導案と模擬授業を行ってもらい、教育実習へとつなげていくことを目標とする。

高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。

学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。

2.学びの意義と目標

模擬授業案を作成し実際に受講生の前で教えてもらうので人前で話すことが苦手であると受講は難しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加しない者は単位修得できない。自分の教育方法を謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。

準備学習(予習)

己の模擬講義の作成準備

準備学習(復習)

当日の報告で解決しなかった疑問点を調べる

授業計画

1. 1 社会福祉基礎
2. 2 社会福祉制度
3. 3 社会福祉援助技術
4. 4 基礎介護
5. 5 社会福祉実習
6. 6 社会福祉演習
7. 7 福祉情報処理
8. 8 指導計画の作成と内容の取扱い
9. 模擬授業(1)
10. 模擬授業(2)
11. 模擬授業(3)
12. 模擬授業(4)
13. 模擬授業(5)
14. 模擬授業(6)
15. 模擬授業(7)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)出席:20% (2)模擬講義内容:50% (3)ディスカッション参加状況:30%

担当者：米谷 茂則

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

学習指導と学校図書館とのかかわりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。
司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。

2.学びの意義と目標

児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集・選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表までできる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。

準備学習(予習)

調べ学習の体験について、プリントにもとづいて、想起し発表できるようにすること。学習指導案を作成し、検討会にて発表できるようにしておくこと。

準備学習(復習)

毎回の授業内容をふりかえり、自分で考えたことをメモしておくこと。

授業計画

1. 「学習指導と学校図書館」科目の学習内容ガイダンス
2. 教育課程の展開と学校図書館
3. 教育方法としての調べ学習、課題学習、課題研究
4. 情報活用能力の育成、その計画と方法
5. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習過程
6. 小学校における調べ学習の実践例および体験の発表
7. 中学・高校における調べ学習の実践例および体験の発表
8. 調べ学習、課題学習、課題研究の学習指導案の作成
9. 情報活用能力の育成に対応した学校図書館メディアの選択
10. 情報サービス / 読書学習の課題
11. 学校図書館機能と司書教諭の創造性
12. 学習指導案の検討会 1回目
13. 学習指導案の検討会 2回目
14. マンガ読書からマンガ読書学習へ
15. 講義全体のまとめ、学習指導案の提出

教科書

プリントを配布する
必要に応じてプリントを配布するので整理しておき、次回以後の授業に持参すること。プリントの解説については、メモなどを記しておくこと。

評価方法

(1)発表等:20% (2)振り返り記録:20% (3)学習指導案:60%
遅刻をしないこと。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。12回以上の出席が最終レポート・学習指導案提出の条件である。

学校経営と学校図書館

担当者：小川 三和子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。学校図書館の理念、教育行政と学校図書館、学校図書館経営、司書教諭の任務、学校図書館メディアの構成と管理、学校図書館活動等について理解し、司書教諭として学校図書館経営をする上での課題を考察する。

2.学びの意義と目標

学校図書館の意義と役割を理解し、司書教諭として学校図書館経営の方針をもち、学校図書館に関する諸計画を策定し、勤務校の学校図書館活用や読書指導の推進役になるための資質を養う。

準備学習(予習)

学習指導要領を読んだり学校図書館や教育に関する書籍や新聞記事を読んだりして、今日の教育課題に関心をもち学校図書館経営の素地を養う。

準備学習(復習)

ノートを整理し、知識として理解したこと、今後とも考察していくべきことを明確にする。

授業計画

1. 学校図書館の意義と理念、役割
2. 学校図書館の歴史
3. 学校図書館の国際的な動向
4. 教育行政と学校図書館
5. 図書館ネットワーク
6. 学校図書館経営
7. 学校図書館経営
8. 学校図書館の施設・設備
9. 司書教諭の任務と職務
10. 学校図書館メディアの構成
11. 学校図書館メディアの選択・収集
12. 学校図書館メディアの管理・提供
13. 学校図書館活動
14. 評価試験
15. さまざまな図書館・まとめ

教科書

「シリーズ学校図書館学」編集委員会『学校経営と学校図書館(シリーズ学校図書館学第1巻)』(全国学校図書館協議会)

評価方法

- (1)提出物:60%
- (2)評価テスト:40%: 14回目に行い、最終回に解説をする。
出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物と評価試験とを併せ、総合的に評価する。

学校図書館メディアの構成

担当者：若松 昭子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容

学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。

2.カリキュラム上の位置づけ

学校図書館司書教諭の資格科目・児童学科の専門科目

2.学びの意義と目標

学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効率的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。

準備学習(予習)

教科書によく目を通し、与えられた課題はきちんとこなすこと。

準備学習(復習)

与えられた課題をきちんとやってくること。

授業計画

- 1.学校図書館メディアの種類
- 2.メディアの選択と収集
- 3.開架式と配列
- 4.分類(1)NDCの構成と特徴
- 5.分類(2)補助表とその働き-1
- 6.分類(3)補助表とその働き-2
- 7.分類(4)分類規程
- 8.図書記号と別置記号
- 9.件名標目表
- 10.目録(1)目録の歴史と種類
- 11.目録(2)アクセスポイント
- 12.目録(3)NCRと記述の実際
- 13.機械化と標準化
- 14.書誌ユーティリティとネットワーク
- 15.まとめと総合演習

教科書

『シリーズ学校図書館学』編集委員会『学校図書館メディアの構成(シリーズ学校図書館学第2巻)』(全国学校図書館協議会)

評価方法

(1)試験:40%:試験に代わるレポートになる場合もあり(2)小課題:30%(3)授業参加状況:30%:授業態度、授業への取り組み姿勢や積極性など毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席な大幅な原点となるので注意すること。

児童サービス論

担当者：黒沢 克朗

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

児童サービス論は、子どものための図書館サービスについて学ぶ科目である。図書館における児童サービスの意義や課題、図書館における児童サービスの具体的な方法などについて学んでいく。

2.カリキュラム上の位置づけ

児童サービスについての基礎的な科目である。

3.学びの意義と目標

児童サービスの意義と課題について理解することができるようになること。また、児童サービスの方法にはどのようなものがあるかについての認識をもち、図書館員の専門性について理解を深める。

2.学びの意義と目標

子どもを取り巻く環境を少しでも良くしようと、多方面から試行を重ねている現状。読書の面においても、国を挙げて力を入れている。2000年「子ども読書年」を境にし、児童サービスが大きく変わってきている。

子ども読書推進活動、朝の読書、絵本の読み聞かせ、ブックスタート、読書のアニメーション、調べ学習、といろいろなことが行われている。本講義では、これらのことに触れることは勿論のこと、公共図書館における児童サービスの意義や目的など、基本的なことを講義したい。

準備学習(予習)

課題については、事前に調査をし、締切日を厳守

準備学習(復習)

講義の中で紹介した本は、目を通すこと

授業計画

1. 児童サービスとは 児童サービスの意義と目的 いま、公立図書館は
2. 児童図書館の歩み 子どもの読書活動の推進
3. 朝の読書 ブックスタート
4. 児童サービスの業務 集会・行事活動 展示・PR
5. 児童サービスの業務 調べ学習・レファレンス
6. 子どもと本を結びつける1 絵本の読み聞かせとは
7. 子どもと本を結びつける2 おはなし会とは
8. 子どもと本を結びつける3絵本の読み聞かせをしてみよう 1
9. 子どもと本を結びつける4絵本の読み聞かせをしてみよう 2
10. 子どもと本を結びつける5ストーリーテリングとは
11. 子どもと本を結びつける6ブックトークとは ブックトークのプログラムを作る
12. 子どもと本を結びつける7ブックトークをしてみよう 読書のアニメーション
13. 各種機関との連携
14. ヤングアダルト、障がいをもった子ども、多文化サービス
15. 児童サービス担当者の役割 まとめ

教科書

堀川照代『児童サービス論(JLA図書館情報学テキストシリーズ2-11)』(日本図書館協会)

評価方法

(1)出席:50% (2)課題:20% (3)科目修得試験:30%

児童資料論

担当者：黒沢 克朗

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

子どもの本の現状、選書の重要性を柱として実践体験を基にして講義を展開させたい。

2.学びの意義と目標

授業では、読書の意義や読書観の変遷を振り返るとともに、時代を超えて長い間読み継がれてきた児童書の種類や特性、また児童書の新しい試みや出版動向などを分析し、実際に絵本を手にとり選定を行うなどの体験を通しながら、現在に生きる子どもの要望を組み入れた蔵書構成の考え方について学ぶ。

準備学習(予習)

課題については、事前に調査し、締切日を厳守すること

準備学習(復習)

講義のなかで紹介した本は、目を通すこと

授業計画

1. 児童資料とは 「図書館の自由に関する宣言」について児童資料では
2. 児童図書の出版状況 最近の児童書の特徴
3. 児童書の種類と特性 絵本
4. 児童書の種類と特性 児童文学 幼年
5. 児童書の種類と特性 ことば遊び・詩の本
6. 児童書の種類と特性 ノンフィクション
7. 児童書の種類と特性 視聴覚資料 その他
8. 児童の収集方針 蔵書構成
9. 絵本を選ぶ
10. 絵本を評価してみよう 1
11. 絵本を評価してみよう 2
12. レビュースリップを書いてみよう
13. 図書館の日常業務と資料
14. 資料提供サービス
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:50% (2)課題:20% (3)科目修得試験:30%

生涯学習概論

担当者：小池 茂子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

2. 学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。

準備学習(予習)

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)
3. 社会教育の定義(教育基本法、社会教育法)
4. 生涯教育の理念(1)
5. 生涯教育の理念(2)
6. 生涯教育の理念と社会背景(1)(社会の高齢化、平均余命の伸長)
7. 生涯教育の理念と社会背景(2)(社会の高齢化、平均余命の伸長)
8. 生涯教育の理念と社会背景(3)(生涯にわたる発達課題の解決に向けて)教育改革と生涯学習体系への移行
9. 生涯教育の理念と社会背景(4)(生涯にわたる発達課題の解決に向けて)教育改革と生涯学習体系への移行
10. 生涯教育の理念と社会背景(5)(学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か?戦後の青少年の非行など)
11. 生涯教育の理念と社会背景(6)(学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か?戦後の青少年の非行など)
12. 生涯教育の理念への批判
13. 教育改革と生涯学習体系への移行
14. 生涯学習時代における公共図書館の機能と課題
15. まとめ

教科書

鈴木真理 『生涯学習概論』(樹村房)

評価方法

(1)出席点:20% (2)試験:80%

担当者：田村 貴紀

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

館内、館外からのOPACによる情報サービス面だけではなく、図書館の資料・情報の保存という観点からも「電子化」が進み、情報機器は図書館の概念をも拡張するものになっている。本講では、この情報機器に関する理解を深め、授業環境の揺る範囲で活用できる技術を習得する。

2.学びの意義と目標

新しい図書館における多彩な情報メディアについて、その社会的意義を確認し、それをふまえて意義と目的を理解する。また、情報検索の指導に必要な各種概念・知識を身につける。

授業計画

1. ガイダンスおよび情報の生産と流通
2. 一次情報と二次情報
3. 情報とメディア
4. 検索の種類とその歴史
5. 論理演算と検索式
6. 分類と索引の役割
7. コンピュータに関する基礎知識
8. 2進数と文字コード
9. コンピュータ間の通信
10. インターネットの基礎技術
11. インターネットの社会的影響
12. 情報社会論 1 社会と情報
13. 情報社会論 2 人間関係と情報
14. 情報社会論 3 災害と情報
15. 試験とその解説

準備学習(予習)

授業用サイトに掲示された教材を呼んで理解する。

教科書

授業の中で指示する資料を、授業用ウェブサイトからダウンロードできるようにします。

準備学習(復習)

指定した練習問題を解答する。

評価方法

(1)平常点:30% (2)期末試験:70%

情報検索演習

担当者：坂内 悟

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

一次資料と二次情報をはじめとする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

2.学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための各種情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通じ実践的な情報検索能力を身につける。

準備学習(予習)

次回講義に予定している内容に該当する教科書のUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

演習については、同様の課題についての的確に資料を探することができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

授業計画

1. 情報検索とは何か
2. データベースの構造と索引作成
3. 検索の基本方針、検索語とフィールド
4. 論理演算、様々な検索機能(トランケーション等)、検索結果の出力と評価
5. 図書検索システム演習
6. 図書検索システム演習
7. 図書検索システム演習
8. 図書検索システム演習
9. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索(サーチエンジン)
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

教科書

安形 輝, 大谷 康晴 『情報検索演習 (JLA図書館情報学テキストシリーズ2-6)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)期末試験:85% (2)出席点 + 平常点:15%

情報サービス演習 A

担当者：気谷 陽子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

情報の専門家として必要なスキルを養成するために必要な情報検索サービス、レファレンスサービス、情報教育、発信型情報サービスなどの情報サービスに関する演習を行う。

2.学びの意義と目標

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務および各種情報源を活用したレファレンス調査、発信型情報サービスの演習を通し、情報サービスの実践的な能力を養成する。

授業計画

1. 授業の進め方
2. 図書情報を探す
3. 雑誌記事の情報を記録する
4. 雑誌記事を探す
5. 新聞記事を探す
6. 言葉を探す
7. 事柄を探す
8. 統計を探す
9. 歴史を探す
10. 地理・地名・地図を探す
11. 人物・企業・団体を探す
12. 法律・判例を探す
13. 特許を探す
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービス

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで授業に臨んでください。

教科書

原田 智子 『情報サービス演習 (現代図書館情報学シリーズ)』 (樹村房)

準備学習(復習)

教科書に引用されている情報メディアを図書館やインターネットで確認してください。

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

情報サービス演習 B

担当者：坂内 悟

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

一次資料と二次情報をはじめとする情報検索の基礎知識を身に付ける。電子ジャーナルを含むデータベース等の各種情報源について、その特性を理解し代表的な図書検索や雑誌記事検索等の検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。インターネット検索について、サーチエンジンの基礎知識を身に付け、情報検索における活用方法を理解する。また、パスファインダー作成演習を通じ様々な情報源を活用した情報サービス提供の基本を習得する。

2.学びの意義と目標

図書館司書として仕事をするための各種情報サービスについて理解する。情報サービスにおける情報検索についてその特性を理解し、演習を通じ実践的な情報検索能力を身につける。

準備学習(予習)

次回講義に予定している内容に該当する教科書のUNITについて一読し、不明点を明らかにしておくこと。

準備学習(復習)

演習については、同様の課題についての的確に資料を探することができるように、講義で指導した方法で特に難しいと感じた課題については、可能な限り類似の課題で演習を行うこと。

授業計画

1. 情報検索とは何か
2. データベースの構造と索引作成
3. 検索の基本方針、検索語とフィールド
4. 論理演算、様々な検索機能（トランケーション等）、検索結果の出力と評価
5. 図書検索システム演習
6. 図書検索システム演習
7. 図書検索システム演習
8. 図書検索システム演習
9. 雑誌記事検索システム演習
10. 雑誌記事検索システム演習
11. 雑誌記事検索システム演習
12. 雑誌記事検索システム演習
13. インターネット検索（サーチエンジン）
14. パスファインダー演習
15. パスファインダー演習

教科書

安形 輝, 大谷 康晴 『情報検索演習 (JLA図書館情報学テキストシリーズ2-6)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)期末試験:85% (2)出席点 + 平常点:15%

情報サービス概説

担当者：気谷 陽子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等について解説する。

2.学びの意義と目標

図書館における情報サービスの理論と実際について理解し、実践的な演習を行うのに十分な知識を身につけること

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで授業に臨んでください。

準備学習(復習)

教科書に引用されている情報メディアを図書館やインターネットで確認してください。

授業計画

1. 情報社会と図書館
2. 図書館における情報サービスの意義
3. 図書館における情報サービスの種類
4. 利用者の情報行動
5. レファレンスプロセス
6. レファレンスサービスの企画と実施
7. 組織と人材
8. レファレンスサービスの評価
9. 情報検索とは何か
10. 情報検索の流れ
11. 文献データベース
12. 発信型情報サービスの展開
13. 利用者教育の現状と展望
14. 各種情報源の特徴
15. 各種情報源の利用法

教科書

山崎 久道 『情報サービス論 (現代図書館情報学シリーズ)』 (樹村房)

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

情報サービス論

担当者：気谷 陽子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等について解説する。

2.学びの意義と目標

図書館における情報サービスの理論と実際について理解し、実践的な演習を行うのに十分な知識を身につけること

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで授業に臨んでください。

準備学習(復習)

教科書に引用されている情報メディアを図書館やインターネットで確認してください。

授業計画

1. 情報社会と図書館
2. 図書館における情報サービスの意義
3. 図書館における情報サービスの種類
4. 利用者の情報行動
5. レファレンスプロセス
6. レファレンスサービスの企画と実施
7. 組織と人材
8. レファレンスサービスの評価
9. 情報検索とは何か
10. 情報検索の流れ
11. 文献データベース
12. 発信型情報サービスの展開
13. 利用者教育の現状と展望
14. 各種情報源の特徴
15. 各種情報源の利用法

教科書

山崎 久道 『情報サービス論 (現代図書館情報学シリーズ)』 (樹村房)

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

情報資源組織演習（分類）

担当者：河島 茂生

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本演習では、情報資源組織論(分類)で学んだ知見をもとにして、具体的な分類作業の演習を行うこととする。日本の代表的図書分類ツールである『日本十進分類法(NDC)』新訂9版および『基本件名標目表(BSH)』第4版を使用し、またネットワーク情報資源の組織化で用いられている技法を採用し、数多くの演習例題や演習問題を通して分類作業を学ぶ。

2.学びの意義と目標

情報資源の組織化とは、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することであり、そのなかで分類作業は、図書館資料の主題をもとにして体系的に整理することを指す。本演習では、多くの演習を通じて、利用者の要求に資する資料組織法の体得を目指す。

準備学習(予習)

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

準備学習(復習)

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 日本十進分類法(NDC)の概要
2. 一般補助表(形式区分)を使った分類記号付与の概要
3. 一般補助表(形式区分)を使った分類記号付与の演習
4. 一般補助表(地理区分、海洋区分)を使った分類記号付与の概要
5. 一般補助表(地理区分、海洋区分)を使った分類記号付与の演習
6. 一般補助表(言語区分、言語共通区分、文学共通区分)を使った分類記号付与の概要
7. 一般補助表(言語区分、言語共通区分、文学共通区分)を使った分類記号付与の演習
8. 分類規程の説明とその演習
9. 基本件名標目表(BSH)の概要・演習
10. 細目を使った件名標目付与の概要とその演習
11. 件名規程の説明とその演習
12. XMLの概要とその演習
13. RDFの概要とその演習
14. Dublin Coreの概要とその演習
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:100%
ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

情報資源組織演習（分類）

担当者：気谷 陽子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本演習では、情報資源組織論(分類)で学んだ知見をもとにして、具体的な分類作業の演習を行うこととする。日本の代表的図書分類ツールである『日本十進分類法(NDC)』新訂9版および『基本件名標目表(BSH)』第4版を使用し、数多くの演習例題や演習問題を通して分類作業を学ぶ。

2.学びの意義と目標

情報資源の組織化とは、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することであり、そのなかで分類作業は、図書館資料の主題をもとにして体系的に整理することを指す。本演習では、多くの演習を通じて、利用者の要求に資する分類法の体得を目指す。

準備学習(予習)

教科書は目録と共通です。あらかじめ教科書を読んで授業に臨んでください。

準備学習(復習)

教科書に引用されている情報メディアを図書館やインターネットで確認してください。

授業計画

- 1.基本件名標目表(BSH)
- 2.総合演習問題
- 3.NDCの構成
- 4.形式区分
- 5.分類記号の付与
- 6.分類規定
- 7.NDC2類：歴史・地理を分類する
- 8.NDC1類：哲学・宗教を分類する
- 9.NDC7類：芸術を分類する
- 10.NDC8類：言語、9類：文学を分類する
- 11.NDC3類：社会科学を分類する(1)
- 12.NDC3類：社会科学を分類する(2)
- 13.NDC4類：自然科学、5類：技術を分類する
- 14.NDC6類：産業、0類：総記を分類する
- 15.図書記号、別置記号を付与する

教科書

吉田 憲一 『資料組織演習 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-10)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

情報資源組織演習（目録）

担当者：榎本 裕希子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

「情報資源組織論（目録）」で得た知識をもとに、『日本目録規則（NCR）1987年版改訂3版』を用いた図書館資料の目録作成を行う。対象資料は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成への理解を深める。

2.学びの意義と目標

『日本目録規則（NCR）』の仕組みや使用法を理解し、正確な書誌データ（記述や標目指示など）の作成ができるようになること。目録作業を学ぶことで図書館における情報資源組織化の役割を理解すること。

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくことが望ましい。

準備学習(復習)

板書とテキストを再読し、目録規則の内容を確認しておくこと。その際、実際の資料をもとに復習するのがより効果的である。

授業計画

1. ガイダンス（講義概要）
2. 記述に関する総則（1）
3. 記述に関する総則（2）
4. 図書の記述（1）タイトルと責任表示に関する事項
5. 図書の記述（2）タイトルと責任表示に関する事項
6. 図書の記述（3）タイトルと責任表示に関する事項
7. 図書の記述（4）版に関する事項，出版・頒布等に関する事項
8. 図書の記述（5）形態に関する事項，シリーズに関する事項
9. 図書の記述（6）注記に関する事項
10. 図書の記述（7）標準番号・入手条件に関する事項
11. 演習問題
12. 標目および標目指示（1）標目総則，タイトル標目
13. 標目および標目指示（2）著者標目，件名標目，分類標目
14. 演習問題
15. まとめ

教科書

吉田憲一編 『資料組織演習』（日本図書館協会）

評価方法

(1)試験:90% (2)出席:10%

情報資源組織論（分類）

担当者：河島 茂生

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館における分類作業とは、印刷資料や電子資料などの様々な資料をその内容に基づいて区分し分けることである。本授業では、分類作業の意義、方法、歴史、そして業務の実際などについて講義する。また、『日本十進分類法(NDC)』新訂9版や『基本件名標目表(BSH)』第4版を使って、分類作業のごく基礎的な訓練も行いたい。別置法や著者記号表についても触れ、ネットワーク情報資源の組織化にも踏み込んで解説する。

2.学びの意義と目標

情報資源の組織化とは、図書館資料を利用者が有効に利用できるように、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することである。この作業は、大別すると目録作業と分類作業の2つに分けられるが、この授業では後者の分類作業を集中的に学ぶこととする。分類作業は図書館の運営にとって必要不可欠な業務であり、分類作業を行うことによってはじめて利用者が資料の主題を手がかりとしながら資料を探ることができるようになる。

準備学習(予習)

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

準備学習(復習)

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 資料の組織化
2. 分類の定義と意義(請求記号の解説を含む)
3. 分類法の種類と歩み
4. 分類作業の手順(主題分析を含む)
5. 日本十進分類法(NDC)の概要
6. 日本十進分類法(NDC)のレッスン
7. 件名標目表とシソーラスの共通点および相違点(代表的な統制語彙集の紹介を含む)
8. 基本件名標目表(BSH)の概要
9. 基本件名標目表(BSH)の細目の使い方
10. 基本件名標目表(BSH)のレッスン
11. 別置法
12. 著者記号表
13. ネットワーク情報資源の組織化：XML、RDF
14. ネットワーク情報資源の組織化：Dublin Coreなど
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:100%
ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

情報資源組織論（分類）

担当者：気谷 陽子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1. 内容

図書館における分類作業とは、印刷資料や電子資料などの様々な資料をその内容に基づいて区分し分けることである。本授業では、分類作業の意義、方法、歴史、そして業務の実際などについて講義する。

2. 学びの意義と目標

情報資源の組織化とは、図書館資料を利用者が有効に利用できるような、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することである。この作業は、大別すると目録作業と分類作業の2つに分けられるが、この授業では後者の分類作業を集中的に学ぶこととする。分類作業は図書館の運営にとって必要不可欠な業務であり、分類作業を行うことによってはじめて利用者が資料の主題を手がかりとしながら資料を探ることができるようになる。

準備学習(予習)

教科書は目録と共通です。あらかじめ教科書を読んで授業に臨んでください

準備学習(復習)

教科書に引用されている情報メディアを図書館やインターネットで確認してください。

授業計画

1. 主題組織法の意義
2. 索引法
3. ファセットという考え方
4. 分類法
5. 分類法の種類
6. 日本十進分類法(NDC)
7. 分類項目の構成
8. 補助表
9. 分類規定
10. 複雑な主題への応用
11. 分類作業と所在記号
12. 語による主題組織法
13. 自然語と統制語
14. 統制語彙表
15. 基本件名標目表(BSH)

教科書

高山 正也, 植松 貞夫, 田窪 直規 『情報資源組織論(現代図書館情報学シリーズ)』(樹村房)

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

情報資源組織論（目録）

担当者：榎本 裕希子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講では、図書館情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源などからなる）の組織化の理論を解説する。書誌記述法、書誌コントロール等について解説し、図書館における情報資源組織化の意義や機能について学習する。

2.学びの意義と目標

図書館における情報資源組織法の意義や機能について理解し、「情報資源組織演習」に必要となる目録作業等に必要基礎知識を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくこと。必要に応じて、図書館に行き現状を確認することが望ましい。

準備学習(復習)

板書と配布資料、授業中に指定したテキストの解説箇所を再読し、理解を深めておく。特に新しく取り上げられた用語について整理しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス・図書館業務と情報資源組織法
2. 情報資源組織化の意義と理論
3. 書誌記述法（主要な書誌記述規則）
4. 目録規則の歴史と動向 西洋編
5. 目録規則の歴史と動向 日本編
6. 目録法と目録規則（1）記入の構成要素ほか
7. 目録法と目録規則（2）記述とその標準化（ISBDを中心に）
8. 目録法と目録規則（3）標目とその標準化（パリ原則を中心に）
9. 日本目録規則（1）基本記入方式・等価標目方式ほか
10. 日本目録規則（2）各書誌的事項について
11. 書誌コントロールと標準化
12. 書誌情報の作成と流通（1）（MARC，集中目録作業）
13. 書誌情報の作成と流通（2）（書誌ユーティリティ，共同目録作業）
14. 書誌情報の提供（OPACの管理と運用）
15. まとめ

教科書

田窪直規編集 『情報資源組織論』（樹村房）

評価方法

(1)試験:80% (2)出席:20%

情報メディア史

担当者：若松 昭子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

情報メディアの変遷と歴史を概観し、それらの変化が人々の知的活動や社会の状況にどのような影響を与えてきたかを考える。また、知識の体系化を担う図書館が、「知識は一部の人の所有物」という考え方から、「知識は万人の公共財産」という理念に向かって、どのような展開をとげてきたのかを各時代の社会的状況や文化的役割との関わりで考察する。

2.学びの意義と目標

情報メディアの歴史と変遷は人間の思考パターンやコミュニケーションのあり様をどのように変化させたのか、また様々なメディアを収集・保存し、利用に供する市民のための図書館はどのような発展を経たのかなどに注目し、メディアと人間のかかわりについて理解を深める。

準備学習(予習)

教科書に目を通し、課題をきちんとこなすこと。

準備学習(復習)

授業内容の理解に努め、与えられた課題をきちんとこなすこと。

授業計画

1. 情報メディア史の意義
2. 文字・記録のはじまり
3. 粘土板と古代の図書館
4. パピルスからパーチメントへ
5. 中世の書物文化と修道院図書館
6. 大学の誕生と書物
7. 印刷術の発明と普及
8. 読書様式の変化
9. 国家形成と国立図書館
10. コーヒーハウスと貸本屋
11. 公共図書館の誕生
12. コンピュータと図書館
13. 日本の図書館と書物文化(1)
14. 日本の図書館と書物文化(2)
15. まとめとディスカッション

教科書

ブリュノ ブラセル, 荒俣 宏, Bruno Blasselle, 木村 恵一 『本の歴史(「知の再発見」双書)』(創元社)

評価方法

(1)試験:50%:試験に代わるレポートあり(2)小課題:20%(3)授業参加状況:30%:授業態度、授業への取り組みや、ディスカッション時の積極性など
毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる

情報メディアの活用

担当者：気谷 陽子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

学校図書館で取り扱う印刷資料と電子資料について、情報資源の利活用について学ぶ

2.学びの意義と目標

本講義の意義は、司書教諭が情報メディアの専門家つまりメディアスペシャリストであるために必要な知識を体系的に学ぶことであり、学校図書館で取り扱う情報メディアをめぐる環境や具体的な情報メディアについて基礎知識を獲得することを目標とする。

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで授業に臨んでください。

準備学習(復習)

教科書に引用されている情報メディアを図書館やインターネットで確認してください。

授業計画

1. 情報という視点からみた人類社会の過去・現在・未来
2. 高度情報通信社会の構造と特質
3. 高度情報通信社会の倫理と法
4. 情報通信技術と学校教育
5. 学校教育と情報メディア
6. 学校図書館と情報リテラシー教育
7. 学校図書館と情報検索
8. 学校図書館とコンテンツ
9. 教科教育と情報メディア
10. 情報コンテンツの制作とそのツール
11. 情報発信とコンテンツの制作
12. 適切妥当な情報利用
13. 著作権制度の基本的仕組み
14. 学校図書館をめぐるネットワーク
15. 学校図書館と情報メディア教育の将来

教科書

山本 順一 『情報メディアの活用 (放送大学教材)』 (放送大学教育振興会)

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

資料組織演習(分類)

担当者：河島 茂生

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本演習では、情報資源組織論(分類)で学んだ知見をもとにして、具体的な分類作業の演習を行うこととする。日本の代表的図書分類ツールである『日本十進分類法(NDC)』新訂9版および『基本件名標目表(BSH)』第4版を使用し、またネットワーク情報資源の組織化で用いられている技法を採用し、数多くの演習例題や演習問題を通して分類作業を学ぶ。

2.学びの意義と目標

情報資源の組織化とは、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することであり、そのなかで分類作業は、図書館資料の主題をもとにして体系的に整理することを指す。本演習では、多くの演習を通じて、利用者の要求に資する資料組織法の体得を目指す。

準備学習(予習)

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

準備学習(復習)

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 日本十進分類法(NDC)の概要
2. 一般補助表(形式区分)を使った分類記号付与の概要
3. 一般補助表(形式区分)を使った分類記号付与の演習
4. 一般補助表(地理区分、海洋区分)を使った分類記号付与の概要
5. 一般補助表(地理区分、海洋区分)を使った分類記号付与の演習
6. 一般補助表(言語区分、言語共通区分、文学共通区分)を使った分類記号付与の概要
7. 一般補助表(言語区分、言語共通区分、文学共通区分)を使った分類記号付与の演習
8. 分類規程の説明とその演習
9. 基本件名標目表(BSH)の概要・演習
10. 細目を使った件名標目付与の概要とその演習
11. 件名規程の説明とその演習
12. XMLの概要とその演習
13. RDFの概要とその演習
14. Dublin Coreの概要とその演習
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:100%
ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

資料組織演習(分類)

担当者：気谷 陽子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

本演習では、情報資源組織論(分類)で学んだ知見をもとにして、具体的な分類作業の演習を行うこととする。日本の代表的図書分類ツールである『日本十進分類法(NDC)』新訂9版および『基本件名標目表(BSH)』第4版を使用し、数多くの演習例題や演習問題を通して分類作業を学ぶ。

2.学びの意義と目標

情報資源の組織化とは、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することであり、そのなかで分類作業は、図書館資料の主題をもとにして体系的に整理することを指す。本演習では、多くの演習を通じて、利用者の要求に資する分類法の体得を目指す。

準備学習(予習)

教科書は目録と共通です。あらかじめ教科書を読んで授業に臨んでください。

準備学習(復習)

教科書に引用されている情報メディアを図書館やインターネットで確認してください。

授業計画

- 1.基本件名標目表(BSH)
- 2.総合演習問題
- 3.NDCの構成
- 4.形式区分
- 5.分類記号の付与
- 6.分類規定
- 7.NDC2類：歴史・地理を分類する
- 8.NDC1類：哲学・宗教を分類する
- 9.NDC7類：芸術を分類する
- 10.NDC8類：言語、9類：文学を分類する
- 11.NDC3類：社会科学を分類する(1)
- 12.NDC3類：社会科学を分類する(2)
- 13.NDC4類：自然科学、5類：技術を分類する
- 14.NDC6類：産業、0類：総記を分類する
- 15.図書記号、別置記号を付与する

教科書

吉田 憲一 『資料組織演習 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-10)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

資料組織演習(目録)

担当者：榎本 裕希子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

「情報資源組織論(目録)」で得た知識をもとに、『日本目録規則(NCR)1987年版改訂3版』を用いた図書館資料の目録作成を行う。対象資料は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成への理解を深める。

2.学びの意義と目標

『日本目録規則(NCR)』の仕組みや使用法を理解し、正確な書誌データ(記述や標目指示など)の作成ができるようになること。目録作業を学ぶことで図書館における情報資源組織化の役割を理解すること。

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくことが望ましい。

準備学習(復習)

板書とテキストを再読し、目録規則の内容を確認しておくこと。その際、実際の資料をもとに復習するのがより効果的である。

授業計画

1. ガイダンス(講義概要)
2. 記述に関する総則(1)
3. 記述に関する総則(2)
4. 図書の記述(1) タイトルと責任表示に関する事項
5. 図書の記述(2) タイトルと責任表示に関する事項
6. 図書の記述(3) タイトルと責任表示に関する事項
7. 図書の記述(4) 版に関する事項, 出版・頒布等に関する事項
8. 図書の記述(5) 形態に関する事項, シリーズに関する事項
9. 図書の記述(6) 注記に関する事項
10. 図書の記述(7) 標準番号・入手条件に関する事項
11. 演習問題
12. 標目および標目指示(1) 標目総則, タイトル標目
13. 標目および標目指示(2) 著者標目, 件名標目, 分類標目
14. 演習問題
15. まとめ

教科書

吉田憲一編 『資料組織演習』(日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:90% (2)出席:10%

資料組織概説(分類)

担当者：河島 茂生

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館における分類作業とは、印刷資料や電子資料などの様々な資料をその内容に基づいて区分し分けることである。本授業では、分類作業の意義、方法、歴史、そして業務の実際などについて講義する。また、『日本十進分類法(NDC)』新訂9版や『基本件名標目表(BSH)』第4版を使って、分類作業のごく基礎的な訓練も行いたい。別置法や著者記号表についても触れ、ネットワーク情報資源の組織化にも踏み込んで解説する。

2.学びの意義と目標

情報資源の組織化とは、図書館資料を利用者が有効に利用できるような、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することである。この作業は、大別すると目録作業と分類作業の2つに分けられるが、この授業では後者の分類作業を集中的に学ぶこととする。分類作業は図書館の運営にとって必要不可欠な業務であり、分類作業を行うことによって初めて利用者が資料の主題を手がかりとしながら資料を探ることができるようになる。

準備学習(予習)

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

準備学習(復習)

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 資料の組織化
2. 分類の定義と意義(請求記号の解説を含む)
3. 分類法の種類と歩み
4. 分類作業の手順(主題分析を含む)
5. 日本十進分類法(NDC)の概要
6. 日本十進分類法(NDC)のレッスン
7. 件名標目表とシソーラスの共通点および相違点(代表的な統制語彙集の紹介を含む)
8. 基本件名標目表(BSH)の概要
9. 基本件名標目表(BSH)の細目の使い方
10. 基本件名標目表(BSH)のレッスン
11. 別置法
12. 著者記号表
13. ネットワーク情報資源の組織化：XML、RDF
14. ネットワーク情報資源の組織化：Dublin Coreなど
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:100%
ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

資料組織概説(分類)

担当者：気谷 陽子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館における分類作業とは、印刷資料や電子資料などの様々な資料をその内容に基づいて区分し分けることである。本授業では、分類作業の意義、方法、歴史、そして業務の実際などについて講義する。

2.学びの意義と目標

情報資源の組織化とは、図書館資料を利用者が有効に利用できるような、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することである。この作業は、大別すると目録作業と分類作業の2つに分けられるが、この授業では後者の分類作業を集中的に学ぶこととする。分類作業は図書館の運営にとって必要不可欠な業務であり、分類作業を行うことによってはじめて利用者が資料の主題を手がかりとしながら資料を探ることができるようになる。

準備学習(予習)

教科書は目録と共通です。あらかじめ教科書を読んで授業に臨んでください

準備学習(復習)

教科書に引用されている情報メディアを図書館やインターネットで確認してください。

授業計画

1. 主題組織法の意義
2. 索引法
3. ファセットという考え方
4. 分類法
5. 分類法の種類
6. 日本十進分類法(NDC)
7. 分類項目の構成
8. 補助表
9. 分類規定
10. 複雑な主題への応用
11. 分類作業と所在記号
12. 語による主題組織法
13. 自然語と統制語
14. 統制語彙表
15. 基本件名標目表(BSH)

教科書

高山正也, 植松貞夫, 田窪直規 『情報資源組織論(現代図書館情報学シリーズ)』(樹村房)

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

資料組織概説(目録)

担当者：榎本 裕希子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本講では、図書館情報資源（印刷資料・非印刷資料・電子資料・ネットワーク情報資源などからなる）の組織化の理論を解説する。書誌記述法、書誌コントロール等について解説し、図書館における情報資源組織化の意義や機能について学習する。

2.学びの意義と目標

図書館における情報資源組織法の意義や機能について理解し、「情報資源組織演習」に必要となる目録作業等に必要基礎知識を身につけることを目標とする。

準備学習(予習)

授業計画を確認し、テキストの該当箇所を一読しておくこと。必要に応じて、図書館に行き現状を確認することが望ましい。

準備学習(復習)

板書と配布資料、授業中に指定したテキストの解説箇所を再読し、理解を深めておく。特に新しく取り上げられた用語について整理しておくこと。

授業計画

1. ガイダンス・図書館業務と情報資源組織法
2. 情報資源組織化の意義と理論
3. 書誌記述法（主要な書誌記述規則）
4. 目録規則の歴史と動向 西洋編
5. 目録規則の歴史と動向 日本編
6. 目録法と目録規則（1）記入の構成要素ほか
7. 目録法と目録規則（2）記述とその標準化（ISBDを中心に）
8. 目録法と目録規則（3）標目とその標準化（パリ原則を中心に）
9. 日本目録規則（1）基本記入方式・等価標目方式ほか
10. 日本目録規則（2）各書誌的事項について
11. 書誌コントロールと標準化
12. 書誌情報の作成と流通（1）（MARC，集中目録作業）
13. 書誌情報の作成と流通（2）（書誌ユーティリティ，共同目録作業）
14. 書誌情報の提供（OPACの管理と運用）
15. まとめ

教科書

田窪直規編集 『情報資源組織論』（樹村房）

評価方法

(1)試験:80% (2)出席:20%

専門資料論

担当者：岡谷 大

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

専門資料の意義や学術コミュニケーションの構造、電子情報・検索などのインフラを説明し、具体的に人文、社会、自然科学のそれぞれの情報や資料について説明する。カリキュラム的には「図書館資料論」の具体版である。情報検索との関連や学術論、科学社会学、計量書誌学等との関連もあり、抽象的で難解なところもあるかもしれない。

2.学びの意義と目標

目標としては人文、社会、自然科学の学問的・科学社会的な構造の理解のもとに、具体的に各分野の主要な情報・資料が理解できること、電子情報・資料・データベースが理解できることを望んでいる。

準備学習(予習)

事前のシラバス確認。

準備学習(復習)

配布資料の再読と整理。

授業計画

1. 専門資料の定義、構造
2. 専門資料の種類と構成
3. 学術コミュニケーションの社会的構造、学術コミュニケーションシステム
4. 学術コミュニケーションへのアクセスと利用、書誌コントロール
5. オンラインデータベース、電子出版、電子ジャーナル
6. インターネットと学術情報
7. 人文科学の諸分野、情報生産・流通
8. 人文社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
9. 社会科学の諸分野、情報生産・流通
10. 社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
11. 自然科学の諸分野、情報生産・流通
12. 自然科学の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
13. 生活の諸分野、情報生産・流通
14. 生活分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
15. まとめ

教科書

三浦 逸雄, 野末 俊比古 『専門資料論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ2-8)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:40% (3)レポート:10%

読書と豊かな人間性

担当者：小川 三和子

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

司書教諭資格取得の必修5科目のうちの1つ。読書の意義と目的、発達段階に応じた読書指導、子どもと本を結ぶための方法、各教科等における読書指導などについて考察したり、様々な読書活動を体験したりする。講義だけでなく、作業や体験、実習、討論などを取り入れた学習を展開する予定である。

2.学びの意義と目標

読書センターとしての学校図書館の役割を理解し、勤務校の読書指導計画を策定し、読書活動推進の要となる司書教諭としての資質を身に付ける。また、さまざまな読書活動を率先垂範できる実践力を養う。

準備学習(予習)

多くの児童書に親しんで欲しい。児童書を選択して持参することを課す授業が何回かあるので、その都度必要な児童書を準備すること。

準備学習(復習)

ノートを整理し、知識として学んだことと今後も考察していくべきことを明確にする。

授業計画

1. 読書の意義と目的・子どもの読書環境
2. 多様な読書資料とその選択・紹介
3. 発達段階に応じた読書指導
4. 読書環境の整備と読書材の提供・紹介
5. 子どもと本を結ぶための方法・読み聞かせ等
6. 子どもと本を結ぶための方法・ブックトーク
7. 子どもと本を結ぶための方法・アニメーション
8. 子どもと本を結ぶための方法・読書会
9. 各教科等における読書指導
10. 各教科等における読書指導
11. 個に応じた読書と指導
12. 学校経営と読書教育・年間計画
13. 司書教諭の役割
14. 評価試験
15. 地域社会との連携・まとめ

教科書

『シリーズ学校図書館学』編集委員会『読書と豊かな人間性(シリーズ学校図書館学第4巻)』(全国学校図書館協議会)

評価方法

(1)学習の準備:30% (2)提出物:30% (3)評価試験:40%
出席が本学の規定に満たない者は、単位取得不可。
提出物、実習の準備、評価試験とを併せ、総合的に評価する。

図書館概論

担当者：岡谷 大

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

2.学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

準備学習(予習)

シラバスを参照すること。

準備学習(復習)

配布プリントを再読し、内容をまとめること。

授業計画

1. 図書館とはなにか
2. 現代社会と図書館
3. 出版と図書館、著作権
4. 図書館の理念
5. 図書館法規と行政、施策
6. 地域社会と図書館
7. 公共図書館の制度と機能
8. 学校図書館の制度と機能
9. 大学図書館の制度と機能
10. 専門図書館の制度と機能
11. 国立図書館の制度と機能
12. 図書館の歴史的展開
13. 外国の図書館
14. 図書館関係団体と学習の手引き
15. まとめ

教科書

塩見昇 『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:40% (3)レポート:10%

図書館概論

担当者：若松 昭子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

2.学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

準備学習(予習)

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

準備学習(復習)

授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。

授業計画

1. 図書館の定義
2. 図書館の種類
3. 図書館の理念
4. 情報社会と図書館
5. 図書館の自由に関する宣言
6. 図書館員の倫理綱領
7. 図書館に関する法規
8. 公立図書館の制度と機能 1
9. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

教科書

塩見 昇 『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1)』 (日本図書館協会)

評価方法

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

図書館基礎特論

担当者：黒沢 克朗

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

子どもの本の現状、選書の重要性を柱として実践体験を基にして講義を展開させたい。

2.学びの意義と目標

授業では、読書の意義や読書観の変遷を振り返るとともに、時代を超えて長い間読み継がれてきた児童書の種類や特性、また児童書の新しい試みや出版動向などを分析し、実際に絵本を手にとり選定を行うなどの体験を通しながら、現在に生きる子どもの要望を組み入れた蔵書構成の考え方について学ぶ。

準備学習(予習)

課題については、事前に調査し、締切日を厳守すること

準備学習(復習)

講義のなかで紹介した本は、目を通すこと

授業計画

1. 児童資料とは 「図書館の自由に関する宣言」について児童資料では
2. 児童図書の出版状況 最近の児童書の特徴
3. 児童書の種類と特性 絵本
4. 児童書の種類と特性 児童文学 幼年
5. 児童書の種類と特性 ことば遊び・詩の本
6. 児童書の種類と特性 ノンフィクション
7. 児童書の種類と特性 視聴覚資料 その他
8. 児童の収集方針 蔵書構成
9. 絵本を選ぶ
10. 絵本を評価してみよう 1
11. 絵本を評価してみよう 2
12. レビュースリップを書いてみよう
13. 図書館の日常業務と資料
14. 資料提供サービス
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:50% (2)課題:20% (3)科目修得試験:30%

担当者：河島 茂生

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について議論していく。

2.学びの意義と目標

本科目の履修を通じて、管理者(館長など)でなくとも、図書館で働くにあたって最低限身につけなければならない経営の知識が習得できると考えられる。

準備学習(予習)

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

準備学習(復習)

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 図書館経営の意義
2. 図書館業務の概要(1) 資料提供サービス(施設・設備を含む)
3. 図書館業務の概要(2) 情報提供サービス(施設・設備を含む)
4. 図書館の目的策定
5. 図書館の計画策定(予算関係を含む)
6. 図書館評価の概要
7. 図書館評価の指標(調査法を含む)
8. 図書館評価のレッスン
9. 図書館のマーケティング
10. 図書館の組織・職員
11. 図書館業務の委託、New Public Management
12. Private Finance Initiative
13. 図書館法
14. 図書館関連の法規(図書館政策を含む)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:100%
ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

図書館サービス概論

担当者：岡谷 大

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

サービスの具体面では、資料提供による来館者へのサービス、近年定着してきたフロア・サービス、貸出、リクエストなどのサービスの展開、情報・コンピュータによるサービス、課題解決サービス、児童・障害者・高齢者・多文化サービスなど利用者の類型に応じたサービス、さらには最近活発になっている、図書館における集会・行事などのサービスや利用者のモラルなどの利用者との交流を考える。

2.学びの意義と目標

図書館サービスの意義を強調し、マネジメントとの関係、特にサービスにおけるコンピュータの役割とその限界などを説明する。

準備学習(予習)

事前のシラバス確認を行うこと。

準備学習(復習)

配布資料を再読しまとめること。

授業計画

1. 図書館サービスの考え方と構造
2. 図書館サービスとマネジメント
3. 来館者へのサービス
4. 利用空間の整備
5. 貸出、予約サービスの構造
6. レファレンスなどの資料提供
7. 利用案内、セミナーなどの展開
8. 図書館ネットワークによる情報提供
9. 障害者へのサービス
10. 高齢者、多文化サービス
11. 課題解決支援サービス
12. 多様な利用者サービス
13. 利用者との接遇、コミュニケーション、広報活動
14. 図書館サービスと著作権
15. まとめ

教科書

小田 光宏 『図書館サービス論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ2)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:40% (3)レポート:10%

図書館サービス論

担当者：岡谷 大

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

サービスの具体面では、資料提供による来館者へのサービス、近年定着してきたフロア・サービス、貸出、リクエストなどのサービスの展開、情報・コンピュータによるサービス、課題解決サービス、児童・障害者・高齢者・多文化サービスなど利用者の類型に応じたサービス、さらには最近活発になっている、図書館における集会・行事などのサービスや利用者のモラルなどの利用者との交流を考える。

2.学びの意義と目標

図書館サービスの意義を強調し、マネジメントとの関係、特にサービスにおけるコンピュータの役割とその限界などを説明する。

準備学習(予習)

事前のシラバス確認を行うこと。

準備学習(復習)

配布資料を再読しまとめること。

授業計画

1. 図書館サービスの考え方と構造
2. 図書館サービスとマネジメント
3. 来館者へのサービス
4. 利用空間の整備
5. 貸出、予約サービスの構造
6. レファレンスなどの資料提供
7. 利用案内、セミナーなどの展開
8. 図書館ネットワークによる情報提供
9. 障害者へのサービス
10. 高齢者、多文化サービス
11. 課題解決支援サービス
12. 多様な利用者サービス
13. 利用者との接遇、コミュニケーション、広報活動
14. 図書館サービスと著作権
15. まとめ

教科書

小田 光宏 『図書館サービス論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ2)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:40% (3)レポート:10%

図書館情報学概論

担当者：岡谷 大

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

2.学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

準備学習(予習)

シラバスを参照すること。

準備学習(復習)

配布プリントを再読し、内容をまとめること。

授業計画

1. 図書館とはなにか
2. 現代社会と図書館
3. 出版と図書館、著作権
4. 図書館の理念
5. 図書館法規と行政、施策
6. 地域社会と図書館
7. 公共図書館の制度と機能
8. 学校図書館の制度と機能
9. 大学図書館の制度と機能
10. 専門図書館の制度と機能
11. 国立図書館の制度と機能
12. 図書館の歴史的展開
13. 外国の図書館
14. 図書館関係団体と学習の手引き
15. まとめ

教科書

塩見昇 『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:40% (3)レポート:10%

担当者：若松 昭子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

2.学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

準備学習(予習)

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

準備学習(復習)

授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。

授業計画

1. 図書館の定義
2. 図書館の種類
3. 図書館の理念
4. 情報社会と図書館
5. 図書館の自由に関する宣言
6. 図書館員の倫理綱領
7. 図書館に関する法規
8. 公立図書館の制度と機能 1
9. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

教科書

塩見 昇 『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1)』 (日本図書館協会)

評価方法

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

担当者：河島 茂生

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館の業務に欠かせない情報技術の知識を修得するために、コンピュータ技術やインターネット技術の基礎、図書館の業務システム、検索エンジンやデータベースの仕組み、電子資料(電子ジャーナル、電子書籍)などについて解説し、必要に応じて演習を行う。

2.学びの意義と目標

情報社会のなかにあつて、図書館と情報技術は切っても切り離せない関係になっている。情報技術の影響で図書館業務は効率化した。しかし、負の側面も抱えている。知っておかなければならない技術の解説だけでなく、現状のあり方を批判的に考察する思考をも養う。

準備学習(予習)

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

準備学習(復習)

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 情報社会のなかでの図書館の役割
2. 図書館における情報技術の変遷
3. 図書館における情報機器の役割と実際
4. コンピュータの仕組みとその歴史
5. インターネットの仕組みとその歴史
6. 情報検索の基礎：情報とはなにか、検索とはなにか
7. 情報検索の実際（1）サーチエンジン
8. 情報検索の実際（2）データベース
9. インターネット上の情報発信（1）(X)HTML / CSS, CMS,
10. インターネット上の情報発信（2）ウェブユーザビリティ, ウェブアクセシビリティ
11. 電子資料
12. コンピュータシステムの管理
13. デジタルアーカイブ
14. 最新の情報技術と図書館
15. まとめ

教科書

河島茂生(編) 『図書館情報技術論』(ミネルヴァ書房)

評価方法

(1)試験:100%
ただし、単位修得にあたっては、出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

図書館情報資源概論

担当者：岡谷 大

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館資料に関してその意義や類型（印刷資料、非印刷資料、特殊資料など）を概説し、とくに図書館の自由との関係や、蔵書構成、資料選択など図書館・情報学の中核となる理論について紹介、考察する。さらに出版と販売、資料の受け入れ、書庫管理などの具体面も説明する。カリキュラム上の位置づけとしては「専門資料論」の基礎分野となるほか、図書館の内と外（出版、販売など）の関係にふれている。

2.学びの意義と目標

意義と目標としては図書館資料に関してその類型や構造が理解でき、さらに出版と販売、資料の受入など具体的な側面も理解できること、蔵書構成と資料選択といった理論面の理解がなされることを望んでいる。

準備学習(予習)

事前にシラバスを確認してほしい。

準備学習(復習)

配布資料の再読と整理。

授業計画

1. 図書館情報資源
2. 印刷資料（1）
3. 印刷資料（2）
4. 非印刷資料
5. 電子資料
6. 資料特論（1）
7. 資料特論（2）
8. 出版流通システム
9. 図書館の「知的自由」
10. 蔵書論
11. 収集と選択
12. 蔵書管理
13. 資料の組織化
14. 書庫管理
15. まとめ

教科書

馬場俊明『図書館情報資源概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ)』(日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:40% (3)レポート:10%

担当者：岡谷 大

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

専門資料の意義や学術コミュニケーションの構造、電子情報・検索などのインフラを説明し、具体的に人文、社会、自然科学のそれぞれの情報や資料について説明する。カリキュラム的には「図書館資料論」の具体版である。情報検索との関連や学術論、科学社会学、計量書誌学等との関連もあり、抽象的で難解なところもあるかもしれない。

2.学びの意義と目標

目標としては人文、社会、自然科学の学問的・科学社会的な構造の理解のもとに、具体的に各分野の主要な情報・資料が理解できること、電子情報・資料・データベースが理解できることを望んでいる。

準備学習(予習)

事前のシラバス確認。

準備学習(復習)

配布資料の再読と整理。

授業計画

1. 専門資料の定義、構造
2. 専門資料の種類と構成
3. 学術コミュニケーションの社会的構造、学術コミュニケーションシステム
4. 学術コミュニケーションへのアクセスと利用、書誌コントロール
5. オンラインデータベース、電子出版、電子ジャーナル
6. インターネットと学術情報
7. 人文科学の諸分野、情報生産・流通
8. 人文社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
9. 社会科学の諸分野、情報生産・流通
10. 社会科学分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
11. 自然科学の諸分野、情報生産・流通
12. 自然科学の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
13. 生活の諸分野、情報生産・流通
14. 生活分野の情報資料の特性、書誌コントロール、アクセスと利用
15. まとめ

教科書

三浦 逸雄, 野末 俊比古 『専門資料論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ2-8)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:40% (3)レポート:10%

担当者：岡谷 大

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館資料に関してその意義や類型（印刷資料、非印刷資料、特殊資料など）を概説し、とくに図書館の自由との関係や、蔵書構成、資料選択など図書館・情報学の中核となる理論について紹介、考察する。さらに出版と販売、資料の受け入れ、書庫管理などの具体面も説明する。カリキュラム上の位置づけとしては「専門資料論」の基礎分野となるほか、図書館の内と外（出版、販売など）の関係にふれている。

2.学びの意義と目標

意義と目標としては図書館資料に関してその類型や構造が理解でき、さらに出版と販売、資料の受入など具体的な側面も理解できること、蔵書構成と資料選択といった理論面の理解がなされることを望んでいる。

準備学習(予習)

事前にシラバスを確認してほしい。

準備学習(復習)

配布資料の再読と整理。

授業計画

1. 図書館情報資源
2. 印刷資料（1）
3. 印刷資料（2）
4. 非印刷資料
5. 電子資料
6. 資料特論（1）
7. 資料特論（2）
8. 出版流通システム
9. 図書館の「知的自由」
10. 蔵書論
11. 収集と選択
12. 蔵書管理
13. 資料の組織化
14. 書庫管理
15. まとめ

教科書

馬場俊明『図書館情報資源概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ)』(日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:40% (3)レポート:10%

担当者：河島 茂生

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について議論していく。

2.学びの意義と目標

本科目の履修を通じて、管理者(館長など)でなくとも、図書館で働くにあたって最低限身につけなければならない経営の知識が習得できると考えられる。

準備学習(予習)

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

準備学習(復習)

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 図書館経営の意義
2. 図書館業務の概要(1) 資料提供サービス(施設・設備を含む)
3. 図書館業務の概要(2) 情報提供サービス(施設・設備を含む)
4. 図書館の目的策定
5. 図書館の計画策定(予算関係を含む)
6. 図書館評価の概要
7. 図書館評価の指標(調査法を含む)
8. 図書館評価のレッスン
9. 図書館のマーケティング
10. 図書館の組織・職員
11. 図書館業務の委託、New Public Management
12. Private Finance Initiative
13. 図書館法
14. 図書館関連の法規(図書館政策を含む)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:100%
ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

レファレンスサービス演習

担当者：気谷 陽子

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

情報の専門家として必要なスキルを養成するために必要な情報検索サービス、レファレンスサービス、情報教育、発信型情報サービスなどの情報サービスに関する演習を行う。

2.学びの意義と目標

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務および各種情報源を活用したレファレンス調査、発信型情報サービスの演習を通し、情報サービスの実践的な能力を養成する。

準備学習(予習)

あらかじめ教科書を読んで授業に臨んでください。

準備学習(復習)

教科書に引用されている情報メディアを図書館やインターネットで確認してください。

授業計画

1. 授業の進め方
2. 図書情報を探す
3. 雑誌記事の情報を記録する
4. 雑誌記事を探す
5. 新聞記事を探す
6. 言葉を探す
7. 事柄を探す
8. 統計を探す
9. 歴史を探す
10. 地理・地名・地図を探す
11. 人物・企業・団体を探す
12. 法律・判例を探す
13. 特許を探す
14. レファレンスブックを評価する
15. 発信型情報サービス

教科書

原田 智子 『情報サービス演習 (現代図書館情報学シリーズ)』 (樹村房)

評価方法

(1)出席:20% (2)レポート:20% (3)試験:60%

教育経営

担当者：村上 純一

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

本科目は、教育政策・教育制度に関する視点を中心に教育の経営・学校経営を考察するとともに、今日行われている教育改革の実情について学習することを主眼としています。主に日本の学校を運営する仕組みとして、教育制度（教育法規、学校制度）、教育行政の機構（文部科学省、教育委員会等）、学校経営（学校組織、学校評価等）、教員政策（教員養成・研修、教職員給与等）を概観した後、いくつかの具体的なテーマについて政策的な観点を踏まえ取り上げる予定です。

2.学びの意義と目標

1. 教育改革をめぐる多様な問題とその解決に向けた取り組みについて基礎的な知識を習得する。
2. 演習を通して、コミュニケーション能力・ディスカッション能力の向上をはかる。
3. 「教育」についてこれまでよりも一段深い考察を行い、自分の意見を持つことができるよう、その手がかりを獲得する。

準備学習(予習)

講義で扱うテーマについて、新聞やインターネット、参考図書等で事前に学習する。

準備学習(復習)

配布資料や課題に取り組む。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育法制・制度概論
3. 教育法制・制度概論
4. 中央教育行政のしくみ
5. 地方教育行政のしくみ
6. 教育行財政改革
7. 教育行財政改革
8. 学校の管理・経営
9. 学校の管理・経営
10. 教員政策
11. 教員政策
12. 教育振興基本計画と学力政策
13. 教育委員会制度をめぐる課題
14. 学校経営の今日的諸課題への対応
15. まとめ

教科書

プリントを配布する
参考となる文献・資料等を授業内に適宜紹介するが、さしあたり小川正人（2010）『現代の教育改革と教育行政』（放送大学教育振興会）を参考図書とする。

評価方法

(1)各回のリアクションペーパー:50%:毎回、授業の終わりにリアクションペーパーを記入していただきます。(2)学期末テスト:50%

教育心理学

担当者：小山 義徳

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

教育心理学は「人間がどのように物事を学んでいるのか」ということと、「物事を教えるにはどうすればよいのか」ということを心理学的手法により明らかにしていく学問です。

授業では教育心理学の基礎的な知識を紹介していきます。しかし、学問としての教育心理学と福祉や教育の現場で求められている実践の間にギャップが生じてしまっている場合があります。そこで、授業では講義に加えて、学んだ知識をもとにしたレポートの提出や、他者の意見と自分の意見を対比するディスカッションを取り入れて、理論を教育場面での実践事例に関連付けていきます。

2.学びの意義と目標

教育心理学は教師になる人だけに必要な学問であると誤解されがちですが、どのような仕事に就いても多くの知識を学ばなければなりません。また、仕事に就いてから数年経てば、自らが後輩に仕事を教える立場になります。そのため、すべて人にとって有用な学問です。本講義は、受講者が自らの学びや他者に教えることに関する知識を獲得することを、目標とします。

準備学習(予習)

講義内容に関する資料を配布する。その内容を読んだ上で、講師が設定した問いや、疑問に感じた点、よくわからない点を小レポートとして事前に提出してもらう。

準備学習(復習)

主に口頭で説明した内容について、複数回の小テストを実施する。

授業計画

1. ガイダンス:教育心理学とは
2. 記憶のメカニズム
3. 動機づけの基本的な考え方
4. 内発的動機づけと外発的動機づけ
5. 学習者から見た学習動機
6. 動機づけの認知理論と学習意欲
7. 学習行動の基礎
8. 知識表現と概念
9. 知識の獲得について
10. 手続き的知識とその学習
11. 問題解決の過程と学習
12. 文章の理解
13. 言語の発達
14. 子どもの認知発達
15. イメージと空間の情報処理
16. 性格の形成
17. 知能とは何か
18. 個人差のとらえかた
19. 個に応じた指導方法
20. 授業の検討方法
21. 授業をどのように構成するか
22. 授業における教授・学習過程
23. 測定と評価・学習者をどう評価するのか
24. 評価の心理的影響
25. 教室内の人間関係
26. 社会性と社会的スキルの形成
27. 注意とメタ認知
28. 学習方略とは
29. 自己学習力の育成
30. 総括

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)授業内課題:45% (2)小テスト:35% (3)期末レポート:20%

教育心理学

担当者：鎌原 雅彦

開講期：春学期/秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：1単位

講義概要

1.内容

子どもの学習と発達に関する教育心理学の基礎的な知識について、学習する。特に学ぶ主体としての子どもの視点から教育心理学的知見を整理する。授業中に簡単なデモンストレーションや調査、話し合いを行い、その結果についてや小レポートの提出を求める。

2.学びの意義と目標

教育的な仕事をする上で必要となる知識を獲得するだけでなく、教育心理学的なものを見方を習得することを目標とする。

準備学習(予習)

次回テーマについて、テキスト該当部分を見るなりして、自分なりの考えをまとめる。

準備学習(復習)

授業の内容について、疑問点を明確にする。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.記憶のメカニズム
- 3.知識の獲得としての学習
- 4.学習の基礎的原理
- 5.行動変容としての学習
- 6.動機づけと学習意欲
- 7.内発的動機づけ
- 8.遺伝と環境
- 9.母子相互作用と初期学習
- 10.知的能力の発達
- 11.パーソナリティの発達
- 12.発達障害
- 13.個人差とパーソナリティ
- 14.カウンセリングの基礎
- 15.総括と試験

教科書

鎌原雅彦・竹網誠一郎 『やさしい教育心理学』(有斐閣)

評価方法

(1)試験:70% (2)出席と小レポート:30%

現代社会と社会教育 B

担当者：小池 茂子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容

第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。

2.カリキュラム上の位置づけ

社会教育主事の資格取得のための必修科目。（資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。）

2.学びの意義と目標

青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。

準備学習(予習)

講義では、教科書を使用しないため、事前に資料を配布して講義を進めていく。そこで毎回の講義に際し、事前に資料に目を通し資料の内容を理解した上で講義に臨むこと。

準備学習(復習)

講義の中で小レポート課し、学生諸君の意見を求めることが間々ある。課題レポート作成に際しては自分で主体的に問題と向き合い、自分の意見を根拠を示して表明することを常に心がけてほしい。

授業計画

- 1.オリエンテーション：教育政策の保守化と青少年教育の動向
- 2.青少年問題（戦後の青少年非行の変遷）・社会のアノミー化
- 3.青少年問題審議会答申に見る青少年問題の今日的動向と教育的課題
- 4.教育改革国民会議の中間報告「学校教育における奉仕活動の義務化」をめぐる議論
- 5.学校教育における「奉仕活動」の是非をめぐる議論
- 6.イギリスにおけるシティズンシップ教育
- 7.サービスマーケティングとは何か
- 8.「死生学」、「死の準備教育」、「いのちの教育」とは何か
- 9.子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（1）
- 10.子どもの「死」をめぐる問題に関する意識調査・結果（2）
- 11.学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム
- 12.学校教育におけるいのちをめぐる教育の理念、目的、カリキュラム
- 13.中等教育学校段階における「死の準備教育 - 実践事例の紹介 - 」
- 14.社会教育における「死の準備教育 - 実践事例の紹介 - 」
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する
講義の中で扱うテーマに関する資料を事前に配布し、それに基づいて講義を行う。

評価方法

(1)出席点:20% (2)平常点:40% (3)レポート点:40%

ジェンダー論(男性学)

担当者：加藤 敦也

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

女/男という区分は、生物学や医学、脳科学などの説明に還元しきれものではなく、社会的な文脈に応じて意味が変わると考えるのがジェンダー論である。本講義では主に男性のあり方が構築される社会的文脈に焦点を当て、男性ジェンダーの問題について、労働、恋愛/性愛、家族、服装や美の基準といったテーマを事例としながら説明していく。

2.学びの意義と目標

授業の意義と目標は、受講者がジェンダー論を学ぶことにより、性別に関するステレオタイプの発想で生じる諸問題について理解できるようになることである。受講者には、自らが経験している日常生活の様々な場面にジェンダーの問題が深く関わっていることを理解してもらいたい。

準備学習(予習)

ジェンダー研究に関する入門書を読んでおくことよい。また、授業時にも授業を理解する上で参考となる文献を紹介する。

準備学習(復習)

授業時に紹介するジェンダー論、男性学に関連する文献を読み、内容理解を深めて欲しい。

授業計画

1. イントロダクション：ジェンダーとは何か？
2. 性別役割分業：家族、労働の現場における女/男の区分
3. メンズリブ・男性学
4. 「フリーター」、「ニート」、「ひきこもり」と男性性（就労規範と男らしさの関係性）
5. 「肉食系」男子と「草食系」男子：恋愛に関する意識の変化
6. セクシュアリティのあり方（性の二重基準、男性のポルノ消費について）
7. ゲイ/クィアスタディーズ
8. 結婚と男性（お金がないと結婚できない？）
9. 父親としての男性（男性の家事・育児参加について）
10. 男性と暴力その（DV）
11. 男性と暴力その（男男間暴力：教育空間における暴力を中心に）
12. 男らしさの快楽？：向上的理想としての男性性
13. 美しさとジェンダー：美の二重基準とその変化について
14. 女らしさ、男らしさのゆくえ
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)学期末試験:70%
毎回、授業の終わりにコメントペーパーを提出してもらう。優れたコメントペーパーを書いたものには加点して評価する。

社会教育課題研究 A

担当者：松橋 義樹

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

秋学期の「社会教育課題研究B」と合わせて、社会教育をめぐる主要な検討課題について、必要に応じて受講者自身で資料を収集して報告してもらう。

この講義では、社会に存在するさまざまな学習機会それぞれの意義と特徴・課題について報告してもらう。

2.学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講者にとっては、社会教育主事の職務において必要とされる事項を身に付けることを目標とする。

また、全ての受講者にとっては、教育をめぐる諸問題について理論的に考えられるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

社会教育に関する受講前の予備知識は基本的に問わないが、各回の授業前に報告関係資料などに目を通し、その概要と不明な点を押さえておくこと。

準備学習(復習)

各回の授業の内容について、自分がこれまでに経験してきた教育活動と結び付けることで理解を深めておくこと。

授業計画

- 1.さまざまな学習機会(1)
- 2.さまざまな学習機会(2)
- 3.さまざまな学習機会(3)
- 4.さまざまな学習機会(4)
- 5.授業内報告(1)
- 6.授業内報告(2)
- 7.授業内報告(3)
- 8.授業内報告(4)
- 9.授業内報告(5)
- 10.授業内報告(6)
- 11.授業内報告(7)
- 12.授業内報告(8)
- 13.期末レポート指導(1)
- 14.期末レポート指導(2)
- 15.まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)授業内報告:40%:原則1人1回の報告とする。
 - (2)期末レポート:60%:15回目の授業内で提出する。
- 評価方法等の詳細は、1回目及び2回目の授業内で説明するので、やむをえない事情により最初の出席が3回目以降になった場合は、担当教員へ直接申し出ること。

社会教育課題研究B

担当者：松橋 義樹

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

春学期の「社会教育課題研究A」と合わせて、社会教育をめぐる主要な検討課題について、必要に応じて受講者自身で資料を収集して報告してもらう。

この講義では、社会教育と学校教育との関係づくりの意義・現状と課題について報告してもらう。

2.学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講者にとっては、社会教育主事の職務において必要とされる事項を身に付けることを目標とする。

また、全ての受講者にとっては、教育をめぐる諸問題について理論的に考えられるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

社会教育に関する受講前の予備知識は基本的に問わないが、各回の授業前に報告関係資料などに目を通し、その概要と不明な点を押さえておくこと。

準備学習(復習)

各回の授業の内容について、自分がこれまでに経験してきた教育活動と結び付けることで理解を深めておくこと。

授業計画

1. 社会教育と学校教育との関係(1)
2. 社会教育と学校教育との関係(2)
3. 社会教育と学校教育との関係(3)
4. 社会教育と学校教育との関係(4)
5. 授業内報告(1)
6. 授業内報告(2)
7. 授業内報告(3)
8. 授業内報告(4)
9. 授業内報告(5)
10. 授業内報告(6)
11. 授業内報告(7)
12. 授業内報告(8)
13. 期末レポート指導(1)
14. 期末レポート指導(2)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

- (1)授業内報告:40%:原則1人1回の報告とする。
 - (2)期末レポート:60%:15回目の授業内で提出する。
- 評価方法等の詳細は、1回目及び2回目の授業内で説明するので、やむをえない事情により最初の出席が3回目以降になった場合は、担当教員へ直接申し出ること。

社会教育計画 A

担当者：松橋 義樹

開講期：春学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

社会教育は、学校教育や家庭教育とともに人々の生涯学習を支援する重要な場である。そこで、基本的に行政には、社会教育に含まれる多様な教育活動その他関連する活動を体系的にとらえ、適切な評価にもとづきそれらを改善していくための「社会教育計画」の策定が求められる。

この講義では、秋学期の「社会教育計画B」と合わせて、そのような社会教育計画に関する基本事項について解説する。

2.学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講者にとっては、社会教育計画の策定において必要とされる事項を身に付けることを目標とする。

また、全ての受講者にとっては、社会教育計画に関する基本事項の理解をもとにして、教育をめぐる諸問題について理論的に考えられるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

社会教育及び社会教育計画に関する受講前の予備知識は基本的に問わないが、各回の授業前に教科書・プリントなどの指定部分に通し、各回の授業の概要と不明な点を押さえておくこと。

準備学習(復習)

各回の授業の内容について、自分がこれまでに経験してきた教育活動と結び付けることで理解を深めておくこと。

授業計画

1. 社会教育の特徴（1）
2. 社会教育の特徴（2）
3. 社会教育における計画の意味（1）
4. 社会教育における計画の意味（2）
5. 社会教育における計画の意味（3）
6. 社会教育における計画の意味（4）
7. 中間試験及び解説
8. 社会教育における地域（1）
9. 社会教育における地域（2）
10. 社会教育における施設（1）
11. 社会教育における施設（2）
12. 社会教育におけるボランティア・集団
13. 社会教育における参加（1）
14. 社会教育における参加（2）
15. 期末試験及び解説

教科書

鈴木 眞理, 熊谷 慎之輔, 山本 珠美 『社会教育計画の基礎』(学文社)

評価方法

(1)期末試験:60%:15回目の授業内で実施する。

(2)中間試験:40%:7回目の授業内で実施する。

評価方法等の詳細は、1回目及び2回目の授業内で説明するので、やむをえない事情により最初の出席が3回目以降になった場合は、担当教員へ直接申し出ること。

社会教育計画 B

担当者：松橋 義樹

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

社会教育は、学校教育や家庭教育とともに人々の生涯学習を支援する重要な場である。そこで、基本的に行政には、社会教育に含まれる多様な教育活動その他関連する活動を体系的にとらえ、適切な評価にもとづきそれらを改善していくための「社会教育計画」の策定が求められる。

この講義では、春学期の「社会教育計画A」と合わせて、そのような社会教育計画に関する基本事項について解説する。

2.学びの意義と目標

社会教育主事任用資格取得を目指す受講者にとっては、社会教育計画の策定において必要とされる事項を身に付けることを目標とする。

また、全ての受講者にとっては、社会教育計画に関する基本事項の理解をもとにして、教育をめぐる諸問題について理論的に考えられるようになることを目標とする。

準備学習(予習)

社会教育及び社会教育計画に関する受講前の予備知識は基本的に問わないが、各回の授業前に教科書・プリントなどの指定部分に目を通し、各回の授業の概要と不明な点を押さえておくこと。

準備学習(復習)

各回の授業の内容について、自分がこれまでに経験してきた教育活動と結び付けることで理解を深めておくこと。

授業計画

1. 社会教育における学習プログラム(1)
2. 社会教育における学習プログラム(2)
3. 社会教育における学習者(1)
4. 社会教育における学習者(2)
5. 社会教育における学習支援(1)
6. 社会教育における学習支援(2)
7. 中間試験及び解説
8. 社会教育における学習情報
9. 社会教育における大学(1)
10. 社会教育における大学(2)
11. 社会教育における連携(1)
12. 社会教育における連携(2)
13. 社会教育における評価(1)
14. 社会教育における評価(2)
15. 期末試験及び解説

教科書

鈴木 眞理, 熊谷 慎之輔, 山本 珠美 『社会教育計画の基礎』(学文社)

評価方法

(1)期末試験:60%:15回目の授業内で実施する。

(2)中間試験:40%:7回目の授業内で実施する。

評価方法等の詳細は、1回目及び2回目の授業内で説明するので、やむをえない事情により最初の出席が3回目以降になった場合は、担当教員へ直接申し出ること。

社会教育施設論

担当者：石川 昇

開講期：未定 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

社会教育施設の概要、問題点と課題について説明する。

2.学びの意義と目標

社会教育施設の問題点と課題について認識し、社会教育に関する視野を広げる。

準備学習(予習)

報道等での社会教育施設に関連する情報を把握しておく。

準備学習(復習)

講義におけるポイントを把握する。

授業計画

1. 社会教育と社会教育施設
2. 社会教育施設の種類
3. 現代社会と社会教育施設
4. 社会教育施設の概要と問題点 1：公民館等
5. 社会教育施設の概要と問題点 2：図書館
6. 社会教育施設の概要と問題点 3：博物館
7. 社会教育施設の概要と問題点 4：青少年施設ほか
8. 社会教育施設の課題 1：運営の効率化
9. 社会教育施設の課題 2：広報と集客
10. 社会教育施設の課題 3：社会との連携 1
11. 社会教育施設の課題 4：社会との連携 2
12. 社会教育施設の課題 5：少子高齢化、国際化への対応
13. 社会教育施設の課題 6：環境問題ほか現代的課題への対応
14. 社会教育施設における危機管理
15. 試験

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)出席:30% (2)試験:70%

社会教育実習

担当者：松橋 義樹

開講期：通年 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

社会教育行政機関・社会教育施設・社会福祉施設などにおいて、専門職員の指導のもとでその管理・運営などについて実習を行う。

2.学びの意義と目標

実習を通して、社会教育主事に求められる資質・能力の基礎を培うことを目的とする。

準備学習(予習)

生涯学習概論A・B及び社会教育計画A・Bの単位を取得済みであることが望ましい。

準備学習(復習)

現場実習期間を終えた後、担当教員の指導のもとで現場実習の内容について十分に振り返ること。

授業計画

1. 実習の意義と注意事項
2. 事前指導（1）
3. 事前指導（2）
4. 事前指導（3）
5. 事前指導（4）
6. 事前指導（5）
7. 現場実習（1）
8. 現場実習（2）
9. 事後指導（1）
10. 事後指導（2）
11. 事後指導（3）
12. 事後指導（4）
13. 事後指導（5）
14. 現場実習報告会（1）
15. 現場実習報告会（2）

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)実習:100%:現場実習、事前・事後指導、現場実習報告会
この科目は、1～2週間程度の現場実習だけでなく、担当教員による事前・事後指導及び現場実習報告会を合わせて「実習」と位置付けている。

生涯学習概論 A

担当者：小池 茂子

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて論じることとする。

2.学びの意義と目標

生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革と生涯学習推進施策展開における生涯学習施設運営の課題など、広くテーマを設定し、社会教育や生涯学習行政の現場で働く社会教育主事や生涯学習施設の一つである公共図書館に勤務する図書館司書といった、有資格者の専門性につながる事項の理解を目指す。

準備学習(予習)

毎回、授業時に指定する配布資料を事前に読み込んで授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布したプリント等を、その時限のノートと照合させ、各時限の学びの定着化を図ること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.教育の領域(家庭教育、社会教育、学校教育)
- 3.社会教育の定義(教育基本法、社会教育法)
- 4.生涯教育の理念(1)
- 5.生涯教育の理念(2)
- 6.生涯教育の理念と社会背景(1)(社会の高齢化、平均余命の伸長)
- 7.生涯教育の理念と社会背景(2)(社会の高齢化、平均余命の伸長)
- 8.生涯教育の理念と社会背景(3)(生涯にわたる発達課題の解決に向けて)教育改革と生涯学習体系への移行
- 9.生涯教育の理念と社会背景(4)(生涯にわたる発達課題の解決に向けて)教育改革と生涯学習体系への移行
- 10.生涯教育の理念と社会背景(5)(学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か?戦後の青少年の非行など)
- 11.生涯教育の理念と社会背景(6)(学校教育をめぐる問題、学歴主義は必要悪か?戦後の青少年の非行など)
- 12.生涯教育の理念への批判
- 13.教育改革と生涯学習体系への移行
- 14.生涯学習時代における公共図書館の機能と課題
- 15.まとめ

教科書

鈴木真理 『生涯学習概論』(樹村房)

評価方法

(1)出席点:20% (2)試験:80%

生涯学習概論 B

担当者：小池 茂子

開講期：秋学期 必修・選択：必修科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

1.内容
本講義では第1に、我が国の戦前・戦後の社会教育の理念について学ぶ。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年以降の教育答申等の内容を通して捉える。第3に、戦後間もなく社会教育施設として全国に設置された代表的社会教育施設である公民館の成り立ちと機能について取り上げ、さらに生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズ、及び現代的な地域課題に対応すべく21世紀に求められる公民館の機能と課題について展望する。

2.カリキュラム上の位置づけ
社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられている。(勿論、資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。)

2.学びの意義と目標

戦前・戦後の教育史を概観することを通じ、我が国における、社会教育が草の根の活動の中からいかにして展開されてきたか、また明治期以降の社会教育政策がどのような目的と内容において展開されてきたのかを理解する。
また、社会教育から生涯学習の時代への転換の中で何が変わってきたのか。また、その変遷の中で代表的社会教育施設としての公民館に求められる教育的機能について理解する。

準備学習(予習)

配布資料を事前に読みこんで、毎回の授業に臨むこと。

準備学習(復習)

授業時に配布した資料を、講義終了後ノートと照合し、学びの内容を定着させること。

授業計画

- 1.江戸期の教育：藩校、私塾、寺子屋、稽古事など
- 2.江戸期の社会教育(1)：石田梅岩 石門心学
- 3.江戸期の社会教育(2)：二宮尊徳 報徳教
- 4.江戸期の社会教育(3)：「若者組」
- 5.戦前の社会教育(1)：明治期 近代学校教育制度と通俗教育
- 6.戦前の社会教育(2)：明治期の通俗教育
- 7.戦前の社会教育(3)：大正期～第2次大戦終了期の社会教育
- 8.戦後の社会教育(1)：教育の民主化と社会教育
- 9.戦後の社会教育(2)：教育基本法と社会教育
- 10.社会教育から生涯学習の理念へ(1)何が新たな展開として出現したか
- 11.社会教育から生涯学習の理念へ(2)生涯学習と社会教育の違いとは？
- 12.生涯学習時代と公民館(1)公民館の成り立ち
- 13.生涯学習時代と公民館(2)公民館の現代的意義
- 14.今日の生涯学習振興の方向性(個人の需要と社会の要請とのバランス)
- 15.まとめ

教科書

稲生勤吾 『生涯学習概論』(樹村房)

評価方法

(1)出席点:30% (2)平常点:20% (3)試験:50%

情報と職業

担当者：渡辺 英人

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週2回 単位数：4単位

講義概要

1.内容

「情報と職業」高等学校普通教科「情報」教員免許取得を目的とする学生の必修科目である。現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。

2.学びの意義と目標

社会と情報との関係を具体的な例を使いながら、詳しく説明する。社会の中で生きるために必要不可欠な知識となるように学ぼう。

準備学習(予習)

社会教育主事資格、および情報教職免許取得を目的とする学生の必修科目である。評価は教職目的の学生と同じく厳しいものとなる。前週までにテーマと資料を提供するので、復習および予習をすること。

準備学習(復習)

授業で使用した資料と、授業中に記述したノートに基づいて、清書ノートを作成すること。

授業計画

1. 現代社会と情報(1)
2. 現代社会と情報(2)
3. 情報と職業(国内)(1)
4. 情報と職業(国内)(2)
5. 行政と情報(1)
6. 行政と情報(2)
7. 企業活動と情報(1)
8. 企業活動と情報(2)
9. 情報の収集、蓄積、再利用(1)
10. 情報の収集、蓄積、再利用(2)
11. インターネット・ビジネス(1)
12. インターネット・ビジネス(2)
13. 情報化社会と労働環境、労働感(1)
14. 情報化社会と労働環境、労働感(2)
15. 課題作成(1)
16. 課題作成(2)
17. 情報と職業(海外)(1)
18. 情報と職業(海外)(2)
19. 情報化社会の諸問題2(1)
20. 情報化社会の諸問題2(2)
21. 情報化社会の諸問題(1)
22. 情報化社会の諸問題(2)
23. 情報化社会の将来予測(1)
24. 情報化社会の将来予測(2)
25. 課題作成(1)
26. 課題作成(2)
27. 情報化社会とマスメディア(1)
28. 情報化社会とマスメディア(2)
29. 課題作成(1)
30. 課題作成(2)

教科書

授業の中で指示する

評価方法

(1)授業参加:40% (2)課題作成:30% (3)試験:30%

図書館概論

担当者：岡谷 大

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

2.学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

準備学習(予習)

シラバスを参照すること。

準備学習(復習)

配布プリントを再読し、内容をまとめること。

授業計画

1. 図書館とはなにか
2. 現代社会と図書館
3. 出版と図書館、著作権
4. 図書館の理念
5. 図書館法規と行政、施策
6. 地域社会と図書館
7. 公共図書館の制度と機能
8. 学校図書館の制度と機能
9. 大学図書館の制度と機能
10. 専門図書館の制度と機能
11. 国立図書館の制度と機能
12. 図書館の歴史的展開
13. 外国の図書館
14. 図書館関係団体と学習の手引き
15. まとめ

教科書

塩見昇 『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:40% (3)レポート:10%

図書館概論

担当者：若松 昭子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

2.学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

準備学習(予習)

教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。

準備学習(復習)

授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。

授業計画

1. 図書館の定義
2. 図書館の種類
3. 図書館の理念
4. 情報社会と図書館
5. 図書館の自由に関する宣言
6. 図書館員の倫理綱領
7. 図書館に関する法規
8. 公立図書館の制度と機能 1
9. 公立図書館の制度と機能 2
10. 学校図書館の制度と機能
11. 大学図書館の制度と機能
12. 専門図書館の制度と機能
13. 国立図書館の制度と機能
14. 図書館間の相互協力
15. まとめ

教科書

塩見 昇 『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1)』 (日本図書館協会)

評価方法

毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。

図書館経営論

担当者：河島 茂生

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について議論していく。

2.学びの意義と目標

本科目の履修を通じて、管理者(館長など)でなくとも、図書館で働くにあたって最低限身につけなければならない経営の知識が習得できると考えられる。

準備学習(予習)

毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。

準備学習(復習)

授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。

授業計画

1. 図書館経営の意義
2. 図書館業務の概要(1) 資料提供サービス(施設・設備を含む)
3. 図書館業務の概要(2) 情報提供サービス(施設・設備を含む)
4. 図書館の目的策定
5. 図書館の計画策定(予算関係を含む)
6. 図書館評価の概要
7. 図書館評価の指標(調査法を含む)
8. 図書館評価のレッスン
9. 図書館のマーケティング
10. 図書館の組織・職員
11. 図書館業務の委託、New Public Management
12. Private Finance Initiative
13. 図書館法
14. 図書館関連の法規(図書館政策を含む)
15. まとめ

教科書

プリントを配布する

評価方法

(1)試験:100%
ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。

図書館情報学概論

担当者：岡谷 大

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。

2.学びの意義と目標

情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。

準備学習(予習)

シラバスを参照すること。

準備学習(復習)

配布プリントを再読し、内容をまとめること。

授業計画

1. 図書館とはなにか
2. 現代社会と図書館
3. 出版と図書館、著作権
4. 図書館の理念
5. 図書館法規と行政、施策
6. 地域社会と図書館
7. 公共図書館の制度と機能
8. 学校図書館の制度と機能
9. 大学図書館の制度と機能
10. 専門図書館の制度と機能
11. 国立図書館の制度と機能
12. 図書館の歴史的展開
13. 外国の図書館
14. 図書館関係団体と学習の手引き
15. まとめ

教科書

塩見昇 『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ)』 (日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:40% (3)レポート:10%

担当者：若松 昭子

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

<p>講義概要</p> <p>1.内容 図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館のあり方について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の定義 2. 図書館の種類 3. 図書館の理念 4. 情報社会と図書館 5. 図書館の自由に関する宣言 6. 図書館員の倫理綱領 7. 図書館に関する法規 8. 公立図書館の制度と機能 1 9. 公立図書館の制度と機能 2 10. 学校図書館の制度と機能 11. 大学図書館の制度と機能 12. 専門図書館の制度と機能 13. 国立図書館の制度と機能 14. 図書館間の相互協力 15. まとめ
<p>2.学びの意義と目標 情報の蓄積・保存・提供の社会的機関である図書館の歴史と現状、図書館の法体系、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係を学び、図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図ると共に、今後の課題と展望について考究する。</p>	
<p>準備学習(予習) 教科書、課題プリントや配布した新聞記事等によく目を通し質問などを用意しておくこと。</p>	<p>教科書 塩見 昇 『図書館概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ 2-1)』 (日本図書館協会)</p>
<p>準備学習(復習) 授業時に課す小課題をきちんとこなすこと。</p>	<p>評価方法 毎回の出席は前提であり、遅刻や欠席は大幅な原点となる。</p>

図書館情報資源概論

担当者：岡谷 大

開講期：春学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

講義概要

1.内容

図書館資料に関してその意義や類型（印刷資料、非印刷資料、特殊資料など）を概説し、とくに図書館の自由との関係や、蔵書構成、資料選択など図書館・情報学の中核となる理論について紹介、考察する。さらに出版と販売、資料の受け入れ、書庫管理などの具体面も説明する。カリキュラム上の位置づけとしては「専門資料論」の基礎分野となるほか、図書館の内と外（出版、販売など）の関係にふれている。

2.学びの意義と目標

意義と目標としては図書館資料に関してその類型や構造が理解でき、さらに出版と販売、資料の受入など具体的な側面も理解できること、蔵書構成と資料選択といった理論面の理解がなされることを望んでいる。

準備学習(予習)

事前にシラバスを確認してほしい。

準備学習(復習)

配布資料の再読と整理。

授業計画

1. 図書館情報資源
2. 印刷資料（1）
3. 印刷資料（2）
4. 非印刷資料
5. 電子資料
6. 資料特論（1）
7. 資料特論（2）
8. 出版流通システム
9. 図書館の「知的自由」
10. 蔵書論
11. 収集と選択
12. 蔵書管理
13. 資料の組織化
14. 書庫管理
15. まとめ

教科書

馬場俊明『図書館情報資源概論 (JLA図書館情報学テキストシリーズ)』(日本図書館協会)

評価方法

(1)試験:50% (2)出席:40% (3)レポート:10%

担当者：河島 茂生

開講期：秋学期 必修・選択：選択科目 授業回数：週1回 単位数：2単位

<p>講義概要</p> <p>1.内容 図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について議論していく。</p>	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館経営の意義 2. 図書館業務の概要（1）資料提供サービス(施設・設備を含む) 3. 図書館業務の概要（2）情報提供サービス(施設・設備を含む) 4. 図書館の目的策定 5. 図書館の計画策定(予算関係を含む) 6. 図書館評価の概要 7. 図書館評価の指標(調査法を含む) 8. 図書館評価のレッスン 9. 図書館のマーケティング 10. 図書館の組織・職員 11. 図書館業務の委託、New Public Management 12. Private Finance Initiative 13. 図書館法 14. 図書館関連の法規(図書館政策を含む) 15. まとめ
<p>2.学びの意義と目標 本科目の履修を通じて、管理者(館長など)でなくとも、図書館で働くにあたって最低限身につけなければならない経営の知識が習得できると考えられる。</p>	
<p>準備学習(予習) 毎回与えられた課題をこなし、授業に臨みたい。</p>	<p>教科書 プリントを配布する</p>
<p>準備学習(復習) 授業で触れた内容をテキスト等で読み返し、思考を整理することを求める。</p>	<p>評価方法 (1)試験:100% ただし、単位修得にあたっては出席数が授業回数の3分の2以上であることを条件とする。</p>